SONY

4-091-650-**04** (1)

SONY

フラットパネルデジタルテレビ　KDE-P42HX1/KDE-P50HX1

WEGA

digital Hi-Vision

フラットパネルデジタルテレビ取扱説明書

KDE-P42HX1
KDE-P50HX1

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

目次

操作

テレビを見る

BS・110度CSを見る

BS・110度CSの番組を予約する

BS・110度CSのその他の機能

次のページにつづく

準備

接続

受信設定

他機との接続

i.LINKでの接続

その他

テレビ（地上波）を見る

本機をお使いになる前に、「接続」（☞99〜110ページ）と「受信設定」（☞111〜138ページ）を行ってください。

一発で選局する

ちょっと一言
BSデジタルや110度CSデジタル、本機につないだ他の機器の画像を見ているときでも、選んだ地上波チャンネルになります。

順送りで選局する

地上波になっていないときは、1〜12/選局の地上波用数字ボタンを押してからチャンネル＋/−ボタンを押す。

ちょっと便利な機能

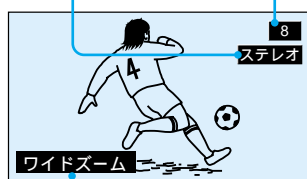
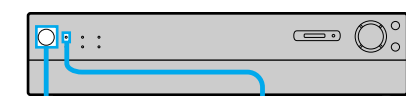
一時的に音を消す

電話がかかってきたときなど、テレビの音量が気になるときに押すだけで音を消せます。

消音

もう1度押すか、音量＋ボタンを押すと音が出る。

チャンネル番号などを確認する

画面表示

リモコンで電源が入らないときは

ちょっと一言

- 画面表示ボタンを押したあと、約10秒後に自動的に画面表示は消えます。画面表示が出ている間にもう1度画面表示ボタンを押すと、さらに10秒間延長します。
- ①～⑫/選局の地上波用数字ボタンとチャンネル＋/－ボタンは、電源スタンバイ中（電源/スタンバイランプが赤く点灯）に押せば、電源ボタンを押さなくても自動的に電源が入ります（チャンネルポン）。
- メディアレシーバーの電源スイッチを押すと、同時にディスプレイの電源も入/切できます。

自動で電源を切る［オフタイマー］

本機をつけたまま寝てしまっても、設定した時間（30分、60分または90分）が過ぎると、自動的に電源が切れ、電源スタンバイ（電源/スタンバイランプが赤く点灯）になります。
お買い上げ時は、「切」に設定されています。

1 **メニューボタンを押して、メニューを出す。**

2 **△/▽で「(各種切換)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

3 **△/▽で「オフタイマー」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

4 **△/▽で設定したい時間を選び、真ん中を押しこんで決定する。**
メディアレシーバー前面のオフタイマーランプとディスプレイのTIMERランプが点灯します。

5 **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

オフタイマーを途中でやめるには
手順4で「切」を選ぶ。

ちょっと一言
電源を入れ直したときは、「オフタイマー：切」に戻ります。

ちょっと一言
省電力のため、地上波放送終了後、または放送のないチャンネルにしたままで約10分過ぎると、「オートシャットオフ」と表示されて自動的に電源スタンバイになります。放送局の信号によっては「オートシャットオフ」機能が働かないことがあります。

テレビにつないだ機器の画像を見る [入力切換]

接続のしかたについては、☞139～153ページをご覧ください。また、i.LINK端子につないだ機器については、「i.LINKで操作する」（☞80～93ページ）をご覧ください。

ビデオやDVDなどの画像を見る

つないだ機器の取扱説明書もご覧ください。

ビデオ

押すたびに、
切り換わる。

ビデオ1 → ビデオ2 → ビデオ3 → ビデオ1

💡ちょっと一言
S2映像端子につないでいるときは、「Sビデオ1」～「Sビデオ3」と表示されます。

コンポーネント
AVマルチ

押すたびに、
切り換わる。

コンポーネント1 → コンポーネント2（D端子） → AVマルチ RGB → AVマルチ Y/CB/CR → コンポーネント1

テレビ（地上波）に戻すときは

(1)～(12)/選局の地上波用数字ボタンを押す。

BSデジタルに戻すときは

[1]～[12]/選局のBS用数字ボタンまたは[BS]ボタンを押す。

110度CSデジタルに戻すときは

[CS]ボタンを押す。

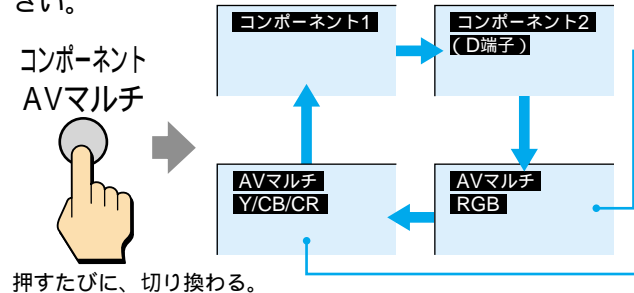
💡ちょっと一言

- 本機につないだ機器の画像を見ているときに、チャンネル＋/－ボタンを押すと最後に見ていたチャンネルになります。
- メディアレシーバーの入力切換ボタンをくり返し押しても、次のように切り換えられます。

地上波 → BS/110度CS /i.LINKのいずれか* → ビデオ1 → ビデオ2 → ビデオ3 → コンポーネント1 → コンポーネント2（D端子） → AVマルチ RGB → AVマルチ Y/CB/CR → 地上波

* 最後に見ていたデジタル映像になります。

“ プレイステーション 2 ”などを楽しむ

“ プレイステーション 2 ”、
“ プレイステーション ”(PS one) および
“ プレイステーション ”の取扱説明書もご覧ください。

ビデオ入力端子につないだときは

“ プレイステーション 2 ”などの映像が出るまで、ビデオボタンをくり返し押す。

- “ プレイステーション ”(PS one) と“ プレイステーション ”のときに選ぶ。
- “ プレイステーション 2 ”側のシステム設定画面で、「コンポーネント映像出力」を「RGB」に設定したときに選ぶ。

“ プレイステーション 2 ”側のシステム設定画面で、「コンポーネント映像出力」を「Y Cb/Pb Cr/Pr」に設定したときに選ぶ。

CG*ゲームモードの設定をするには (AVマルチ入力のみ)

*コンピューター・グラフィックスの略です。

1 **メニューボタンを押して、メニューを出す。**

2 **△/▽で「(各種切換)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

3 **△/▽で「CGゲームモード」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

4 **現在のAVマルチ入力(「RGB」または「Y/CB/CR」)が選ばれていることを確認し、真ん中を押しこんで決定する。**

5 **△/▽で「入」か「切」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

「入」:CGの多いゲームに適した映像を楽しめます。

「切」:DVDの映画などの自然画に適した映像を楽しめます。

6 **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

画面の左右位置を調整するには (AVマルチ入力のみ)

1 **メニューボタンを押して、メニューを出す。**

2 **△/▽で「(各種切換)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

3 **△/▽で「AVマルチ画面位置」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

4 **△/▽で画面の左右位置を調整する。**

5 **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

ご注意

- “ プレイステーション 2 ”で映像が乱れたり、正しく表示されないときは、“ プレイステーション 2 ”側の設定に本機側のAVマルチ入力を合わせてください。
- AVマルチ入力端子は、ビデオ入力端子に比べ色の帯域が広いため、色あいが異なる場合がありますが、本機に影響はありません。
- つないだ機器の映像によっては、DRC-MFパレットやDRC-MFモード切換(☞53ページ)が働かないことがあります。

対応ソフトウェアについて

詳しくは、各ソフトウェアの説明書をご覧ください。

- 電子的なライフルやガン(銃)でテレビ画面を標的にして楽しむシューティングゲームなどは、その機能を使えないことがあります。
- 将来の“ プレイステーション 2 ”用の高解像度ゲームソフトなどには、本機は対応していません。
- “ プレイステーション ”(PS one) や“ プレイステーション ”用のゲームソフトによっては、CGゲームモードを切り換えられないことがあります。
- ソフトウェアの信号によって、AVマルチRGBとAVマルチY/CB/CRの映像信号に適さないものがあります。

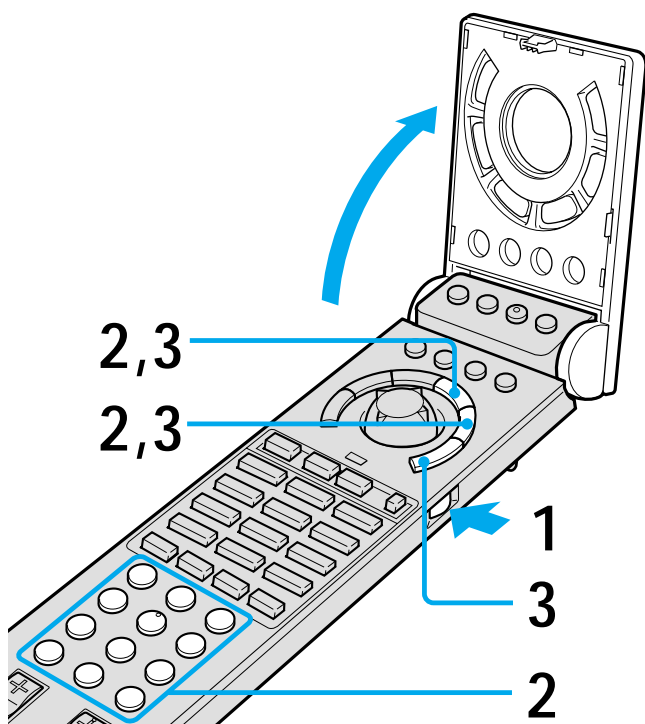
次のページにつづく

テレビにつないだ機器の画像を見る［入力切換］（つづき）

テレビにつないだ機器を登録する

本機のリモコンで、ビデオやソニー製ハードディスクビデオレコーダーClip-On、DVDプレーヤーなどの基本的な操作やこれらの機器の電源を入/切できるように、つないだ機器を登録します。

ちょっと一言

コントロールS入力端子のあるソニー製のビデオやDVDプレーヤーでコントロールS端子もつないでいるときは（☞13ページ）、リモコンコードを登録しなくても、ビデオやDVDプレーヤーなどのリモコンをディスプレイに向けて、ビデオやDVDプレーヤーを操作できます。

1 開ボタンを押して、ふたを開ける。

2 操作したい機器を設定する。

リモコンコードは☞11ページの「リモコンコード表」で確認してください。

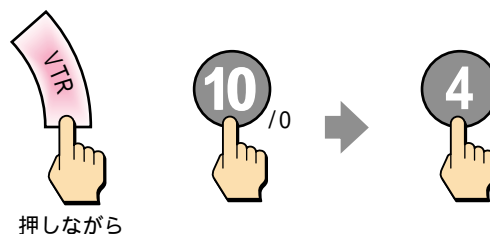
ちょっと一言

ビデオを2台操作するときなどは、DVDボタンに2台目のビデオを設定できます。また、VTRボタンにもDVDプレーヤーを設定できます。

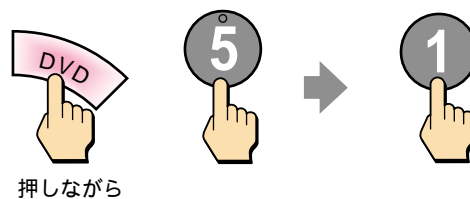
例：VTRボタンにソニー製のビデオ（リモコンコード01）を設定し、DVDボタンに松下製ビデオ（リモコンコード11）を設定するなど。

ビデオを設定するときは

VTRボタンを押しながら、地上波用数字ボタンでリモコンコードを入力する。

例：ソニー製のビデオ（リモコンコード04）

DVDプレーヤーを設定するときは

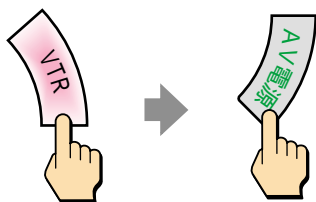
DVDボタンを押しながら、地上波用数字ボタンでリモコンコードを入力する。

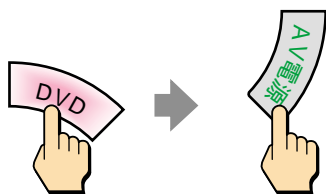
例：松下製DVDプレーヤー（リモコンコード51）

リモコンコード表（☞11ページ）にないリモコンコードを入力すると、VTRまたはDVDボタンが2秒間点滅します。手順2をもう1度行って正しいリモコンコードを入力し直してください。

3 動作テストをする。

設定した機器の電源が入るか確認します。

ビデオの動作テストをするときは

VTRボタンを押して、VTRボタンが点灯している間にAV電源ボタンを押す。

DVDプレーヤーの動作テストをするときは

DVDボタンを押して、DVDボタンが点灯している間にAV電源ボタンを押す。

ちょっと一言

DVDプレーヤーとAVアンプなどが一体となった機器のときは、AV電源ボタンが働かないことがあります。そのときは、「テレビにつないだ機器を本機のリモコンで操作する」（☞12ページ）の手順4を参考に、再生して動作テストを行ってください。

設定する機器のリモコンコードが複数あるときは、手順2と3をくり返して、機器が操作できるまで違うリモコンコードを設定し直してください。

リモコンコード表

メーカー	ビデオのリモコンコード番号	DVDプレーヤーのリモコンコード番号
ソニー（ビデオ）	01 02 03 04 05 06	50 90 91
ソニー（HDD）	07 08 09	
松下	10 11 12 13 14	51
東芝	15 16 17 18	52
日立	19 20 21	53
三菱	22 23 24 25	54
日本ビクター	26 27 28 29 30 31	55
サンヨー	32 33 34 35	
アイワ	36 37 38 39	56
シャープ	40 41 42	57
フナイ	43	
NEC	44 45 46 47	
パイオニア		58* 59*
フィリップス	48	60
RCA		61
デノン		62 63
ヤマハ		64
SAMSUNG		65
オンキョー		66

*の付いたDVDプレーヤーを登録するときは、手順3でDVDプレーヤーの電源が入っても、再生などの操作ができないことがあります。そのときは、もう一方のリモコンコードを設定し直してください。

ご注意

- リモコンの電池を取り出したり、電池が寿命になると、設定した内容は消えて、お買い上げ時の設定に戻ります。もう1度設定し直してください。
- メーカーによっては複数のリモコン信号を採用しているため、操作できないことがあります。そのときは、ビデオやDVDプレーヤーのリモコンで操作してください。
- 本機のリモコンのボタンに対応する機能がビデオやDVDプレーヤーにない場合は、そのボタンは働きません。

テレビにつないだ機器の画像を見る［入力切換］（つづき）

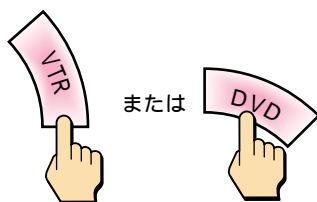
テレビにつないだ機器を本機のリモコンで操作する

1 ビデオやDVDプレーヤーに必要な準備をする。

ビデオやDVDプレーヤーの電源をつなぐなど準備をしてください。

2 開ボタンを押して、ふたを開ける。

3 VTRボタンまたはDVDボタンを押す。

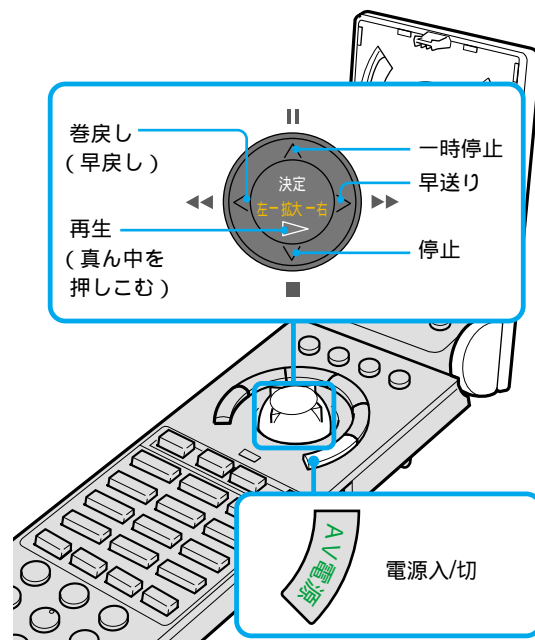
押したボタンが約10秒間点灯します。
押したボタンが点灯している間のみ、つないだ機器を操作でき、ビデオやDVDプレーヤーを操作するたびに、さらに10秒間延長します。

ちょっと一言

VTRまたはDVDボタンが点灯中に、△/▽/◁/▷やAV電源ボタン以外のボタンを押したり、リモコンのふたを閉めたりすると、VTRまたはDVDボタンが消灯します。

4 リモコンを機器に向けて操作する。

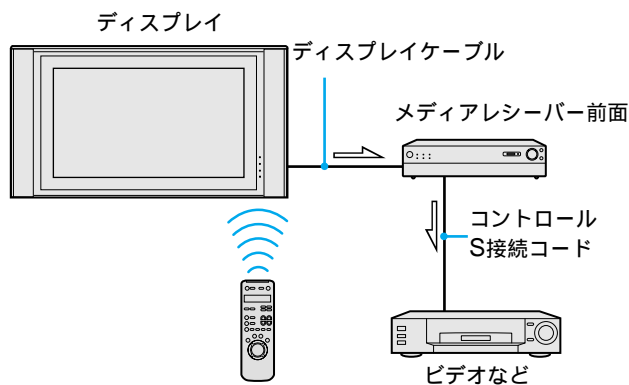
VTRまたはDVDボタンが点灯中は、下の図のような操作ができます。

ご注意

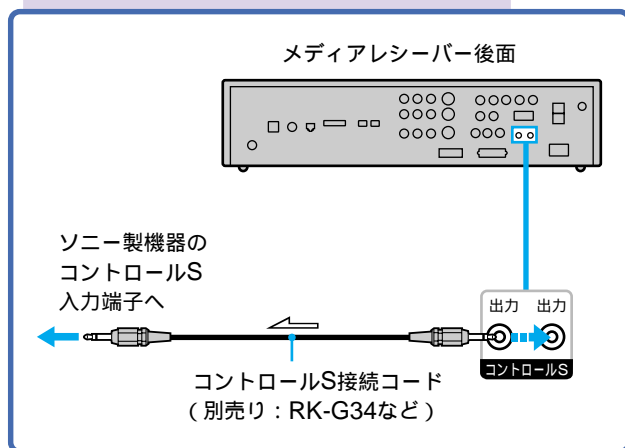
メニューや2画面での画面サイズ（☞63ページ）などは△/▽/◁/▷を押しても操作できません。

ちょっと一言

操作するビデオやDVDプレーヤーのコントロールS端子もつないでいるときは（☞13ページ）、本機のリモコンをディスプレイに向けて、ビデオやDVDプレーヤーを操作できます。

テレビにつないだ機器をコントロールSで操作する

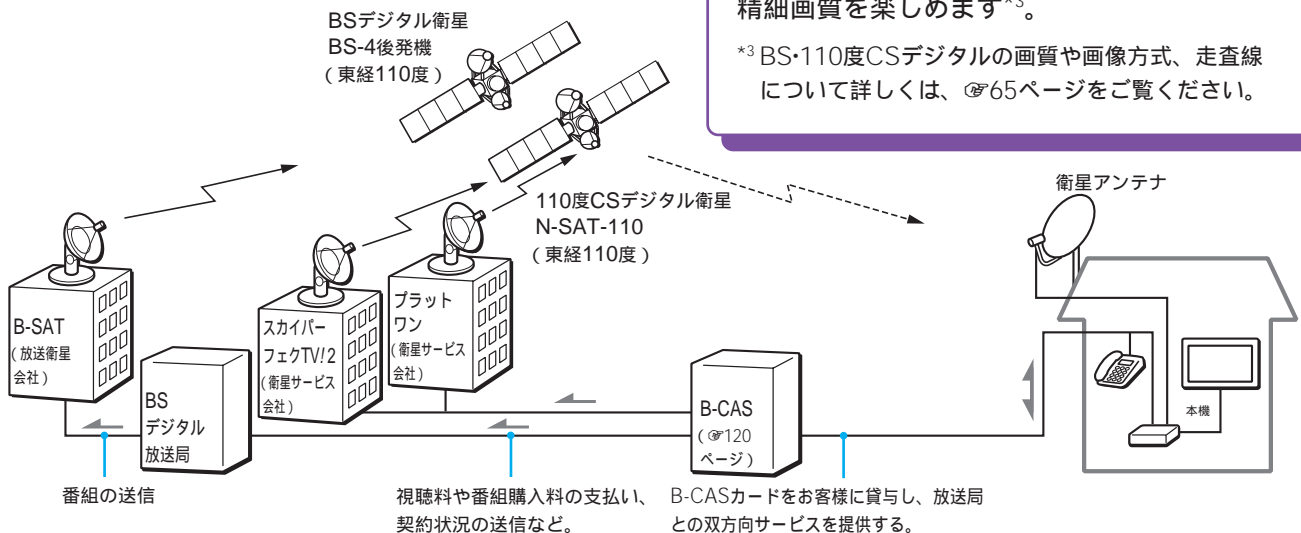
コントロールS入力端子のあるソニー製の機器をディスプレイから離れた場所に設置したときなどは、コントロールS端子をつないで、つないだ機器のリモコンをディスプレイに向けて、つないだ機器を操作できます。
コントロールSで操作できるのはソニー製の機器のみです。

あらかじめコントロールS端子をつないでおいてください。

コントロールSをつなぐ

ご注意

- メディアレシーバーの電源スイッチで電源を切っているときは、コントロールSで他機を操作することはできません。
- コントロールS接続コードとAVマウスを同時につなぐと、どちらかが動作しなくなる場合があります。そのときは、使わないほうを取りはずしてください。

BS・110度CS デジタルって何？

BS*[1]デジタル放送は、2000年12月に本放送が開始された、BSデジタル衛星BS-4後発機を利用したデジタル放送です。110度CS*[2]デジタル放送は、2002年3月に本放送が開始された、110度CSデジタル衛星N-SAT-110を利用したデジタル放送です。

*[1] BSはBroadcasting Satellite（放送衛星）の略です。
*[2] CSはCommunications Satellite（通信衛星）の略です。

デジタル化で大容量の情報発信

BSデジタルも110度CSデジタルも、従来のテレビ放送（VHF/UHF）やBSアナログ放送と違い、映像や音声をデジタル化して大容量の情報を扱えるため、高画質な映像や多チャンネルの番組を楽しめます。幅広いジャンルの番組内容で、デジタルハイビジョン信号HD（BSデジタルのみ）を中心に、ラジオ放送、データ放送（双方向サービス）が楽しめます。
特にデジタルハイビジョン信号HD（BSデジタルのみ）では1125iと750pの画像方式があり、大画面になっても走査線（テレビ画面を水平に走る線）が目立たなく、臨場感あふれる高精細画質を楽しめます*[3]。

*[3] BS・110度CSデジタルの画質や画像方式、走査線について詳しくは、☞65ページをご覧ください。

BS・110度CSデジタルでは、テレビ以外にもサービスがあるの？

ラジオとデータがあります。
本機では、すべての放送を楽しめます。

ラジオ
音楽CD並み（BSアナログ・Bモード並み）の高音質放送などがあります。

データ
テレビ放送を、従来の「見るもの」から「参加するもの/使うもの」へと変化させようと、双方向的な番組が実現されています。
BS・110度CSのテレビやラジオの番組と**連動して放送されるデータ**（☞17、19ページ）と、データだけを専門に放送する**独立データ**があります。

たくさんのチャンネルから、どうやって見たい番組を探すの？

見たい番組を簡単に探し出せるように、**番組表**（EPG：Electronic Program Guide）があり、テレビ画面上でそのチャンネルの番組表を見ることができます。
また、本機ではMY**プラスボタン**を使ってチャンネル別の番組表を見たり、ジャンル別の番組表を見たりすることができます。
→「BS・110度CSを見る」（☞16～29ページ）

BSデジタルは有料なの？

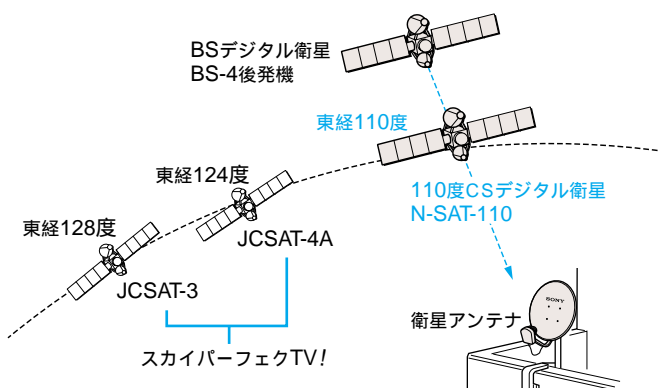
民放系BS新会社5局は無料放送を行っています。
ただし、NHK（BS1、BS2、デジタルハイビジョン）やWOWOW、スター・チャンネルBS、セント・ギガなどは有料放送（NHKのBS受信料も含む）のため、視聴するには、各局への加入申し込みと契約が必要です。
なお、110度CSデジタルは有料放送です。
→「準備14：BS・110度CSの各放送局に視聴を申し込む」（☞128ページ）

BS・110度CSデジタルは、録画できるの？

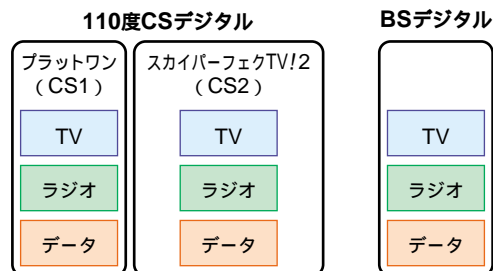
本機では、i.LINKを使って、デジタルハイビジョン信号HD（BSデジタルのみ）も標準テレビ信号SDも、オリジナル画像を生かした高画質のまま録画できます。また、i.LINKを使わなくても、現行のテレビ（地上波）と同等の画質のアナログ信号に変換し録画できます。
ただし、有料放送などでは、著作権上の問題から、録画できない番組もあります。
→「BS・110度CSの番組を予約する」（☞30～41ページ）

BSデジタルと110度CSデジタルは、同じアンテナや共同受信システムで受信可能

BSデジタル衛星（BS-4後発機）と110度CSデジタル衛星（N-SAT-110）は同じ東経110度の方角にあり、送信方式も同じ円偏波のため1つのアンテナや共同受信システムで受信できます。
ただし、110度CSデジタルに衛星アンテナや分配器、ブースター（増幅器）、および共同受信システムが対応している必要があります。詳しくは、お買い上げ店か、マンション管理会社にお問い合わせください。

ちょっと一言
従来からあるデジタルCS放送（スカイパーフェクTV！）は、図のように、BSデジタル衛星と異なる経度に2つあり、送信方式もBSデジタルと異なる水平/垂直偏波（偏波面電圧切換方式）のため、専用のCSアンテナとデジタルCSチューナーが別に必要です。

110度CSデジタル放送の2つの衛星サービス

「プラットワン」（CS1）と「スカイパーフェクTV！2」（CS2）です。2つの衛星サービスそれぞれにBSデジタル放送と同じく、テレビ、ラジオ、独立データおよび連動データのチャンネルがあります。

110度CSデジタル		BSデジタル
プラットワン（CS1）	スカイパーフェクTV！2（CS2）	
TV	TV	TV
ラジオ	ラジオ	ラジオ
データ	データ	データ

有料放送を見るには受信契約が必要

BSデジタルの有料放送や110度CSデジタル放送をご覧になるには、受信契約が必要です（☞128ページ）。
受信契約すればさまざまな放送やサービスが楽しめます。
詳しくは、各放送局、衛星サービス会社にお問い合わせください。

ちょっと一言
110度CSデジタルの無料放送は各衛星サービス会社への加入申し込みや契約をしなくてもご覧いただけます。受信料は請求されません。

ご注意
本機はepサービスには対応していません。
epサービスは、イーピー株式会社が提供するeプラットフォームサービスです。
epサービスについて詳しくは、イーピー株式会社にお問い合わせください。

BSを見る

とにかくBSに切り換える

BSテレビを一発で選局する

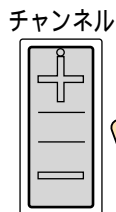
各BSテレビ局の代表チャンネルになる。

ちょっと一言

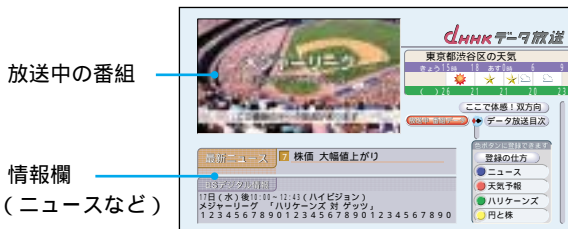
- NHK（1、2、3）とWOWOW（9）、スターチャンネル（10）の各BSテレビ局は有料放送（NHKのBS受信料も含む）のため、視聴するには、各局へ加入申し込みをして契約する必要があります。（☞128ページ）
- 11、12ボタンに、お好きなBSチャンネルを登録できます（☞132ページ）。

順送りで選局する

BSになっていないときのみ押す。

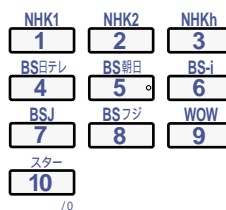
ここで選んだ放送サービス（テレビ、ラジオ、独立データ）の中で順送りされる。

押し続けると、チャンネル番号のみ早く切り換わり、離すとそのチャンネルが映る。

連動データ放送を楽しむ

BSデジタルのテレビやラジオの番組に連動しているデータ放送を楽しめます。視聴するだけでなく、リモコンで情報を探したり、投票やクイズなどで番組に参加したりできます。

連動データ放送が行われていれば、「データ取得中です」と表示されたあと、画面が切り換わる。

画面で何かを選んだり入力したりするときは

詳しくは、画面の指示に従って、リモコンを操作してください。

色で選ぶとき　選んで決定するとき　数字を入力するとき　前に戻るとき

ちょっと一言

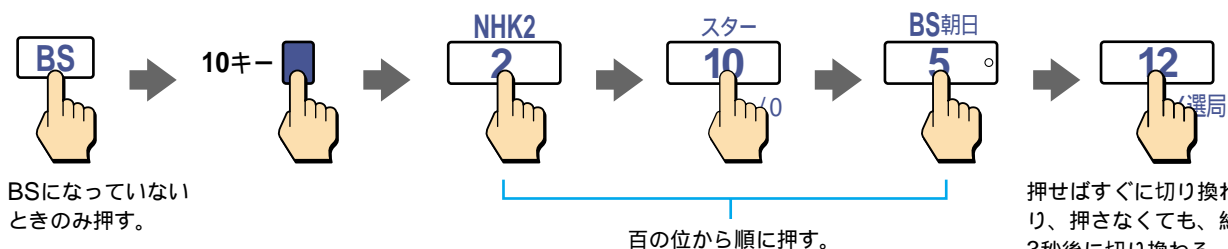
- 終了する場合も、画面の指示に従ってください。d（連動データ）ボタンや戻るボタンで終了できる場合もあります。
- BS独立データ放送も、連動データ放送と同様に、本機のリモコンで項目を選んだり入力したりできます。

3桁のチャンネル番号で選局する

例：205chのとき

BSになっていないときのみ押す。

百の位から順に押す。

押せばすぐに切り換わり、押さなくても、約3秒後に切り換わる。

番組表やMYプラスから選ぶには

詳しくは、「番組表で見たい番組を選ぶ」（☞22ページ）、「MYプラスで簡単に番組を探す」（☞24ページ）をご覧ください。

110度CSを見る

110度CSデジタル放送には、「プラットワン」(CS1) と「スカイパーフェクTV！2」(CS2) の2つの衛星サービスがあります。そして、衛星サービスごとに、BSデジタルと同じく、テレビ、ラジオ、独立データの放送サービスがあります。視聴するには、各衛星サービスに加入申し込みをして契約する必要があります。詳しくは、各衛星サービス会社にお問い合わせください（☞128ページ）。

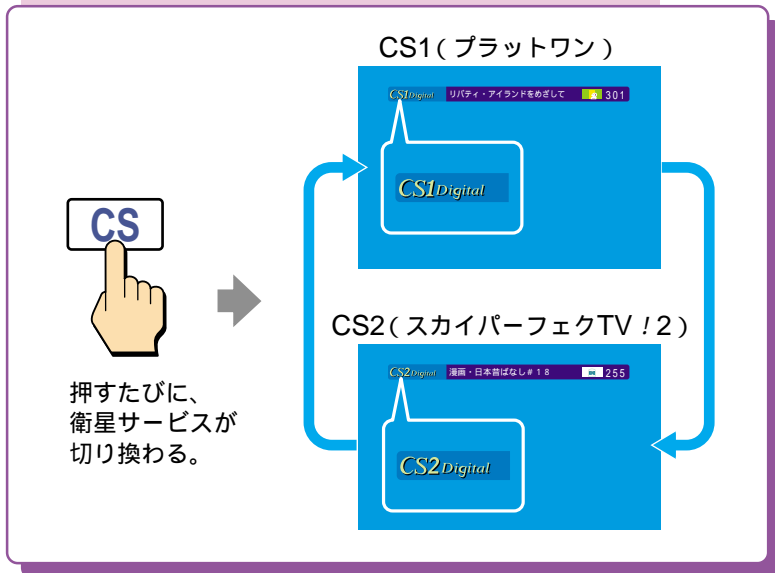
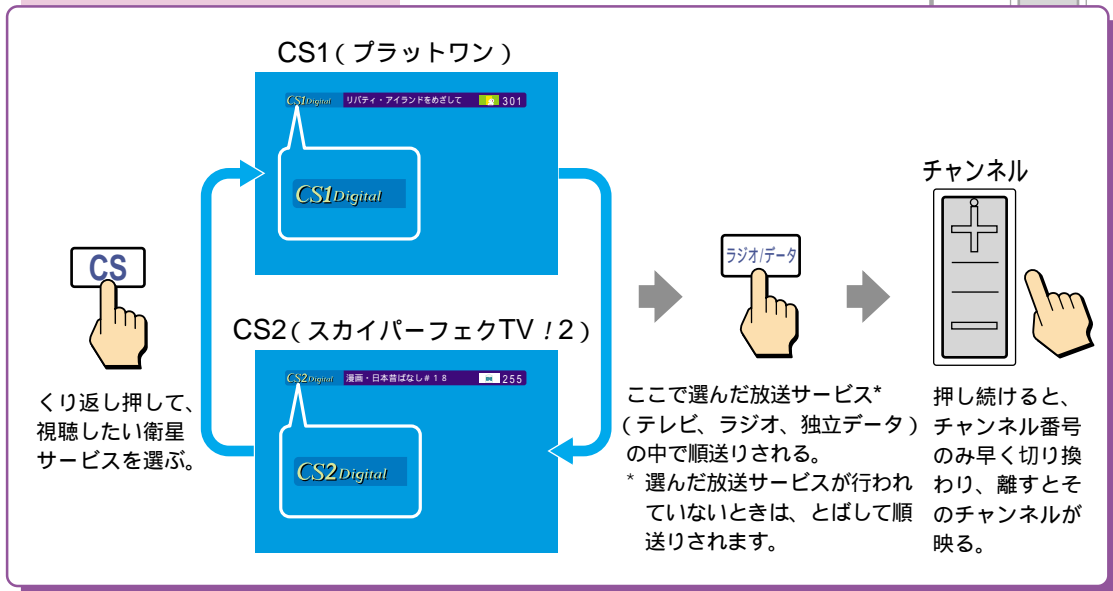
とにかく110度CSに切り換える

押すたびに、衛星サービスが切り換わる。

順送りで選局する

くり返し押して、視聴したい衛星サービスを選ぶ。

ここで選んだ放送サービス*（テレビ、ラジオ、独立データ）の中で順送りされる。

* 選んだ放送サービスが行われていないときは、とばして順送りされます。

押し続けると、チャンネル番号のみ早く切り換わり、離すとそのチャンネルが映る。

連動データ放送を楽しむ

110度CSのテレビやラジオの番組に連動しているデータ放送を楽しめます。視聴するだけでなく、リモコンで情報を探したり、投票やクイズなどで番組に参加したりできます。

連動データ放送が行われていれば、「データ取得中です」と表示されたあと、画面が切り換わる。

画面で何かを選んだり入力したりするときは

詳しくは、画面の指示に従って、リモコンを操作してください。

色で選ぶとき

選んで決定するとき

数字を入力するとき

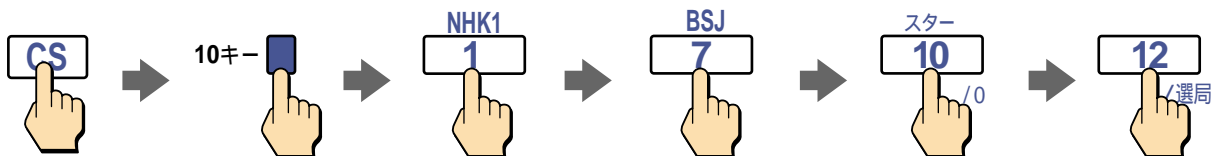
前に戻るとき

ちょっと一言

- 終了する場合も、画面の指示に従ってください。d（連動データ）ボタンや戻るボタンで終了できる場合もあります。
- CS独立データ放送も、連動データ放送と同様に、本機のリモコンで項目を選んだり入力したりできます。

3桁のチャンネル番号で選局する

3桁のチャンネル番号で選べば、CS1にもCS2にも切り換えられます。

例：170chのとき

110度CSになっていないときのみ押す。

押し忘れるとBSテレビになってしまいます。

百の位から順に押す。

押せばすぐに切り換わり、押さなくても、約3秒後に切り換わる。

番組表やMYプラスから選ぶには

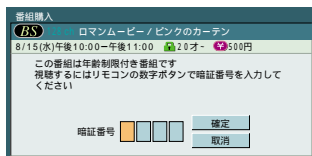
詳しくは、「番組表で見たい番組を選ぶ」（☞22ページ）、「MYプラスで簡単に番組を探す」（☞24ページ）をご覧ください。

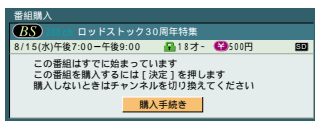
ご注意

本機はepサービスには対応していません。
epサービスは、イーピー株式会社が提供するeプラットフォームサービスです。epサービスについて詳しくは、イーピー株式会社にお問い合わせください。

BS・110度CS
－こんなときは

視聴年齢制限付き番組を選んだときは

暗証番号入力画面が表示されます。1～10/0までのBS用数字ボタンで4桁の暗証番号（☞136ページ）を入力してください。

番組購入画面が出たときは

ペイ・パー・ビュー（PPV）番組のため、視聴するには別途料金がかかります。
購入するときは、画面の指示に従って、購入手続きを行ってください。

ちょっと一言

BS・110度CSデジタルの両放送のPPV番組の先月分と今月分の購入概算金額を確認できます（☞49ページ）。

「降雨対応放送に切り換わりました」と表示されたときは

降雨対応放送を受信しています。
お買い上げ時は、降雨時に受信状態が悪くなると、降雨対応放送に自動的に切り換わるように設定されています（対応していない番組もあります）。
降雨対応放送は、画質や音質が通常の放送に比べ低下します。

- お買い上げ時は、天候回復後、自動的に通常の放送に戻るように設定されています。
- 「（メニュー切換）」メニューで「（初期設定）」を選び、「衛星設定」で「降雨対応放送受信」を「切」にすると、降雨対応放送に切り換わりません。

降雨対応放送についてのご注意

降雨時「受信できません　大雨・大雪やアンテナの調整ズレなどの場合もあります」と表示されて、映像や音声が出なくなる場合は、受信中の放送が降雨対応でないためか、降雨対応放送で対応できない気象状況となっているためです。

ご注意

- BS・110度CSデジタルのときは、放送終了後または放送のないチャンネルにしたままの状態で約10分過ぎても、テレビ（地上波）と異なり、自動的に電源スタンバイにはなりません（省電力のための「オートシャットオフ」機能が働きません）。
- BS・110度CSデジタル信号には、多くの情報が含まれています。そのため、BS・110度CSチャンネルを切り換えた直後（約2分以内）に、メディアレシーバーの電源スイッチで主電源を切ると、次に電源スイッチを押して電源を入れたときに、最後に見ていたBS・110度CSチャンネルに戻らないことがあります。

選局についてのちょっと一言

- BS・110度CSテレビを見ているときに、画面上に、臨時ニュースなどの文字スーパーが表示されることがあります。文字スーパー放送は、終了するまで消せません。
- 1～12/選局のBS用数字ボタンを押して選局できるチャンネルは、お好みで変更できます（「11ボタン、12/選局ボタンに好みのBSチャンネルを登録する」☞132ページ）。
- チャンネル＋/－ボタンを押して選局できるチャンネルは、お好みで変更できます（「チャンネル＋/－ボタンや番組表で選べるBS・110度CSチャンネルを登録する」☞134ページ）。
- BS・110度CSテレビを見ている状態で、リモコンの電源ボタンを押して電源を切ったときは、次に電源を入れたときに画面が表示されるまでに時間がかかることがあります。
- 1～12/選局のBS用数字ボタンとチャンネル＋/－ボタンは、電源/スタンバイランプが赤く点灯中に押せば、電源ボタンを押さなくても自動的に電源が入ります。
- メディアレシーバーのサービス切換ボタンをくり返し押しても、次のように放送サービスを切り換えられます。

BSテレビ → BSラジオ → BSデータ → CS1テレビ → CS1ラジオ
↑　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　↓
CS2データ ← CS2ラジオ ← CS2テレビ ← CS1データ

- 1～12/選局のBS用数字ボタンには、暗い場所でも操作しやすいように、ほのかに青白く光る蓄光材が入っています。そのため、太陽光や明るい照明の下などに約10分間以上置くと光が蓄えられ、暗くなると数時間光り続けます。暗い場所に放置したときは光りません。

データ放送についてのご注意

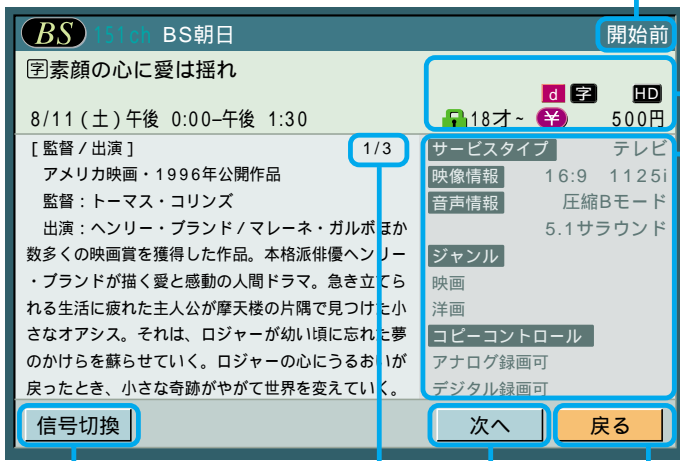
- あらかじめ電話回線の接続（☞106ページ）と設定（☞122ページ）を行ってください。視聴者参加型の番組に参加できなかったり、情報を選べなかったりする場合があります。
- 番組によっては、BS・110度CSデータの番組が自動的に画面に表示されることがあります。
- リモコンやメディアレシーバーのボタンは、BS・110度CSデータの番組で使うときだけ機能が変わる場合があります。番組の指示に従ってください。
- BS・110度CSデータの番組では、本機につないだ電話回線を使って通信を行う場合があります。通信中（メディアレシーバー前面の通信ランプが点灯）は、電話機やファクシミリなど同一回線上の通信機器は使えません。また、通話料がかかる場合があります。

番組説明を見る
[番組説明ボタン]

番組説明を見る

もう1度押せば、
消える。

下記の番組はフィクションであり、実際の放送局での放送内容や、実際の人物、地名などとは関係ありません。

BS 151ch BS朝日　開始前
字素顔の心に愛は揺れ
d 字 HD
8/11（土）午後 0:00−午後 1:30　18才〜 ¥ 500円
［監督／出演］ 1/3
●アメリカ映画・1996年公開作品
●監督：トーマス・コリンズ
●出演：ヘンリー・ブランド／マレーネ・ガルボほか
数多くの映画賞を獲得した作品。本格派俳優ヘンリー・ブランドが描く愛と感動の人間ドラマ。急き立てられる生活に疲れた主人公が摩天楼の片隅で見つけた小さなオアシス。それは、ロジャーが幼い頃に忘れた夢のかけらを蘇らせていく。ロジャーの心にうるおいが戻ったとき、小さな奇跡がやがて世界を変えていく。
サービスタイプ　テレビ
映像情報　16:9　1125i
音声情報　圧縮Bモード　5.1サラウンド
ジャンル　映画　洋画
コピーコントロール　アナログ録画可　デジタル録画可
信号切換　次へ　戻る

番組の状況
「開始前」や、「予約済」、「終了」など

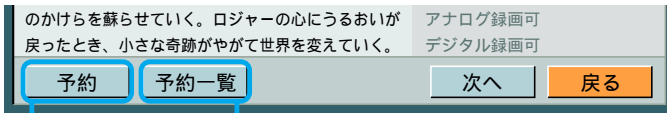
マーク（下記）

番組情報欄
「サービスタイプ」：テレビ、ラジオ、独立データの放送サービス（☞16、18ページ）
「映像情報」（☞65ページ）
「音声情報」（☞69ページ）
「ジャンル」（☞24〜29ページ）
「コピーコントロール」：録画が可能か、コピープロテクションの情報（☞32、49、154ページ）

信号切換*（☞45ページ）

「前へ」*、**「次へ」***
前ページまたは次ページを表示する。
1/3は3ページ中の1ページ目の意味です。

「戻る」*
「番組説明」画面を消します。

番組一覧表示中に押したとき

「予約」*
（☞30〜38ページ）
「番組予約」画面を表示します。

「予約一覧」*
「予約一覧」画面（☞38〜41ページ）を表示します。

*△/▽/◁/▷で選び、真ん中を押しこんで決定します。

表示マークの意味

- 字 ： 字幕のある放送（☞46ページ）
- d ： テレビやラジオと連動しているデータ放送（☞17、19ページ）
- MV ： マルチビュー放送（☞42〜44ページ）
- HD ： デジタルハイビジョン信号 HD（☞65ページ）
- SD ： 標準テレビ信号 SD（☞65ページ）
- 🔒 ： 視聴年齢制限付き番組（☞20、136ページ）
- ¥ ： ペイ・パー・ビュー（PPV）など有料番組（☞47ページ）
- 🕘 ： 録画予約した番組（☞30、33ページ）
- 🕘 ： 視聴予約した番組（☞37ページ）

ちょっと一言
MV、HDまたはSDは同じ場所に表示されるため、いずれか1つが表示されます。

番組表で見たい番組を選ぶ［番組表ボタン］

BS・110度CSデジタル放送では、放送局が送信する番組情報を元に、番組表（EPG*）を約1週間先まで見ることができます。

* EPGは、電子番組表（Electronic Program Guide）の略です。
（エレクトロニック・プログラム・ガイド）

ご注意

一部の地上波局が行っている地上波の番組表（EPG）信号には対応していないため、地上波の番組表はありません。

番組表を見る

もう1度押せば、消える。

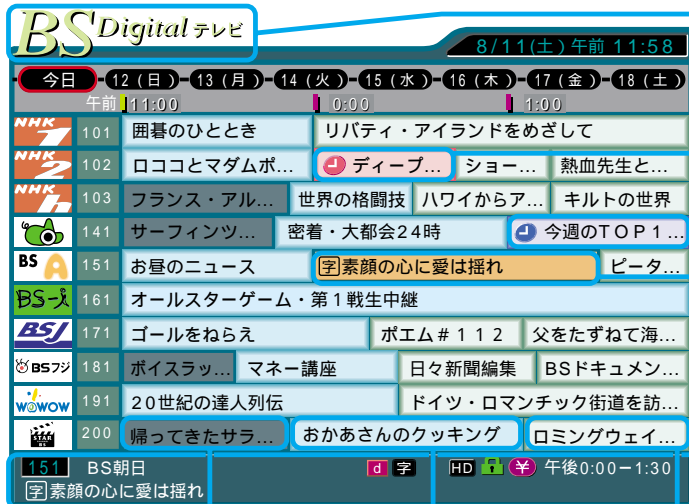
別の放送サービスの番組表を見たいときは

番組表ボタンを押して番組表を消し、［BS］/［CS］ボタンや［ラジオ/データ］ボタンで見たい衛星の放送サービスに切り換えたあと、もう1度番組表ボタンを押してください。

ご注意

お買い上げ時、または長時間メディアレシーバーの電源スイッチで主電源を切った状態のときは、次に電源スイッチを押して主電源を入れると、番組表に表示される番組が少ないことがあります。本機で主電源を切っている間は、放送局が送信する番組情報をデータ取得できないためです。

ちょっと一言

［1］～［12］のBS用数字ボタンで選べないチャンネルを番組表に表示するには☞134ページをご覧ください。

放送サービスの種類
BSデジタルまたは110度CSデジタルの放送サービス（テレビ、ラジオ、独立データ）の種類。

：録画予約した番組（☞30、33ページ）

：視聴予約した番組（☞37ページ）

：選んでいる番組とその情報

上記の番組はフィクションであり、実際の放送局での放送内容や、実際の人物、地名などとは関係ありません。

表示マークの意味

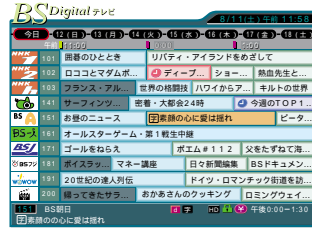
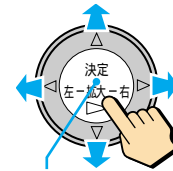
- ：マルチチャンネル放送（同じ放送局の複数のチャンネルで、それぞれ違う番組を放送☞42ページ）
- 字：字幕放送（☞46ページ）
- d：テレビやラジオと連動しているデータ放送（☞17、19ページ）
- MV：マルチビュー放送（☞42～44ページ）
- HD：デジタルハイビジョン信号HD（☞65ページ）
- SD：標準テレビ信号SD（☞65ページ）
- ：視聴年齢制限付き番組（☞20、136ページ）
- ¥：ペイ・パー・ビュー（PPV）など有料番組（☞47ページ）
- ：録画予約した番組（☞30、33ページ）
- ：視聴予約した番組（☞37ページ）

ちょっと一言

、MV、HDまたはSDは同じ場所に表示されるため、いずれか1つが表示されます。

他に、放送局から、番組の種類を表すマークが付いてくる場合があります。以下はその一例です。

- 二：二か国語放送（☞66ページ）
- S：ステレオ放送（☞69ページ）
- 字：字幕放送（☞46ページ）
- B：圧縮Bモードステレオ放送（☞69ページ）
- N：ニュース番組

番組表で番組を選ぶ

△/▽/◁/▷で見たい番組を選んで

◁/▷を押し続ければ、見たい時間帯にすばやくたどりつけます（高速スクロール）。

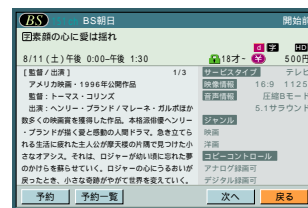
真ん中を押しこんで決定

放送中の番組を選んだときは

選んだチャンネルの画面になる。

ちょっと一言

決定するかわりにリモコンの番組説明ボタンを押すと、「番組説明」画面が表示されます。

放送開始前の番組を選んだときは

受信中の映像と音声が消えて「番組説明」画面が表示される。

ご注意

メディアレシーバー後面のBS/CS/ビデオ出力端子やi.LINK端子からの信号も出力されなくなります。

「番組説明」画面から予約録画や視聴予約に進めます。

予約録画するときは

- i.LINKでデジタル録画するとき（☞30ページ）
- ビデオにAVマウスでアナログ録画するとき（☞33ページ）

視聴予約するときは

☞37ページ

予約しないときは

「戻る」を選んで決定する。

MYプラスで簡単に番組を探す

[MYプラスボタン]

お好みのチャンネルやジャンル（分野やテーマ）を絞って、簡単に番組を探せます。

MYプラスで簡単に番組を探す

MYプラスボタンで、お好みのチャンネルやジャンル（分野やテーマ）から見たい番組を簡単に探せます。
現在見ている衛星の中で番組を探せます。

現在見ている衛星以外の番組をMYプラスで探したいときは

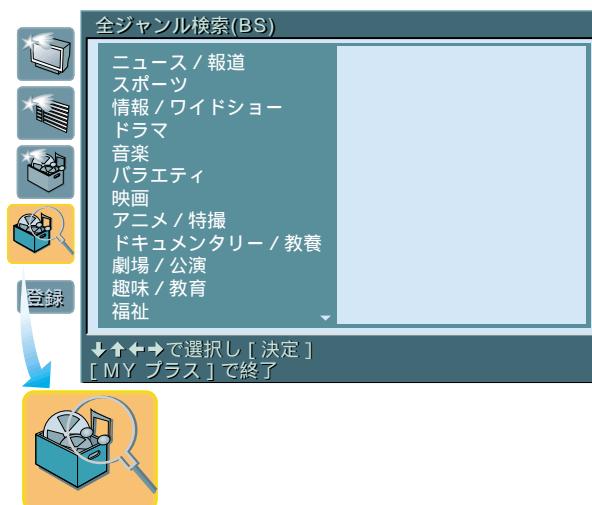
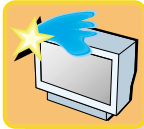
MYプラスボタンを押してMYプラス画面を消し、BS / CS ボタンで番組を探したい衛星に切り換えたあと、もう1度MYプラスボタンを押してください。

よく見るチャンネルを一覧表示して簡単に選ぼう！[MYチャンネル選局]

よく見るチャンネルの専用番組表から簡単に探そう！[MYチャンネル番組表]

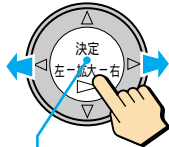
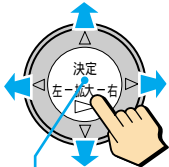
よく見るジャンルから番組を絞り込んで探そう！[MYジャンル検索]

すべてのジャンルから番組を絞り込んで探そう！[全ジャンル検索]

次のページにつづく

MYプラスで簡単に番組を探す［MYプラスボタン］（つづき）

を選んで、決定したら［MYチャンネル選局］

を動かしてチャンネルを選ぶ。

MYチャンネルに登録（☞28ページ）したチャンネルが「ページ1」と「ページ2」に分けて一覧表示される。

◁/▷で見たいチャンネルが登録されているページを選んで

△/▽/◁/▷で見たいチャンネルを選んで

選んだチャンネルの画面になる。

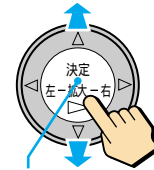
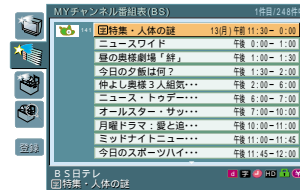
ご注意

お買い上げ時、または長時間メディアレシーバーの電源スイッチで主電源を切った状態のときは、次に電源スイッチを押して主電源を入れると、番組表に表示される番組が少ないことがあります。本機で主電源を切っている間は、放送局が送信する番組情報をデータ取得できないためです。

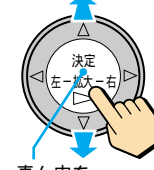
を選んで、決定したら［MYチャンネル番組表］

を動かしてチャンネルを選ぶ。

MYチャンネルに登録（☞28ページ）したチャンネルが一覧表示される。

△/▽で見たいチャンネルを選んで

を動かして番組を選ぶ。

現在放送中の番組を先頭に、選んだチャンネルの番組表が表示される。

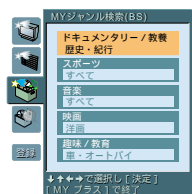
△/▽で見たい番組を選んで

△/▽を押し続ければ、番組表の表示をページごとに送れます（ページ送り）。ページ送り中は、画面に「ページ送り」と表示されます。

放送中の番組を選んだときは

選んだチャンネルの画面になる。

ちょっと一言

決定するかわりにリモコンの番組説明ボタンを押すと、「番組説明」画面が表示されます。

を選んで、決定したら［MYジャンル検索］

「MYジャンル検索」画面が表示される。

△/▽で見たいジャンルを選んで

を動かして番組を選ぶ。

選んだジャンルの番組表が開始時刻順に表示される。

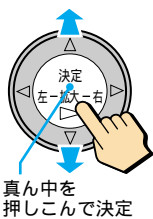
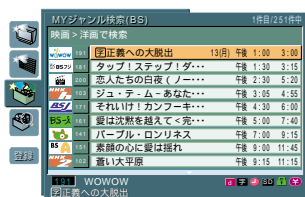
を選んで、決定したら［全ジャンル検索］

すべてのジャンルが一覧表示される。

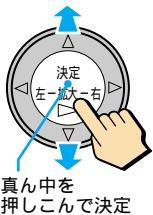
大ジャンルのみ選ぶ

△/▽で大ジャンルを選んで

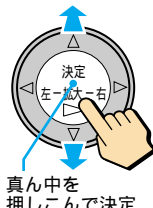
小ジャンルも選ぶ

① △/▽で大ジャンルを選んでから、▷を押す。
② △/▽で小ジャンルを選び、真ん中を押しこんで決定する。

を動かして番組を選ぶ。

選んだジャンルの番組表が開始時刻順に表示される。

△/▽で見たい番組を選んで

真ん中を
押しこんで決定

△/▽を押し続ければ、番組表の表示をページごとに送れます（ページ送り）。
ページ送り中は、画面に「ページ送り」と表示されます。

△/▽で見たい番組を選んで

真ん中を
押しこんで決定

放送開始前の番組を選んだときは

受信中の映像と音声が消えて「番組説明」画面が表示される。

ご注意

メディアレシーバー後面のBS/CS/ビデオ出力端子やi.LINK端子からの信号も出力されなくなります。

「番組説明」画面から予約録画や視聴予約に進めます。

予約録画するときは

- i.LINKでデジタル録画するとき（☞30ページ）
- ビデオにAVマウスでアナログ録画するとき（☞33ページ）

視聴予約するときは

☞37ページ

予約しないときは

「戻る」を選んで決定する。

BS・110度CSを見る

MYプラスにチャンネルやジャンルを登録する

MYチャンネルでよく視聴するチャンネルをあらかじめ登録する

BSやCS1（プラットワン）、CS2（スカイパーフェクTV！2）のテレビ、ラジオ、独立データの区別なく、「ページ1」と「ページ2」にそれぞれ20チャンネルずつ、合計40チャンネルまで登録できます。
また、ここで登録したチャンネルは番組表（☞22ページ）にも表示されます。

1 BSまたはCSボタンをくり返し押して、登録したいチャンネルの衛星に切り換える。

2 MYプラスボタンを押す。

3 △/▽で 登録 を選び、真ん中を押しこんで決定する。

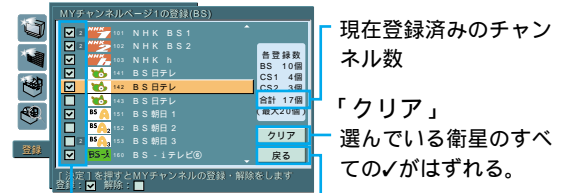
4 △/▽で「MYチャンネルページ1の登録」または「MYチャンネルページ2の登録」を選び、真ん中を押しこんで決定する。
「MYチャンネル選局」（☞26ページ）の「ページ1」または「ページ2」に表示させるチャンネルを登録できます。

5 △/▽で登録したいチャンネルを選び、真ん中を押しこんで決定する。
手順1で選んだ衛星の受信可能なチャンネルが表示されます。
お買い上げ時は、「ページ1」にBSテレビとBS独立データの代表チャンネルが、「ページ2」に110度CSのチャンネルが登録されています。

現在登録済みのチャンネル数

「クリア」
選んでいる衛星のすべての✓がはずれる。

「戻る」
1つ前の画面に戻る。

チャンネルの登録状況
□：未登録
☑：登録済み
1：MYチャンネル選局の「ページ1」に登録済み
2：MYチャンネル選局の「ページ2」に登録済み

ご注意
臨時チャンネルは□も表示されず登録できません。

✓をはずすには
✓の付いているチャンネルを選び、決定する。

6 引き続きチャンネルを登録するときは、手順5をくり返す。
続けてチャンネルを登録できます。

他の衛星のチャンネルを登録するには
手順1から行ってください。

7 MYプラスボタンを押して、「MYチャンネルの登録」画面を消す。

MYジャンル検索でよく検索するジャンルをあらかじめ登録する

最大5つのジャンルを、大ジャンルまたは小ジャンルで、BSやCS1（プラットワン）、CS2（スカイパーフェクTV！2）それぞれに登録できます。

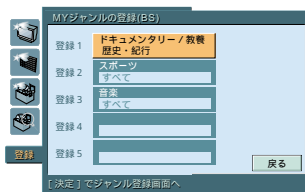
ここでは例として、BSの「登録4」に「大ジャンル：映画、小ジャンル：洋画」を登録する手順を説明します。

1 BSボタンを押す。

110度CSにMYジャンルを登録したいときは
CSボタンをくり返し押して、登録したい衛星サービスに切り換える。

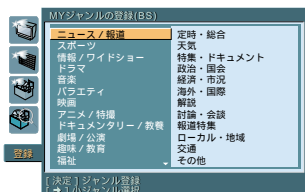
2 MYプラスボタンを押す。

3 △/▽で 登録 を選び、真ん中を押しこんで決定する。

4 △/▽で「MYジャンルの登録」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

ご注意

新たにジャンルを追加したり、登録済みのジャンルを入れ換えて上書きできますが、登録済みのジャンルを空欄にはできません。

5 △/▽で新たに追加または入れ換えたいジャンル（ここでは「登録4」）を選び、真ん中を押しこんで決定する。

ジャンルが一覧表示されます。

6 ジャンルを選ぶ。

大ジャンルと小ジャンルを登録したいときは

△/▽で登録したい大ジャンル（ここでは「映画」）を選び、▷を押す。

小ジャンルを選ぶ画面になります。

大ジャンルだけ登録したいときは

△/▽で登録したい大ジャンル（ここでは「映画」）を選び、真ん中を押しこんで決定する。

小ジャンルは、MYジャンルに「すべて」として登録されます。

手順8に進んでください。

7 △/▽で登録したい小ジャンル（ここでは「洋画」）を選び、真ん中を押しこんで決定する。

選んだ大ジャンルとその小ジャンルが、MYジャンルに登録されます。

8 引き続きジャンルを登録するときは、手順5〜7をくり返す。

最大5つのジャンルを登録できます。

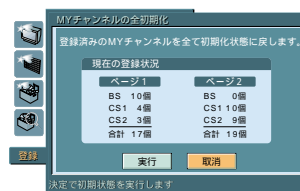
9 MYプラスボタンを押して、「MYジャンルの登録」画面を消す。

MYプラスに登録したチャンネルをお買い上げ時の設定に戻すには

1 BS または CS ボタンを押す。

2 MYプラスボタンを押す。

3 △/▽で 登録 を選び、真ん中を押しこんで決定する。

4 △/▽で「MYチャンネルの全初期化」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 ◁/▷で「実行」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

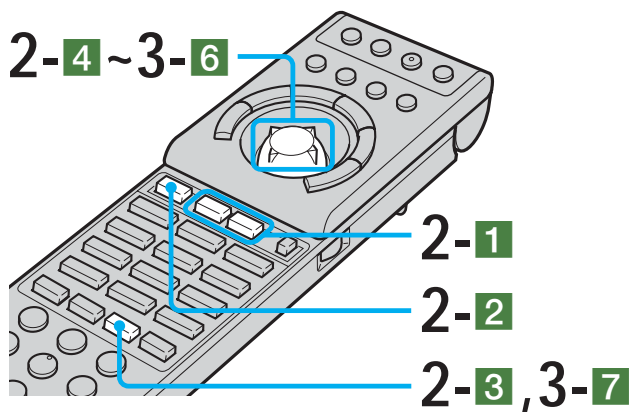
「MYチャンネル選局」の「ページ1」と「ページ2」に表示されるすべてのチャンネルおよび「MYチャンネル番組表」に表示されるチャンネルがお買い上げ時の設定に戻ります。

i.LINKでデジタル予約録画する

本機とハードディスクレコーダー*[1]やD-VHSビデオ*[2]をi.LINKで連動させて、BS•110度CS**デジタル放送をデジタル高画質でデジタル録画できます。**
他の予約（☞33～38ページ）と合わせて、最大15件まで予約できます。

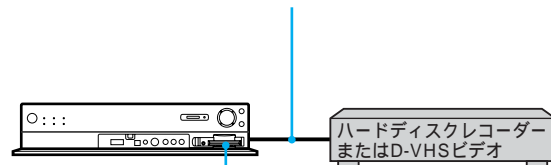
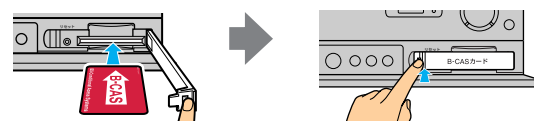
*[1] ソニー製のハードディスクレコーダーVRP-T1などです。i.LINK操作画面（☞86ページ）では「HDR」と表示されます。

*[2] 2002年9月現在推奨機種日本ビクター製デジタルハイビジョンビデオHM-DH35000です。i.LINK操作画面（☞87ページ）では「D-VHS」と表示されます。

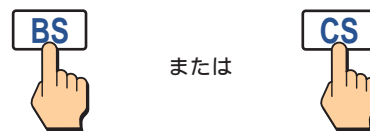
現在放送中の番組も、予約を設定し終わったと同時に、そのBS•110度CSのチャンネルに固定されて録画が始まります。
ただし、PPVや終了時刻まで2分を切っているときは録画できません。

ご注意
- **次の場合はデジタル予約録画できません。**
  - すでに放送開始しているPPV番組
  - 視聴できないデータサービス
  - 放送時間が未定の番組
  - コピープロテクションにより録画できない番組
  - 未契約チャンネルの番組
  - すでに予約が15件あるとき（☞38ページ）
  - 視聴予約（☞37ページ）した番組を見ているとき
  - i.LINKダビング中に、放送中の番組を予約録画するとき
- **本機はDTLAのコピープロテクション技術に対応しています**（☞154ページ）。

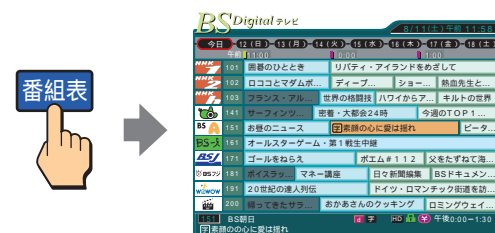
1 準備する。

次の準備をしてください。

ハードディスクレコーダーまたはD-VHSビデオ
本機と正しくつなぐ。また、ハードディスクレコーダーやD-VHSビデオに必要な設定も行ってください（☞156、157、161ページ）。

B-CASカード（下の図）
正しく入れて、B-CASカード挿入口のふたを閉める（☞120ページ）。

前の番組が延長されそうなときは
開始時刻の変更に対応して録画できるように設定する（☞36ページ）。お買い上げ時は対応しないで予約取消となる設定です。

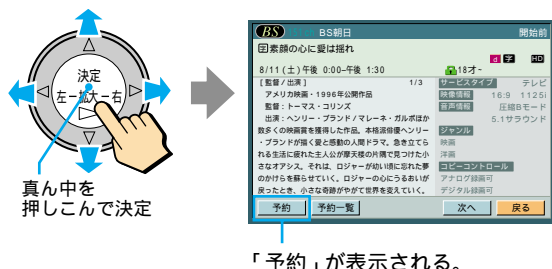
2 録画したい番組を選ぶ。

1 BS または CS ボタンを押して、録画したい番組の衛星に切り換える。

または
2 ラジオ/データ ボタンをくり返し押して、録画したい番組の放送サービスに切り換える。

3 番組表ボタンを押す。
選んだ放送サービスの番組表が表示されます。

4 録画したい番組を選んで、決定する。

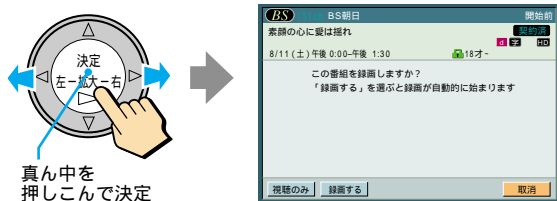
録画したい番組の「番組説明」画面が表示されます。

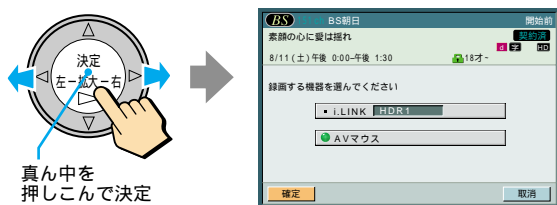
現在放送中の番組のときは

決定するかわりに、リモコンの番組説明ボタンを押してください。

「予約」が表示される。

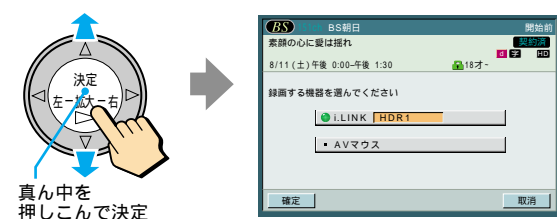
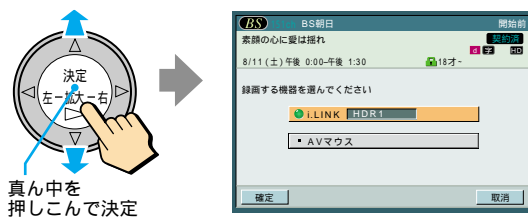
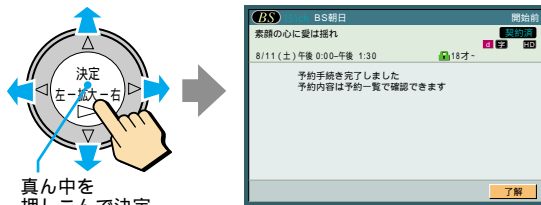
ちょっと一言

「番組説明」画面は、MYプラスボタンによる「MYチャンネル番組表」（☞26ページ）や「MYジャンル番組表」（☞27ページ）、「全ジャンル番組表」（☞27ページ）からも表示できます。

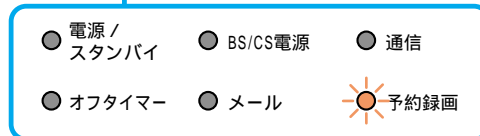
3 予約する。

1 「予約」を選んで、決定する。

2 「録画する」を選んで、決定する。

ご注意

i.LINKで本機と正しくつないでいないと（☞156、157ページ）、i.LINK録画はできません。

3 「i.LINK」を選んで、決定する。

4 録画したい「HDR」または「D-VHS」を1台選んで、決定する。

5 「確定」を選んで、決定する。

6 「了解」を選んで、決定する。

見ていた番組表に戻り、予約した番組に が表示され、メディアレシーバー前面の予約録画ランプが点灯します。

7 番組表ボタンを押す。

番組表が消えます。

「MYチャンネル番組表」（☞26ページ）や「MYジャンル番組表」（☞27ページ）、「全ジャンル番組表」（☞27ページ）のときは、MYプラスボタンで消してください。

これで予約完了です！

ご注意

- メディアレシーバーの電源スイッチで、主電源を切らないでください。主電源が切れたままだと、予約した時刻になっても電源は入らず、録画が始まりません。予約した番組の開始時刻前には、必ず、主電源を入れておいてください。
- 次のときは録画が解除されます。
  - －他の予約と重なっているとき（☞33、37、38ページ）
  - －「予約一覧」画面で実行中の予約を取り消したとき（☞38ページ）
  - －i.LINKダビング中（☞89ページ）に、予約した番組が始まるとき

次のページにつづく

i.LINKでデジタル予約録画する（つづき）

☞31ページの手順3-1で¥録画する と表示されるときは

PPV番組の視聴料金とは別に、録画のための料金がかかります（☞47～49ページ）。

「この番組はi.LINKでのデジタル録画はできません」と表示されたときは

デジタル録画できません。番組によって、メディアレシーバーのBS/CS/ビデオ出力端子につないだビデオでアナログ録画できます（☞33～35ページ）。

「予約が重複しています　重なっている予約は、実行されない場合があります　この番組を予約しますか？」と表示されたときは

「予約する」を選んで決定すれば、予約できます。正しく録画されるかは、「予約一覧」画面で予約内容を確認してください（☞38～41ページ）。

視聴年齢制限付き番組を選んだときは

暗証番号入力画面が表示されます。1～10までのBS用数字ボタンで4桁の暗証番号を入力してください。

映像/音声信号などが複数ある番組のときは

信号を選ぶ画面が表示されます。無料の信号はすべて録画されます。有料の信号はΔ/∇/◁/▷で録画したい信号を複数選べます。有料信号を録画するときは、料金がかかります。

「次へ」を選ぶと、5種類目以降の信号が表示されます。

4 予約した録画が実行される。

どのように録画されるかを説明します。
操作は不要です。

開始時刻になると

本機と連動してハードディスクレコーダーまたはD-VHSビデオの電源が入り、約10秒前から録画が始まります。

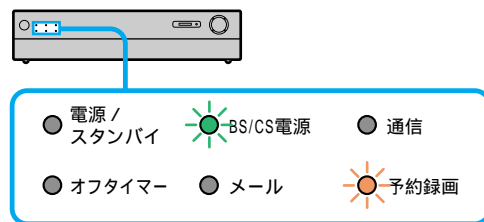
また、本機は開始時刻の約1分前に予約したチャンネルに固定され、他のBS･110度CSのチャンネルに切り換わらなくなります。

ちょっと一言

録画開始時に本機が電源スタンバイのときは、そのままテレビの画面が出ることなく、BS･110度CSチューナー部のみ電源が入り、録画が行われます。

録画実行中は

テレビ（地上波）や本機につないだ機器の映像を見ることができます。また、メディアレシーバー前面の予約録画ランプとBS/CS電源ランプが点灯します。

ご注意

- BS･110度CSの操作（例：BS･110度CSチャンネル切換、BS･110度CSデータの操作、信号切換、番組表の表示など）はできません。
- リモコンの電源ボタンで電源スタンバイにしても、録画はそのまま実行されます。
- 接続した他のi.LINK対応機器の電源を入/切したり、接続を外したりすると、画像が乱れたりとぎれたりすることがあります。

終了時刻になると

録画停止し、ハードディスクレコーダーまたはD-VHSビデオの電源が自動的に切れます。

デジタル放送のデジタル録画制限について（コピープロテクション）

放送局が番組によって、次の3段階に設定して、信号を送っています。「番組説明」画面（☞21ページ）の番組情報欄で「コピーコントロール」情報を確認してください。

デジタル録画不可

デジタルハイビジョン信号HD・標準テレビ信号SDのどちらでもデジタル録画できません。ただし、番組によっては、メディアレシーバー後面のBS/CS/ビデオ出力端子につないだビデオでアナログ録画できます（☞33～35ページ）。

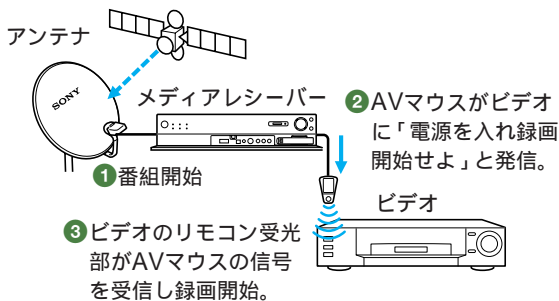
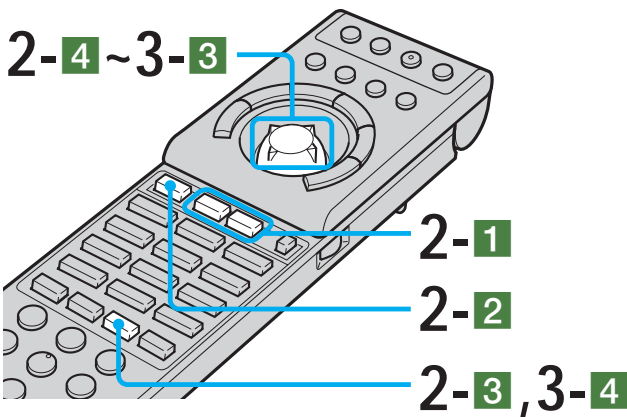
デジタル録画可

録画した番組を、さらにデジタルで録画・再生できます。

デジタル録画1回可（コピーワンス）

デジタル録画できますが、デジタル録画した番組をさらにデジタル録画することはできません。

ビデオにAVマウスでアナログ予約録画する

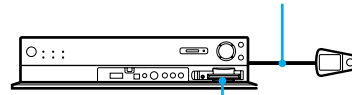
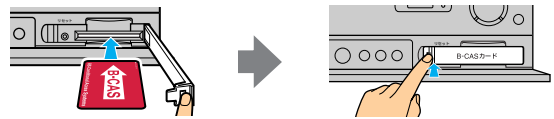
ビデオ側で予約しなくても、本機とビデオを連動させて、BS･110度CSデジタル放送を現行のテレビ（地上波）と同等の画質でアナログ録画できます。
付属のAVマウスが、下の図のように、ビデオへ赤外線コントロール信号を送るためです。
他の予約（☞30、37ページ）と合わせて、最大15件まで予約できます。

現在放送中の番組も、予約を設定し終わったと同時に、そのBS･110度CSのチャンネルに固定されて録画が始まります。
ただし、PPVや終了時刻まで2分を切っているときは録画できません。

ご注意

次の場合は予約したり、アナログ録画したりできません。
- BS･110度CSテレビやラジオと連動しているBS･110度CSデータ（予約できても録画されません）
- BS･110度CS独立データ
- 視聴できないデータサービス
- 放送時間が未定の番組
- コピープロテクションにより録画できない番組
- 未契約チャンネルの番組
- 終了時刻まで2分を切っている番組
- すでに予約が15件あるとき（☞38ページ）
- 視聴予約（☞37ページ）した番組を見ているとき
- i.LINKダビング中に、放送中の番組を予約録画するとき

ソニー製ハードディスクビデオレコーダーClip-On（SVR-515など）で予約録画するときのご注意
- 3分番組など短い番組を連続で予約したときは、正しく録画されないことがあります。録画可能な時間が3分以下の重複した予約についても同様です。
- 予約が取り消されたときは、ソニー製ハードディスクビデオレコーダーClip-Onの電源が自動的には切れないことがあります。
- あらかじめソニー製ハードディスクビデオレコーダーClip-Onの「初期リスト画面」設定を「切」にしておいてください。番組表などが自動的に表示されるようになっていると、録画できません。
- 12時間を超える番組を予約録画したときは、ハードディスクの容量が充分に残っていても、最長12時間で停止します。

1 準備する。

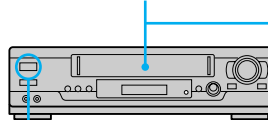
次の準備をしてください。

1 本機の準備をする。

ご注意

AVマウスとコントロールS接続コードを同時につなぐと、どちらかが動作しなくなる場合があります。
AVマウスで予約録画するときは、コントロールS接続コードを取りはずしてください。

2 ビデオの準備をする。

入力切換
本機をつないだ入力にする。

録画モード
標準/3倍やSP/LPなどを選ぶ。

電源「切」
必ず録画前にビデオの電源は切っておく（入ったままだと録画されません）。

3 その他、番組独自の設定をする。

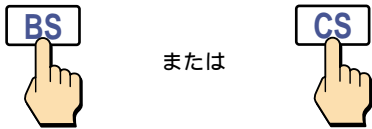
二重音声番組を録画したいときは
録画する音声を選んでおく（☞36ページ）。お買い上げ時は主音声のみ記録される設定です。

前の番組が延長されそうなときは
開始時刻の変更に対応して録画できるように設定する（☞36ページ）。お買い上げ時は対応しないで予約取消となる設定です。

次のページにつづく

ビデオにAVマウスでアナログ予約録画する（つづき）

2 録画したい番組を選ぶ。

1 BS または CS ボタンを押して、録画したい番組の衛星に切り換える。

または

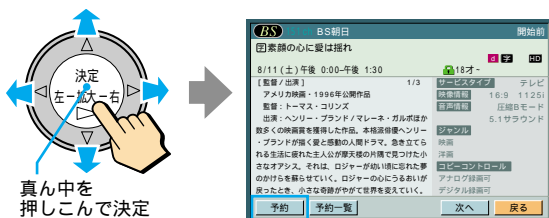
2 ラジオ/データ ボタンをくり返し押して、録画したい番組の放送サービスに切り換える。

3 番組表ボタンを押す。

選んだ放送サービスの番組表が表示されます。

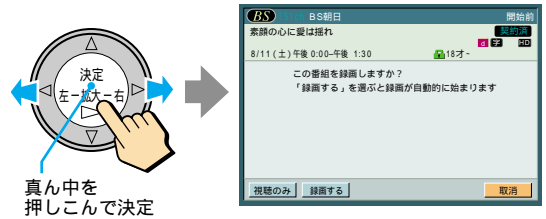
4 録画したい番組を選んで、決定する。

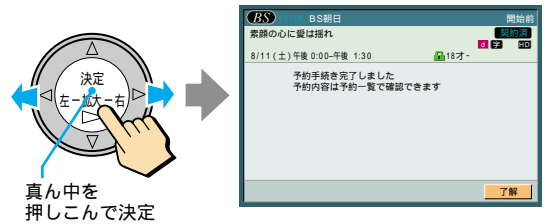
録画したい番組の「番組説明」画面が表示されます。

> **現在放送中の番組のときは**
> 決定するかわりに、リモコンの番組説明ボタンを押してください。

「予約」が表示される。

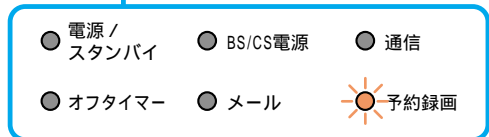
ちょっと一言

「番組説明」画面は、MYプラスボタンによる「MYチャンネル番組表」（☞26ページ）や「MYジャンル番組表」（☞27ページ）、「全ジャンル番組表」（☞27ページ）からも表示できます。

3 予約する。

1 「予約」を選んで、決定する。

2 「録画する」を選んで、決定する。

> **ハードディクスレコーダーやD-VHSビデオをi.LINKでつないでいるときは**
> 録画機器を選ぶ画面が表示されます。「AVマウス」を選んで決定し、さらに「確定」を選んで決定してください。

3 「了解」を選んで、決定する。

見ていた番組表に戻り、予約した番組に が表示され、メディアレシーバー前面の予約録画ランプが点灯します。

4 番組表ボタンを押す。

番組表が消えます。

「MYチャンネル番組表」（☞26ページ）や「MYジャンル番組表」（☞27ページ）、「全ジャンル番組表」（☞27ページ）のときは、MYプラスボタンで消してください。

これで予約完了です！

ご注意

- メディアレシーバーの電源スイッチで、主電源を切らないでください。主電源が切れたままだと、予約した時刻になっても電源は入らず、録画が始まりません。予約した番組の開始時刻前には、必ず、主電源を入れておいてください。
- 次のときは録画が解除されます。
  - 他の予約と重なっているとき（☞30、37、38ページ）
  - 「予約一覧」画面で実行中の予約を取り消したとき（☞38ページ）
  - i.LINKダビング中（☞89ページ）に、予約した番組が始まるとき

☞34ページの手順3-1で¥録画する と表示されるときは

PPV番組の視聴料金とは別に、録画のための料金がかかります（☞47～49ページ）。

「予約が重複しています　重なっている予約は、実行されない場合があります　この番組を予約しますか？」と表示されたときは

「予約する」を選んで決定すれば、予約できます。正しく録画されるかは、「予約一覧」画面で予約内容を確認してください（☞38～41ページ）。

視聴年齢制限付き番組を選んだときは

暗証番号入力画面が表示されます。1～10までのBS用数字ボタンで4桁の暗証番号を入力してください。

映像/音声信号などが複数ある番組のときは

信号を選ぶ画面が表示されます。録画したい信号を1つ選べます（選べない信号は録画できません）。「次へ」を選ぶと、5種類目以降の信号が表示されます。

4 予約した録画が実行される。

どのように録画されるかを説明します。操作は不要です。

開始時刻になると

本機と連動してビデオの電源が入り、約10秒前から録画が始まります。

また、本機は開始時刻の約1分前に予約したチャンネルに固定され、他のBS･110度CSのチャンネルに切り換わらなくなります。

ご注意

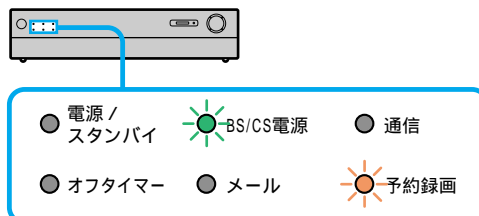
ビデオのAPC（アダプティブ・ピクチャー・コントロール）機能などが働くと、録画の冒頭が途切れることがあります。

ちょっと一言

録画開始時に本機が電源スタンバイのときは、そのままテレビの画面が出ることなく、BS･110度CSチューナー部のみ電源が入り、録画が行われます。

録画実行中は

テレビ（地上波）や本機につないだ機器の映像を見ることができます。また、メディアレシーバー前面の予約録画ランプとBS/CS電源ランプが点灯します。

ご注意

- BS･110度CSの操作（例：BS･110度CSチャンネル切換、BS･110度CSデータの操作、信号切換、番組表の表示など）はできません。
- i.LINK対応機器からの再生はできません。
- リモコンの電源ボタンで電源スタンバイにしても、録画はそのまま実行されます。

終了時刻になると

録画停止し、ビデオの電源が自動的に切れます。

AVマウスが使えないときは

上記の手順を行ったあと、ビデオ側の予約機能を使って、本機をつないだビデオ側の入力を、録画したい番組の放送時刻に録画できるように予約してください。

なお、予約した番組の放送開始時刻の変更には対応できません。

例：　前の番組が延長されて、予約した番組の開始時刻がくり下がったときは、途中までしか録画されません。PPV番組は、途中までの録画でも料金がかかりますのでご注意ください。

BS･110度CSの番組を予約する

次のページにつづく

ビデオにAVマウスでアナログ予約録画する（つづき）

予約録画する二重音声番組の音声をあらかじめ選ぶ

録画中に音声切換ボタンでスピーカーからの音声を変えても、メディアレシーバー後面のBS/CS/ビデオ出力端子から出力する音声はあらかじめ選んだ音声に固定されます。また、1度設定すると、すべての二重音声番組が選んだ音声で録画されます。
お買い上げ時は、主音声のみが記録されるように設定されています。

1 **BS または CS ボタンを押す。**

2 **メニューボタンを押して、メニューを出す。**

3 **△/▽で「（メニュー切換）」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

4 **△/▽で「（予約設定）」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

5 **△/▽で「二重音声設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

6 **△/▽/◁/▷で「主」、「副」または「主/副」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**
設定を変更しないかぎり、すべての二重音声番組が選んだ音声で録画されます。

7 **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

放送開始時刻の変更に対応して予約録画する

スポーツ番組の延長などで、予約した番組の開始時刻がくり下がったときに、その時刻に合わせて録画されるように設定できます。
放送局が送信する放映時刻情報を本機が検知して、3時間以内の遅れであれば対応できます。
お買い上げ時は、開始時刻が変更されると予約も取り消されるように設定されています。

1 **BS または CS ボタンを押す。**

2 **メニューボタンを押して、メニューを出す。**

3 **△/▽で「（メニュー切換）」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

4 **△/▽で「（予約設定）」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

5 **△/▽で「予約方法の設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

6 **△/▽で「開始時刻に合わせて予約も変更する」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

「開始時刻が変わったら予約を取り消す」（お買い上げ時の設定）を選ぶと
開始時刻が変更された場合は、予約自体が取り消されます。

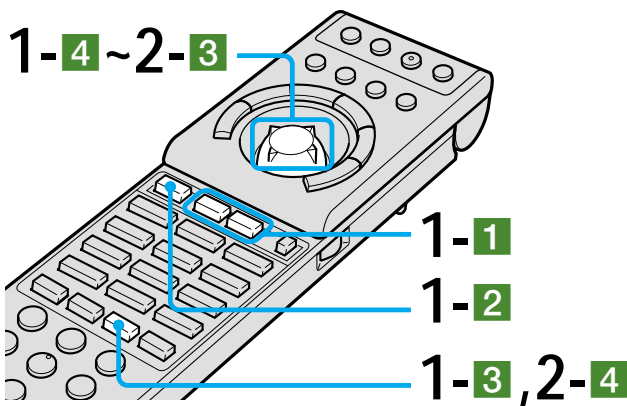
7 **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

予約した番組の終了時刻がくり下がったときは
予約していたスポーツ番組の放送が延長されたなど、終了時刻がくり下がったときは、どちらの設定でも、自動的に放送終了まで録画されます。

ご注意

- 以下のときは、放送時刻の変更に対応しません。
  - 放送局が放映時刻情報を送信しない番組のとき
  - AVマウスやi.LINK接続を使わないで、ビデオの予約機能を使って録画するとき（☞35ページ）
- 「開始時刻に合わせて予約も変更する」を選び、開始時刻が変更されて、次の予約番組と時間が重複したときは、前の番組が自動的に番組終了まで録画されます。後の番組は前の番組の終了約10秒*後から録画されます。ただし後の番組がPPV番組のときは、予約自体が自動的に取り消されます（☞41ページ）。
  * 録画する機器を切り換えるときは、10秒以上かかることがあります。また、録画する機器をソニー製ハードディスクビデオレコーダーClip-Onに切り換えるときは、約2分かかります。

見たいBSや110度CSの番組を逃さず見る［視聴予約］

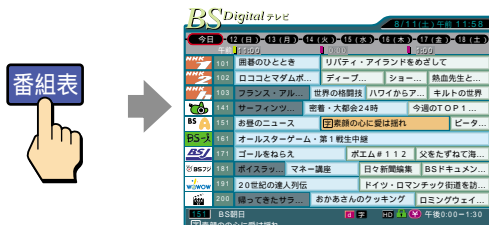
本機の電源が入った状態で開始時刻になると、予約したBS･110度CSデジタル放送のチャンネルに自動的に切り換わります。
他の予約（☞30～36ページ）と合わせて、最大15件まで予約できます。

1 視聴したい番組を選ぶ。

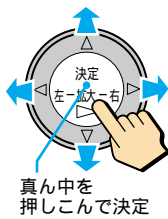
1 BSまたはCSボタンを押して、視聴したい番組の衛星に切り換える。

または

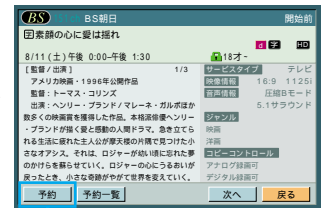
2 ラジオ/データボタンをくり返し押して、視聴したい番組の放送サービスに切り換える。

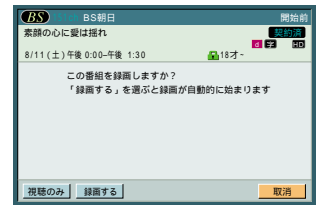
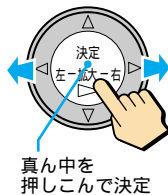
3 番組表ボタンを押す。

選んだ放送サービスの番組表が表示されます。

4 視聴したい番組を選んで、決定する。

視聴したい番組の「番組説明」画面が表示されます。

「予約」が表示される。

ちょっと一言

「番組説明」画面は、MYプラスボタンによる「 MYチャンネル番組表」（☞26ページ）や「 MYジャンル番組表」（☞27ページ）、「 全ジャンル番組表」（☞27ページ）からも表示できます。

2 予約する。

1 「予約」を選んで、決定する。

2 「視聴のみ」を選んで、決定する。

3 「了解」を選んで、決定する。

見ていた番組表に戻り、予約した番組に が表示されます。

4 番組表ボタンを押す。

番組表が消えます。

「 MYチャンネル番組表」（☞26ページ）や「 MYジャンル番組表」（☞27ページ）、「 全ジャンル番組表」（☞27ページ）のときは、MYプラスボタンで消してください。

これで予約完了です！

「予約が重複しています　重なっている予約は、実行されない場合があります　この番組を予約しますか？」と表示されたときは

「予約する」を選んで決定すれば、予約できます。正しく録画されるかは、「予約一覧」画面で予約内容を確認してください（☞38〜41ページ）。

PPV番組を選んだときは

視聴するには別途料金がかかります。視聴するときに、購入手続きを行ってください（☞47〜49ページ）。

視聴年齢制限付き番組を選んだときは

暗証番号入力画面が表示されます。1〜10までのBS用数字ボタンで4桁の暗証番号を入力してください。

3 予約が実行される。

予約した時刻になると

本機の電源が入っていれば、予約したBS・110度CSデジタルのチャンネルに切り換わります。

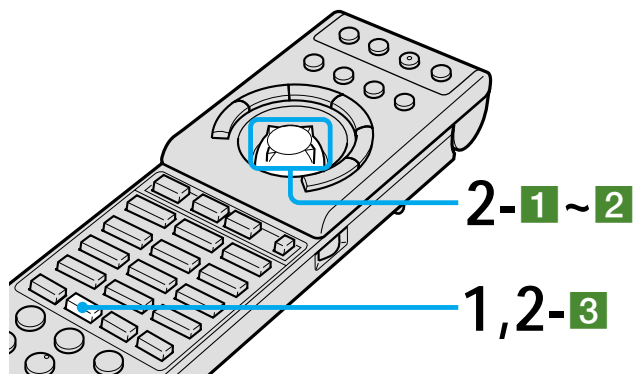
ご注意

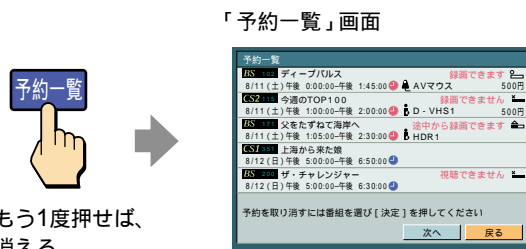
- 予約開始時刻に本機の電源は自動的に入りません。予約開始時刻までに本機の電源を入れた状態にしてください。電源スタンバイ（リモコンで電源を切ったとき：電源/スタンバイランプが赤く点灯）や電源「切」（メディアレシーバーで主電源を切ったとき）のままだと、電源が入らないため、見逃してしまいます。
- i.LINKダビング中に予約した番組が始まるときは、予約は解除されます。

ちょっと一言

映像/音声/データなど信号が複数ある番組のときは、視聴中に信号を切り換えてください。

予約が正しく実行されるか確認する［予約一覧ボタン］

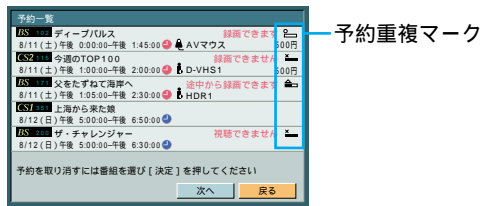
予約が重なっていたり、連続していたりすると、予約が正しく実行されないことがあります。
「予約一覧」画面で確認し、予約の変更や取り消しを行ってください。

1 予約一覧ボタンを押す。

「予約一覧」画面が表示される。

もう1度押せば、消える

「予約一覧」画面

ちょっと一言

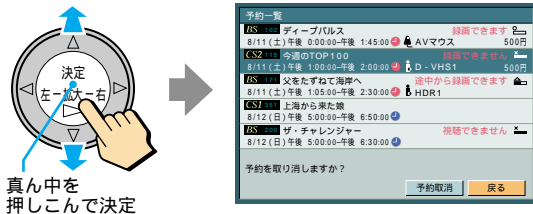
番組表（EPG）やMYプラス（☞22〜29ページ）の「番組説明」画面にある「予約一覧」でも、表示できます。

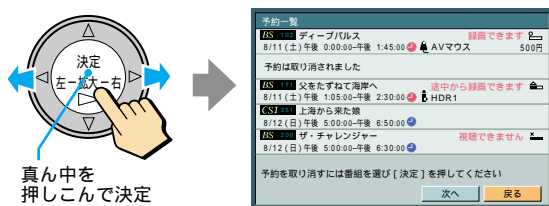
2 予約が正しく実行されるか確認する。

予約重複マークが1つも表示されていないときは

すべての予約が正しく実行されます。
予約一覧ボタンをもう1度押して、「予約一覧」画面を消してください。これ以降の手順は不要です。

予約重複マークが表示されているときは

予約時間が重複しているため、正しく実行されない予約があります。
「重複している予約はどうなるの？」（☞41ページ）で確認して予約を取り消してください。

1 取り消したい番組を選んで、決定する。

2 「予約取消」を選んで、決定する。

予約が取り消されました。

3 予約一覧ボタンを押す。

「予約一覧」画面が消えます。

予約が正しく実行されるか確認する［予約一覧ボタン］（つづき）

「予約一覧」画面について

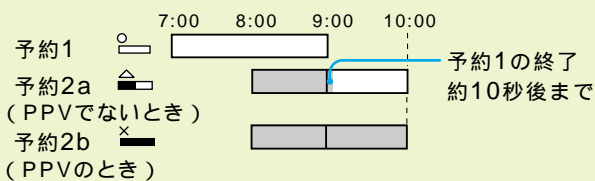
ちょっと一言

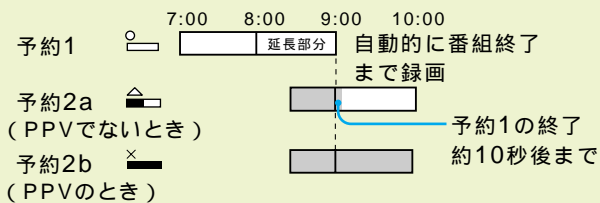
- 「予約一覧」画面では、予約した番組の放送時刻が秒単位まで表示され、秒単位で時刻が重なっていても重複している予約となります。
- BS•110度CS放送局側で放送時刻の変更や中止をすると、予約状況も変更され、予約が実行されるごとに「予約一覧」画面が更新されます。

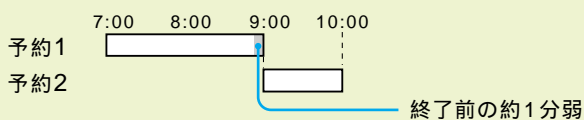
重複している予約はどうなるの？

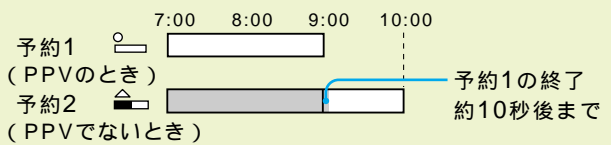
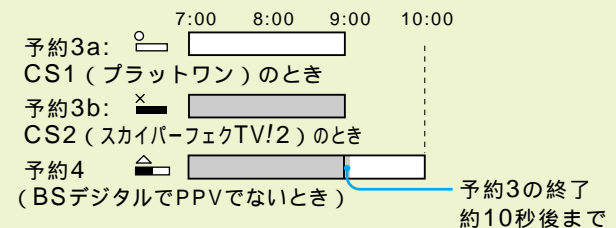
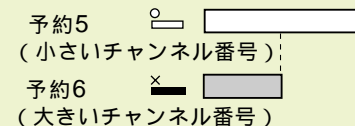
- 下の図で、　　　の部分は実行されません（予約録画のときは録画されません）。
- ペイ・パー・ビュー（PPV）（☞47～49ページ）は、番組の途中からは録画されず、予約自体が自動的に取り消されます。

放送時刻が重なっているときは？

先に始まる番組（予約1）が優先されます（）。
あとから始まる番組（予約2a）は、予約1の終了約10秒*1後から録画されます（）。ただし、ペイ・パー・ビュー（予約2b）は、予約自体が自動的に取り消されます（）。

前の番組が延長されて、他の予約に重複したときは？

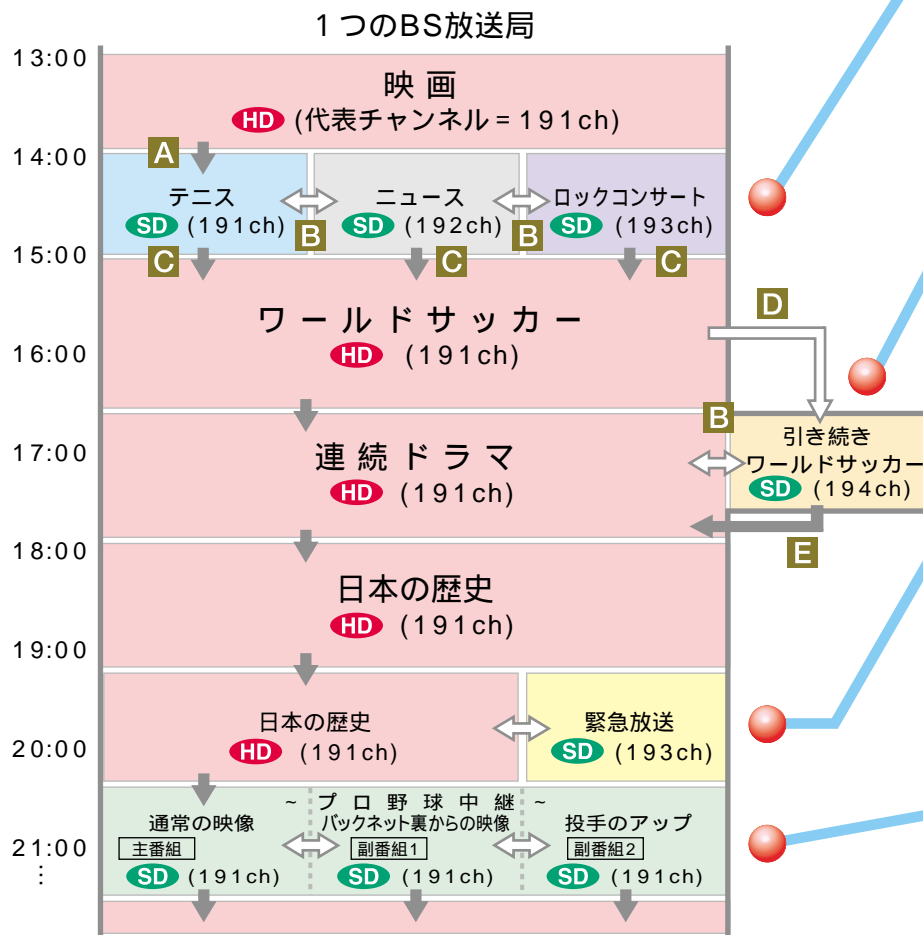
延長された番組（予約1）が自動的に番組終了まで録画（視聴）されます（）。
延長により重複した番組（予約2a）は、予約1の終了約10秒*1後から録画されます（）。ただし、ペイ・パー・ビュー（予約2b）は、予約自体が自動的に取り消されます（）。

前の予約の終了時刻と、後の予約の開始時刻が同じとき（予約が連続しているとき）は？

予約録画が重複していないため、予約重複マークは表示されません。
ただし、先に始まる番組（予約1）が予約録画のときは、終了前の約1分弱*2は録画されません。あとから始まる番組（予約2）にチャンネルが切り換わるためです。

開始時刻が同じときは？

その1：ペイ・パー・ビュー（予約1）が優先されます（）。
重なった予約の放送時間が長いとき（予約2）は、予約1の終了約10秒*1後から録画されます（）。

その2：BSデジタル放送より110度CSデジタル放送が優先されます（予約3a）（）。また、CS2（スカイパーフェクTV！2）よりCS1（プラットワン）が優先されます。
重なった予約の一方が110度CSデジタル放送、もう一方がBSデジタル放送で、両方ともペイ・パー・ビュー、あるいは両方ともペイ・パー・ビューでないときです。重なったBSデジタル放送の放送時間が長いとき（予約4）は、予約3の終了約10秒*1後から録画されます（）。

その3：小さいチャンネル番号が優先されます（予約5）（）。
重なった予約の両方が110度CSデジタル放送（または両方がBSデジタル放送のとき）で、両方ともペイ・パー・ビュー、あるいは両方ともペイ・パー・ビューでないときです。

*1 録画する機器を切り換えたときは、10秒以上かかることがあります。
*2 ソニー製ハードディスクビデオレコーダーClip-Onで予約2の番組を録画するときは、予約1の番組の終了前約2分弱は録画されません。

1つのBS放送局での マルチ放送について

BSデジタルでは、1つのBS放送局が、デジタルハイビジョン信号HDの1チャンネル放送と、標準テレビ信号SDの複数チャンネル（2〜5チャンネル）放送を、下の図のように時間帯によって切り換えるマルチ放送があります。

HD デジタルハイビジョン信号
SD 標準テレビ信号
➡ 自動的に切り換わる
⇨ 手動で切り換える

A マルチチャンネル放送開始
…代表チャンネルへ自動的に移行します。

B マルチチャンネル放送/臨時放送中の選局
…10キー ボタンと 1 〜 10 までのBS用数字ボタンで3桁のチャンネル番号を入力して切り換えます。

C マルチチャンネル放送終了
…14：00から192chや193chを見ていたときは、代表チャンネルの191chに切り換わらないまま、見ていたチャンネル（192chや193ch）のまま引き続き、そのあとの番組（ワールドサッカーや連続ドラマ）をご覧いただけることもあります。

D 臨時放送開始
…中継延長になりHDからSDに変わり、引き続き放送します。ご覧になるときは、10キー ボタンと 1 〜 10 までのBS用数字ボタンで3桁の新しいチャンネル番号（上の例では194ch）を入力して切り換えます。

E 臨時放送終了
…代表チャンネルへ自動的に移行します。

上記の番組はフィクションであり、実際の放送局での放送内容とは関係ありません。

マルチ放送には次のような種類があります

複数のチャンネルで違う番組を同時に放送［マルチチャンネル放送］A～C

左の例のように、同じBS放送局の別々のチャンネルで、それぞれ違う番組（テニス、ニュース、ロックコンサート）を同時間帯に放送します。

延長した番組を最後まで放送［臨時放送］

左の例のように、サッカー中継が予定放送時間内に終わらないときに、同じBS放送局の別チャンネルで引き続き試合終了まで放送し、元のチャンネルでは予定どおり、後番組の連続ドラマを放送します。

地震などの災害時に特別番組を放送［緊急放送］

災害や大事件が起きたときなどは、下の画面のように、別チャンネルで緊急放送を行っていることの案内が表示されます。

放送局から緊急放送のお知らせが表示され、緊急放送を行っているチャンネル番号が、約30秒間表示される。

さまざまな角度から番組を放送［マルチビュー放送］

左の例のように、プロ野球中継で、同じBSチャンネルのまま、最大3方向（通常の映像、バックネット裏からの映像、投手のアップ）の画面を、映像切換ボタンで切り換えて見ることができます（☞44ページ）。

雨天など受信状態が悪いときの放送［降雨対応放送］

お買い上げ時は、「降雨対応放送に切り換わりました」と表示され、画質や音質が通常放送に比べ低下した状態で引き続き受信するように設定されています。

マルチチャンネル放送を行っているか確認するには

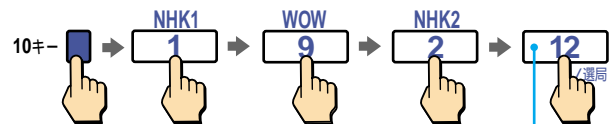
行っているときは、画面表示ボタンを押すと、下の図のようにマルチチャンネル放送のチャンネルが表示されます。

ご注意

チャンネル＋/－ボタンや番組表で選べるように設定したチャンネル（☞134ページ）は表示されません。

マルチ放送のチャンネルに切り換えるには

3桁のチャンネル番号で直接選ぶ。

例：192chで行われているマルチチャンネルを見る

ご注意

チャンネル＋/－ボタンでは、マルチチャンネル放送や緊急放送のチャンネルは選べません。

降雨対応放送についてのちょっと一言

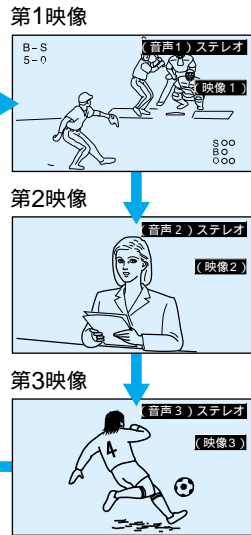
- 降雨時「受信できません　大雨・大雪やアンテナの調整ズレなどの場合もあります」と表示されて、映像や音声が出なくなる場合は、受信中の放送が降雨対応でないためか、降雨対応放送で対応できない気象状況となっているためです。
- お買い上げ時は、天候回復後、自動的に通常の放送に戻るように設定されています。
- 「(メニュー切換)」メニューで「(初期設定)」を選び、「衛星設定」で「降雨対応放送受信」を「切」にすると、降雨対応放送に切り換わりません。

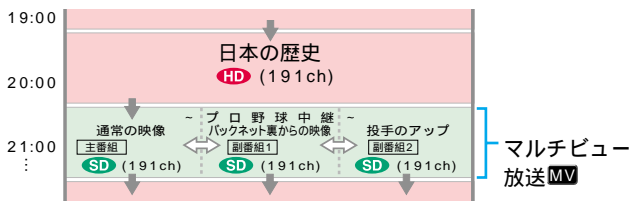
BSデジタルのマルチビュー放送や第2映像などを見る

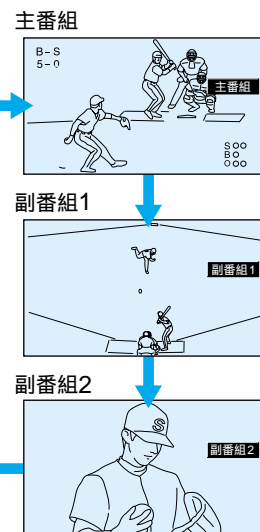
[映像切換ボタン]

第2映像など映像信号が複数ある番組のとき

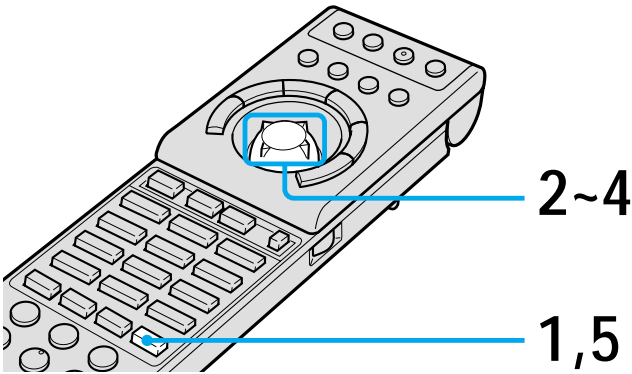
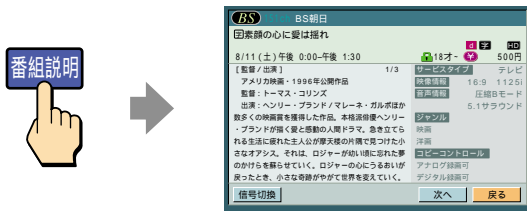
映像信号の数（最大で第4映像まで）は番組ごとに異なります（☞45ページ）。

押すたびに、切り換わる。

マルチビュー放送のとき

マルチビュー放送は、プロ野球中継の番組などで、最大3つの映像（下の図参照）を同じチャンネルで切り換えて楽しめます。また、放送が始まると、BS放送局から「マルチビュー放送中」などの案内が出ます。

マルチビュー放送を行ってるときは

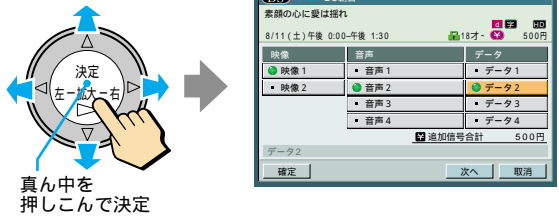
- 画面表示ボタンを押すと、「主番組」「副番組1」「副番組2」の1つが表示される。
- 番組表（☞22ページ）でMVと表示される。

第2映像や第2音声、第2データなどを選ぶ［信号切換］

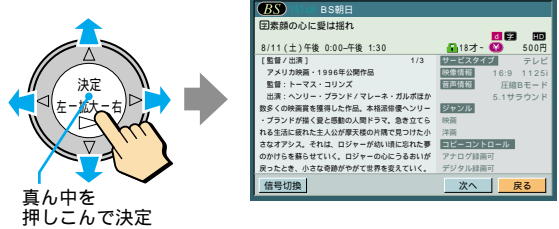
番組によっては、第2映像や第2音声、第2データなど複数の映像/音声/データ信号の中から視聴したい信号を選べます。

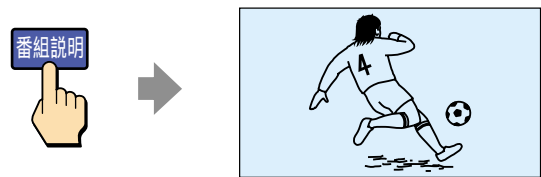
ご注意
- 切り換えられる信号がないときは切り換わりません。
- 予約の録画実行中は切り換わりません。

1 番組説明ボタンを押す。

2 「信号切換」を選んで、決定する。

3 切り換えたい信号を選んで、決定する。

選んだ信号（第2映像や第2音声、第2データなど）に切り換わります。

ちょっと一言
- 最大で表示される信号は、映像が4種類、音声が8種類、データが16種類です。5種類目以降の信号は「次へ」を選ぶと表示されます。
- 信号を切り換えることにより、購入（¥マークが表示されます）が必要になることがあります（☞47ページ）。

4 「確定」を選んで、決定する。

「番組説明」画面に戻ります。

5 番組説明ボタンを押す。

放送中の番組に戻ります。

ご注意
- チャンネルを切り換えたとき（例：第2音声に設定中）は、お買い上げ時の設定（第1音声）に切り換わります。
- 切り換えた信号（例：第2音声に設定したとき）の番組が終了し、次の番組にも同じ信号（この例では第2音声）があるときは、引き続きその信号を受信します。
  次の番組では第2音声が購入対象（¥マークが表示される）になる場合があります。このときは、上記の手順に沿って、他の購入対象でない信号（例えば第1音声）を選んでください（第2音声を購入して引き続き視聴することもできます）。
  ただし、次の番組に切り換えた信号がないときには、お買い上げ時の設定（第1音声）に切り換わります。

字幕放送を見る

字幕放送は最大2言語の放送が行われます。
お買い上げ時は、字幕放送が行われるときには「第1言語」の字幕が自動的に表示されるように設定されています。
字幕を消したり、字幕の言語を切り換えたりできます。

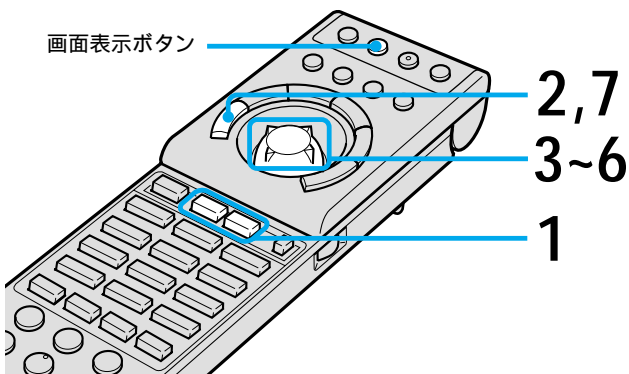
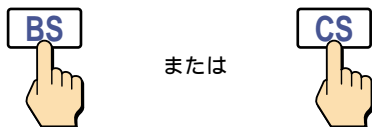
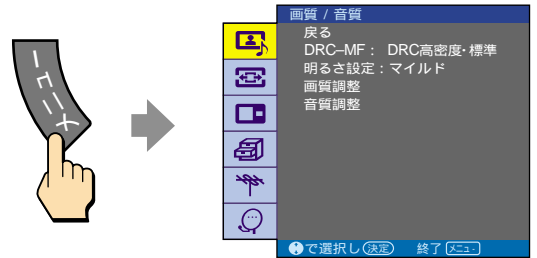
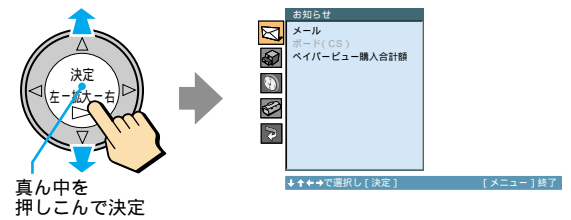
字幕放送を行っているか確認するには

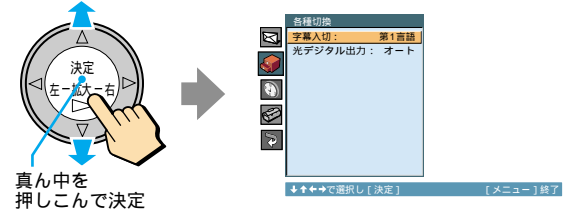
字幕放送を行っているときは、画面表示ボタンを押すと画面右上に「字幕有」と表示されます。

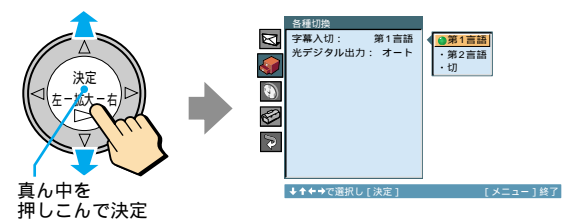
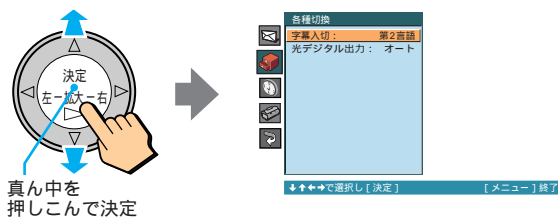
ご注意

- メディアレシーバーのBS/CS/ビデオ出力端子からは、字幕放送の字幕は出力されないため、ビデオへは録画できません。
- メニューで「切」を選んでも、放送局側で字幕を消せない設定にしている番組もあります。

1 BSまたはCSボタンを押す。

または

2 メニューボタンを押す。

3 「(メニュー切換)」を選んで、決定する。

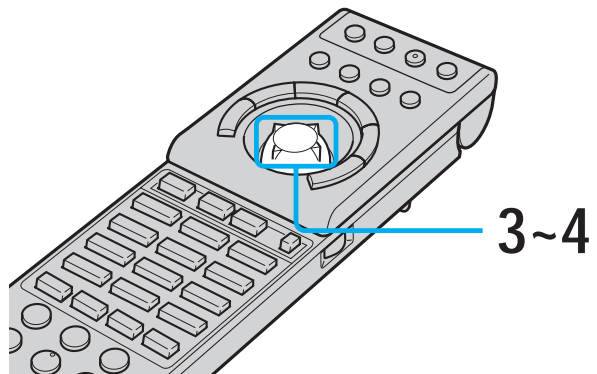
4 「(各種切換)」を選んで、決定する。

5 「字幕入切」が選ばれていることを確認して、決定する。

選ばれていないときは、「字幕入切」を選んで、決定する。

6 **「第1言語」または「第2言語」、「切」を選んで、決定する。**

7 **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

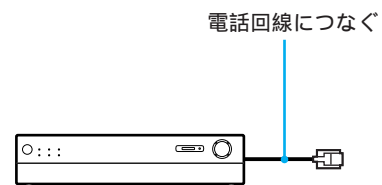
「第1言語」に戻すときは

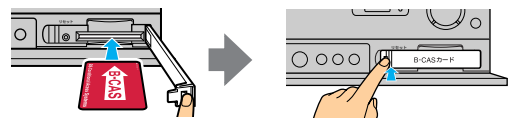
手順6で「第1言語」を選ぶ。

ペイ・パー・ビュー（PPV）を見る

ペイ・パー・ビュー（PPV：PAY PER VIEW）とは、「見るたびに支払う」の意味で、番組単位で随時、視聴購入します。ペイ・パー・ビュー（PPV）には、購入前に内容を確認（プレビュー：事前視聴）できる番組もあります。

1 **準備する。**

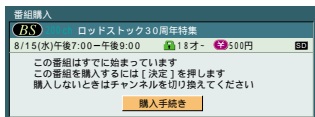
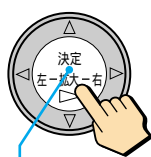
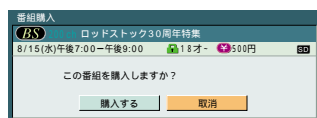
1 **電話回線につなぐ（☞106ページ）。**

（☞106ページ）

2 **B-CASカードを入れる。**

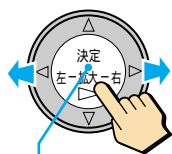
B-CASカードを正しく入れて、B-CASカード挿入口のふたを閉める（☞120ページ）。

加入申し込みが別途必要になる放送局もあります。

次のページにつづく

ペイ・パー・ビュー（PPV）を見る（つづき）

2 PPV番組を選ぶ。

3 「購入手続き」が選ばれていることを確認して、決定する。

4 購入手続きを行う。

購入するときは

「購入する」を選んで、決定する。
購入したPPV番組が映ります。

購入をやめるときは

「取消」を選んで、決定する。

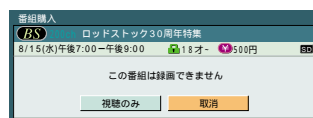
ご注意

購入操作の途中に他のチャンネルを選ぶと、購入は中止されます。この場合は、手順2から操作し直してください。

プレビューについて

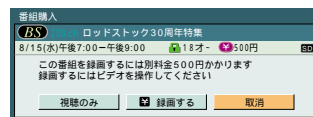
- PPV番組により見られる回数、時間が異なります。プレビューが終了しても、購入操作は引き続き行えます。
- プレビューを見たあと、購入をやめるときは、チャンネルを変えてください。

こんなメッセージが表示されたら

「この番組は録画できません」

購入するときは
◁/▷で「視聴のみ」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

購入をやめるときは
◁/▷で「取消」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

「この番組を録画するには別途料金がかかります」

録画有料番組となります。「録画する」の前に「¥」マークが付きます。

見るだけのときは
◁/▷で「視聴のみ」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

録画するときは
◁/▷で「録画する」を選び、真ん中を押しこんで決定する。
録画防止信号が解除され、メディアレシーバーのi.LINK端子につないだハードディスクレコーダーやD-VHSビデオ、BS/CS/ビデオ出力端子につないだビデオで録画できるようになります。

購入をやめるときは
◁/▷で「取消」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

「この番組はi.LINKでは録画できません」

本機で受信したデジタル信号に、デジタルコピープロテクトがかかっています。メディアレシーバーのi.LINK端子につないだハードディスクレコーダーやD-VHSビデオにデジタル録画できません。
BS/CS/ビデオ出力端子につないだビデオでデジタル信号をアナログ信号に変換し、テレビ（地上波）と同等の画質でアナログ録画できます。

「ICカードのデータがいっぱいになったので購入できません　電話線をつなぐと自動的にデータが送られて購入できるようになります」

購入額がカードの上限金額を越えています。
また、番組の購入可能件数を越えたときにも、この表示が出ます。
電話回線をつないでください。

「購入時間が過ぎているため購入できません」

番組によっては購入可能時間が決まっているため購入できない場合があります。

録画防止機能について

i.LINKでデジタル録画するときは

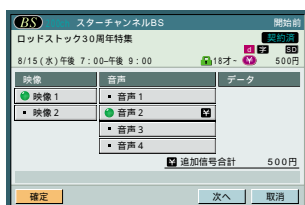
本機は、DTLAのコピープロテクション技術に対応しています。したがって、コピーを許可されていない番組は録画することはできません。
コピープロテクションについて詳しくは、☞32、154ページをご覧ください。

ビデオなどにアナログ録画するときは

本機は、録画防止機能（コピープロテクション）が付いています。そのため、番組によっては、正常な画像で録画できなかったり、録画したものを正常な画像で再生できなかったりするものがあります。
また、音声に関しても、メディアレシーバー後面の光デジタル音声出力端子からの信号を、正しく録音できない番組があります。ご注意ください。
本製品は、著作権保護技術を採用しており、マクロビジョン社及びその他の著作権利者が保有する米国特許及びその他の知的財産権によって保護されています。この著作権保護技術の使用は、マクロビジョン社の許可が必要で、また、マクロビジョン社の許可がない限り家庭用及びその他の一部の鑑賞用の使用に制限されています。分解したり、改造することも禁じられています。

追加信号について

番組によっては、最大4種類の映像、最大8種類の音声から切り換えられます。映像/音声を選ぶ画面で、追加したい信号を選んで番組を楽しめます。

なお、「¥」マークの付いた映像、音声などを選ぶと、選んだ分の追加料金が発生します。

ペイ・パー・ビュー（PPV）の購入概算額を見るには

先月分と今月分の購入概算額を確認できます。正確な購入合計額については、ご覧になっている各放送局のカスタマーセンターへお問い合わせください（☞128ページ）。

ご注意

「ペイ・パー・ビュー購入合計金額」にはペイ・パー・シリーズなどの購入金額は含まれません。

1 **BS または CS ボタンを押す。**

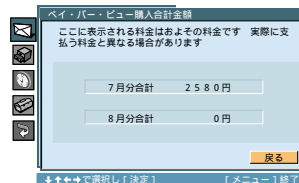
2 **メニューボタンを押して、メニューを出す。**

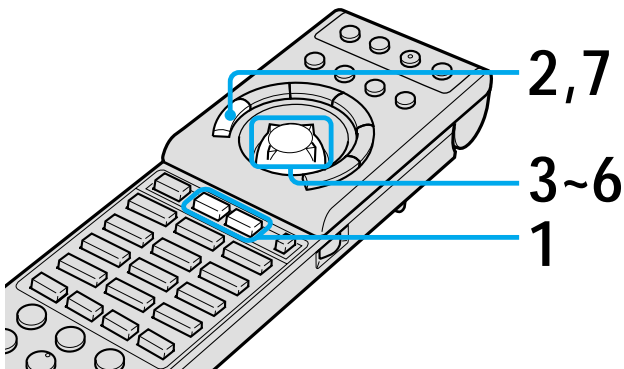
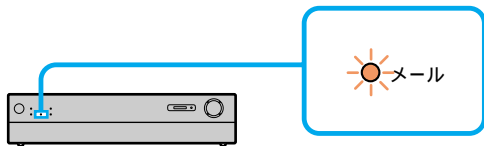
3 **△/▽で「(メニュー切換)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

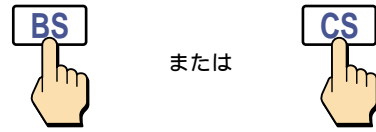
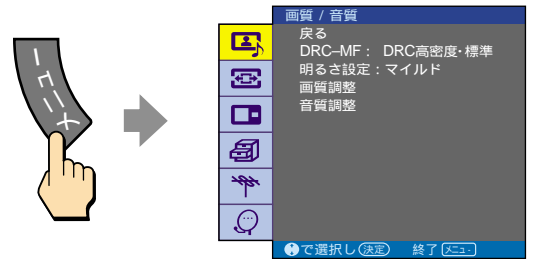
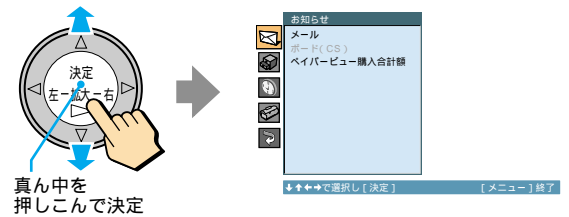
4 **「(お知らせ)」が選ばれていることを確認して、真ん中を押しこんで決定する。**
選ばれていないときは、△/▽で「(お知らせ)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

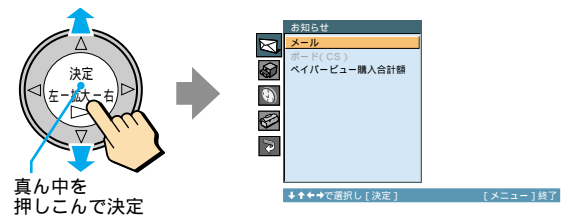
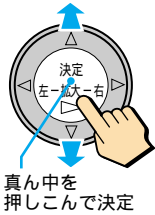
5 **△/▽で「ペイパービュー購入合計額」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**
購入したPPV番組の前月分と今月分の概算金額が表示されます。

6 **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

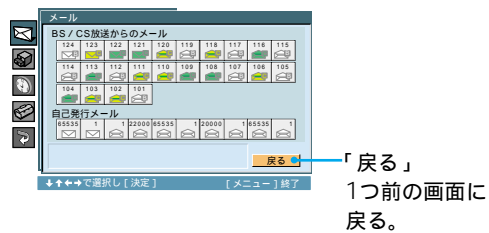
BS・110度CSのその他の機能

放送局からのお知らせを見る［メール・ボード］

お客様にあてた、放送局や本機からのお知らせ（メール）や、110度CSの利用者全員へ共通のお知らせ、番組案内など（ボード）を見ることができます。
新しいメールや未読のメールがあるときは、メディアレシーバー前面の「メール」ランプが点灯します。

1 BSまたはCSボタンを押して、お知らせを見たい衛星に切り換える。

または

2 メニューボタンを押す。

3 「（メニュー切換）」を選んで、決定する。

4 「（お知らせ）」が選ばれていることを確認し、決定する。

選ばれていないときは、「（お知らせ）」を選んで、決定する。

5 「メール」または「ボード（CS）」を選んで、決定する。

「メール」を選んだときは

「BS／CS放送からのメール」は24通まで、「自己発行メール」（本機からのメール）は10通まで一覧表示されます。

「戻る」
1つ前の画面に戻る。

メールマークの意味

- （既読）：すでに読んだメール
- （未読）：まだ読んでいないメール
- ：BSデジタルからのメール
- ：CS1（プラットワン）からのメール
- ：CS2（スカイパーフェクTV！2）からのメール

ご注意

- 既読の古いメールから順に削除され、新しいメールを追加します。既読メールがないときは、未読の古いメールから順に削除します。
- i.LINKダビング（☞89ページ）についてのメールは、次のダビングを実行すると、未読であっても削除されます。
- メールはお客様自身で削除できません。

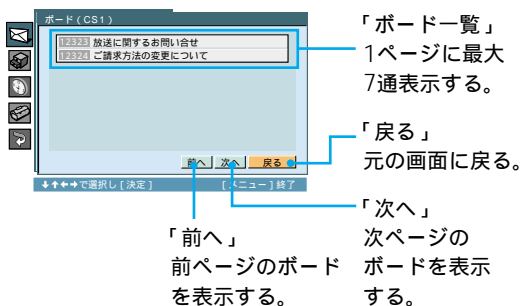
「ボード（CS）」を選んだときは

ボードを一覧表示します。

「ボード一覧」
1ページに最大7通表示する。

「戻る」
元の画面に戻る。

「次へ」
次ページのボードを表示する。

「前へ」
前ページのボードを表示する。

ご注意

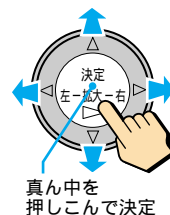
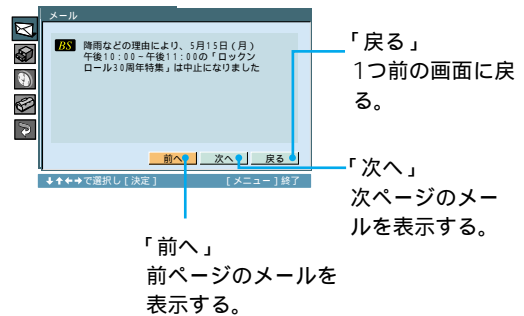
「ボード（CS）」は手順1で110度CSデジタルを選んだときのみ選べます。

6 見たいメールまたはボードを選んで、決定する。

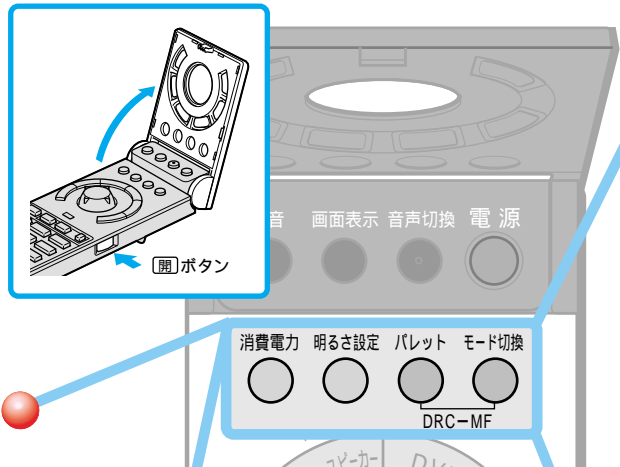
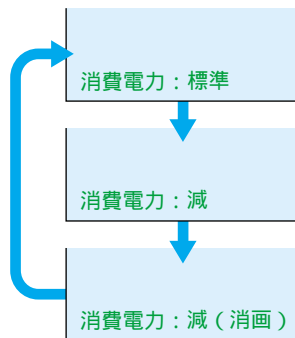
例：メールを選んだとき

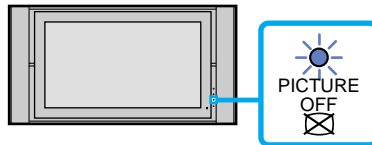
「戻る」
1つ前の画面に戻る。

「次へ」
次ページのメールを表示する。

「前へ」
前ページのメールを表示する。

7 読み終えたら、メニューボタンを押して、メニューを消す。

BS・110度CSのその他の機能

映像を調整する

節電しながら見る/音だけを楽しむ [消費電力ボタン]

消画にすると

ディスプレイのPICTURE OFF⊠ランプが点灯し、画面が黒くなり、やがて画面表示が消えます。

画面を表示させるには

電源、音量+/−、消音または音声切換以外のボタンを押す。

ちょっと一言

- 「消費電力：減」で電源を切ると、次に電源を入れても「消費電力：減」のままになります。
- 消画にしたままで電源を切ると、次に電源を入れたときは「消費電力：標準」に戻ります。
- 画質調整（☞54ページ）で「ピクチャー」や「明るさ」を上げると、「消費電力：減」でも節電にならなくなる場合があります。
- 「(各種切換)」メニューの「消費電力」で「減（消画）」を選んだあとに、⊲を押すと、メニュー画面が消えます。

「消費電力：減」のときにさらに節電するには

「消費電力：減」のときに、「(テレビ設定)」メニューの「初期設定」で、「消費電力減レベル」を「大」にしてください。

部屋の明るさに合った映像を選ぶ [明るさ設定ボタン]

地上波、BS･110度CSデジタル、入力切換用のボタンで選べる入力ごとに、別々に設定できます。
通常は「スタンダード」をおすすめします。

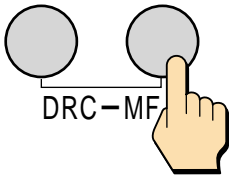
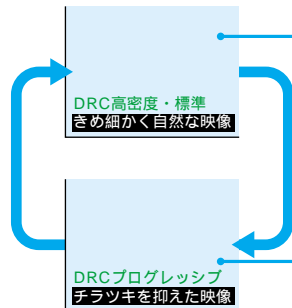
また、「マイルド」と「AVプロ」を選べば、より細かい調整もできます（☞54〜55ページ）。

明るさ設定

1回押すと現在の設定が表示され、そのあと、押すたびに切り換わる。

- **ダイナミック**：映像の輪郭とコントラストを最大限に上げたメリハリの非常に強い映像。
- **スタンダード**：明るめの部屋に合わせたコントラスト感のある映像。
- **マイルド**：DVDやデジタル処理された放送などで見られるザラザラしたノイズやギザギザした輪郭を軽減し、柔らかな見やすい映像。
- **AVプロ**：コントラストと輪郭強調を抑え、DRC（☞53ページ）の性能をより引き出した、オリジナルにできるかぎり忠実な映像。

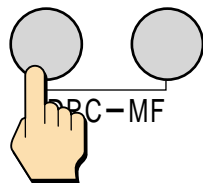
映像に合ったリアル高画質で見る［DRC-MFモード切換ボタン］

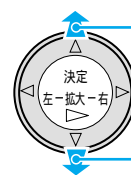
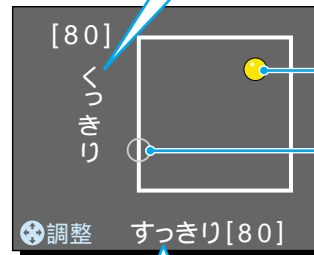
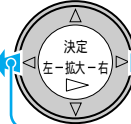
すべての信号（地上波、BS･110度CSデジタルの525i（480i）* 信号、入力切換用のボタンで選べる入力）に、共通の設定となります。
通常はお買い上げ時の設定「DRC高密度・標準」のままでご覧ください。

押すたびに、切り換わる。

DRC高密度・標準
地上波やビデオ、BS･110度CSデジタルの525i（480i）標準テレビ信号 SD など、一般的な映像のとき。

DRCプログレッシブ
静止画の文字や画像、細かい横線が多い映像で、部分的な映像のゆれやチラツキが気になるとき。

映像に合った好みの画質に調整する［DRC-MFパレットボタン］

明るさ設定ボタンで「AVプロ」を選ぶと、調整できます。
地上波、BS･110度CSデジタル、入力切換用のボタンで選べる入力ごとに、別々に設定できます。

くり返し押して、「AVプロ」を選ぶ。

もう1度押すと、DRC-MFパレットが消える。

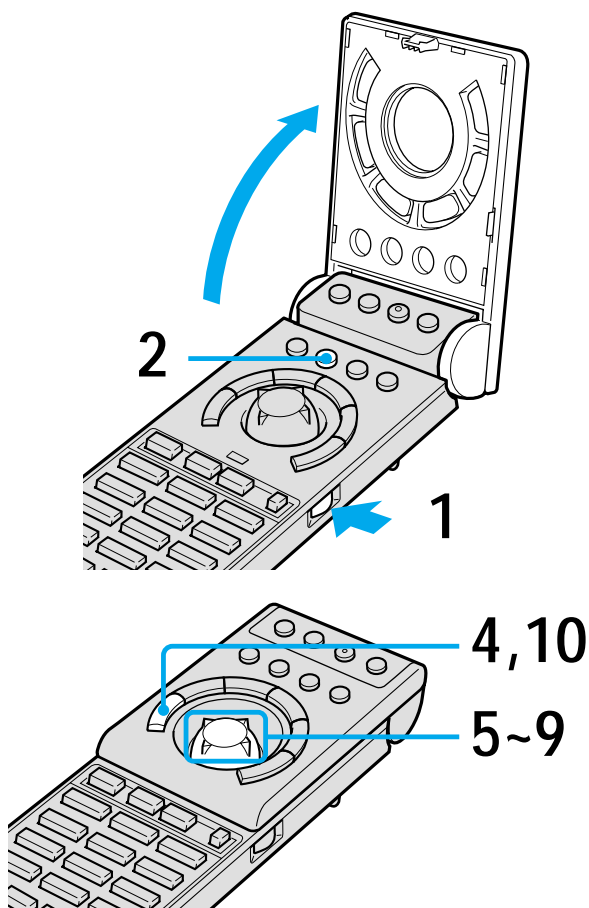
ちょっと一言
- お買い上げ時は、受信状態の良い地上波に適した位置に設定されています。
- 受信状態の悪い地上波やレンタルビデオなどノイズが多いときは、「すっきり」を上げてください。
- DVDなどノイズが少ないときは、「すっきり」が「1」のままで充分に高画質に楽しめます。

DRC-MFって何？
本機搭載の高画質回路（デジタル・リアリティー・クリエーション：マルチ・ファンクション）で、地上波やビデオ、BS･110度CSデジタルの525i（480i）*標準テレビ信号 SD をきめ細かくて質感のあるリアルな画質にします。
デジタルハイビジョン信号 HD など、525i（480i）以外の信号では働きません。

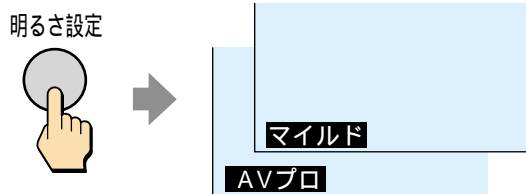
* 詳しくは、「BS･110度CSデジタルの画質について」（☞65ページ）をご覧ください。

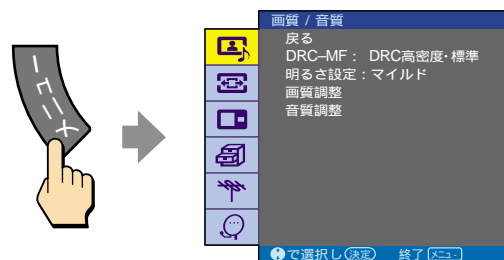
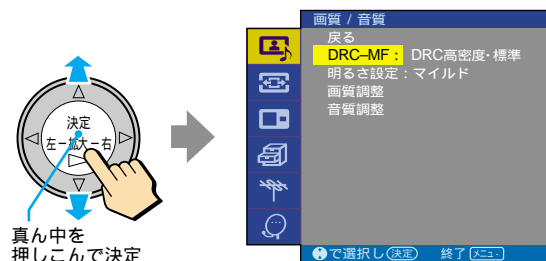
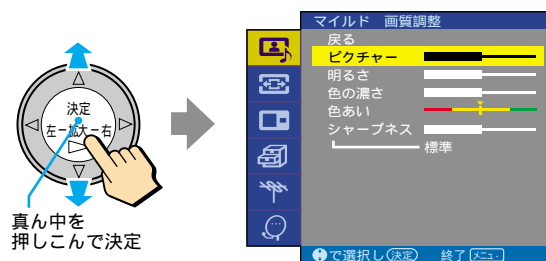
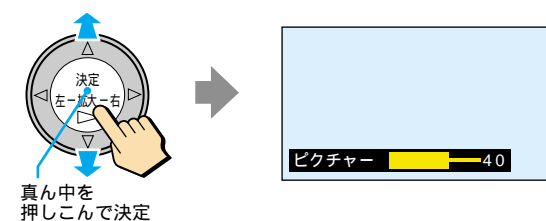
ご注意
以下のときは、DRC-MFモード切換やDRC-MFパレットの調整はできません。
- 525i（480i）* SD 以外の信号のとき
- 2画面
- メモ画面
- AVマルチ入力でCGゲームモード（☞9ページ）が「入」のとき
- “メモリースティック”の静止画像（☞95ページ）

次のページにつづく

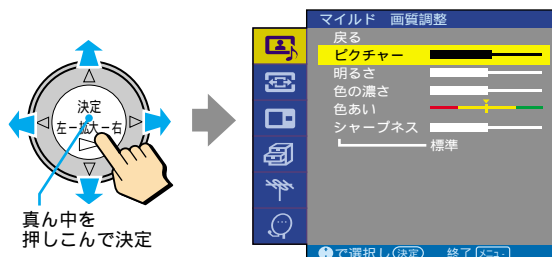
より細かく画質を調整する

地上波、BS・110度CSデジタル、入力切換用のボタンで選べる入力ごとに、別々に設定できます。

1 開ボタンを押して、ふたを開ける。

2 明るさ設定ボタンをくり返し押して、「マイルド」または「AVプロ」を選ぶ。

3 リモコンのふたを閉じる。

4 メニューボタンを押す。

5 「画質/音質アイコン」（画質/音質）を選んで、決定する。

6 「画質調整」を選んで、決定する。

7 調整したい項目を選んで、決定する。

8 調整して、決定する。

ちょっと一言

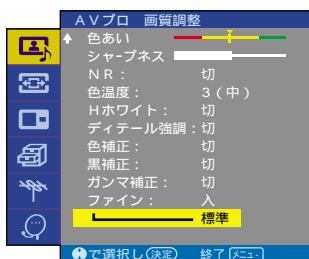
調整バーの横に表示される数値も調整の目安になります。

9 他の項目を調整するときは、手順7と8をくり返す。

10 メニューボタンを押して、メニューを消す。

「マイルド」と「AVプロ」両方で調整できる項目

項目	▽/◁を押すと	△/▷を押すと
ピクチャー	明暗の差が小さくなる	明暗の差が大きくなる
明るさ	暗くなる	明るくなる
色の濃さ	薄くなる	濃くなる
色あい	赤みがかる	緑がかる
シャープネス	映像の輪郭が柔らかくなる	映像の輪郭がくっきりする

「AVプロ」でのみ調整できる項目

▽を押し続けると、以下の項目が調整できます。

項目	説明
NR(ノイズリダクション)*1	**通常は「切」（お買い上げ時の設定）にしておいてください*2。** **「弱」、「中」、「強」**：映像のざらつきや色ノイズを軽減する（ゴーストなど電波障害は軽減されない）。 **「切」**（お買い上げ時の設定）：元の映像信号（処理していないオリジナル信号）の状態を確認するときなどに選ぶ。ただし、映像のざらつきや色ノイズが強調されたり、色にじみが出ることがある。
色温度	**「4（高）」**から**「1（低）」**にしていくと赤みがかった暖かみのある色調になる。
H(ハイパー)ホワイト	白の鮮明さを強調する。
ディテール強調	映像の微細な部分を強調する。
色補正	美しく健康的な肌色を再現する。
黒補正	黒を強調してコントラストを強くする。
ガンマ補正	映像の明暗部分のバランスを調整する。
ファイン*3	輪郭強調などの映像処理を軽減し、精細感の高い映像にする。

*1 “メモリースティック”の静止画像のとき「NR(ノイズリダクション)」は調整できません（☞95ページ）。

*2 オリジナル映像の種類によっては、「弱」または「中」、「強」のほうが、きれいに見えることがあります。ただし、予約したBS･110度CSデジタルの録画実行中（☞30～36ページ）は、設定を変えると、i.LINK端子やBS/CS/ビデオ出力端子からの出力信号にノイズが出ることがあるため、切り換えないでください。

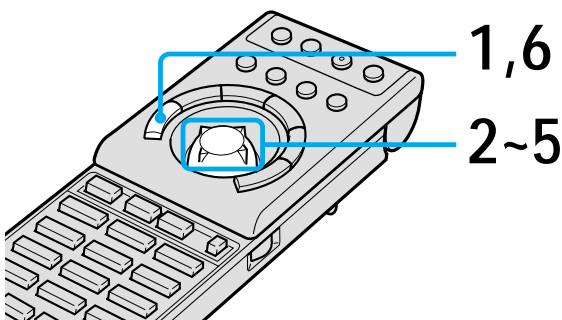
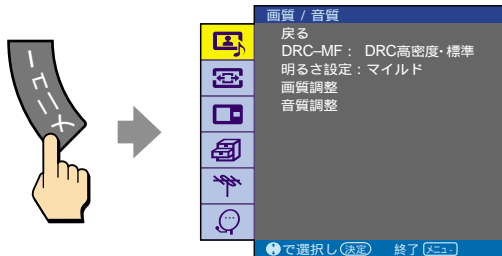
*3 以下のときのみ「ファイン」は調整できます。
- BS･110度CSテレビの信号
- AVマルチ入力端子、コンポーネント1および2（D4映像）入力端子、i.LINK端子につないだ機器からの信号
- “メモリースティック”の静止画像（☞95ページ）

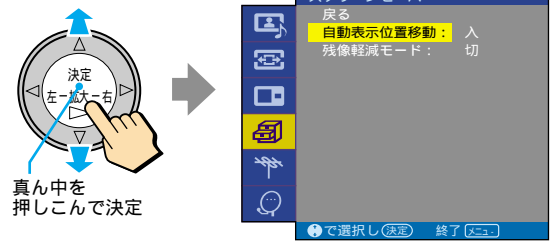
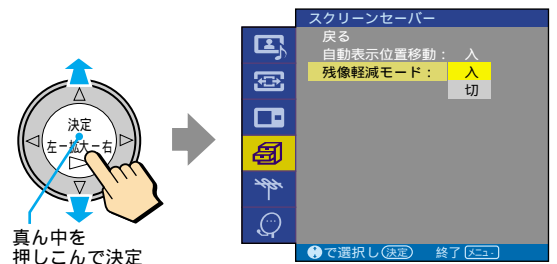
お買い上げ時の状態に戻すには

☞54ページの手順7で「標準」を選ぶ。

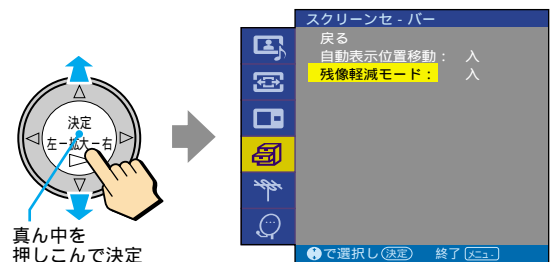
映像

画面の焼き付きや残像を軽減する ［スクリーンセーバー］

一定時間同じ画面を表示し続けると、画面の一部に焼き付き（残像）が発生することがあります。下記の操作を行って、画面の焼き付きの発生を軽減したり、1度焼き付いてしまった残像を軽減したりしてください。

1 メニューボタンを押して、メニューを出す。

2 「（各種切換）」を選んで、決定する。

3 「スクリーンセーバー」を選んで、決定する。

4 「自動表示位置移動」または「残像軽減モード」を選んで、決定する。

「自動表示位置移動」： 画面表示の位置を少しずつずらして焼き付きの発生を軽減する。

「残像軽減モード」：全画面を白く表示して、すでに焼き付きが発生している部分との差を小さくする。

5 「入」を選んで、決定する。

手順4で「残像軽減モード」を選んだときは画面が白くなり、約30分後に自動的に通常の画面に戻ります。

6 メニューボタンを押して、メニューを消す。

「残像軽減モード」をやめて通常の画面に戻すには

電源、音量＋/ー、消音または音声切換ボタン以外のボタンを押す。

さらに焼き付きを軽減したいときは

「残像軽減モード」をくり返し行ってください。ただし、焼き付きは完全には消えません。

ちょっと一言

- 「自動表示位置移動：入」のときに画面表示の移動が気になるときは☞56ページの手順4で「自動表示位置移動」を選び、手順5で「切」を選んでください。
  お買い上げ時は「自動表示位置移動：入」に設定されています。
- 「(各種切換)」メニューの「消費電力」で「減（消画)」を選んだあとに、◁を押すと、メニュー画面が消えます。

画面の焼き付きや残像についてのご注意

下記のような画像を画面上に一定時間表示し続けると、部分的に焼き付きや残像が発生することがあります。特に「ダイナミック」（☞52ページ）などの高輝度な映像では起こりやすくなります。これは、プラズマディスプレイの特性上起こるものであり、下記の「焼き付きや残像を軽減させるために」を行うことにより、焼き付きや残像を軽減できます。

焼き付きや残像が発生しやすい画像

- 上下に帯が表示されるワイド画像（レターボックス映像）
- 画面横縦比4:3の画像
- BS・110度CSや本機につないだ機器の画面表示（チャンネル番号やメニュー画面など）
- ゲーム機器の画像、DVDのメニュー画面
- 文字放送などの静止画像

焼き付きや残像を軽減させるために

Ⓐ 画面表示を消す。
画面表示ボタンを押して、画面表示を消してください。本機につないだ機器の画面表示を消すときは、つないだ機器側で画面表示を消してください。詳しくは、つないだ機器の取扱説明書をご覧ください。

Ⓑ 画面いっぱいに映像を映す。
画面モードを「ワイドズーム」や「フル」（☞58ページ）に切り換えて、映像を表示すると、画面の焼き付きや残像を軽減できます。

ワイド画面で楽しむ

自動でワイド画面を楽しむ［オートワイド］

デジタルハイビジョン放送HDは

オリジナルの画像を活かして、高画質のままワイド画面いっぱいの放送を楽しめます。

他の放送や映像は

☞60ページのように、本機が最適な画面モードを選び、横縦比16:9のワイド画面いっぱいに自動的に拡大します。

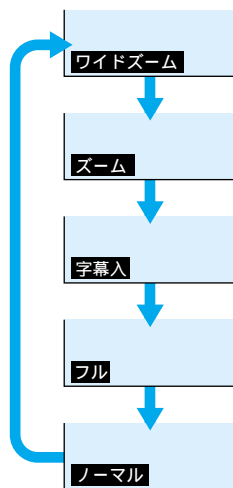
画面モードが自動的に切り換わるのは？

- 識別制御信号（☞61ページ）のある画像を受信して、信号に応じた画面モードに自動的に切り換わるためです。
- オートワイド「2」のときは、CMが入ったり番組が変わったりするときなどに、画面サイズが変わって不自然に見えたり、変わるまでに数秒間かかったりすることがあります。番組に最適なワイド画面を本機が判断しているためです。

手動でワイド画面を切り換える［ワイド切換ボタン］

好きな画面モードを手動でも選べます。
また、電波の受信状態が悪いときや暗い映像のときは、オートワイドが正しく働かないことがあります。このときも、手動で画面モードを切り換えてください。

ワイド切換

1回押すと、最適な画面モード（☞60ページ）ですばやく表示する*。
そのあと、押すたびに画面モードが変わる。

* オートワイド「2」で「4:3映像」を「ノーマル」に設定すると（☞61ページ）、4:3映像はワイド画面にならずに、横縦比4:3の映像のままになります。

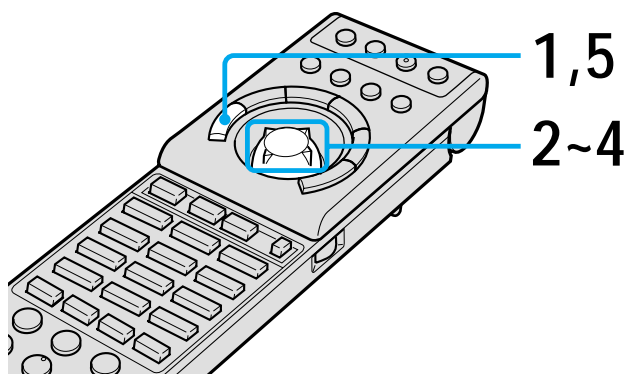
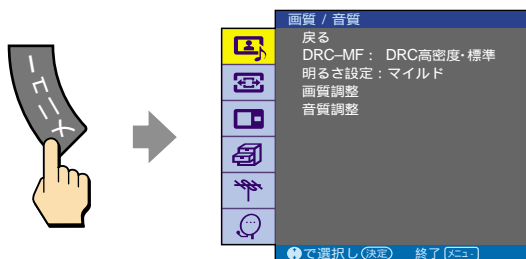
ちょっと一言

- 手動で画面モードを固定して楽しむときは、あらかじめ、オートワイドを切っておいてください（☞61ページ）。
- ワイド切換ボタンで切り換えたあとは、☞60ページの表のようにならないことがあります。
- オートワイドのときにワイド切換ボタンを1回押すと、オートワイド「1」、「2」の設定に従って、オートワイドが働き続けます。
  その後、くり返し押すと、次のようになります。
  – 識別制御信号のある映像を受信すると、信号に応じた画面モードに切り換わります。
  – 識別制御信号のない映像は、オートワイド「2」でも、オートワイドが働かなくなります。ただし、チャンネルや入力を変えたり電源を入/切したりすると、再び働きます。

ワイド画面の上下位置/縦サイズを調整する

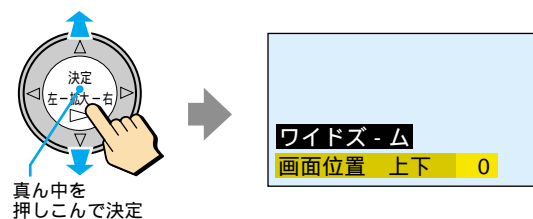
ワイド画像で次のようなときは、画面位置の上下や縦サイズを、画面モード（☞60ページ）ごとに調整できます。

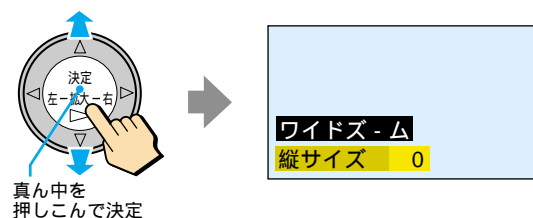
- 「ワイドズーム」や「ズーム」で画面を見やすい位置にしたいとき
- 「字幕入」で字幕が画面に入りきらないとき

「フル」と「ノーマル」の画面モードでは調整できません。

1 調整したい画面を映した状態で、メニューボタンを押す。

2 「(画面モード)」を選んで、決定する。

3 調整したい項目を選んで、決定する。

画面の上下位置を調整するときは

「画面位置 上下」を選んで、決定する。

サイズを調整するときは

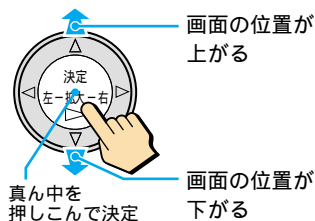
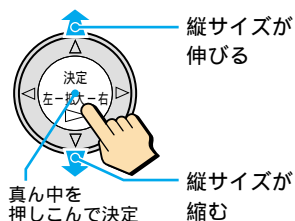
「縦サイズ」を選んで、決定する。

4 調整して、決定する。

画面の上下位置を調整するとき

縦サイズを調整するときは

5 メニューボタンを押して、メニューを消す。

映像

次のページにつづく

オートワイドの働きかた

オートワイドには、「1」と「2」があります（違いについては次ページ）。下の例は、オートワイド「2」で、「4:3映像」を「ワイドズーム」に設定しているときです。

オリジナルの映像（映像の種類）	画面モード	オートワイドの映像
地上波 通常のテレビ（地上波）放送（横縦比4:3） BS·110度CS 標準テレビ信号SDの4:3映像*1		オリジナルの映像を違和感少なく画面いっぱいに拡大します。
地上波 ワイドクリアビジョン放送（横縦比16:9） 地上波 ビスタビジョンなど映像中に字幕が入った横長の映画（横縦比1.85:1）*2 外部入力 横縦比を16:9にする識別制御信号が入ったビデオカメラやDVDソフトなどの映像（ID-1方式やS2方式） BS·110度CS 標準テレビ信号SDのレターボックス4:3映像（画面上下の黒帯を除いた映像部分は16:9）で、識別制御信号（☞61ページ）のあるとき		画面の左右に合わせていっぱいに拡大します。（映像の種類によって、上下に黒い帯が残ることがあります。）
地上波 シネマビジョンなど映像の外に字幕のある横長の映画（横縦比2.35:1）*2		画面の左右に合わせていっぱいに拡大しながら、字幕部分だけを圧縮して画面に入れます。
外部入力 横縦比を16:9にする識別制御信号が入ったビデオカメラやDVDソフトなどの映像（ID-1方式やS2方式）		天地はそのままで、左右を画面いっぱいに引き伸ばします。
BS·110度CS デジタルハイビジョン信号HD*3または標準テレビ信号SDの16:9映像		オリジナルの映像を16:9で画面いっぱいに表示します。
BS·110度CS デジタルハイビジョン信号HD*3または標準テレビ信号SDのサイドパネル16:9映像（画面左右の黒帯を除いた映像部分は4:3） 外部入力“ メモリースティック ”の静止画像		オリジナルの映像を拡大せずに、横縦比4:3のままの映像にします。
地上波 BS·110度CS 「（画面モード）」メニューの「オートワイド設定」で、「オートワイド」が「2」、「4:3映像」を「ノーマル」に設定したとき（☞58ページ）（デジタルハイビジョン信号HD*3を除くすべての映像） 外部入力 横縦比を4:3にする識別制御信号が入ったテレビ放送、ビデオカメラやDVDソフトなどの映像（ID-1方式やS2方式）*4		オリジナルの映像を拡大せずに、横縦比4:3のままの映像にします。

*1 オートワイド「2」のときは、これら「4:3映像」を「ワイドズーム」のかわりに「ノーマル」にも設定できます。また、オートワイド「1」のときは、通常のテレビ放送はワイド切換ボタンで選んだ画面モードに、標準テレビ信号SDは「ノーマル」になります。

*2 オートワイド「1」のときは、ワイド切換ボタンで選んだ画面モードになります。

*3 デジタルハイビジョン信号HDは「フル」に固定されて、手動で画面モードを切り換えられません。

*4 オートワイド「2」のときは、これら「4:3映像」を「ノーマル」のかわりに「ワイドズーム」にも設定できます。また、オートワイド「1」のときは、「ノーマル」になります。

ご注意

- BS·110度CSのときは、放送局から送られる信号によって、画面モードを切り換えられないことがあります。
- 番組表や「番組説明」画面を表示させたときに、画面モードが切り換わることがあります。

オートワイド「1」
テレビ（地上波）では、ワイドクリアビジョン放送や一部の放送（4:3映像）に、映像を判別するための識別制御信号が、映像信号に重なって送られています。また、ビデオカメラなど一部のビデオ機器でも同様の識別制御信号が出力されています。
識別制御信号が放送局から送られているときのみ、**最適な画面モードに自動的に切り換えます。**識別制御信号が送られていないときは、画面モードを手動で選べます。

オートワイド「2」
識別制御信号の有無に関係なく、ワイド画面いっぱいに映るよう、最適な画面モードに自動的に切り換えます。

識別制御信号とは
オリジナル映像の横縦比をテレビで忠実に再現するためのコントロール信号です。この信号を含んだ映像には、次のものがあります。
－BSデジタルの標準テレビ信号 SD
－ワイドクリアビジョン放送
－横縦比情報の入ったビデオカメラなどの記録映像（ID-1方式やS2方式）
－横縦比を4:3にする信号が入ったテレビ放送
－D4映像入力端子からの横縦比情報の入った映像

オートワイドを設定する/切る

1 メニューボタンを押して、メニューを出す。

2 △/▽で「(画面モード)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

3 「オートワイド設定」が選ばれていることを確認して、真ん中を押しこんで決定する。
選ばれていないときは、△/▽で「オートワイド設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

4 △/▽で「オートワイド」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

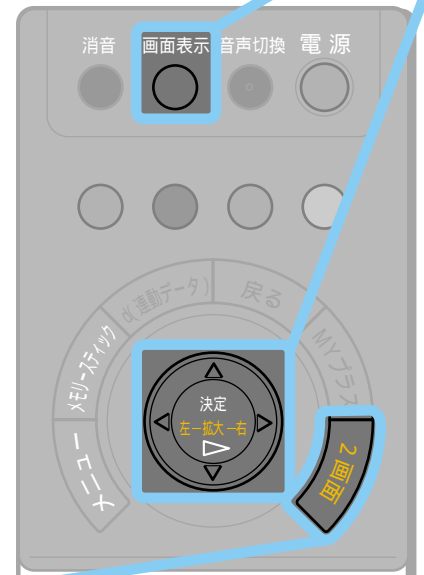
5 オートワイドを切るときは
△/▽で「切」を選び、真ん中を押しこんで決定する（手順8へ進んでください）。
オートワイドを「1」に設定するときは
△/▽で「1」を選び、真ん中を押しこんで決定する（手順8へ進んでください）。
オートワイドを「2」に設定するときは
△/▽で「2」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

6 オートワイド「2」のときは、△/▽で「4:3映像」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

7 △/▽で「ノーマル」か「ワイドズーム」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

8 メニューボタンを押して、メニューを消す。

ワイド画面についてのご注意
- 本機は、映画フィルムをより忠実でなめらかな動きのある映像に再現します。これは、映画フィルムの信号の規則性を自動的に識別し、最適な信号処理を行うためです。
- 本機は、各種の画面モード切り換え機能を備えています。テレビ番組などソフトの映像比率と異なるモードを選択されますと、オリジナルの映像とは見え方に差が出ます。この点にご留意の上、画面モードをお選びください。
- 本機を営利目的、または公衆に視聴させることを目的として喫茶店、ホテルなどに置き、画面モード切り換え機能等を利用して画面の圧縮や引き伸ばし等を行いますと、著作権法上で保護されている著作者の権利を侵害する恐れがありますので、ご注意願います。
- ワイド映像でない従来の4:3の映像を、ワイドズームモードを利用してテレビの画面いっぱいに表示してご覧になると、周辺画像が一部見えなくなったり変形して見えたりします。制作者の意図を尊重したオリジナルな映像はノーマルモードでご覧になれます。
- オリジナル映像のサイズや種類によっては、画面の上下が欠けたり、字幕が入りきらないことがあります。このときは、上下位置や縦サイズを調整してください（☞59ページ）。ただし、画面モードが「フル」と「ノーマル」のときは調整できません。

2画面で見る

2画面で別々の画面を見る

♪が表示された画面の音声が、スピーカーから聞こえる。

見ていた番組が左画面となった2画面になる。

もう1度押すと、操作画面（☞63ページ）の1画面に戻る。

2画面の画面サイズを変えたり、チャンネルや入力を1画面のときと同じ操作で選べる画面（操作画面）を切り換えたりできます（☞63ページ）。

メモするために画面を静止させる

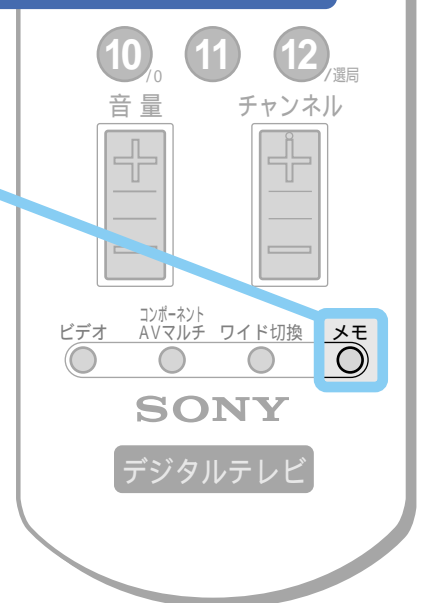
メモ

もう1度押すと、1画面に戻る。

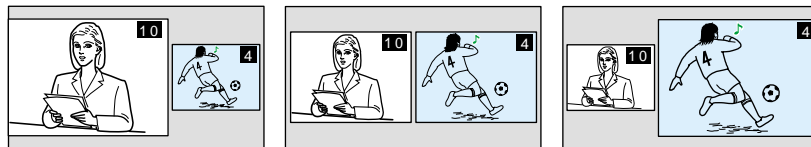
今まで見ていた番組（動画）

メモした画面（静止画像）

ご注意

左右の画面サイズは変えられません。

2画面での便利な機能

画面サイズを変える*

大きくしたい側の◁/▷を押し続け、希望のサイズになったら指を離します。

💡ちょっと一言
変えた画面サイズは本機が記憶するため、再び2画面にしたときは以前のサイズで表示されます。

右画面を大きくするときは、右向きの▷を押し続ける。

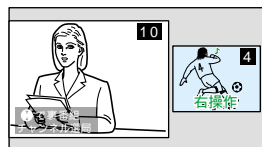
左画面を大きくするときは、左向きの◁を押し続ける。

操作画面を確認する*

1画面のときと同じ操作で、チャンネルや入力を選んだり、音量を調節したりできる画面が、「操作画面」です。

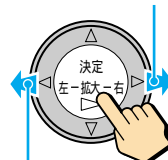
画面表示

左が操作画面のとき（左操作）

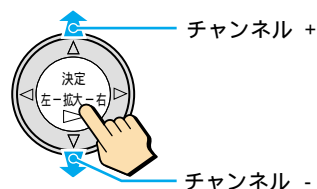
右が操作画面のとき（右操作）

操作画面を切り換えるには

操作画面と逆向きの◁/▷を押す。

操作画面と同じ向きの◁/▷を押すと、画面サイズが切り換わってしまいます。

左から右に操作画面を切り換える。

右から左に操作画面を切り換える。

💡ちょっと一言
「◧(2画面)」メニューの「操作入替」でも切り換えられます。

操作画面でない画面のチャンネルを切り換えるには

スピーカーとヘッドホンで別々の画面の音声を聞く

お買い上げ時は、ヘッドホンをつなぐと、スピーカーの音声が出なくなり、操作画面の音声がヘッドホンで聞けます（「ヘッドホンモード：1」）。操作画面に関係なく、スピーカーとヘッドホンで別々の音声を固定して聞くときは、「ヘッドホンモード：2」に設定します。

1 **◁/▷でスピーカーで音声を聞く画面を選ぶ。**

2 **メニューボタンを押して、メニューを出す。**

3 **△/▽で「◧(2画面)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

4 **△/▽で「ヘッドホンモード」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

5 **△/▽で「2」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

ヘッドホンからスピーカーとは逆画面の音声が出ます。

6 **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

* VTRまたはDVDボタンが点灯中（☞12ページ）は、△/▽/◁/▷を押しても操作できません。

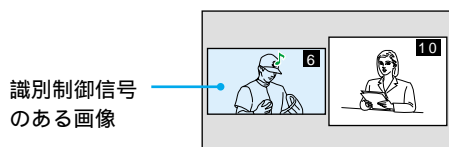
2画面で見る（つづき）

2画面についてのご注意

- 2画面のまま電源を切り、再び電源を入れると1画面に戻ります。
- 2画面の映像は録画できません。
- 次のときは、2画面ボタンを押しても、2画面にはなりません。
  - BS･110度CSのラジオや独立データを見ているとき
  - “メモリースティック”の静止画像を見ているとき（☞95ページ）
- 次の画像は、2画面で同時に見ることができません。
  - 同じテレビ（地上波）チャンネル
  - 同じまたは別々のBSテレビチャンネル
  - 同じまたは別々の110度CSテレビチャンネル
  - 同じ入力の画像（ビデオ1とビデオ1など）
  - BS･110度CSとi.LINK入力の画像の組み合わせ
  - コンポーネント入力同士の画像の組み合わせ
  - i.LINK入力同士の画像の組み合わせ
- 次のボタンは、2画面のときに働きません。
  - i.LINK録画ボタン（☞82ページ）
  - i.LINK再生ボタン（☞84、92ページ）
  - ラジオ/データボタン*

  * 10キーボタンと 1 〜 12/選局 のBS用数字ボタンで3桁のチャンネル番号でラジオやデータを直接選んでも画面は黒くなり何も映りません。
- 次の画像は、左画面に表示されます。
  - コンポーネント入力
  - AVマルチ入力
  - i.LINK入力
- 字幕放送は、2画面では見ることができません。

画質やワイド画面について

- 左右別々の回路で信号処理しているため、映像や音質などに多少の差があります。
- オートワイド機能は働きません。識別制御信号のある画像のみ判別してワイド画像のまま表示されます。

メディアレシーバー後面端子から出力される信号について

端子名	出力される信号
BS/CS/ビデオ出力端子	左画面の映像と音声を出力する*1。予約実行中は、予約したチャンネルの映像と音声を出力する。
音声出力端子（5kΩ）（固定）	スピーカーから聞こえる音声を出力する*2。
光デジタル音声出力端子	左画面の音声を出力する*1。右画面がBS･110度CSテレビのときや、予約実行中は、その音声を出力する。

*1「コンポーネント1」や「コンポーネント2（D端子）」入力の映像信号は出力しません。

*2 ヘッドホンをつなぐと、音声が出力されなくなります。カセットデッキなど録音機器をつないでいるときは、ご注意ください。

メモについてのご注意

- 2画面やラジオ、独立データの画像や、“メモリースティック”の静止画像のときは、メモボタンは働きません。
- メモした静止画像は、“メモリースティック”に記録できません。
- メモ中に、チャンネルや入力を切り換えると、1画面に戻ります。

ヘッドホンモードについてのご注意

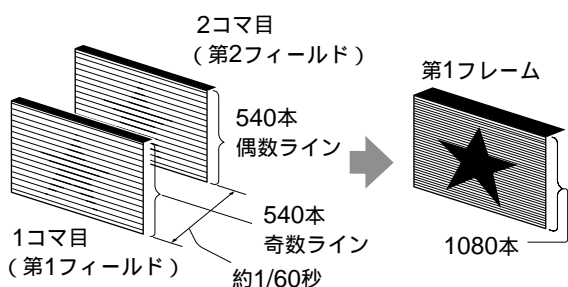
- ヘッドホンモード「2」に設定して1度2画面モードを終了して、再度2画面モードにすると、ヘッドホンモードは「1」に戻ります。
- ヘッドホンを抜くと、「ヘッドホンモード」の設定によって、次の音声がスピーカーから出ます。
  - 「1」のとき：ヘッドホンで聞いていた音声
  - 「2」のとき：そのままのスピーカーの音声

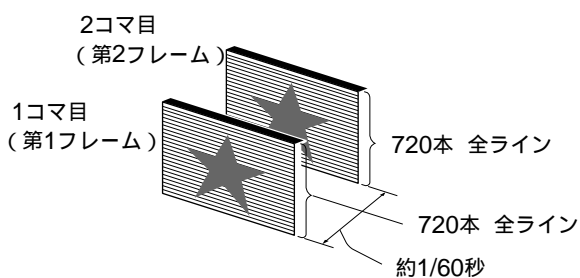
省電力（オートシャットオフ）についてのご注意

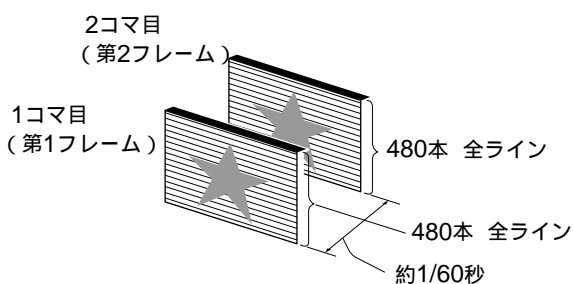
- 省電力のため、2画面のときは操作画面で、画面メモのときは左の通常画面で、地上波の放送が終了して（または放送のない地上波チャンネルにしたまま）約10分過ぎると、「オートシャットオフ」と表示されて、自動的に電源スタンバイになります。
  ただし、BS･110度CSのチャンネルのときは、そのまま画面が表示され、電源スタンバイにはなりません。
- 操作画面（ヘッドホンモード「1」）またはスピーカーから音声が出ている画面（ヘッドホンモード「2」）で地上波の放送が終了すると、自動的に消音します。1画面に戻してから、終了していないチャンネルを選ぶと音が出ます。

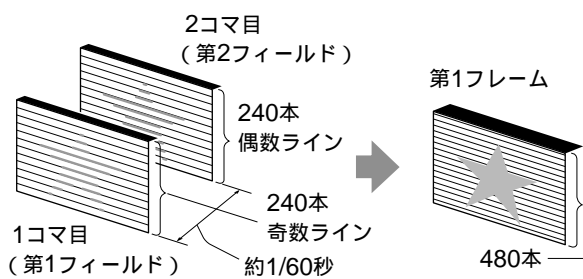
BS･110度CSデジタルの画質について

デジタル放送には、高画質のデジタルハイビジョン信号HDと、テレビ（地上波）と同等の画質の標準テレビ信号SDの2種類があります。
それぞれの放送に2つずつ、以下のように**全部で4種類の画像方式があります。**
本機では、すべての画像方式を受信できます。

1125i（1080i）の デジタルハイビジョン信号 HD

1125本（1080本）の走査線*を約1/60秒ごとに奇数ラインと偶数ラインを交互に流す（飛び越し走査：インターレース方式*）画像方式。

750p（720p）の デジタルハイビジョン信号 HD

750本（720本）全部の走査線を順番どおりに描く（順次走査：プログレッシブ方式*）画像方式。画面や文字のちらつきが少ないため、静止画放送に適しています。

525p（480p）の 標準テレビ信号 SD

525本（480本）全部の走査線を順番どおりに描く（プログレッシブ方式*）画像方式。画面や文字のちらつきが少なくなります。

525i（480i）の 標準テレビ信号 SD

525本（480本）の走査線を約1/60秒ごとに奇数ラインと偶数ラインを交互に流す（インターレース方式*）画像方式。テレビ（地上波）放送やBSアナログ放送と同等の解像度です。

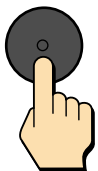
iはインターレース（飛び越し走査）、pはプログレッシブ（順次走査）の略。（　）内は有効走査線数*で数えたときの別称です。
* の詳しい説明は、用語集（☞184～185ページ）をご覧ください。

音声を切り換える
[音声切換ボタン]

二重音声番組のとき

画面表示	左スピーカーの音声	右スピーカーの音声
主	両方とも主音声	
副	両方とも副音声	
主／副	主音声	副音声

音声信号が複数ある番組のとき

音声信号の数（最大で第8音声まで）は番組ごとに異なります（☞45ページ）。

本機の両方のスピーカーから選んだ音声が出る。

ご注意

二重音声放送や第2音声などがないときは、切り換わりません。

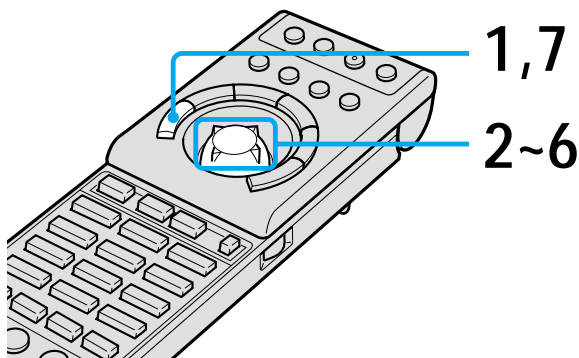
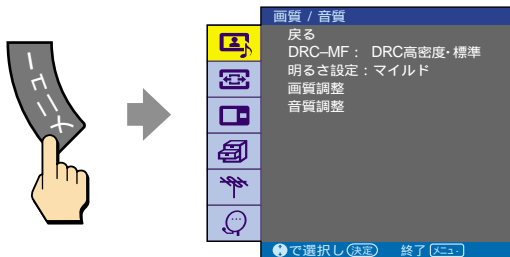
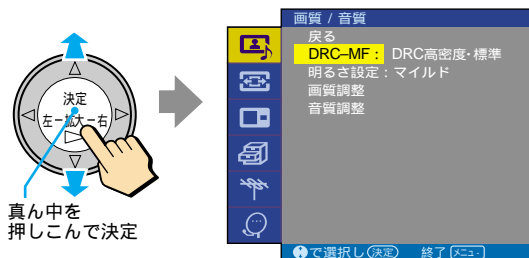
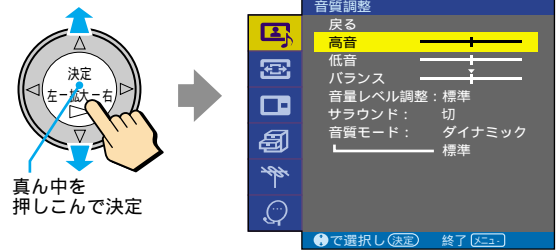
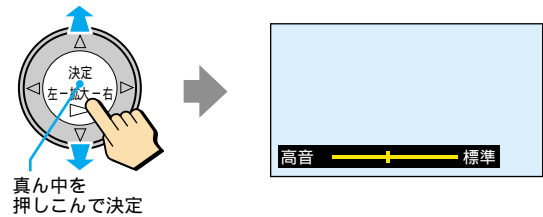
ちょっと一言

2画面のときは、操作画面の音声が切り換わります。

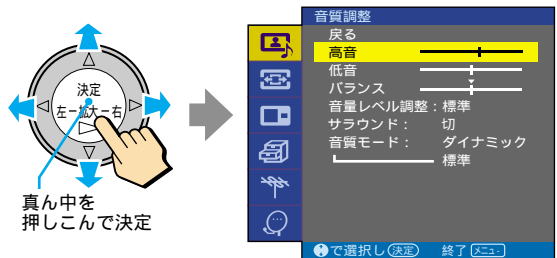
音質を調整する

地上波、BS・110度CS、入力切換用のボタンで選べる入力ごとに、別々に設定できます。

ご注意

ヘッドホンの音質調整はできません。ヘッドホンの音で調整すると、実際には、ヘッドホンを抜いたときに出るスピーカーからの音が調整されます。

1 メニューボタンを押す。

2 「(画質/音質)」を選んで、決定する。

3 「音質調整」を選んで、決定する。

4 調整したい項目を選んで、決定する。

5 調整して、決定する。

ちょっと一言

調整バーの横に表示される数値も調整の目安になります。

6 他の項目を調整するときは、手順4と5をくり返す。

7 メニューボタンを押して、メニューを消す。

次のページにつづく

音質を調整する（つづき）

調整する項目の説明

項目	説明
高音	▽/◁で弱くなり、△/▷で強くなる。
低音	▽/◁で弱くなり、△/▷で強くなる。
バランス	▽/◁で左側の音が強くなり、△/▷で右側の音が強くなる。
音量レベル調整	放送や入力端子ごとにつないだ機器の音量のレベルを調整する。 詳しくは、右の「放送や入力端子ごとの音量差が気になるときは」をご覧ください。
サラウンド	**「TruSurround*」**：5.1chなどBSデジタルのサラウンド放送は、本機のスピーカーで立体感にあふれ、動きのある音声を仮想的に再現する（TruSurround Digital 5.1ch）。 それ以外の放送は、本機のスピーカーから、映画館にいるような、臨場感あふれる音声を再現する。 **「切」**：5.1chなどBSデジタルのサラウンド放送は、通常のステレオ放送（2ch）に変換して再現する。 それ以外の放送は、オリジナル音声をそのまま再現する。
音質モード	**「ダイナミック」**：重低音を響かせながら、高音も通るように、明瞭感あふれるメリハリのきいた音質。映画やロックコンサート、モータースポーツ番組など、迫力ある映像や音声の番組向き。 **「ナチュラル」**：オリジナルの音源を生かし、全音域がバランスよく自然に広がっていく音質。クラシック音楽や自然ドキュメンタリーなどの番組向き。

* TruSurroundと(●)記号はSRS Labs,Inc.の商標です。TruSurround技術はSRS Labs,Inc.からのライセンスに基づき製品化されています。

お買い上げ時の状態に戻すには

☞67ページの手順4で「標準」を選ぶ。

放送や入力端子ごとの音量差が気になるときは

放送システムの異なる地上波からBSデジタルなどに放送を切り換えたときや、音声の入力レベルの異なる機器に入力を切り換えたとき、音量の差を感じることがあります。その場合には、放送や入力端子ごとの音量の差を調整する設定をしてください。音量＋/－ボタンで音量を調節しても、設定した放送や入力端子ごとの音量レベルは変わりません。ただし、AVマルチ（RGB）入力とAVマルチ（Y/CB/CR）入力は同じ設定になります。

1. **音量レベルを設定したい放送や入力に切り換える。**
2. **メニューボタンを押して、メニューを出す。**
3. **△/▽で「(画質/音質)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**
4. **△/▽で「音質調整」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**
5. **△/▽で「音量レベル調整」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**
6. **△/▽で設定して、真ん中を押しこんで決定する。**
   「－3」～「＋3」の範囲で設定できます。
7. **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

VHF/UHFのステレオ放送で雑音が気になるときは

音声をモノラルにして、チャンネルごとに雑音を軽減できます。

1. **雑音の多いチャンネルを映した状態で、メニューボタンを押して、メニューを出す。**
2. **△/▽で「(テレビ設定)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**
3. **△/▽で「初期設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**
4. **「オートステレオ」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**
5. **△/▽で「切」にして、真ん中を押しこんで決定する。**
6. **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

BS･110度CSデジタルの音声について

BS･110度CSデジタルには、次のような音声モードがあります。

モノラル

通常のニュース放送などに使われています。

ステレオ

音楽番組などに使われています。

サラウンド

映画などに使われています。

- サラウンド
- 5.1ch(チャンネル)サラウンド

圧縮Bモード

CDと同等の高音質になります。モノラルやステレオ、サラウンドが圧縮Bモードで送信されるときは「番組説明」画面に「圧縮Bモード」と表示されます。

また、上記の音声の他にも、二か国語番組などの二重音声や、音声信号が複数ある番組の第2音声などがあります。
詳しくは、☞45、66ページをご覧ください。

本機のスピーカーで音声を聞くとき

5.1ch(チャンネル)サラウンドなどの音声は、通常のステレオ放送（2ch）に変換されます。
メディアレシーバー後面の音声出力端子（5kΩ）（固定）やBS/CS/ビデオ出力端子からも下の表の本機のスピーカーと同じように音声が出力されます。

（L：左フロント、R：右フロント、RL：左リア、RR：右リア、C：センター）

「番組説明」画面（☞21ページ）での表示	左スピーカーの音声	右スピーカーの音声
モノラル	モノラル	モノラル
ステレオ*1	ステレオ（L）	ステレオ（R）
3/1サラウンド*2 3/2サラウンド*2 5.1サラウンド*2	ステレオ （L+RL+C）	ステレオ （R+RR+C）

*1「(画質/音質)」メニューの「音質調整」で、「サラウンド」を「TruSurround」にしているとき（☞68ページ）は、映画館にいるような臨場感あふれる音声を再現します。

*2「(画質/音質)」メニューの「音質調整」で、「サラウンド」を「TruSurround」にしているとき（☞68ページ）は、5.1chサラウンドなどの音声を、本機のスピーカーで仮想的に再現します。どのサラウンド信号を送信するかは、放送局側が決定するため、本機側では好みのサラウンド信号に切り換えられません。

メディアレシーバー後面の光デジタル音声出力端子から出力される信号について（☞151〜152ページ）

光デジタル入力対応のオーディオ機器に接続すると、BS･110度CSデジタルの高音質な音声を楽しめます。
「(各種切換)」メニューで、「光デジタル出力」を設定してください。

AAC対応AVアンプなどをつないでいるときは

「(各種切換)」メニューで、「光デジタル出力」を「オート」に設定してください。

放送の種類	メディアレシーバー後面の光デジタル出力端子から出力する信号
BS･110度CSデジタルのデジタル音声	AAC音声（BS・110度CSデジタル放送用音声方式）がそのまま出力されます。
地上波やビデオ機器などからのアナログ音声	PCM音声（2ch）のデジタル信号に変換して出力されます。

AACに対応していないAVアンプやサンプリングレートコンバーター内蔵のMDデッキなどをつないでいるときは

「(各種切換)」メニューで、「光デジタル出力」を「PCM」（お買い上げ時の設定）に設定してください。
BS･110度CSデジタルのデジタル音声も、地上波やビデオ機器などからのアナログ音声もすべて、PCM音声（2ch）のデジタル信号に変換されて、メディアレシーバー後面の光デジタル音声出力端子から出力されます。

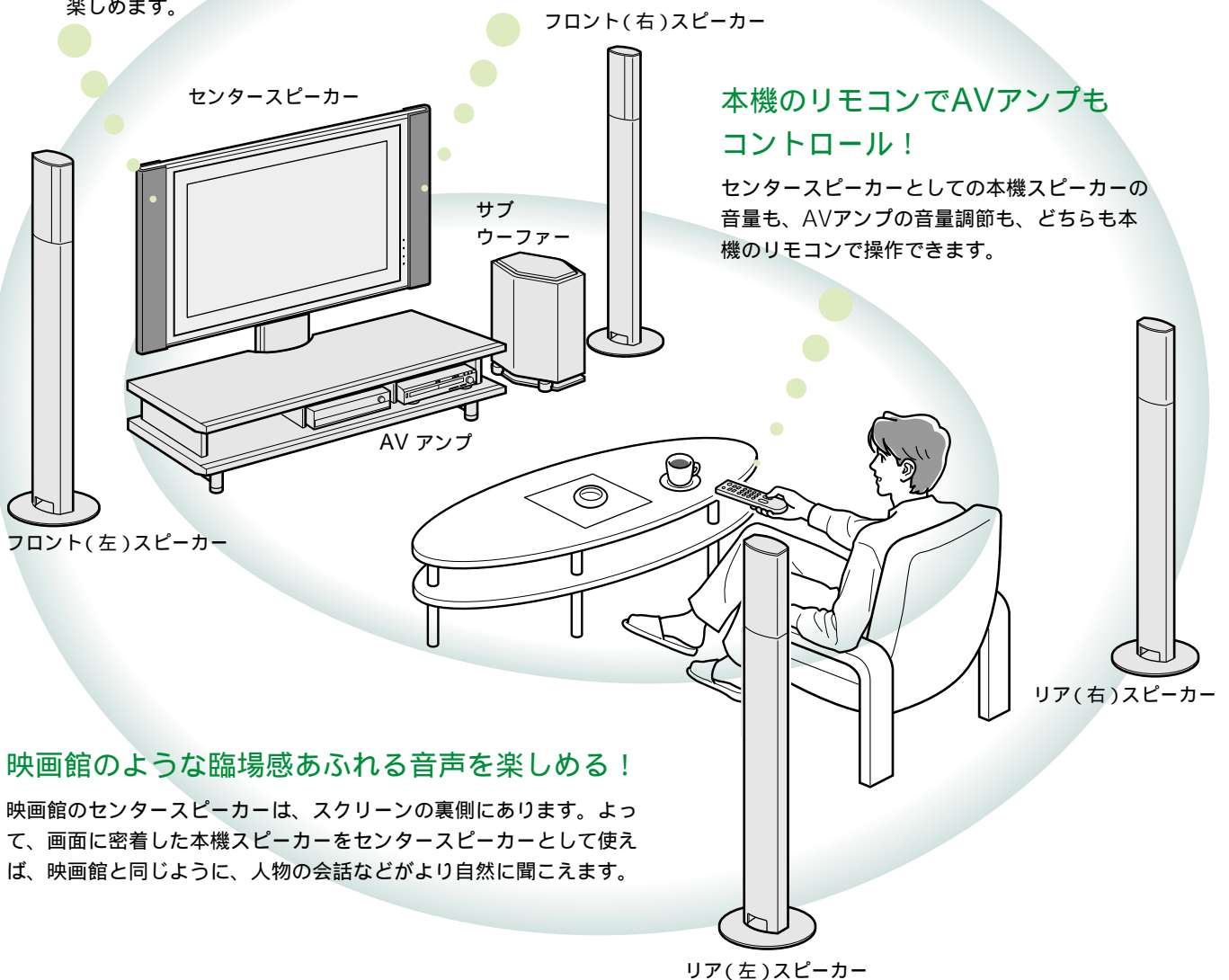
オーディオ機器につないだスピーカーで音声を聞くときは

- 「(各種切換)」メニューの「スピーカー」を「切」にしてください。本機での音量調節に関係なく、本機のスピーカーから音声が出なくなります。
- センタースピーカーのかわりに本機のスピーカーでセンター音声を聞くときは、「センター音声を高品質で楽しむ」（☞74ページ）をご覧ください。

音声

TVセンタースピーカーって何？

5.1chの高品質な音声を楽しめる！

BS・110度CSデジタル放送やAVアンプなどからのセンター音声出力を、メディアレシーバーのセンター入力端子につなげば、5.1chサラウンドなどのセンター音声を本機の高音質スピーカーシステムで楽しめます。

本機のリモコンでAVアンプもコントロール！

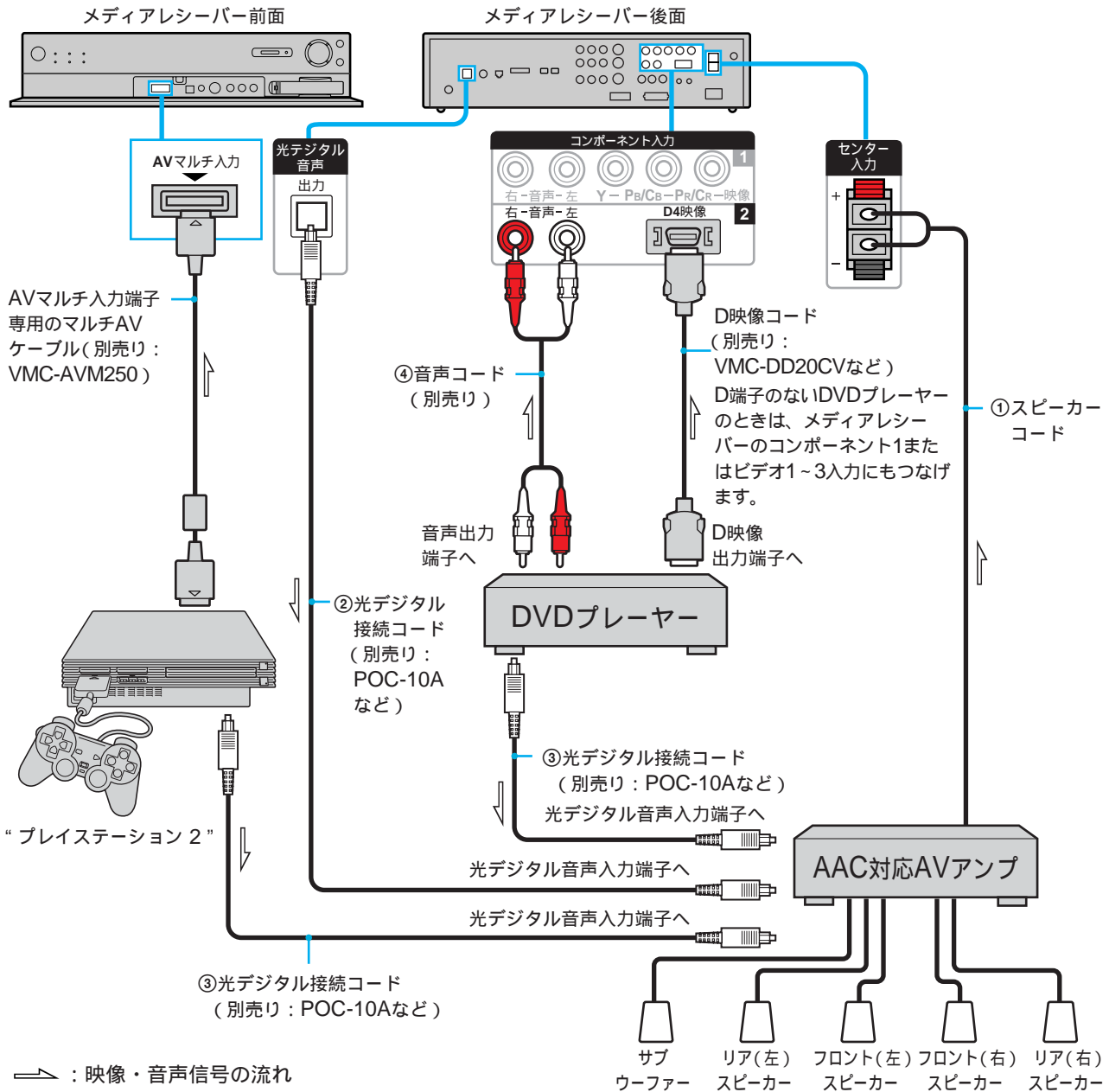
センタースピーカーとしての本機スピーカーの音量も、AVアンプの音量調節も、どちらも本機のリモコンで操作できます。

映画館のような臨場感あふれる音声を楽しめる！

映画館のセンタースピーカーは、スクリーンの裏側にあります。よって、画面に密着した本機スピーカーをセンタースピーカーとして使えば、映画館と同じように、人物の会話などがより自然に聞こえます。

TVセンタースピーカーにAVアンプをつなぐ

AVアンプのセンタースピーカー出力を、メディアレシーバーのセンター入力端子につないで、本機スピーカーでセンター音声を楽しむための接続です。

TVセンタースピーカーにAAC対応AVアンプをつなぐ

① **AVアンプから出力されるセンター音声を本機のスピーカーで聞くための接続。**

ご注意

- 必ずAVアンプの電源を切った状態でつないでください。
- センター入力端子に180W（6Ω）以上は入力しないでください。

② **BS・110度CSなどの音声をAVアンプに入力するための接続。**

③ **DVDプレーヤーなどの音声をAVアンプに入力するための接続。**

④ **DVDプレーヤーなどの音声を本機で聞くための接続。**
この接続をしないと、TVセンタースピーカーを使わないときに、本機のスピーカーから音声が聞こえなくなります。

本機とDVDプレーヤーや“プレイステーション 2”などの接続について詳しくは、☞148〜150ページをご覧ください。

TVセンタースピーカー

次のページにつづく

TVセンタースピーカーに AVアンプをつなぐ（つづき）

TVセンタースピーカーボタンの設定をするには

TVセンタースピーカーを使うには、TVセンタースピーカーボタンを2秒以上押したときに、TVセンタースピーカーに切り換わるように設定する必要があります。

1 **メニューボタンを押して、メニューを出す。**

2 **△/▽で「(各種切換)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

3 **△/▽で「TVセンタースピーカー設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

4 **△/▽で「センター音声切換」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

5 **△/▽で「入」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

6 **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

TVセンタースピーカーとAVアンプの音量バランスを調整するには

TVセンタースピーカーの音量を調節します。1度音量バランスを調整すれば、次にTVセンタースピーカーにしても同じ音量で聞けます。

1 **TVセンタースピーカーボタンを2秒以上押して、本機のスピーカーからセンター音声が聞こえるようにする。**

2 **AVアンプ側でAVアンプを操作して、センター音声の音量を「0dB」（標準の音量）にする。**

3 **AVアンプ側でAVアンプを操作して、各スピーカーから音声が聞こえるように音量を調節する。**

4 **本機のリモコンの音量＋/－ボタンでセンター音声（本機のスピーカーから聞こえる音声）の音量を「35」～「40」の間くらいに調節する。**

聞きやすい音量の数値をメモしておくと便利です。

ちょっと一言
センター音声の音量は、ご覧になる番組やDVDのソフトによってお好みで、微調整してください（☞75ページ）。

光デジタル音声出力端子から出力される信号を設定するには

AAC対応AVアンプをつないだときは下記の設定をしてください。

1 **BS または CS ボタンを押す。**

2 **メニューボタンを押して、メニューを出す。**

3 **△/▽で「(メニュー切換)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

4 **△/▽で「(各種切換)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

5 **△/▽で「光デジタル出力」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

6 **△/▽で「オート」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

放送の種類	メディアレシーバー後面の光デジタル音声出力端子から出力する信号
BS・110度CSデジタルのデジタル音声	AAC音声（BS・110度CSデジタル放送用音声方式）がそのまま出力されます。
地上波やビデオ機器などからのアナログ音声	PCM音声（2ch）のデジタル信号に変換して出力されます。

7 **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

予約録画実行中（☞30～36ページ）にTVセンタースピーカーにしたときのご注意

- チャンネルや入力を切り換えても、本機のスピーカーから出力される音声は切り換わりません。
- 音声切換ボタンを押しても音声を切り換えられません。
- **音声信号が1つのときは**
  予約されたBS・110度CSチャンネルの音声を出力します。ただし、「PCM」に設定されているときは、二重音声番組では、「(予約設定)」メニューの「二重音声設定」（☞36ページ）で設定した音声が出力されます。
- **第2音声など音声信号が複数あるときは**
  i.LINKでデジタル予約録画したとき（☞30ページ）は、第1音声が出力されます。
  AVマウスでアナログ予約録画したとき（☞33ページ）は、予約時に設定した音声が出力されます。

ご注意

- BS・110度CSデジタル放送では、「光デジタル出力」を「オート」にすると、光デジタル音声出力からAAC音声が出力されます。AACに対応していないAVアンプやサンプリングレートコンバーター内蔵のMDデッキなどにつなぐときは、必ず「PCM」に設定してください。「オート」のままだと、正しく出力されません。
- 「光デジタル出力」を「オート」にして、BS・110度CSデジタル放送で二重音声の番組を視聴しているときは、本機のスピーカーからは音声が出力されない場合があります。
- 本機は、録画防止機能（コピープロテクション）が付いています（☞32、49、154ページ）。そのため、音声に関しても、メディアレシーバー後面の光デジタル音声出力端子からの信号を、録音できない番組があります。
- 光デジタル音声出力端子からは、BS・110度CSデータでの効果音（ピンポンとかブーなど）は出力されません。

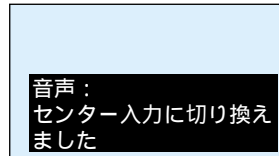
センター音声を高品質で楽しむ［TVセンタースピーカーボタン］

通常、本機のスピーカーからは5.1chサラウンドなどのセンター音声やリア音声がフロント音声にミックスして出力されます（☞69ページ）。TVセンタースピーカーにすると、つないだスピーカーからはそれぞれの音声が出力され、本機のスピーカーからはセンター音声のみが出力されます。

TVセンタースピーカーに切り換える

TV センタースピーカー

右の画面表示が出るまで、
2秒以上押す。

音声：
センター入力に切り換えました

AVアンプから出力されたセンター音声が、
本機のスピーカーから聞こえる。

I know.

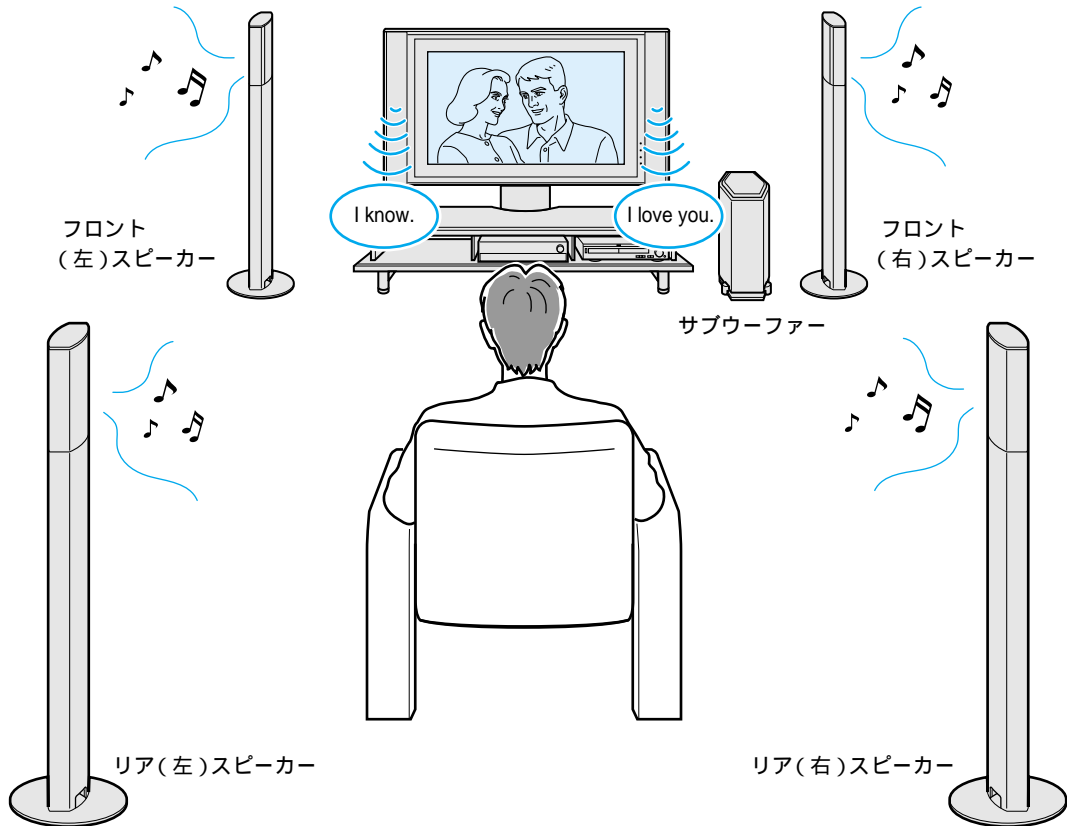
I love you.

フロント（左）スピーカー

フロント（右）スピーカー

サブウーファー

リア（左）スピーカー

リア（右）スピーカー

TVセンタースピーカーをやめて通常の音声にするときは

もう1度TVセンタースピーカーボタンを2秒以上押す。

ちょっと一言

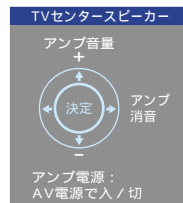
メニューの「TVセンタースピーカー設定」の「ダイレクト入力切換」（☞79ページ）の設定が「切」以外のいずれかのときは、TVセンタースピーカーボタンを押すだけで、BS･110度CSデジタルや設定している入力に自動的に切り換わります。ただし、AVアンプ側で音声の切り換えが必要なこともあります。

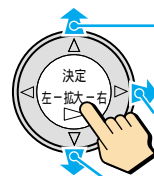
ご注意

消音ボタンを押しても（☞7ページ）AVアンプにつないだスピーカーの音声は消せません。本機のスピーカーの音声のみ消せます。

AVアンプ全体の音量を調節する

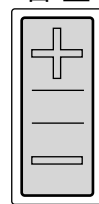
リモコンをAVアンプに向けて操作します。あらかじめ、リモコンコードを登録しておいてください（☞77ページ）。

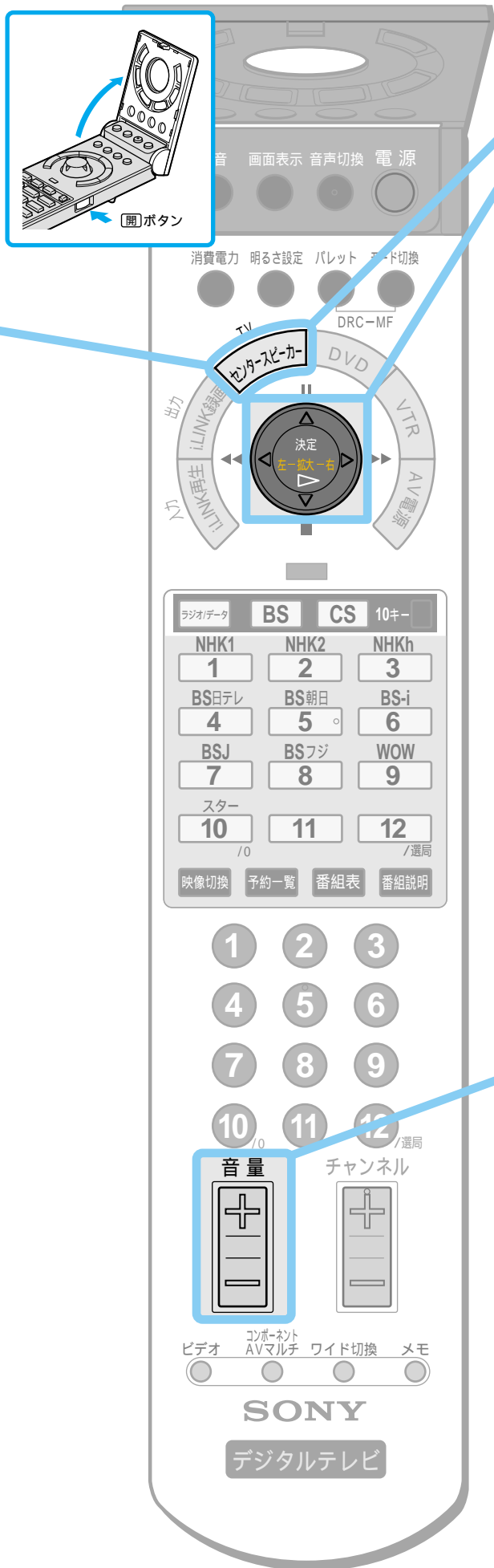
短かく押す。
ボタンが約10秒間点灯する。

アンプコントロール画面が表示される。

TVセンタースピーカーボタンが点灯している間に右の操作をする。ボタンが消灯してしまったときは、もう1度ボタンを押す。

ちょっと一言

- リモコンコードを設定してあれば、AV電源ボタンでAVアンプの電源も入/切できます。
- 操作するAVアンプのコントロールS端子もつないでいるときは（☞13ページ）、本機のリモコンをディスプレイに向けて、AVアンプを操作できます。

センター音声の音量を調節する

番組やDVDソフトに合わせてお好みで調節できます。
あらかじめ、「TVセンタースピーカーとAVアンプの音量バランスを調整するには」（☞72ページ）を行っておいてください。
リモコンをディスプレイに向けて操作します。

TVセンタースピーカー

次のページにつづく

センター音声を高品質で楽しむ［TVセンタースピーカーボタン］（つづき）

音量についてのご注意

下記のようなときは、本機のスピーカーから音声が聞こえなくなります。そのときに**音量＋ボタンで音量を上げすぎると、次に音声が出力されるときに、突然大きな音になることがあります**ので注意してください。

センター入力端子にAVアンプをつないでいないときは

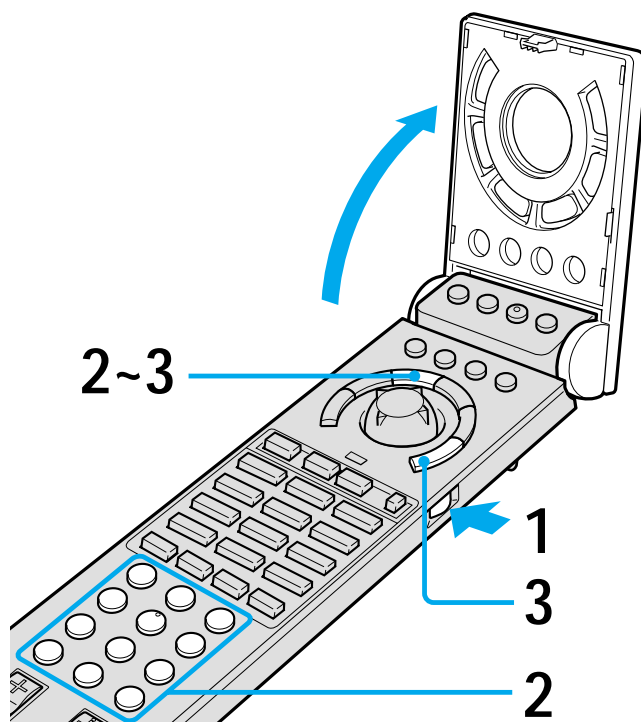
TVセンタースピーカーにすると、本機のスピーカーから音声が聞こえなくなります。このようなときは、「(各種切換)」メニューで「TVセンタースピーカー設定」を選び、「センター音声切換」を「切」にしておいてください（☞79ページ）。

センター入力端子にAVアンプをつないでいるときは

- **TVセンタースピーカーにすると、本機のスピーカーから音声が聞こえなくなるのは？**
  センター音声のない番組やDVD、ビデオなどを見ているときにTVセンタースピーカーにすると、本機のスピーカーから音声が聞こえなくなるためです。
  このようなときは、もう1度TVセンタースピーカーボタンを2秒以上押して、通常の音声に戻してください。
- **TVセンタースピーカーをやめると、本機のスピーカーから音声が聞こえなくなるのは？**
  ビデオやDVDプレーヤーなど、TVセンタースピーカーで楽しむ機器の音声出力をメディアレシーバーの音声入力端子につないでいないときは、TVセンタースピーカーをやめると、本機のスピーカーからは音声が聞こえなくなるためです。
  TVセンタースピーカーで音声を聞く機器は、映像端子と共に音声端子もメディアレシーバーにつないでおいてください。
- **チャンネルや入力を切り換えると、本機のスピーカーから音声が聞こえなくなるのは？**
  センター音声のない番組やDVDソフトなどに切り換わったためです。
  このようなときは、もう1度TVセンタースピーカーボタンを2秒以上押して、通常の音声に戻してください。

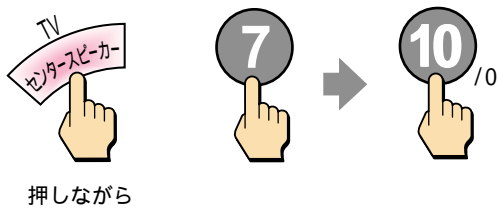
ソニー製のAVアンプを登録する

登録すれば、本機のリモコンで、ソニー製のAVアンプの音量調節、電源入/切ができます。

ちょっと一言
コントロールS入力端子のあるソニー製のAVアンプでコントロールS端子もつないでいるときは（☞13ページ）、リモコンコードを登録しなくても、AVアンプのリモコンをディスプレイに向けて、AVアンプを操作できます。

1 **開ボタンを押して、ふたを開ける。**

2 TVセンタースピーカーボタンを押しながら、地上波用数字ボタンでリモコンコードを入力する。

例：ソニー製AVアンプ（リモコンコード70）

押しながら

リモコンコード表

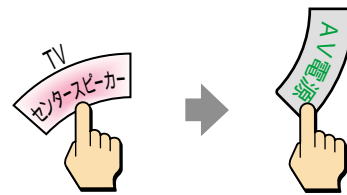
メーカー	AVアンプのリモコンコード番号
ソニー	70　71　72

リモコンコード表にないリモコンコードを入力すると、TVセンタースピーカーボタンが2秒間点滅します。手順2をもう1度行って、正しいリモコンコードを入力し直してください。

ご注意

設定するときに、リモコンをディスプレイに向けないように、手で隠すなどしてください。ディスプレイに向けてTVセンタースピーカーボタンを押すとTVセンタースピーカー（本機のスピーカーから聞こえる音声がセンター音声になる）に切り換わってしまいます。

3 TVセンタースピーカーボタンを押して、TVセンタースピーカーボタンが点灯している間にAV電源ボタンを押す。

AVアンプの電源が入るか確認します。

ちょっと一言

AVアンプとDVDプレーヤーなどが一体となった機器のときは、AV電源ボタンが働かないことがあります。そのときは、「ソニー製のAVアンプを本機のリモコンで操作する」（☞78ページ）の手順4を参考に、音量調節して動作テストを行ってください。

AVアンプの電源が入らないときは、手順2と3をくり返して、機器が操作できるまで違うリモコンコードを設定し直してください。

ご注意

- リモコンの電池を取り出したり、電池が寿命になると、設定した内容は消えて、お買い上げ時の設定に戻ります。もう1度設定し直してください。
- メーカーによっては複数のリモコン信号を採用しているため、操作できないことがあります。そのときは、AVアンプのリモコンで操作してください。
- 本機のリモコンのボタンに対応する機能がAVアンプにない場合は、そのボタンは働きません。

次のページにつづく

ソニー製のAVアンプを本機のリモコンで操作する

1 **AVアンプに必要な準備をする。**

AVアンプの電源をつなぐなど準備をしてください。

2 **[開]ボタンを押して、ふたを開ける。**

3 **TVセンタースピーカーボタンを短く押す。**

TVセンタースピーカーボタンが約10秒間点灯します。
TVセンタースピーカーボタンが点灯している間のみAVアンプを操作でき、AVアンプを操作するたびに、さらに10秒間延長します。

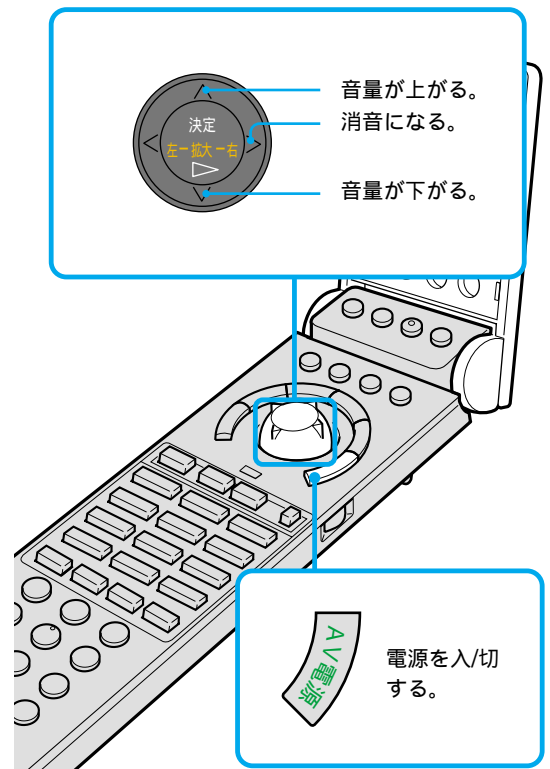
ボタンが消灯してしまったときは、もう1度短く押す。

ご注意

TVセンタースピーカーボタンは2秒以上押し続けると、TVセンタースピーカー（本機のスピーカーから聞こえる音声がセンター音声になる）に切り換わりますので、短く押してください。

ちょっと一言

TVセンタースピーカーボタンが点灯中に、△/▽/◁/▷やAV電源ボタン以外のボタンを押したり、リモコンのふたを閉めたりすると、TVセンタースピーカーボタンは消灯します。

4 **リモコンをAVアンプに向けて操作する。**

ちょっと一言

操作するAVアンプのコントロールS端子もつないでいるときは（☞13ページ）、本機のリモコンをディスプレイに向けて、AVアンプを操作できます。

ちょっと一言

DVDプレーヤーと一体型のAVアンプのときは、リモコンコードを入力して登録すれば、DVDプレーヤーも本機のリモコンで操作できます。

TVセンタースピーカーの設定をするには

1 **メニューボタンを押して、メニューを出す。**

2 **△/▽で「(各種切換)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

3 **△/▽で「TVセンタースピーカー設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

4 **△/▽で設定したい項目を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

5 **△/▽で設定を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

6 **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

設定する項目の説明

項目	説明
ダイレクト入力切換	TVセンタースピーカーで楽しむ入力を設定する。 **「切」**（お買い上げ時の設定）：TVセンタースピーカーにしたときに入力は切り換わらない。 **「切」以外の項目**：TVセンタースピーカーで楽しむ入力を、BS/110度CSとすべての入力の中から1つ選ぶ。TVセンタースピーカーにしたときに、入力も自動的に切り換わるようになる。 **ちょっと一言** AVアンプ側で音声の切り換えが必要なこともあります。詳しくは、AVアンプの取扱説明書をご覧ください。
センター音声切換	TVセンタースピーカーボタンを2秒以上押したときに、TVセンタースピーカーに切り換わるようにするかどうかを設定する。 **「入」**：TVセンタースピーカーに切り換わる。 **「切」**（お買い上げ時の設定）：TVセンタースピーカーに切り換わらない。
センター位相	つないだスピーカーの種類や設置場所に合わせて、違和感なく聞こえる音声に切り換える。 **「1」**：お買い上げ時の設定。 **「2」**：「1」の音声に違和感があるとき。

本機でi.LINK操作できる機器について

本機では、次のi.LINK対応機器を操作できます（2002年9月現在）。
あらかじめ、「i.LINKでの接続」（☞154～165ページ）を行ってください。

ハードディスクレコーダー
ソニー製ハードディスクレコーダーVRP-T1*1などです。
*1 ソニー製のデジタル レコーディング ハードディスクドライブ（Digital Recording HDD）のことです。

D-VHSビデオ
2002年9月現在推奨機種
日本ビクター製デジタルハイビジョンビデオHM-DH35000です。

ご注意
上記推奨機種以外のD-VHSビデオを本機につないでも、正しく動作しない場合があります。

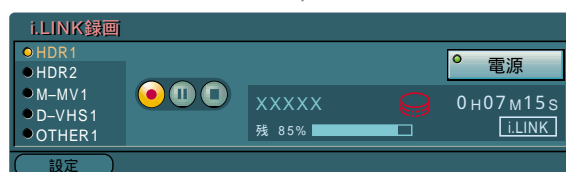
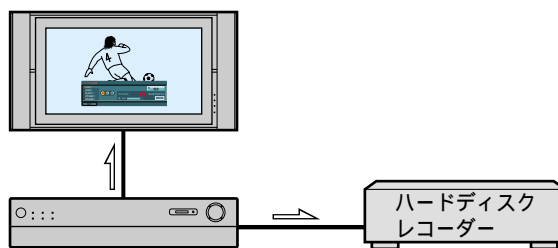
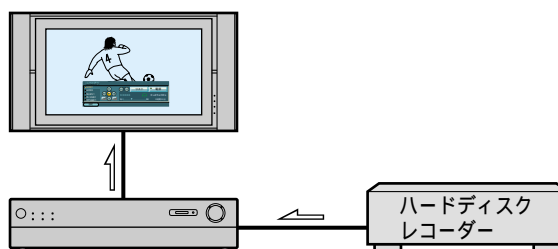
MICROMV方式デジタルビデオカメラ
ソニー製MICROMV方式デジタルビデオカメラDCR-IP55などです。

ハードディスクレコーダー

i.LINK操作画面（☞86ページ）では「HDR」と表示されます。

なお、i.LINK端子のないソニー製ハードディスクビデオレコーダーClip-Onなどは、i.LINK対応機器でないため、つなげません。

録画する（☞82ページ）

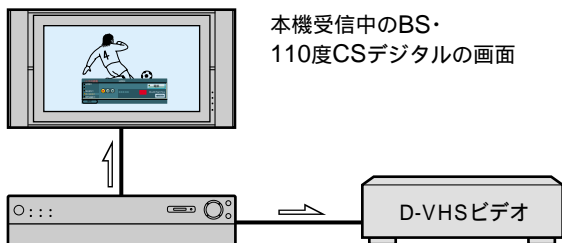
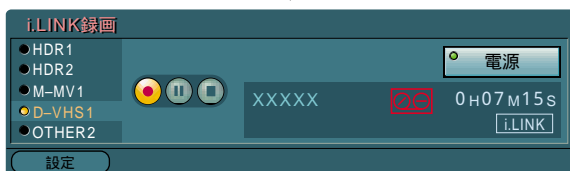
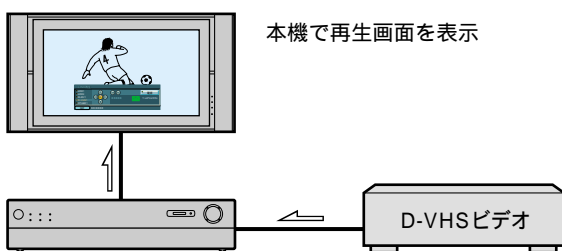
再生する（☞84ページ）

⇒：映像・音声信号の流れ

D-VHSビデオ

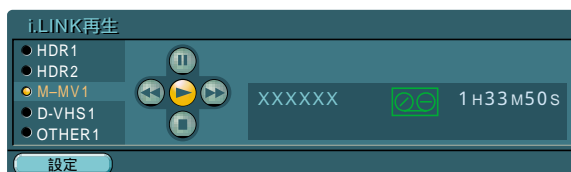
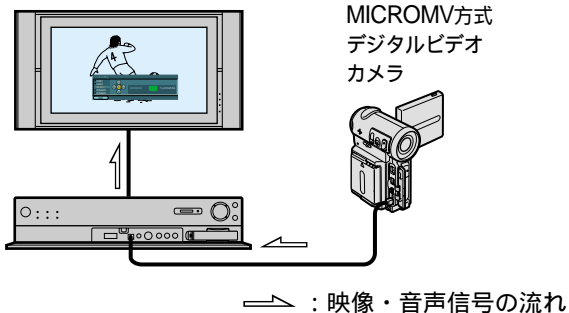
i.LINK操作画面（☞87ページ）では「D-VHS」と表示されます。

ご注意

- D-VHSビデオによっては、本機の操作画面で操作できないことがあります。
- D-VHSビデオによっては、110度CSデジタル放送を録画できないことがあります。
- ソニー製D-VHSビデオデッキSLD-DC1は、本機の操作画面で操作できますが、デジタルハイビジョン信号HDと110度CSデジタル放送は録画できません。

録画する（☞82ページ）

再生する（☞84ページ）

MICROMV方式デジタルビデオカメラ

i.LINK操作画面（☞93ページ）では「M-MV」と表示されます。

再生する（☞92ページ）

本機が対応していないi.LINK対応機器

次のi.LINK対応機器は、本機が対応していないため、つながないでください。
－ DV方式デジタルビデオカメラ
－ パソコン
－ MDデッキ

ハードディスクレコーダーやD-VHSをi.LINKで操作する

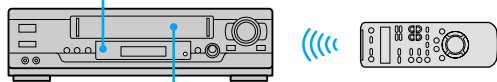
本機のi.LINK操作画面で、ハードディスクレコーダーやD-VHSビデオを操作できます。
あらかじめ、ハードディスクレコーダーとD-VHSビデオの接続と設定を行っておいてください（☞156、157、161ページ）。

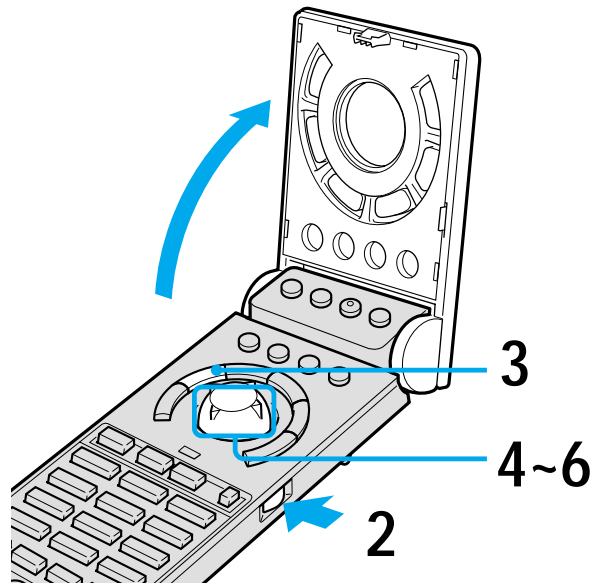
デジタル録画する［i.LINK録画ボタン］

「i.LINK録画」操作画面（☞86、87ページ）を使って、受信中のBS•110度CSデジタル放送をハードディスクレコーダーやD-VHSビデオにデジタル録画します。

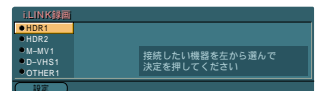
- 地上波放送は録画できません。
- BS•110度CSをデジタル予約録画するときは、☞30ページをご覧ください。
- 110度CSデジタル放送は、つないだ機器によっては録画できないことがあります。

D-VHSビデオをi.LINK操作するときは、D-VHSビデオの準備をしてください。

録画モード
HS/STD/LS3モードなど
詳しくは、D-VHSビデオの取扱説明書をご覧ください。

つめの付いたD-VHSテープを入れる。
VHSテープにはデジタル録画できません。

D-VHSビデオのリモコンで録画したい部分までテープを頭出しする。

1 デジタル録画したいBS•110度CSのチャンネルを選ぶ。
詳しくは、☞16～19、22、24ページなどをご覧ください。

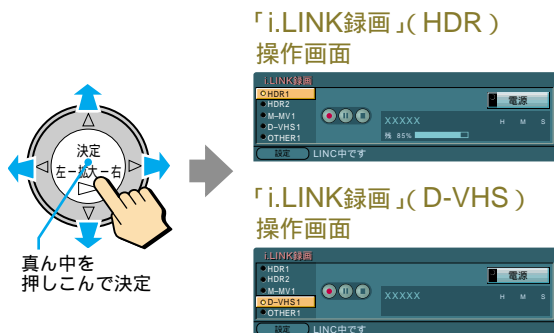
2 開ボタンを押して、ふたを開ける。

3 i.LINK録画ボタンを押す。
「i.LINK録画」操作画面が表示されます。

4 LINC*したい（操作したい）「HDR」または「D-VHS」を1台選んで、決定する。

「LINC中です」と表示されて、選んだ「HDR」または「D-VHS」に●が付きます。

すでにLINC中のときは、メッセージは表示されません。

「i.LINK録画」（HDR）操作画面

「i.LINK録画」（D-VHS）操作画面

* LINCについて詳しくは、「i.LINK（アイリンク）について」（☞154ページ）をご覧ください。

「HDR」や「D-VHS」が表示されないときや、6台以上のi.LINK対応機器をつないでいるときは
登録機器を変更してください（☞161ページ）。

5 LINCしたハードディスクレコーダーまたはD-VHSビデオの電源を入れる。

右下に（HDR）またはQO（D-VHS）が表示されていないときは

「電源」ボタンを選んで、決定する。

「i.LINK録画」（HDR）操作画面

例：「HDR1」を選んだとき

「i.LINK録画」（D-VHS）操作画面

例：「D-VHS1」を選んだとき

「電源」ボタン
電源が入ると左上が緑色に点灯します。

D-VHSで
電源を入れてもQO（D-VHS）が表示されないときは
D-VHSビデオのテープが正しく入っているかを確認してください。

右下に（HDR）またはQO（D-VHS）が表示されているときは

手順6へ進んでください。

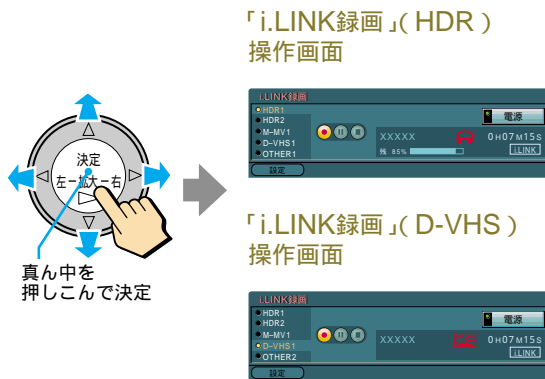
ハードディスクレコーダーやD-VHSをi.LINKで操作する（つづき）

6 **「◉（録画）」ボタンを選んで、決定する。**

録画が始まります。

「i.LINK録画」操作画面については
☞86、87ページをご覧ください。

「i.LINK録画」（HDR）
操作画面

「i.LINK録画」（D-VHS）
操作画面

HDRで
「ディスクがいっぱいです」と表示されるときは
ハードディスクレコーダーに空き容量がありません。不要な番組を削除してください（☞88ページ）。

D-VHSで
「テープが入っていません」、「録画できません」、「デジタル録画できないテープです」と表示されるときは
D-VHSビデオに、つめの折れていない、デジタル録画用のテープを入れてください。

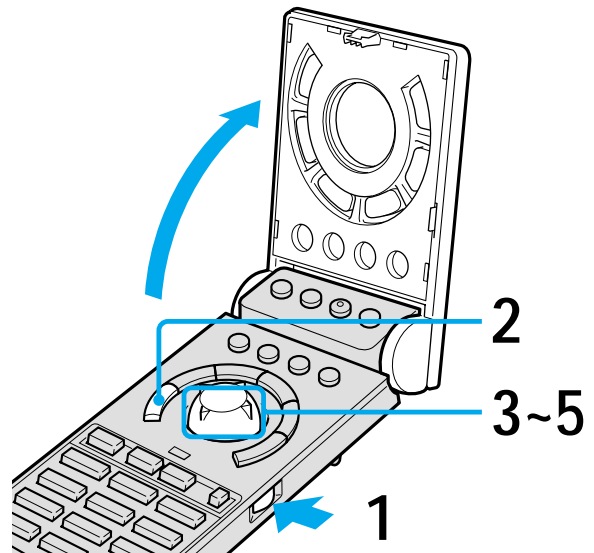
録画中のご注意

- BS・110度CSの操作（例：BS・110度CSチャンネル切換、番組表の表示など）はできません。
- リモコンやメディアレシーバーの電源スイッチで、電源を切らないでください。
- i.LINK対応機器のケーブルを抜き差ししたり、つないでいるi.LINK対応機器の電源を入/切したりしないでください。

「i.LINK録画」操作画面を消すときは

もう1度、i.LINK録画ボタンを押す。

デジタル再生する［i.LINK再生ボタン］

「i.LINK再生」操作画面を使って、デジタル録画した番組を再生します。
また、ハードディスクレコーダーの「リスト」画面から番組を選んで、再生できます。

1 **開 ボタンを押して、ふたを開ける。**

2 **i.LINK再生ボタンを押す。**

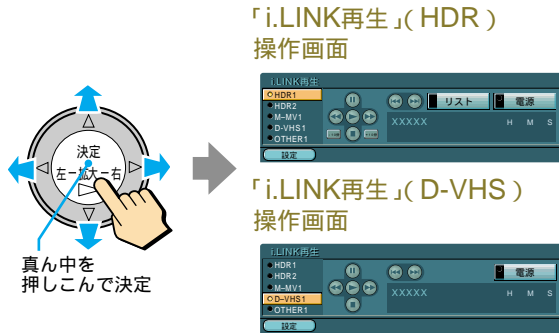
「i.LINK再生」操作画面が表示されます。

3 LINC*したい（操作したい）「HDR」または「D-VHS」を1台選んで、決定する。

「LINC中です」と表示されて、選んだ「HDR」または「D-VHS」に◯が付きます。

すでにLINC中のときは、メッセージは表示されません。

「i.LINK再生」（HDR）操作画面

「i.LINK再生」（D-VHS）操作画面

* LINCについて詳しくは、「i.LINK（アイリンク）について」（☞154ページ）をご覧ください。

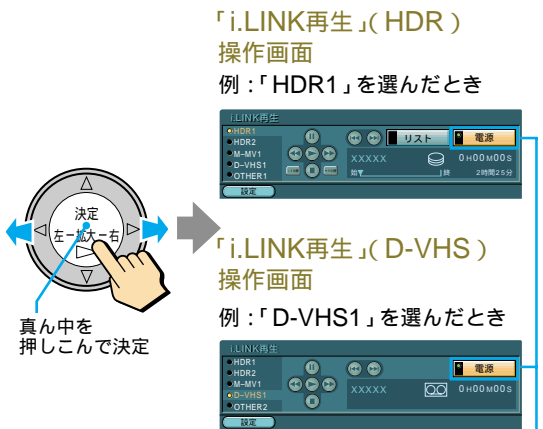
「HDR」や「D-VHS」が表示されないときや、6台以上のi.LINK対応機器をつないでいるときは
登録機器を変更してください（☞161ページ）。

4 LINCしたハードディスクレコーダーまたはD-VHSビデオの電源を入れる。

右下に(HDR）または(D-VHS）が表示されていないときは

「電源」ボタンを選んで決定する。

「i.LINK再生」（HDR）操作画面
例：「HDR1」を選んだとき

「i.LINK再生」（D-VHS）操作画面
例：「D-VHS1」を選んだとき

「電源」ボタン
電源が入ると左上が緑色に点灯します。

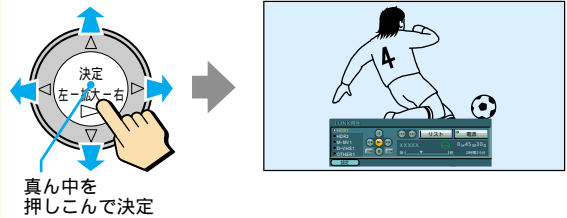
D-VHSで電源を入れても(D-VHS）が表示されないときは
D-VHSビデオのテープが正しく入っているかを確認してください。

右下に(HDR）または(D-VHS）が表示されているときは

手順5へ進んでください。

5 「▶（再生）」ボタンを選んで、決定する。

録画した番組があれば、再生が始まります。

「i.LINK再生」操作画面については☞86、87ページをご覧ください。

ちょっと一言
再生中に番組説明ボタンを押すと、「番組説明」画面が表示されます。ただし、「サービスタイプ」や「映像情報」などの番組情報は表示されません。

「i.LINK再生」操作画面を消すときは

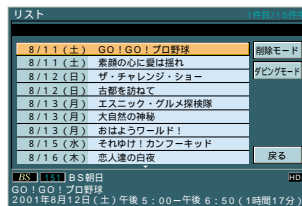
もう1度、i.LINK再生ボタンを押す。

ハードディスクレコーダーに録画した番組のリストからデジタル再生するときは

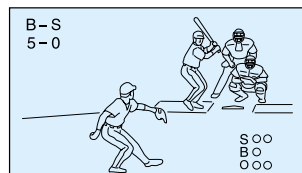
1 手順1〜4を行う。

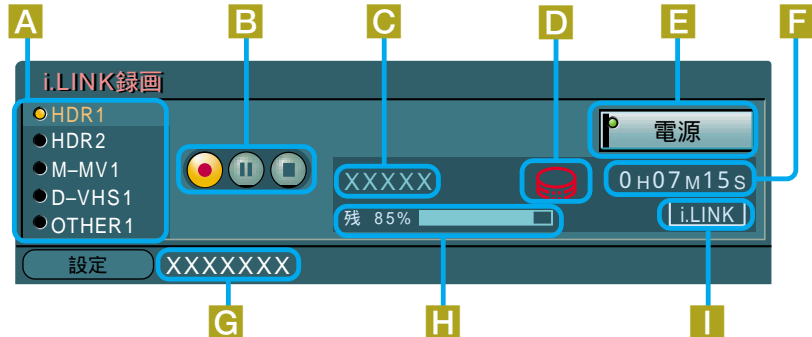
2 △/▽/◁/▷で「リスト」ボタンを選び、真ん中を押しこんで決定する。

「リスト」画面が表示されます。

「リスト」画面（詳しくは☞88ページ）

3 △/▽で再生したい番組を選び、真ん中を押しこんで決定する。

選んだ番組の再生が始まります。

次のページにつづく

i.LINK操作画面について（HDR）

「i.LINK録画」（HDR）操作画面

「i.LINK再生」（HDR）操作画面

A 接続機器リスト
接続中および接続されたことのある機器が表示されます。「HDR1」は、ハードディスクレコーダーの中で1番目につないだことを示します。

B 操作ボタン
△/▽/◁/▷で選び、真ん中を押しこんで決定します。

操作	ボタン
再生	▶
録画	●
停止	■
一時停止	⏸
早送り	⏩
早戻し	⏪

操作	ボタン
次の番組を頭出し	⏭
今の番組を頭出し	⏮ *1
10分早送り	+10分 *2
10分早戻し	−10分 *2

*1 くり返し押すと、その前の番組を頭出しします。
*2 停止中に押すと、その位置から再生を始めます。

C ハードディスクレコーダーの製品名

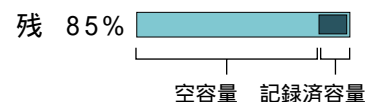
D i.LINK接続機器の状態
（灰）：停止時
（赤）（回転）：録画時
（黄）（点滅）：録画一時停止時
（緑）（回転）：再生時
（緑）（点滅）：再生一時停止時
表示無し：LINC中のi.LINK接続機器の電源が切れている。

E 「電源」ボタン
ハードディスクレコーダーの電源を入/切します（電源入時は、左上が緑色に点灯します）。

ソニー製ハードディスクレコーダーVRP-T1をお使いのときは
リモコンまたはメディアレシーバーの電源スイッチで電源を切ると、約10分後にハードディスクレコーダーVRP-T1の電源も自動的に切れます。
ただし、録画実行中は、リモコンの電源ボタンで電源スタンバイにしても、ハードディスクレコーダーVRP-T1の電源は切れません。

F 番組ごとの録画、再生経過時間
0H00M00S
時間　分　秒

G メッセージ表示部

H ハードディスクレコーダーの残り容量

I ハードディスクレコーダーの入力がi.LINKになっていることを示します。

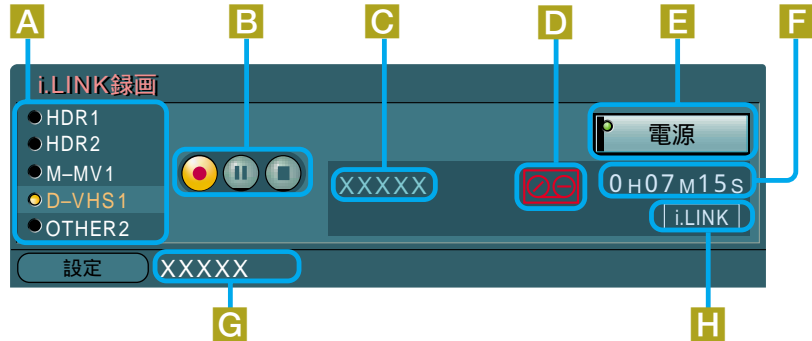
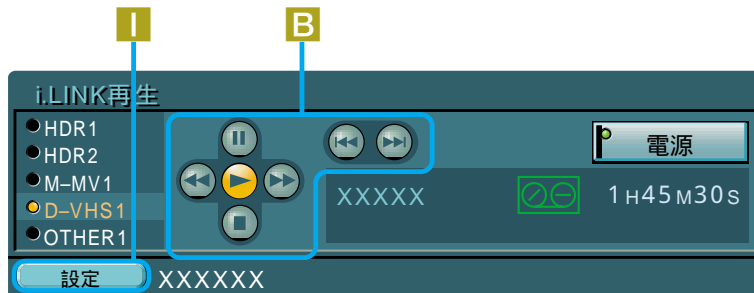
J 「設定」ボタン
i.LINK対応機器の登録変更などのときに使います（☞161ページ）。

K 「リスト」ボタン
LINC中のハードディスクレコーダーに録画された番組のリストを表示します（☞88ページ）。

L 現在再生している番組内の再生位置

M 番組全体の時間

i.LINK操作画面について（D-VHS）

「i.LINK録画」（D-VHS）操作画面

「i.LINK再生」（D-VHS）操作画面

A 接続機器リスト
接続中および接続されたことのある機器が表示されます。
「D-VHS1」は、D-VHSビデオの中で1番目につないだことを示します。

B 操作ボタン
△/▽/◁/▷で選び、真ん中を押しこんで決定します。

操作	ボタン
再生	▶
録画	●
停止	■
一時停止	❚❚
早送り	▶▶
早戻し	◀◀
次の番組を頭出し	▶▶❚
今の番組を頭出し	❚◀◀

C D-VHSビデオの製品名

D i.LINK接続機器の状態

- （黒）：停止時
- （赤）：録画時
- （黄）（点滅）：録画一時停止時
- （緑）：再生時
- （緑）（点滅）：再生一時停止時
- （緑）（高速回転）：早送り再生/早戻し再生時
- （黒）（高速回転）：早送り/早戻し時
- 表示無し：LINC中のi.LINK接続機器の電源が切れている。

E 「電源」ボタン
D-VHSビデオの電源を入/切します（電源入時は、左上が緑色に点灯します）。

F 番組ごとの録画、再生経過時間
0H00M00S
時間　分　秒

G メッセージ表示部

H D-VHSビデオの入力がi.LINKになっていることを示します。

I 「設定」ボタン
i.LINK対応機器の登録変更などのときに使います（☞161ページ）。

次のページにつづく

「リスト」画面について（HDR）

A メッセージ表示部

B 番組のタイトルと放送日
上下に▲/▼があるときは、リモコンの△/▽で前後の番組を表示できます。

C カーソル（選ばれているところ）
黄色で表示され、リモコンの△/▽/◁/▷で移動できます。

D 番組情報欄
（カーソル）で選んでいる番組の情報です。
HD：デジタルハイビジョン信号 HD（☞65ページ）
SD：標準テレビ信号 SD（☞65ページ）
：録画時に視聴年齢制限付きだった番組

E 録画件数

F 「削除モード」ボタン
リストから不要な番組を削除するモードに入ります（☞下記）。

G 「ダビングモード」ボタン
D-VHSビデオにダビングするモードに入ります（☞89ページ）。

H 「戻る」ボタン
i.LINK再生の操作画面に戻ります。

I 放送年月日

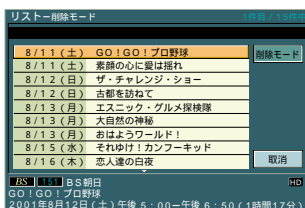
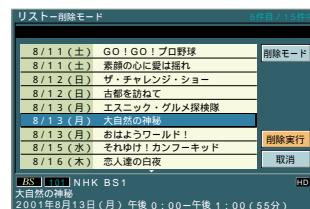
J 放送時間

K 実際に録画された時間

ハードディスクレコーダーのリストから不要な番組を削除するには［削除モード］

1 ☞84〜85ページの手順1〜4を行う。

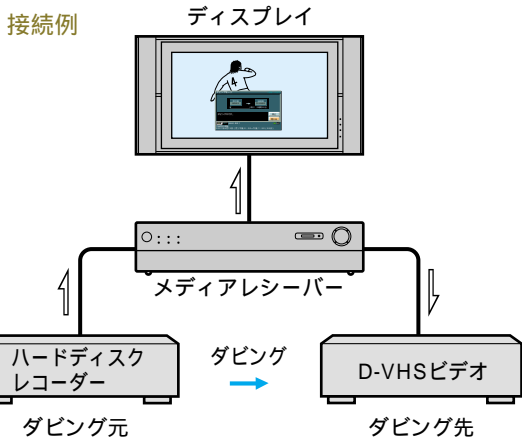
2 △/▽/▷で「リスト」ボタンを選び、真ん中を押しこんで決定する。

3 △/▽/▷で「削除モード」ボタンを選び、真ん中を押しこんで決定する。

4 △/▽/◁で削除したい番組を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 「削除実行」ボタンが選ばれていることを確認して、真ん中を押しこんで決定する。
リストから番組が削除されます。

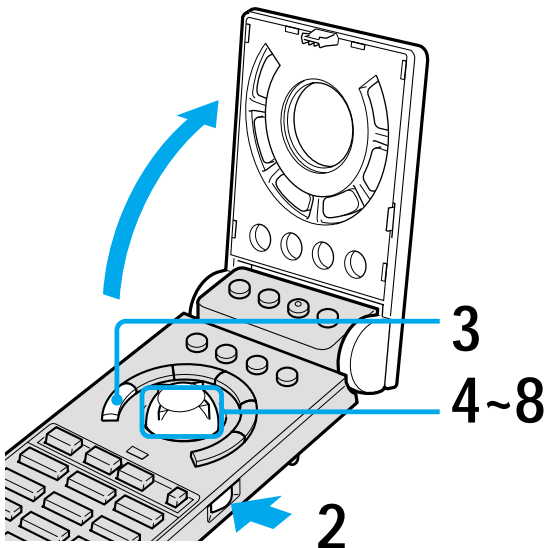
6 △/▽/▷で「戻る」ボタンを選び、真ん中を押しこんで決定する。
「i.LINK再生」（HDR）操作画面に戻ります。

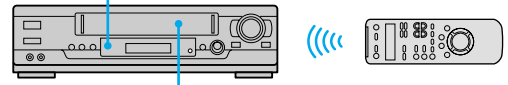
7 i.LINK再生ボタンを押して、「i.LINK再生」（HDR）操作画面を消す。

ハードディスクレコーダーからD-VHSにダビングする

本機のi.LINK操作画面で、ハードディスクレコーダーのリストにある番組を、D-VHSビデオにダビングできます。
あらかじめ、ハードディスクレコーダーとD-VHSビデオの接続と設定を行っておいてください（☞156、157、161ページ）。

：信号の流れ

ご注意

- ダビング中に予約（☞30ページ）した番組が始まったときは、その予約は取り消されます。「予約一覧」画面（☞38ページ）で予約の状況を確認してから、ダビングを始めてください。
- コピープロテクション（☞32、154ページ）の部分は録画できません。コピープロテクションが映像/音声/データに含まれる番組のときは、部分的にダビングできないことがあります。

1 D-VHSビデオの準備をする。

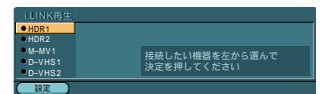
録画モード
HS/STD/LS3モードなど
詳しくは、D-VHSビデオの取扱説明書をご覧ください。

つめの付いたD-VHSテープを入れる
VHSテープにはデジタル録画できません。

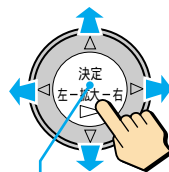
D-VHSビデオのリモコンで録画したい部分までテープを頭出しする。

ちょっと一言
D-VHSビデオにオートリンク機能があるときは「切」にしておいてください。

2 開ボタンを押して、ふたを開ける。

3 i.LINK再生ボタンを押す。

「i.LINK再生」操作画面が表示されます。

4 ダビングしたい番組がある「HDR」を選んで、決定する。

「LINC中です」と表示されて、選んだ「HDR」に●が付きます。
すでにLINC中のときは、メッセージは表示されません。

* LINCについて詳しくは、「i.LINK（アイリンク）について」（☞154ページ）をご覧ください。

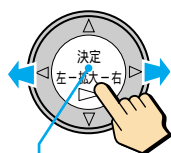
「HDR」が表示されないときや、6台以上のi.LINK対応機器をつないでいるときは
登録機器を変更してください（☞161ページ）。

次のページにつづく

ハードディスクレコーダーから D-VHSにダビングする（つづき）

5 LINCしたハードディスクレコーダーの電源を入れる。

右下に⊜が表示されていないときは

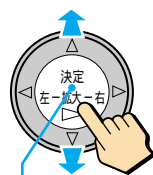
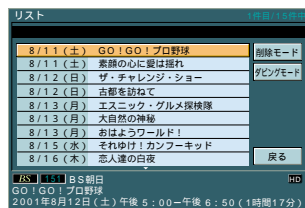
「電源」ボタンを選んで決定する。

「電源」ボタン
電源が入ると左上が緑色に点灯します。

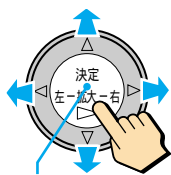
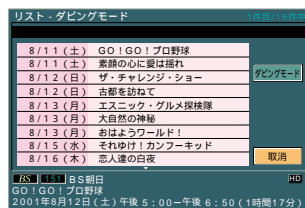
右下に⊜が表示されているときは

手順6へ進んでください。

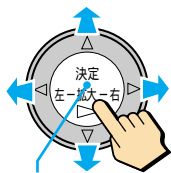
6 ダビングする番組を選ぶ。

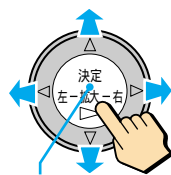
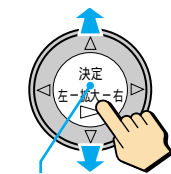
1 「リスト」ボタンを選んで、決定する。

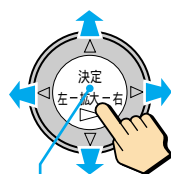
「リスト」画面が表示されます。

2 「ダビングモード」ボタンを選んで、決定する。

「リストーダビングモード」画面

3 ダビングしたい番組を選んで、決定する。

「ダビングモード」画面が表示されます。

「ダビングモード」画面

7 ダビング先の機器を選ぶ。

1 「録画機」を選んで、決定する。

2 録画したい「D-VHS」を1台選んで、決定する。

8 「実行」ボタンを選んで、決定する。

「ダビングできるか確認中です」と表示されたあと、ダビングが始まります。
「ダビングモード」実行画面が表示されます。

「ダビングモード」実行画面

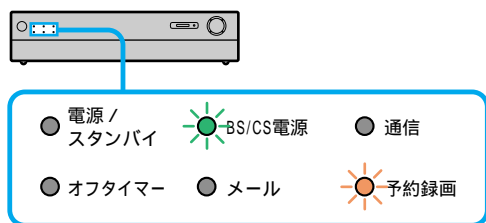
「操作できるD-VHSが1台もありません」と表示されたときは
録画するD-VHSビデオを登録してください（☞161ページ）。

「予約が入っています　ダビング中に始まった予約は取り消されます　この番組をダビングしますか？」と表示されたときは
「予約一覧」画面で予約状況を確認してください。

「D-VHS1に入っているテープはデジタル録画できないテープです」または「D-VHS1にテープが入っていません」と表示されたときは
つめの折れていない、デジタル録画用のテープを入れてください。

現在i.LINK再生中の番組を選んだときは
番組の先頭に戻ってダビングが始まります。

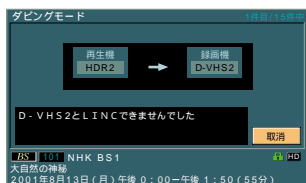
ダビング中は

テレビ（地上波）やBS・110度CSデジタル放送、本機につないだ機器の映像を見ることができます。
また、メディアレシーバー前面の予約録画ランプとBS/CS電源ランプが点灯します。

ダビング中のご注意
メディアレシーバーの電源スイッチで、主電源を切らないでください。
リモコンの電源ボタンで電源スタンバイ（電源/スタンバイランプが赤く点灯）にしても、ダビングはそのまま実行されます。

「ダビングモード」実行画面を消すには
△/▽で「閉じる」ボタンを選び、真ん中を押しこんで決定するか、i.LINK再生ボタンを押します。
「ダビングモード」実行画面を表示するときは、もう1度i.LINK再生ボタンを押します。

ダビング中にダビングが中断されたときは

「ダビングモード」実行エラー画面が表示されます。

「ダビングモード」実行エラー画面

「取消」ボタンが選ばれていることを確認し、真ん中を押しこんで決定すると、「i.LINK再生」操作画面が表示されます。

ダビングが終了すると

「i.LINK再生」操作画面が表示されます。

引き続き他の番組をダビングするときは
☞90ページの手順6～8を行ってください。

「i.LINK再生」操作画面を消すときは
もう1度、i.LINK再生ボタンを押してください。

ダビングが正しく終了したか確認するには
メール（☞50ページ）を見てください。
ダビングについてのメールが1通もないときは、ダビングは正しく終了しています。

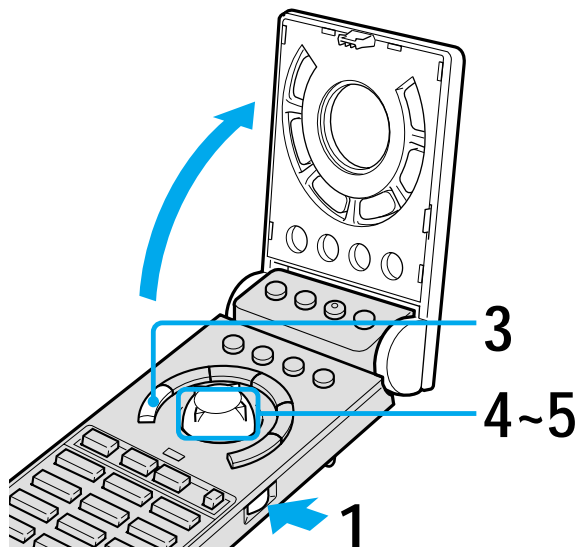
ダビングを途中で止めるときは

1 **△/▽で「停止」ボタンを選び、真ん中を押しこんで決定する。**
「ダビングモード」実行画面を消しているときは、i.LINK再生ボタンを押して「ダビングモード」実行画面を表示させてから、手順1を行ってください。

2 **△/▽で「はい」ボタンを選び、真ん中を押しこんで決定する。**
ダビングが中止され、「i.LINK再生」操作画面が表示されます。

デジタルビデオカメラの映像をデジタル再生する [i.LINK再生ボタン]

「i.LINK再生」(M-MV) 操作画面を使って、MICROMV方式デジタルビデオカメラに録画された映像をデジタル再生します。
i.LINK操作画面（☞93ページ）では **「M-MV」** と表示されます。

本機で受信中のBS･110度CSデジタル放送は、i.LINK接続しても、MICROMV方式デジタルビデオカメラにデジタル録画できません。

1 [開]ボタンを押して、ふたを開ける。

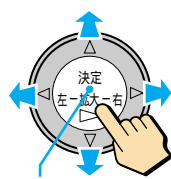
2 MICROMV方式デジタルビデオカメラの電源スイッチをビデオモードにする。

3 i.LINK再生ボタンを押す。

「i.LINK再生」操作画面が表示されます。

「i.LINK再生」操作画面

4 LINC*したい（操作したい）「M-MV」を1台選んで、決定する。

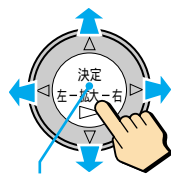
「LINC中です」と表示されて、選んだ「M-MV」に◯が付きます。

「i.LINK再生」（M-MV）
操作画面

＊ LINCについて詳しくは、「i.LINK（アイリンク）について」（☞154ページ）をご覧ください。

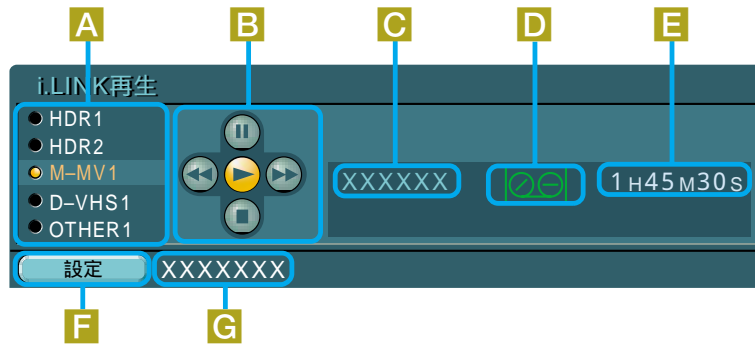
「M-MV」が表示されないときや、6台以上のi.LINK対応機器をつないでいるときは
登録機器を変更してください（☞161ページ）。

[カセットアイコン]が表示されないときは
MICROMV方式デジタルビデオカメラのカセットが正しく入っているかを確認してください。

5 「▶（再生）」ボタンを選んで、決定する。

再生が始まります。
「i.LINK再生（M-MV）」操作画面については☞93ページをご覧ください。

「i.LINK再生」操作画面を消すときは

もう1度、i.LINK再生ボタンを押す。

i.LINK操作画面について（M-MV）

A 接続機器リスト

「M-MV」の右の数字は、MICROMV方式デジタルビデオカメラの中で何番目につないだかを示します。

B 操作ボタン

△/▽/◁/▷で選び、真ん中を押しこんで決定します。

操作	ボタン
再生	▶
再生停止	■
再生一時停止	⏸
早送り再生	▶▶（押しこみ続ける）
早戻し再生	◀◀（押しこみ続ける）
早送り	▶▶（停止中に1度押しこむ）
早戻し	◀◀（停止中に1度押しこむ）

C MICROMV方式デジタルビデオカメラの製品名

D MICROMV方式デジタルビデオカメラの状態

（黒）	：	停止時
（緑）（回転）	：	再生時
（緑）（点滅）	：	再生一時停止時
（緑）（高速回転）	：	早送り再生/早戻し再生時
（黒）（高速回転）	：	早送り/早戻し時
（赤）	：	録画時*
（黄）（点滅）	：	録画一時停止時*
表示無し	：	LINCしているMICROMV方式デジタルビデオカメラの電源が入っていないとき、または、MICROMV方式デジタルビデオカメラにカセットが入っていないとき

* MICROMV方式デジタルビデオカメラで撮影中は、その映像が本機の画面に表示されます。本機のBS･110度CSデジタル放送を録画しているのではありません。

E 経過時間

0H00M00S

時間　分　秒

F 「設定」ボタン

i.LINK対応機器の登録変更などのときに使います（☞161ページ）。

G メッセージ表示部

i.LINKで操作する

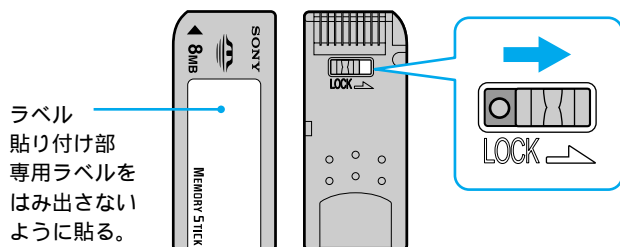
“ メモリースティック ” について

別売りの“ メモリースティック ”(“Memory Stick”、本機の画面表示では「MS」と省略) は小さくて軽いのに、フロッピーディスクより大容量のIC記録メディアです。
“ メモリースティック ”対応機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

ちょっと一言
“ メモリースティック ”、“ メモリースティック デュオ ”および MEMORY STICK は、ソニー株式会社の商標です。

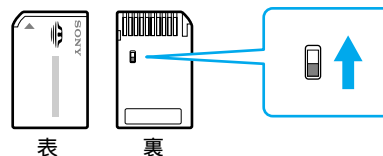
ご注意
将来発売予定の新しい“ メモリースティック ”は、本機では使えません。

“ メモリースティック ”についてのご注意

記録されている静止画像を誤って消さないためには
誤消去防止スイッチをスライドさせて、「LOCK」にする。ただし、画像の回転（☞97ページ）は、できなくなります。

以下の場合、静止画像のファイルが破壊されることがあります。破壊された場合、内容の補償については、ご容赦ください。
- 静止画像のファイルを読み込み中（アクセスランプが点滅中または画面に「アクセス中」と表示されているとき）に、“ メモリースティック ”を取り出したり、本機の電源を切ったりした場合
- 静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所で使った場合

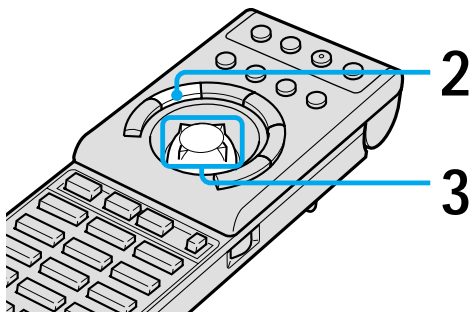
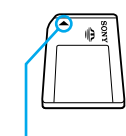
取り扱いについて
以下のことを守ってください。
- 持ち運びや保管の際は、“ メモリースティック ”に付属の収納ケースに入れる。
- 端子部に触れたり、金属を接触させたりしない。
- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしない。
- 分解したり、改造したりしない。
- 水にぬらさない。

使用場所について
以下の場所での使用や保存は避けてください。
- 高温になった車の中や炎天下など気温の高い場所
- 直射日光のあたる場所
- 湿気の多い場所や腐食性のものがある場所

“ メモリースティック デュオ ”についてのご注意

メモリースティック デュオ アダプターに取り付けて使えば、本機でも“ メモリースティック デュオ ”を使えます。
以下のことをすると、“ メモリースティック デュオ ”が壊れたり、メディアレシーバーのメモリースティック挿入口が破損したりすることがあります。
- メモリースティック デュオ アダプターを取り付けずに、“ メモリースティック デュオ ”を入れた場合
- 逆向きに無理に入れた場合

“ メモリースティック ” の静止画像を楽しむ

別売りの“ メモリースティック ”にJPEG形式*で記録された静止画像を一覧表示したり（MSインデックス）、順番に全画面で自動表示したり（MSスライドショー）、画像の向きを回転して表示したりできます。

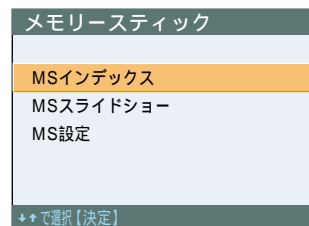
* デジタルスチルカメラなどで採用されている静止画像を圧縮する代表的な方式です。この方式を決定した団体（Joint Photographic Experts Group）の名前がそのまま使われています。

1 “ メモリースティック ”をメディアレシーバーのメモリースティック挿入口にしっかり入れる。

▲がある面を上に入れる。

奥へ押しこむとアクセスランプが点灯して消える。

ご注意

- 逆向きに無理に入れると、メモリースティック挿入口が破損することがあります。
- メモリースティック挿入口には“ メモリースティック ”以外の異物を入れないでください。故障の原因となります。

2 メモリースティックボタンを押す。

「メモリースティック」メニューが表示されます。

ご注意

2画面やメモ画面を表示しているときは、メモリースティックボタンを押しても、画面は切り換わりません。

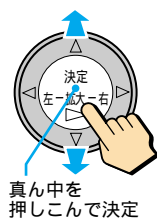
3 静止画像の楽しみかたを選ぶ

静止画像を一覧表示したり（MSインデックス）、その中の1枚を全画面表示したり、順番に全画面で自動表示したり（MSスライドショー）できます。

静止画像を一覧表示して見るには（MSインデックス）

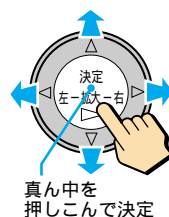
1 「MSインデックス」を選んで、決定する。

“ メモリースティック ”に入っている静止画像*を12枚ずつ一覧表示します。

* 表示できる静止画像については、☞98ページをご覧ください。

画面の表示について詳しくは、☞98ページをご覧ください。

静止画像が12枚以上あるときは

△/▽/◁/▷で「次ページ」を選び、真ん中を押しこんで決定する。
次の12枚が一覧表示されます。

2 全画面で表示したい静止画像があるときは、△/▽/◁/▷で選んで、決定する。

画像サイズに合った大きさに調整されて全画面表示される。

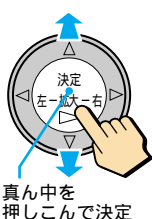
“ メモリースティック ”の静止画像を楽しむ（つづき）

ちょっと一言
全画面で表示したあとは、◁/▷で前の静止画像や次の静止画像を表示できます。

ご注意
静止画像がちらついて見えることがありますが、故障ではありません。

「MSインデックス」画面に戻るときは
もう1度、真ん中を押しこんで決定します。
「メモリースティック」メニューに戻るときは
△/▽/◁/▷で「戻る」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

静止画像を順番に自動表示するには（MSスライドショー）

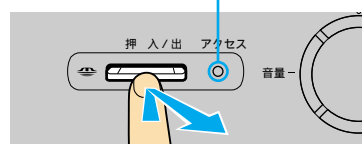
「MSスライドショー」を選んで、決定する。
最後の静止画像*を表示し終わると、自動的に最初の静止画像に戻り、再びMSスライドショーをくり返します。
* 表示できる静止画像については、☞98ページをご覧ください。

MSスライドショーを途中で止めるときは
MSスライドショー実行中に、真ん中を押しこんで決定する。
「メモリースティック」メニューが表示されます。

ちょっと一言
- MSスライドショーを自動的にくり返さないように設定できます（☞右記）。
- MSスライドショーで静止画像を表示する順番は、本機が自動的に設定するため、変更できません。ディレクトリが複数あるときも、本機が自動的に表示する順番を設定して静止画像を表示します。

ご注意
最初の静止画像の画像サイズが大きいときは、MSスライドショーの実行開始までに時間がかかることがあります。静止画像を表示する前に真ん中を押しこんで決定しても、すぐには「メモリースティック」メニューは表示されません。

ちょっと一言
- 画像サイズによって、静止画像を表示するまでの時間が異なります。
- 画像サイズについては、「本機で表示できる静止画像」（☞98ページ）をご覧ください。
- 記録日時などを画面に表示できます（☞下記）。

“ メモリースティック ”をメディアレシーバーから取り出すときは

❶ アクセスランプが赤色に点灯していないことを確認する。

❷“ メモリースティック ”を1度ゆっくり奥に押しこんで取り出す。

ご注意
“ メモリースティック ”を取り出すとき、奥に押しこんでから急に指を離さないでください。“ メモリースティック ”が飛び出すことがあります。

次のとき、“ メモリースティック ”が破損する場合があります。
- アクセスランプが赤色点灯中のときや、画面に「アクセス中」と表示されているときに、本機の電源を切る。
- 無理に引っぱり出す（メディアレシーバーのメモリースティック挿入口も破損する場合があります）。

MSスライドショーの間隔や繰り返し、ファイル情報表示を設定するには（MS設定）

1 メモリースティックボタンを押す。
「メモリースティック」メニューが表示されます。

MSスライドショーを表示しているときは
真ん中を押しこんで決定する。
MSスライドショーが終わり、「メモリースティック」メニューが表示されます。

2 △/▽で「MS設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

3 △/▽で設定したい項目を選び、真ん中を押しこんで決定する。

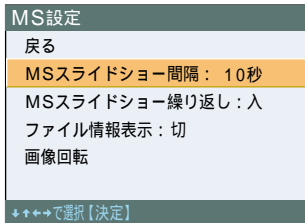
4 △/▽で設定し、真ん中を押しこんで決定する。

5 ◁を押す。

6 △/▽で「戻る」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

「メモリースティック」メニューに戻ります。

「MS設定」で設定できる項目

MS設定
戻る
MSスライドショー間隔： 10秒
MSスライドショー繰り返し：入
ファイル情報表示：切
画像回転
↓↑←→で選択 [決定]

項目	説明	選べる設定
MSスライドショー間隔	1枚ごとの表示間隔*1。	5秒/10秒/1分/5分/15分
MSスライドショー繰り返し	**「入」**：最後の画像を表示し終わると、自動的に最初の画像に戻り、再びMSスライドショーを繰り返します。 **「切」**：最初の静止画像に戻り、MSスライドショーが終わります。	入/切
ファイル情報表示	静止画像の枚数や、記録日時を画面に表示*2。	入/切
画像回転	右の「静止画像の向きを回転させたいときは」を参照。	

*1 静止画像の画像サイズが大きいときは、表示に時間がかかるため、設定どおりにならないことがあります。

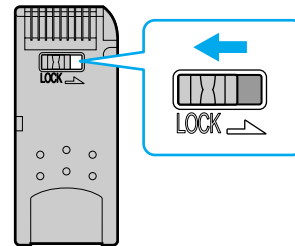
*2 MSスライドショーでの静止画像の表示やMSインデックスから拡大して表示した静止画像の画面で表示されます。

静止画像の向きを回転させたいときは

“ メモリースティック ”に記録された静止画像を、回転（90°）させて表示できます。

ご注意

- あらかじめ誤消去防止スイッチをずらして、「LOCK」を解除しておいてください。
- 他機で撮影した静止画像によっては、「LOCK」を解除しても回転できないことがあります。

“ メモリースティック ”裏

1 メモリースティックボタンを押す。

2 △/▽で「MS設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

3 △/▽で「画像回転」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

4 △/▽/◁/▷で回転させる静止画像を選び、決定する。

真ん中を押しこんで決定するたびに、右方向に90°ずつ回転します。

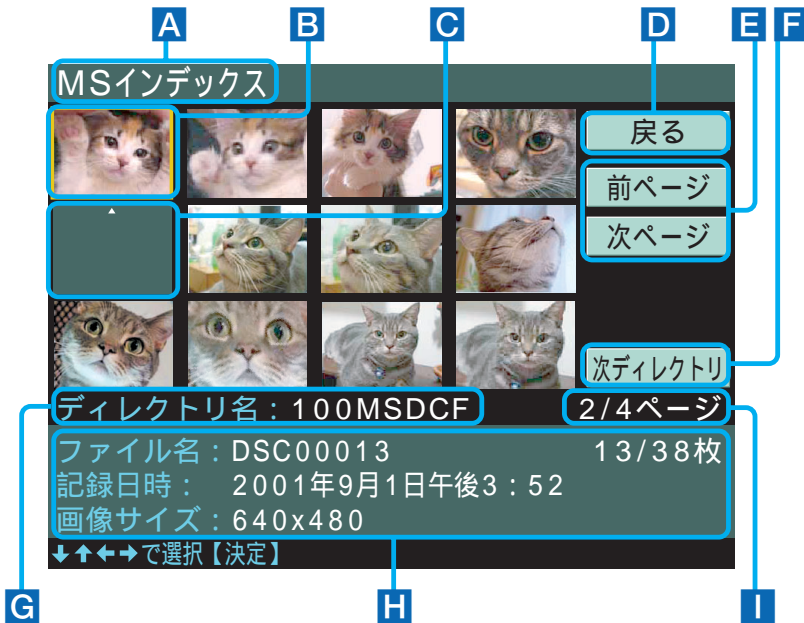
右方向に90°ずつ回転

ちょっと一言

1度回転させた静止画像の情報は“ メモリースティック ”に記録されるため、次に表示するときは自動的に回転して表示されます。

次のページにつづく

“ メモリースティック ”の静止画像を楽しむ（つづき）

静止画像の表示画面について

A 静止画像の向きを回転して表示させるとき（☞97ページ）は、「MSインデックス」のかわりに「画像回転」と表示され、背景が白色になります。

B 選んでいる静止画像
□（カーソル）は、リモコンの△/▽/◁/▷で移動できます。

C 一覧表示できない静止画像（☞下記）

D 「戻る」ボタン
「メモリースティック」メニューへ戻ります。

E 「前ページ」/「次ページ」ボタン
静止画像が12枚以上あるときに、前後の12枚を一覧表示します。

F 「前ディレクトリ」/「次ディレクトリ」ボタン
“メモリースティック”にディレクトリが複数あるときのみ表示される。他のディレクトリを選べます。

G ディレクトリ名（☞下記）

H 選んでいる静止画像の情報
画像サイズ：
横×縦のドット（点）数が表示されます。静止画像は、いくつかのドット（点）で構成され、その数が多いほど画像サイズが大きくなります。
枚数表示：
選んでいるディレクトリ内の枚数を表示します。左の例では、38枚中の13枚目を表します。

I 表示ページ

本機で表示できる静止画像

デジタルスチルカメラやデジタルビデオカメラレコーダーなど“ メモリースティック ”対応機器で“ メモリースティック ”にJPEG形式*1で記録された静止画像を見ることができます。

圧縮形式　　　：JPEG形式
ファイル名形式　：DCF規格*2

*1　デジタルスチルカメラなどで採用されている静止画像を圧縮する代表的な方式です。この方式を決定した団体（Joint Photographic Experts Group）の名前がそのまま使われています。

*2　（社）電子情報技術産業協会にて制定された統一規格“ Design rules for Camera File sysetms ”のことです。

ちょっと一言

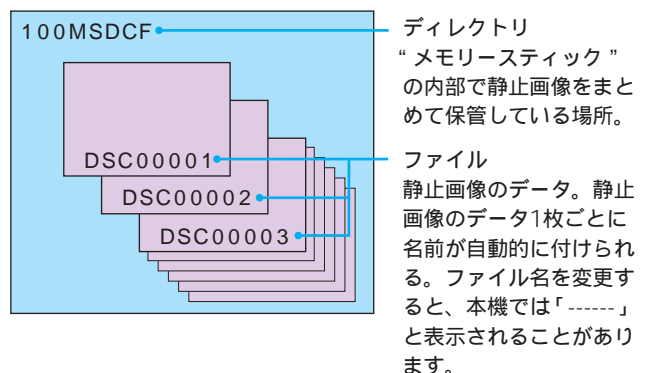
- 画像サイズが小さいJPEG画像は、本機が表示に適した大きさに拡大して表示します。
- 画像サイズの横が1545ドットまたは縦が870ドット以上の大きいJPEG画像は、そのまま表示すると画面に入らないため、本機では画面に入る大きさに縮小して表示します。

本機で表示できない静止画像

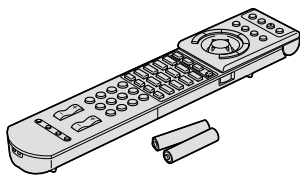
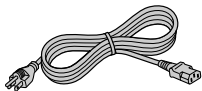
- TIFF形式など、JPEG形式以外の圧縮方式を使った静止画像
- DCF規格に対応していない以下の機器で記録された静止画像
  ーデジタルスチルカメラDSC-D700、DSC-D770
  ーデジタルビデオカメラDCR-TRV900
- JPEG形式であっても、以下の変更をした静止画像
  ーパソコンで加工した静止画像
  ーパソコンでファイル名やディレクトリ名を変更した静止画像
  ーパソコンでフォーマット（初期化）した“ メモリースティック ”の静止画像
- 画像サイズの横または縦が16ドットより小さいとき
- 画像サイズの横または縦が4096ドットより大きいとき

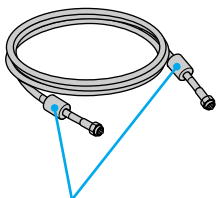
“ メモリースティック ”には、次のように静止画像が記録されています。
下の図は、ソニー製のデジタルスチルカメラやデジタルビデオカメラレコーダーなどで記録した場合の“ メモリースティック ”の内容を示しています。
“メモリースティック”に静止画像を記録すると、ディレクトリの中に静止画像がファイルとして保管されていきます。このとき、ディレクトリとファイルにはDCF規格に基づいて、自動的に名前が付きます。
パソコンでファイル名やディレクトリ名などを変更しないでください。変更すると、静止画像を表示できない場合があります。

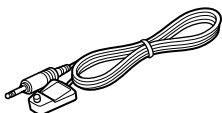
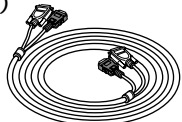
ディレクトリ
“ メモリースティック ”の内部で静止画像をまとめて保管している場所。

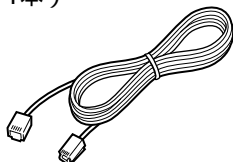
ファイル
静止画像のデータ。静止画像のデータ1枚ごとに名前が自動的に付けられる。ファイル名を変更すると、本機では「------」と表示されることがあります。

準備1：付属品を確かめる

箱を開けたら、付属品がそろっているか確かめてください。

リモコン（1個）と単4型乾電池（2個）

電源コード（2本）

変換プラグアダプター（2個）

VHF/UHF用**アンテナ接続ケーブル（1本）**

ディスプレイ用
AC**プラグホルダー（1個）**

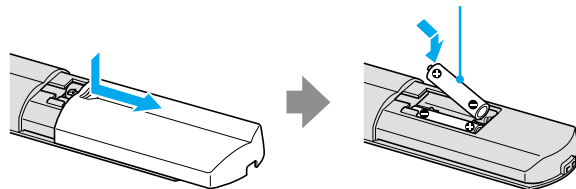
AV**マウス（1本）**

ディスプレイケーブル（1本）

モジュラーテレホンコードカプラー（1個）

テレホンコード（10m**）（1本）**

クリーニングクロス（1枚）

B-CAS（ビーキャス）**カード**
　（BS・110**度**CS**デジタル放送用**IC**カード）と**
　B-CAS**用ユーザー登録はがき台紙**
取扱説明書
簡単操作ガイド
保証書
ソニーご相談窓口のご案内
安全のために
（各1部）

別売りアクセサリーについて

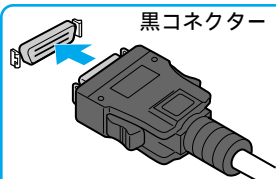
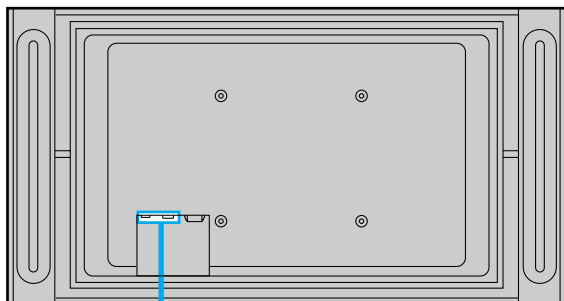
他機との接続（☞139〜153ページ）には、別売りアクセサリーが必要です。
本書記載の別売りアクセサリーは、2002年9月現在のものです。万一、品切れや生産完了のときはご容赦ください。

リモコンに電池を入れるには

準備2：ディスプレイにディスプレイケーブルをつなぐ

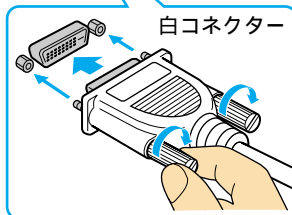
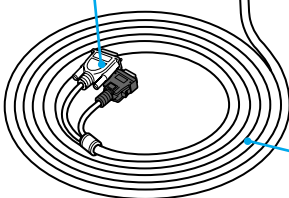
付属のディスプレイケーブルをディスプレイにつなぐ

コネクターのネジは、がたがでない程度に締めてください。過度の締めつけは、ネジの破損の原因となります。

ディスプレイ後面

黒コネクター

カチッと、ツメがかかるまで差し込んでください。

BLACK WHITE
DISPLAY SIGNAL IN

白コネクター

メディアレシーバーへ

ディスプレイケーブル（付属）

準備3：ディスプレイをスタンドに設置する

必ず下記の別売りスタンドや壁掛けユニットをご使用のうえ、設置してください。

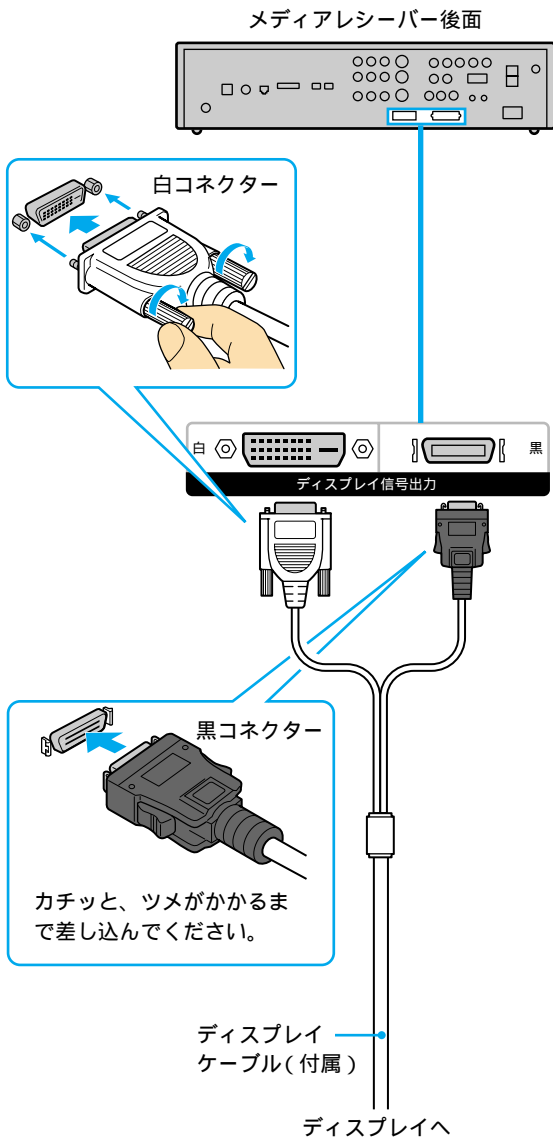
- フローティングスタンド
  SU-PF1
- 壁寄せスタンド
  SU-PC1
- テーブルトップスタンド
  KDE-P42HX1用：SU-P42T1
  KDE-P50HX1用：SU-P50T1
- 壁掛けユニット
  SU-PW1

また、各スタンドごとに設置方法や設置手順が異なります。詳しくは、各スタンドや壁掛けユニットの取扱説明書をお読みのうえ、正しい手順に従って設置してください。

壁掛けユニットの取り付けは販売店や工事店にご依頼ください。

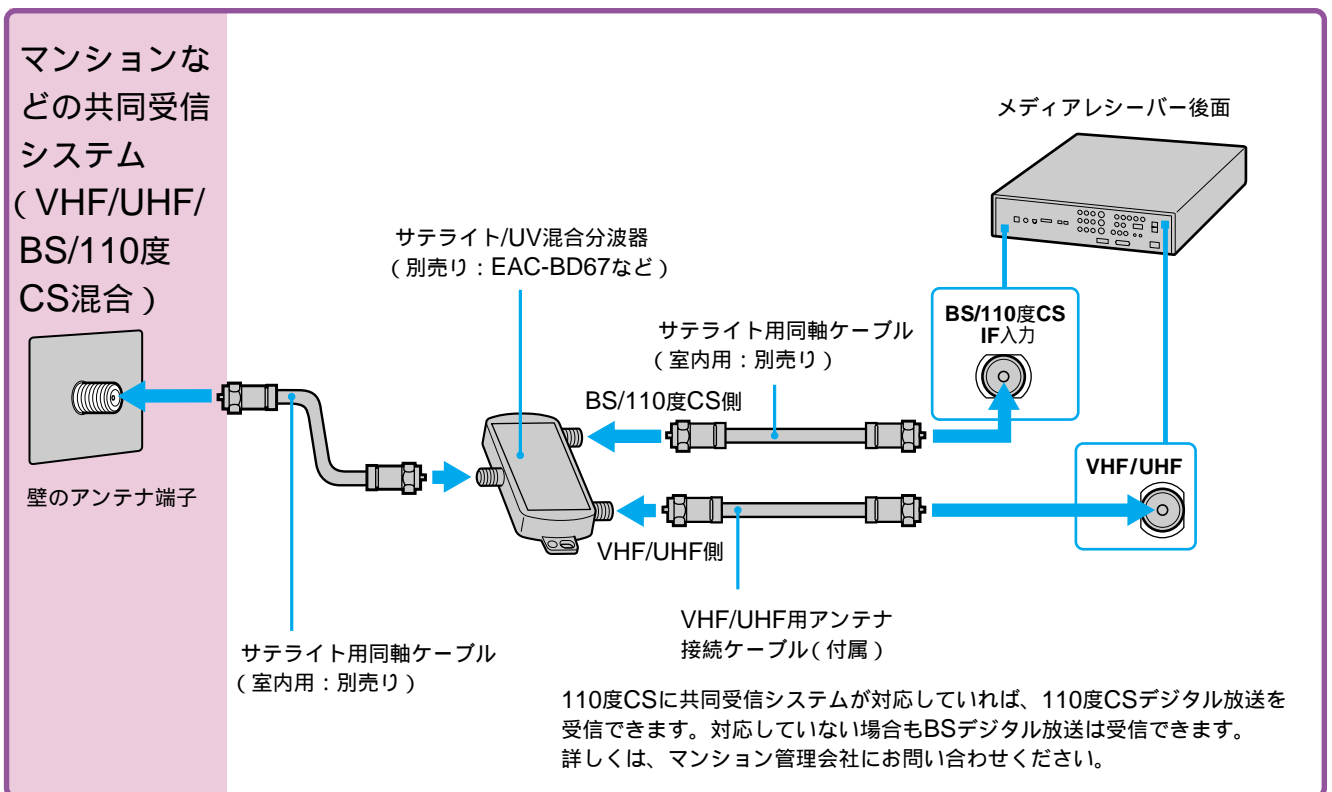
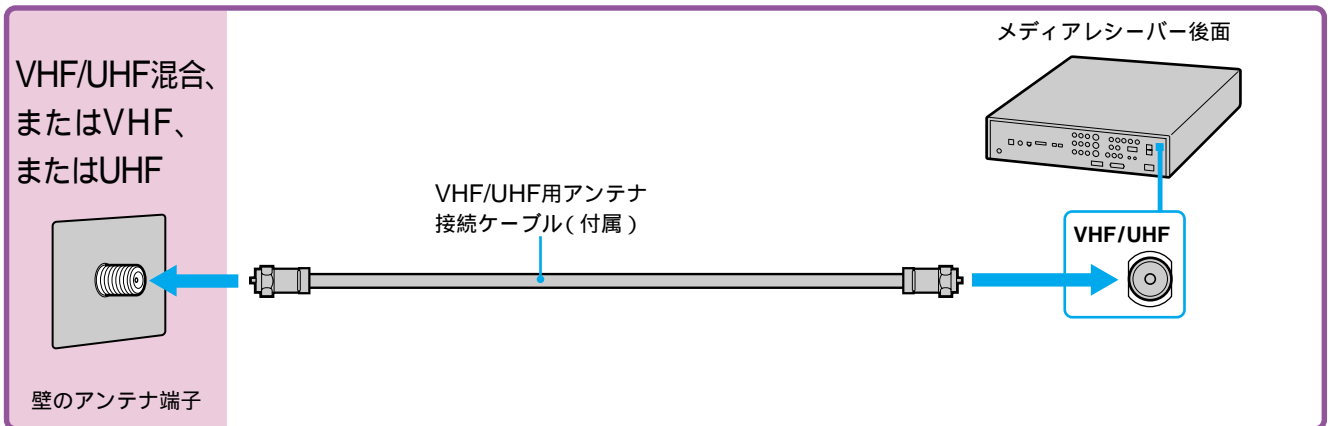
準備4：メディアレシーバーにディスプレイケーブルをつなぐ

付属のディスプレイケーブルをメディアレシーバーにつなぐ

コネクターのネジは、がたがでない程度に締めてください。過度の締めつけは、ネジの破損の原因となります。

ちょっと一言

メディアレシーバーとディスプレイを離して設置するときは、別売りのディスプレイケーブルVMC-P10を使うと10mまで離せます。

準備5：テレビ（地上波）アンテナをつなぐ

テレビアンテナのつなぎかたは、壁のアンテナ端子の形や、使うケーブルによって異なります。下の例から最も近いものを選び、つないでください。
いずれにも当てはまらない場合は、販売店などにご相談ください。

きれいな画像をお楽しみいただくために

本機には、多くのデジタル回路による新テクノロジーが搭載されています。このため、安定した画像をお楽しみいただくためにはアンテナの接続状態がとても重要です。下記のようにアンテナの接続と設置を確実に行い、電波妨害を受けにくい安定した受信状態を確保してください。

- メディアレシーバー後面のVHF/UHF端子への接続は、アンテナ線がフィーダー線または同軸ケーブルのどちらであっても、必ず付属のアンテナ接続ケーブルを使ってください。
- アンテナ線は他の電源コードや接続ケーブルからできるだけ離してください。
- 室内アンテナは特に電波妨害を受けやすいため、使わないでください。

デジタルCS放送*を含めた共同受信システムのときは

お住まいのマンションの共同受信システムによって、壁のアンテナ端子への接続のしかたが異なります。マンション管理会社（または管理人や管理組合など）に、共同受信システム方式を確認して、その指示に従って、接続および受信方法の設定（☞115ページ）を行ってください。

ご注意

- フィーダー線は同軸ケーブルよりも雑音電波などの影響を受けやすいため、信号が劣化します。万一、フィーダー線をご使用になる場合は、本機からできるだけ離してください。
- BS/110度CS IF入力端子には、必ずサテライト用同軸ケーブル（室内用：別売り）をつないでください。BS/110度CS IF入力端子からは衛星アンテナ用の電源（DC 15V）が供給されているため、サテライト用同軸ケーブル以外のケーブルをつなぐと、ショートして火災などの原因となります。
- サテライト分配器を使って複数のBS機器をつなぐときは、別売りのEAC-BD12またはEAC-BD13などを必ずお使いください。特定の端子からのみ衛星アンテナ電源を供給するサテライト分配器を使うと、 BSアナログチューナー内蔵ビデオでも、本機の電源を入れないと衛星放送を録画できないなどの不都合が生じます。

ちょっと一言

マンションなどの共同受信システムで、BS放送のアンテナレベルが低いときは、サテライトブースターをつなぐなど、信号の流れを見直す必要があります。マンション管理会社（または管理人や管理組合など）に確認してください。

* スカイパーフェクTV! のことです。110度CSデジタル放送ではありません。

準備6：衛星アンテナをつなぐ

衛星アンテナをメディアレシーバーに直接つなぎます。衛星アンテナの設置には技術が必要なため、お買い上げ店などに依頼することをおすすめします。
マンションなどの共同受信システムなどVHF/UHF/BS/110度CS混合のときは、☞102ページをご覧ください。
本機の電源コードは、すべての接続が終わってからつないでください。

110度CSデジタルを受信するには

110度CSに衛星アンテナや分配器、ブースター（増幅器）、および共同受信システムが対応していれば、110度CSデジタル放送を受信できます。対応していない場合もBSデジタル放送は受信できます。詳しくは、お買い上げ店か、マンション管理会社にお問い合わせください。

ご注意

- **BS/110度CS IF入力端子には、必ずサテライト用同軸ケーブルをつないでください。**BS/110度CS IF入力端子からは衛星アンテナ用の電源（DC 15V）が供給されているため、サテライト用同軸ケーブル以外のケーブルをつなぐと、ショートして火災などの原因となります。
  推奨ケーブル
  – 室外用防水型：SAK-C10/C20/C30など

- 次のようなときはBSや110度CSを受信できなかったり、受信状態が悪かったりしますが、故障ではありません。
  – お住まいの地域またはBSや110度CSを送信する放送衛星会社、衛星サービス会社（☞14ページ）の地域が雷雨、強風などの悪天候のとき
  – 衛星アンテナに雪が付着しているとき
  – 強風などでアンテナの向きが変わったとき（衛星アンテナの向きを調整してください。☞116ページ）
- サテライト分配器を使って複数のBS機器をつなぐときは、別売りのEAC-BD12またはEAC-BD13などを必ずお使いください。

すでにBSアナログ放送をご覧いただいているときは

お持ちの衛星アンテナの向きを変えることなく、そのままBSデジタルもBSアナログもそれぞれに対応したBSチューナーで受信できます。
ただし、一部の衛星アンテナでは、性能の劣化やデジタル化に必要な性能が確保されていないこともあります。受信状況が悪い場合は、衛星アンテナ製造元のお客様窓口や、衛星アンテナを購入した電気店などにお問い合わせください。

マンションなどの共同受信システムのときは

壁のアンテナ端子ひとつでBS･110度CS放送とテレビ放送を受信できる共同受信システムのときは、BS･110度CS放送とテレビ放送を分波して接続してください。
接続のしかたについて詳しくは、「準備5：テレビ（地上波）アンテナをつなぐ」の☞102ページをご覧ください。
また、「（メニュー切換）」メニューで「（初期設定）」を選び、「衛星設定」で「衛星アンテナ設定」を「切」にしてください（☞115ページ）。

ケーブルテレビに加入されているときは

受信契約をされているケーブルテレビ放送会社に、BSデジタル放送や110度CSデジタル放送に対応しているかを確認してください。ケーブルテレビ放送会社が対応していれば、BS･110度CSデジタルはご覧いただけます。詳しくは、ケーブルテレビ放送会社にお問い合わせください。

デジタルCS放送*を含めた共同受信システムのときは

お住まいのマンションの共同受信システムによって、壁のアンテナ端子への接続のしかたが異なります。マンション管理会社（または管理人や管理組合など）に、共同受信システム方式を確認して、その指示に従って、接続および受信方法の設定（☞102、115ページ）を行ってください。

* スカイパーフェクTV! のことです。110度CSデジタル放送ではありません。

接続

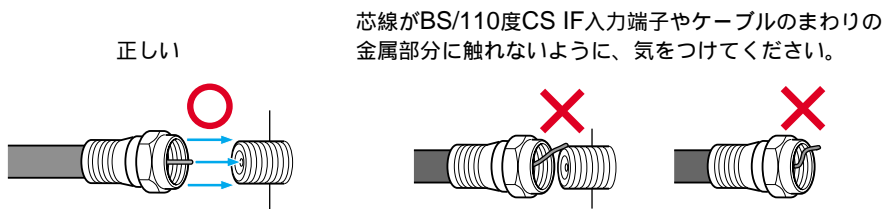
「取扱説明書をご覧いただき、BSアンテナ電源（コンバーター電源）を確認してください」という表示が出たら

「（メニュー切換）」メニューの、「（初期設定）」の中にある「衛星設定」で、「衛星アンテナ設定」が自動的に「切」になります。

1　いったんメディアレシーバーの電源スイッチで電源を切る。

2　以下のことを確認する。

- サテライト用同軸ケーブルの芯線が、BS/110度CS IF入力端子やケーブルのまわりの金属部分に触れていないか確認してください。

芯線がBS/110度CS IF入力端子やケーブルのまわりの金属部分に触れないように、気をつけてください。

- サテライト用同軸ケーブルをアンテナコネクターでつないでいるときは、アンテナコネクターの芯線が、BS/110度CS IF入力端子やコネクターのまわりの金属部分に触れていないか確認してください。
それでも表示が消えないときは、アンテナコネクターのふたを開けて、内部を確認してください。

3　再び電源を入れたあと、「（メニュー切換）」メニューで「（初期設定）」を選び、「衛星設定」で「衛星アンテナ設定」を設定する（☞115ページ）。

「オート」または**「入」**：衛星アンテナを本機につないでいるとき。
「切」：マンションなどの共同受信システムのとき。

準備7：電話回線につなぐ

次のときのために、**必ずメディアレシーバーを電話回線につなぐ必要があります。**

- B-CAS（ビーキャス）カードに記憶された番組購入・契約状況などの情報を、電話回線を通じて定期的に本機から放送局へ自動送信するため
- ペイ・パー・ビュー（PPV）契約をして、番組単位で購入するとき（☞47ページ）
- BS･110度CSのデータ放送を見ているときに、放送局と通信を行うとき（☞17、19ページ）（通信中は、メディアレシーバー前面の通信ランプが点灯します。）

ご注意

次の電話回線には、つなげません。

- 公衆電話および、共同電話、地域集団電話
- 携帯電話および、PHS、自動車電話
- 船舶電話
- 外線に電話するときに、電話番号の頭に「0」または「9」以外の数字を付けるとき

ちょっと一言

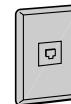
番組購入・契約状況などの情報の送受信について

- 購入情報などの送受信中には、メディアレシーバー前面の通信ランプが点灯します。
- 本機が電源スタンバイ（電源/スタンバイランプが赤く点灯）のまま、自動的に購入情報などを送受信することがあります。
- 購入情報などの送信には、1回あたり約30秒程度かかります。このときは、メディアレシーバー前面の通信ランプが点灯し、電話がかかってきたときは話し中になります。
- 本機が放送局と、購入情報などを送受信しているときは、電話機やファクシミリなど同一回線上の通信機器は使えません。
  その際、一部の通信機器で呼び出し音が鳴ることがあります。このときは、付属のモジュラーテレホンコードカプラーのかわりに、別売りの自動転換機TL-P20を使ってください。なお、パソコンなどをお使いの場合は、高速データ通信用自動転換器SMD-AP20（2口用）をご使用ください。
  また、このときに緊急に電話をかけたいときなどは、メディアレシーバーの電源スイッチを押して主電源を切ってください。
- BS･110度CS放送局へ登録などができないときは、NTTに問い合わせて、「回線ごと非通知設定」を解除してください。
- 電話機やファクシミリを使っているときは、購入情報などの送受信はできません。

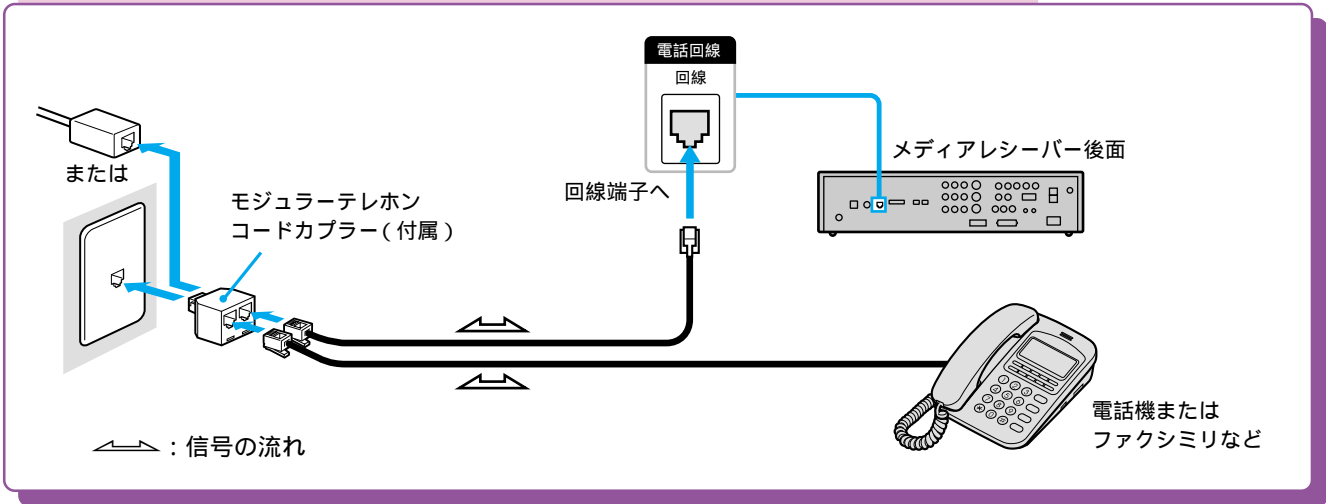
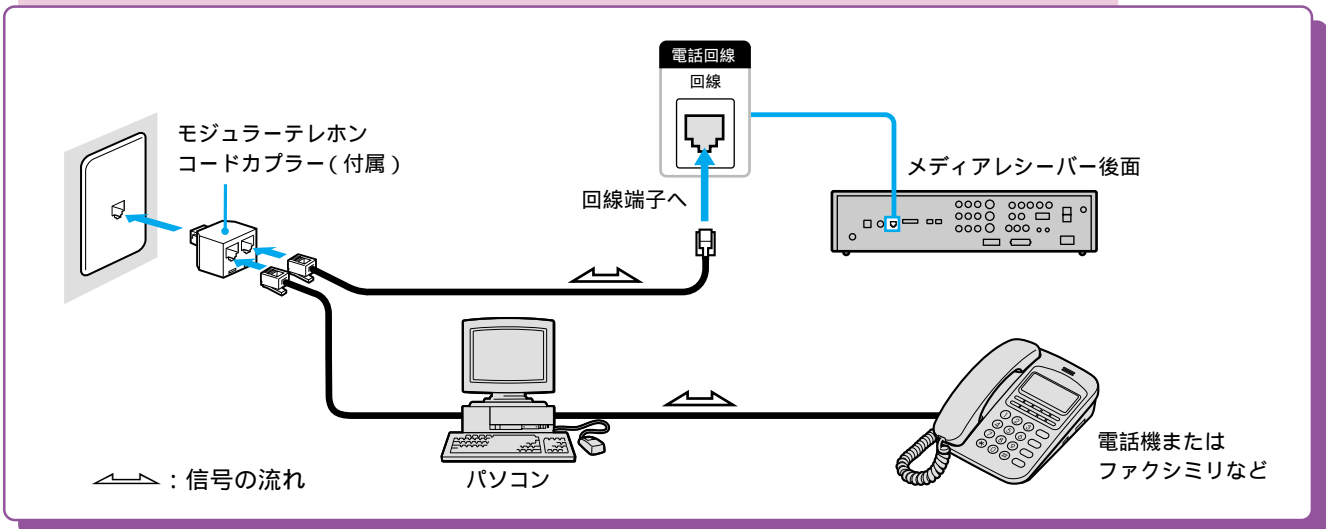
電話回線の使用状況に合わせてつなぐ

お住まいの電話回線の状況を次ページから選んで、つないでください。

また、**壁の電話コンセントがモジュラージャック式でないときは「その他のとき」（☞109ページ）をご覧ください。**

モジュラージャック

ご注意

ホームテレホンのときは、壁の電話コンセントがモジュラージャック式でも専門業者による工事が必要です。

壁の電話コンセントから電話を直接つないでいるとき

壁の電話コンセントからパソコンなどをつないでいるとき

ちょっと一言

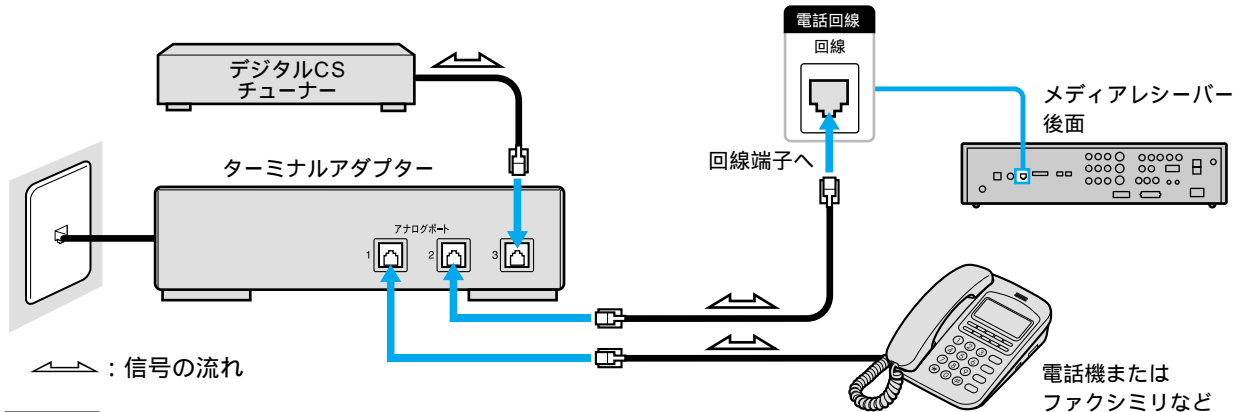
パソコンなどの通信や、すでに電話機やファクシミリなど通信機器を2台以上電話回線につないでいるときは、接続された通信機器がお互いに影響しあって、通信がうまくできないことがあります。このときは、付属のモジュラーテレホンコードカプラーのかわりに、別売りの高速データ通信用自動転換器SMD-AP20（2口用）やSMD-AP300（3口用）を使ってください。

接続

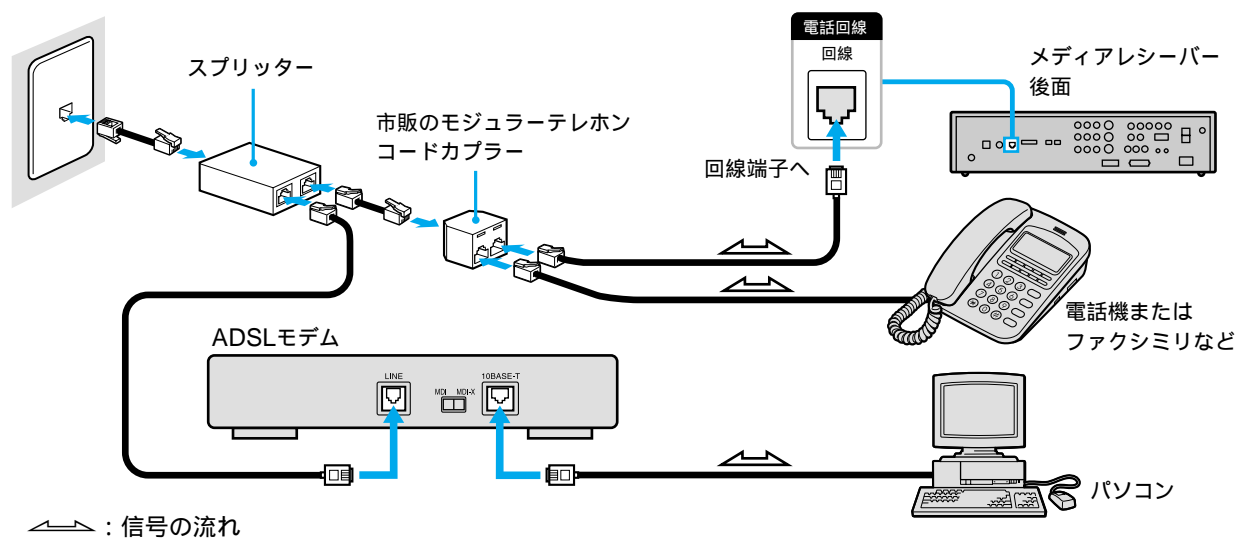
次のページにつづく

準備7：電話回線につなぐ（つづき）

ISDN回線を使っているとき

お手持ちのターミナルアダプターやダイヤルアップルーターのアナログポートに直接、メディアレシーバーをつないでください。

ご注意

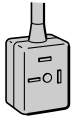
- アナログポートには、付属のモジュラーテレホンコードカプラーをつながないでください。2分配すると、正しく本機が働かないことがあります。
- ISDN回線端子に付属のモジュラーテレホンコードカプラーをつながないでください。無理に押し込むと破損することがあります。
- ターミナルアダプターによっては、うまく通信できないことがあります。詳しくは、ターミナルアダプターの製造元にお問い合わせください。
- 本機の電話回線を「トーン」に設定してください（☞122ページ）。
- 別売りのコードレス通信ユニットCTU-50とは併用できません。また、別売りのコードレス通信ユニットSPP-TU1と併用するときは、うまく通信できないことがあります。

ADSL回線を使っているとき

ご注意

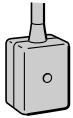
ADSLモデムとメディアレシーバーを直接つながないでください。本機はADSL回線には対応していません。

その他のとき

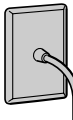
壁の電話コンセントが3ピンプラグ式のとき

3ピンプラグ式

電話コンセントと付属のモジュラーテレホンコードカプラーの間に、別売りのテレホンモジュラーアダプターTL-30をつないでください。

壁の電話コンセントがローゼット式ジャックのとき

ローゼット式

別売りのモジュラーアダプターTL-36などでつなげます。この方式の電話工事は、「工事担任者」資格者（NTT116番）に依頼してください。

壁の電話コンセントが直付けタイプのとき

直付けタイプ

「工事担任者」資格者（NTT116番）に、モジュラージャックへの変換工事を依頼してください。

壁の電話コンセントとメディアレシーバーを置く場所が離れているとき

別売りのコードレス通信ユニットCTU-50やSPP-TU1などが使えます。

壁の電話コンセントに3つの通信機器をつなぐとき

別売りのテレホンモジュラートリプルアダプターTL-23を使ってください。なお、パソコンなどをお使いの場合は、高速データ通信用自動転換器SMD-AP300（3口用）を使ってください。

壁埋め込みタイプのホームテレホン（電話機、ターミナルボックス、ドアホンアダプター）のとき

専門業者による工事が必要です。

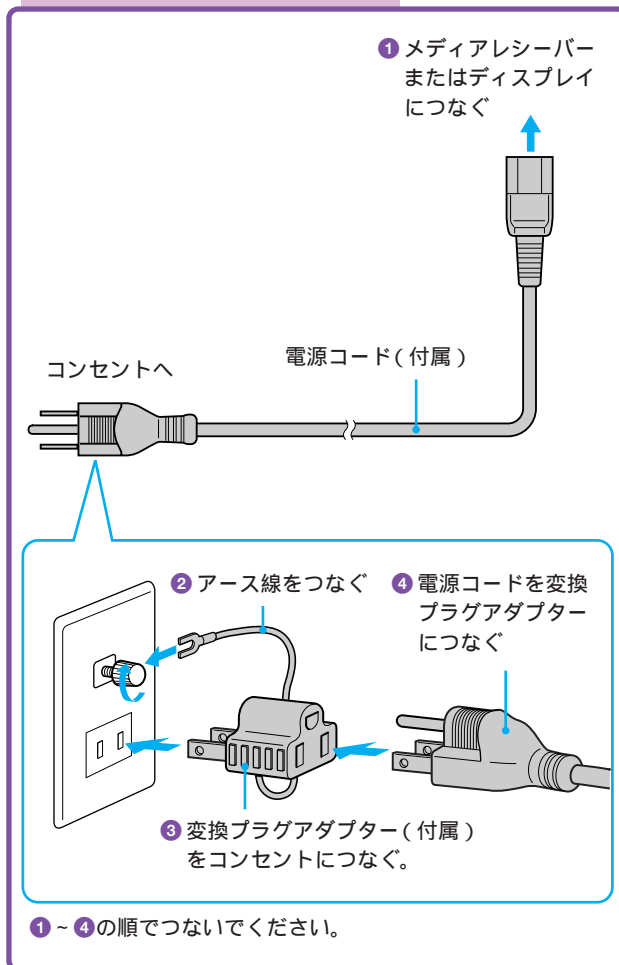
準備8：電源コードとアース線をつなぐ

すべての接続が終わってから、ディスプレイとメディアレシーバーの電源コードをつなぎます。先にディスプレイとメディアレシーバーにつないでからコンセントにつなぎます。
アースをつなぐ前に、変換プラグアダプター（付属）のアース端子の絶縁キャップをはずしてください。

ご注意

- 必ず、付属の電源コードをご使用ください。
- 壁のコンセントが2芯専用の場合は、必ずアース工事を行ってから、付属の変換プラグアダプターを使用しアースへ接続してください。
  感電の原因となりますので、アース工事は必ず専門業者にご依頼ください。
- 変換プラグアダプターを使うときは、安全のため、コンセントに変換プラグアダプターを差し込む前にアース線をアースへ接続してください。

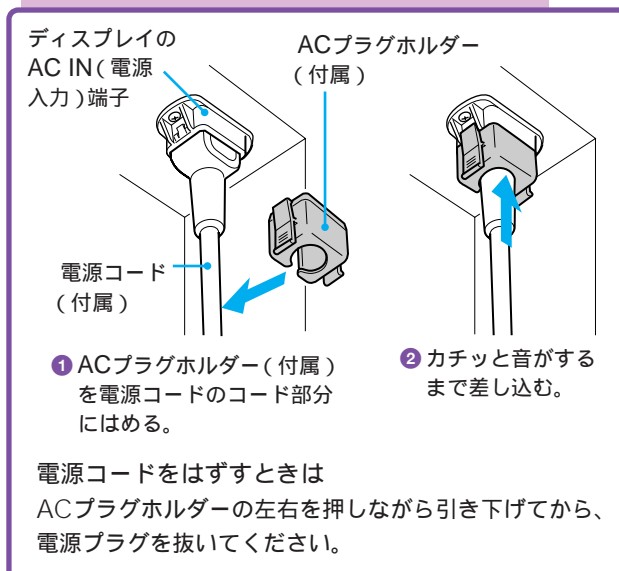
電源コードとアース線をつなぐ

❶～❹の順でつないでください。

ご注意

- 変換プラグアダプターをコンセントから抜くときは、アース線を最後にはずしてください。
- ビデオなどの機器をつなぐときは、すべての接続が終わってから、電源コードをコンセントにつないでください。

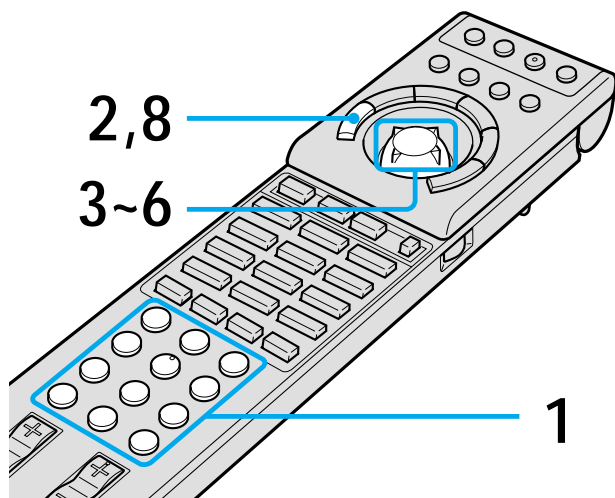
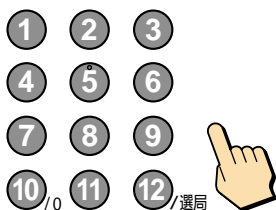
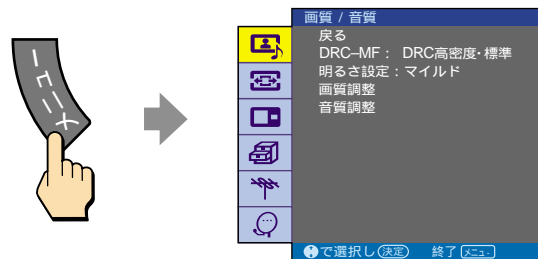
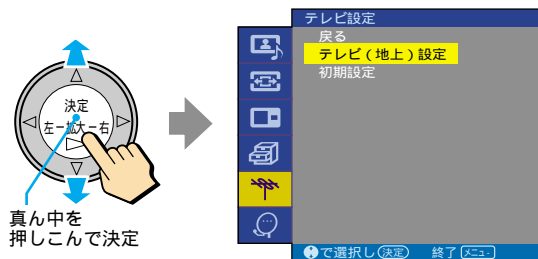
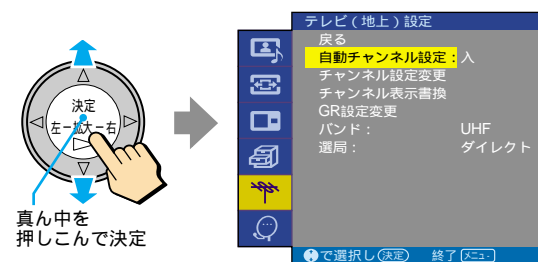
ディスプレイの電源プラグを固定する

電源コードをはずすときは

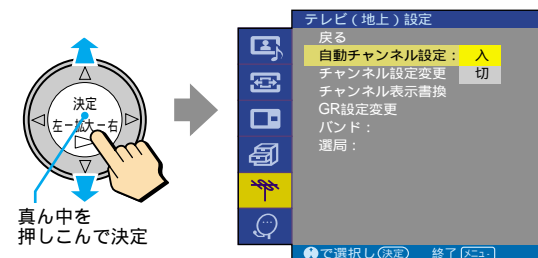
ACプラグホルダーの左右を押しながら引き下げてから、電源プラグを抜いてください。

準備9：テレビ（地上波）のチャンネルを設定する

テレビ（地上波）は、自動でも手動でも受信設定できます。初めに自動設定することをおすすめします。

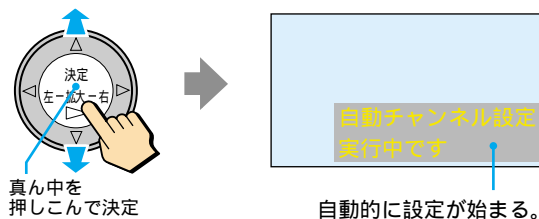
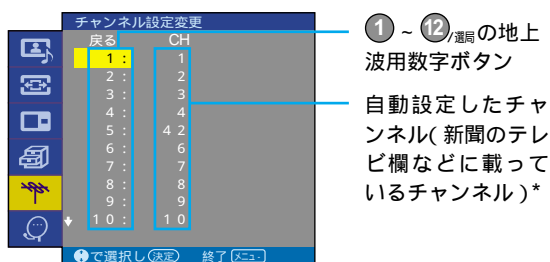
自動設定する

受信できる地上波を、①～⑫/選局の地上波用数字ボタンに自動的に設定します。地上波が放送中の時間帯に行ってください。
自動設定したチャンネルを変更したり、放送のないチャンネルをとばしたりするときは、☞113～114ページをご覧ください。

1 **地上波になっていないときは、①～⑫/選局の地上波用数字ボタンを押して、地上波に切り換える。**

2 **メニューボタンを押す。**

3 **「(テレビ設定)」を選んで、決定する。**

4 **「テレビ（地上）設定」を選んで、決定する。**

5 **「自動チャンネル設定」が選ばれていることを確認して、決定する。**

選ばれていないときは、「自動チャンネル設定」を選んで、決定する。

次のページにつづく

準備9：テレビ（地上波）のチャンネルを設定する（つづき）

6 **「自動チャンネル設定」が「入」になっていることを確認して、決定する。**

「切」になっているときは、「入」を選んで、決定する。

自動設定し終わると、下のメニューに変わります。

* 地域によっては、これまで見ていたチャンネル番号と異なる場合があります。

7 **設定されたチャンネルを確認する。**

手動で設定し直したいときは

☞113ページをご覧ください。

ゴーストの少ない画像にしたいときは

☞131ページをご覧ください。

8 **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

チャンネル設定を途中でやめるには

手順6で「自動チャンネル設定実行中です」のメッセージが出ている間に、リモコンのボタンを押す（どのボタンを押しても途中でやめられます）。

ケーブルテレビを見るには

ケーブルテレビ放送会社との受信契約が必要です。なお、ケーブルテレビを受信できない地域もあります。本機では、C13～C35までのケーブルテレビチャンネルを受信できます。
詳しくは、お近くのケーブルテレビ放送会社にお問い合わせください。

1 **ダイレクト選局になっていることを確認する（☞129ページ）。**

2 **メニューボタンを押して、メニューを出す。**

3 **△/▽で「（テレビ設定）」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

4 **△/▽で「テレビ（地上）設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

5 **△/▽で「バンド」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

6 **△/▽で「CATV」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

7 **△/▽で「チャンネル設定変更」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

8 **△/▽でケーブルテレビを映したい地上波用数字ボタンの数字をメニューから選び、真ん中を押しこんで決定する。**

9 **△/▽で「CH」の数字をケーブルテレビのチャンネルにし、真ん中を押しこんで決定する。**

ケーブルテレビのチャンネルには、表示の前に「C」がつきます。
例：C24

10 **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

ご注意

- ケーブルテレビとUHF放送を同時に受信したり、チャンネル設定したりすることはできません。
- ケーブルテレビで「10キー選局」（☞129ページ）をするときは、自動設定で受信設定をしたあと、「10キー選局」に切り換えてください。

手動設定する

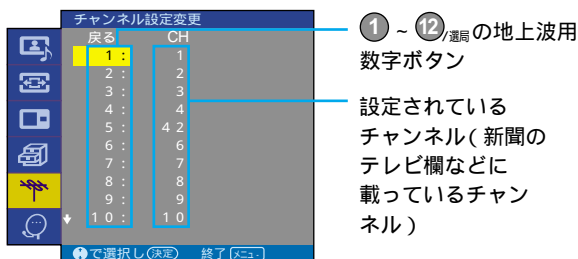
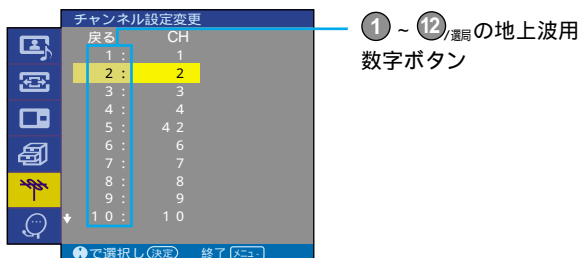
自動設定したチャンネルを変えたり、表示を書き換えたり、放送のないチャンネルをとばしたりできます。

①～⑫/選局の地上波用数字ボタンに設定したチャンネルを好きなチャンネルが映るように変えるには

1 **メニューボタンを押して、メニューを出す。**

2 **△/▽で「📡(テレビ設定)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

3 **△/▽で「テレビ(地上)設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

4 **△/▽で「チャンネル設定変更」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

5 **△/▽で変更したい地上波用数字ボタンの数字をメニューから選び、真ん中を押しこんで決定する。**

6 **△/▽で設定したチャンネルを変更し、真ん中を押しこんで決定する。**

7 **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

ちょっと一言

手動設定でケーブルテレビの受信の設定をするときは、「📡(テレビ設定)」メニューで「テレビ(地上)設定」を選び、「バンド」を「UHF」から「CATV」にしてください。詳しくは、☞112ページをご覧ください。

チャンネル表示を書き換えるには

画面に出るチャンネル表示は、新聞のテレビ欄などに載っているチャンネルになっています。これを、好きなチャンネル番号などに書き換えることができます。

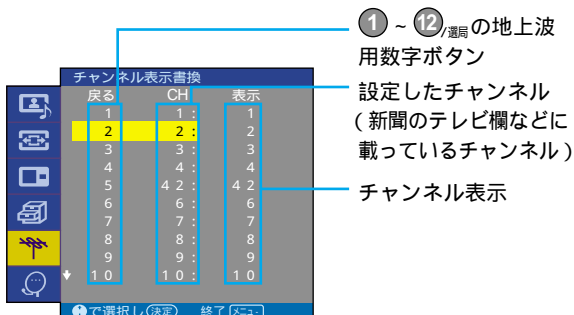
1 **メニューボタンを押して、メニューを出す。**

2 **△/▽で「📡(テレビ設定)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

3 **△/▽で「テレビ(地上)設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

4 **△/▽で「チャンネル表示書換」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

受信設定

次のページにつづく

準備9：テレビ（地上波）のチャンネルを設定する（つづき）

5 **△/▽で書き換えたいチャンネルを選び、真ん中を押しこんで決定する。**

6 **△/▽でチャンネル表示を書き換え、真ん中を押しこんで決定する。**

7 **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

ちょっと一言

チャンネルと表示が1対1で対応するように、チャンネル表示を書き換えてください。複数のチャンネルを同一のチャンネル表示にすることもできますが、おすすめしません。

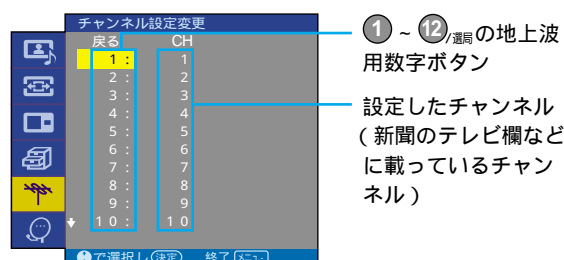
放送のないチャンネルをとばすには

チャンネル+/−ボタンで地上波のチャンネルを選ぶときに、放送のないチャンネルをとばす（選局しない）ように設定できます。

1 **メニューボタンを押して、メニューを出す。**

2 **△/▽で「（テレビ設定）」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

3 **△/▽で「テレビ（地上）設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

4 **△/▽で「チャンネル設定変更」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

5 **△/▽でとばしたいチャンネルを選び、真ん中を押しこんで決定する。**

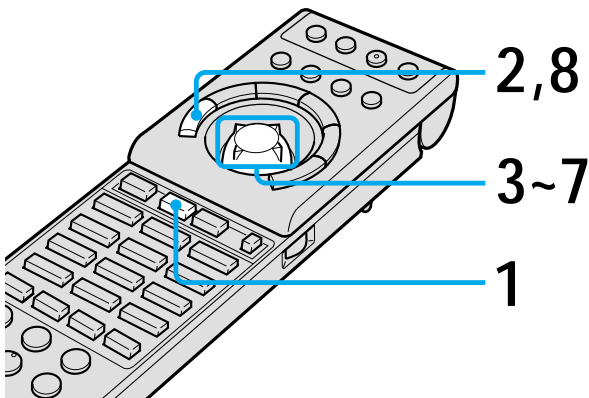
6 **△/▽で「CH」を「– –」に変えて、真ん中を押しこんで決定する。**

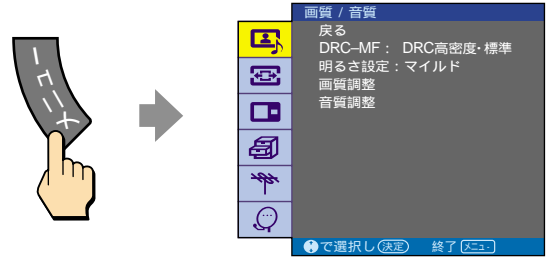
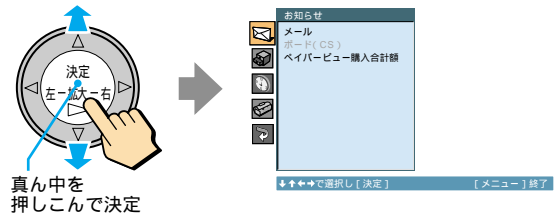
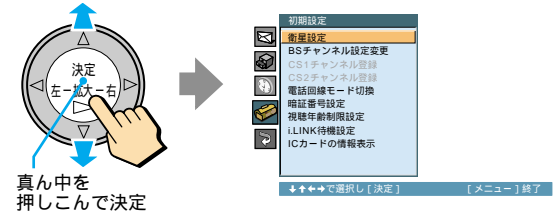
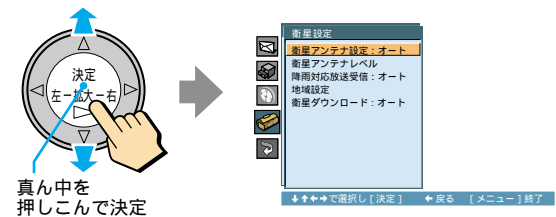
7 **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

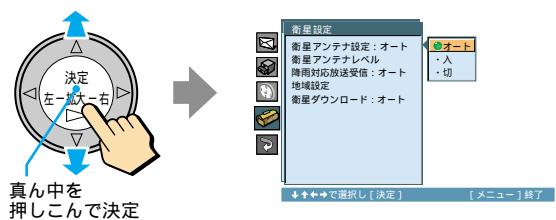
準備10：衛星アンテナの設定をする

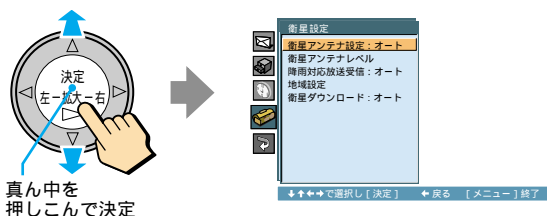
BSデジタルや110度CSデジタルを見るときは、衛星アンテナ電源（コンバーター電源）の設定と、衛星アンテナの向きの調整を行ってください。
また、お住まいの地域に特有の放送を受信するために、地域設定を行ってください。

衛星アンテナ電源を設定する

衛星アンテナのつなぎかた（マンションなどの共同受信システムか、メディアレシーバーなどに直接つないでいるかなど）に合わせて、衛星アンテナへの電源供給を設定します。

1 BSボタンを押す。

2 メニューボタンを押す。

3 「（メニュー切換）」を選んで、決定する。

4 「（初期設定）」を選んで、決定する。

5 「衛星設定」を選んで、決定する。

6 「衛星アンテナ設定」を選んで、決定する。

準備10：衛星アンテナの設定をする（つづき）

7 衛星アンテナへの電源の供給のしかたを選んで、決定する。

マンションなどの共同受信システムのときは

「切」を選んで、決定する。

衛星アンテナをつないでいるときは

「オート」（お買い上げ時の設定）または「入」を選んで、決定する。
BSが映ったり消えたりするときは「入」を選んでください。

設定	衛星アンテナへの電源供給のしかた
オート（お買い上げ時の設定）	本機の電源が入っているときに、本機が衛星アンテナに電源を供給するかどうかを自動的に判断する。本機の電源が切れているときは供給しない。
入	本機の電源が入っているときはつねに電源を供給する。本機の電源が切れているときは供給しない。
切	電源を供給しない。

ご注意

- 「オート」にしていても、衛星アンテナの電源供給システムによっては、うまく働かないことがあります。このときは「入」にしてください。
- 1本の衛星アンテナに分配器などをつないでBS電波を分け、本機と他のテレビやビデオ機器の両方でBSを受信できるようにしているときは、本機を「オート」に、他の機器を「入」（または「連動」）にしてください。このようにしないと、本機の電源を切ると他のテレビやビデオ機器から衛星アンテナに電源が供給されないことがあります。他の機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

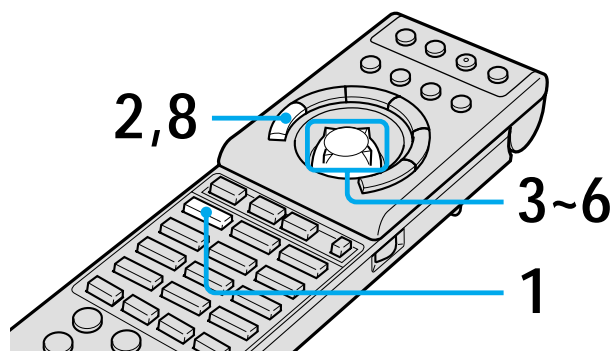
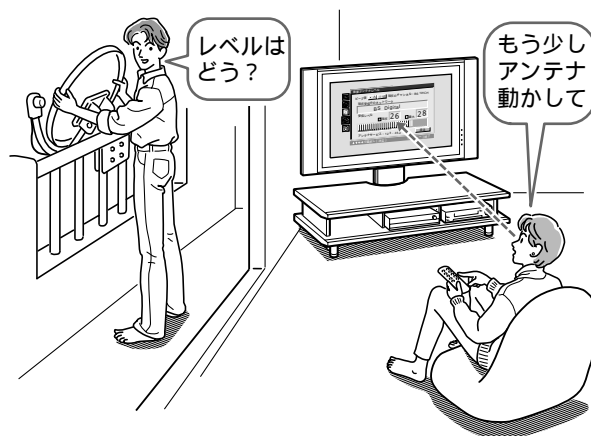
8 メニューボタンを押して、メニューを消す。

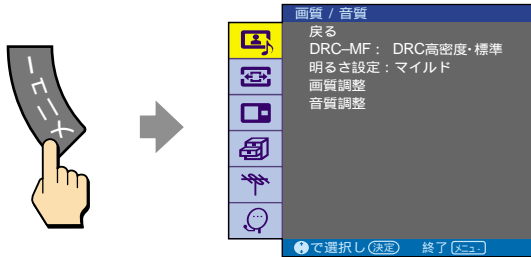
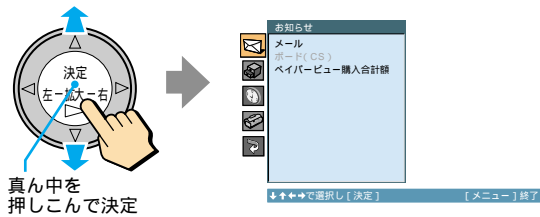
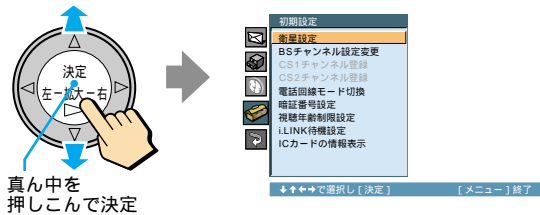
衛星アンテナの向きを調整する

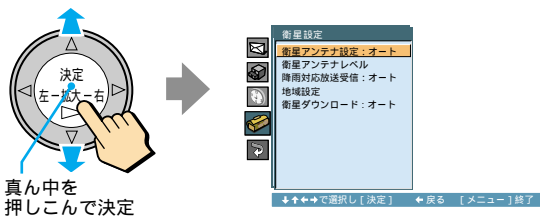
衛星アンテナをメディアレシーバーに直接つないだときは、アンテナの向きを2人で調整します。1人がテレビ画面のレベル表示を見て、もう1人が衛星アンテナを動かしながら、レベル表示が最大になるように調整します。
向きや角度については、衛星アンテナの取扱説明書もあわせてご覧ください。

一部の衛星アンテナでは、性能の劣化やデジタル化に必要な性能が確保されていないことがあります。受信状況が悪い場合は、衛星アンテナ製造元のお客様窓口や、衛星アンテナを購入した電気店などにお問い合わせください。

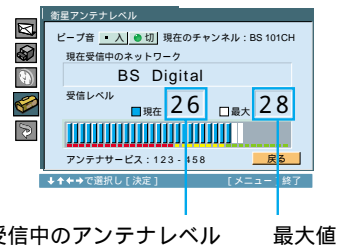
ご注意

「衛星アンテナ設定」が「切」になっているときは、「オート」または「入」にしたあと、メディアレシーバーの電源スイッチで電源を入れ直してください（☞115ページ）。

1 BS用数字ボタンの 1 を押して、NHK BS1を選局する。

2 メニューボタンを押す。

3 「(メニュー切換)」を選んで、決定する。

4 「(初期設定)」を選んで、決定する。

5 「衛星設定」を選んで、決定する。

6 「衛星アンテナレベル」を選んで、決定する。

7 衛星アンテナを動かして、アンテナレベルを調整する。

アンテナレベルが、できるかぎり最大値に近くなるように、アンテナの向きを調整し固定します。

8 メニューボタンを押して、メニューを消す。

BSテレビ（NHK BS1）の画面が映ります。画面がきれいに映らないときはソニーサービス窓口などにご相談ください。

音を聞いて調整するには

画面で確認できないときに便利です。

1 **手順6のあと、△/▽/◁/▷で「ビープ音」の「入」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

2 **手順7で最も高い音階の音になるよう、衛星アンテナを調整する。**

次のページにつづく

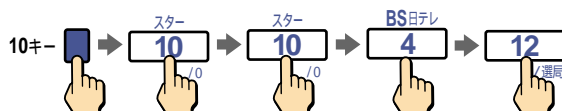
準備10：衛星アンテナの設定をする（つづき）

110度CSのアンテナレベルを確認するには

110度CSをご覧にならないときは確認する必要はありません。また、BSデジタルを受信できているときは110度CSのアンテナレベルが低くても、衛星アンテナの向きを調整する必要はありません。
あらかじめ下記を行ってください。

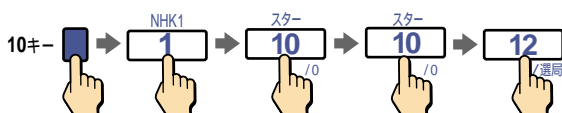
- 「衛星アンテナの向きを調整する」（☞116～117ページ）を行って、BSデジタルを受信する。
- お使いのアンテナや分配器、ブースター（増幅器）、および共同受信システムが110度CSに対応していることを確認する。

1 **CSボタンを押して、CS1に切り換える。**

2 **004chに切り換える。**

3 **☞117ページの手順2～6を行う。**
「現在受信中のネットワーク」に「PLAT-ONE」と表示されます。

4 **アンテナレベルがBSデジタル（☞117ページ）と同等か確認する。**
プラットワンに視聴申し込みをしていないときは、放送は映りませんが、アンテナレベルは確認できます。

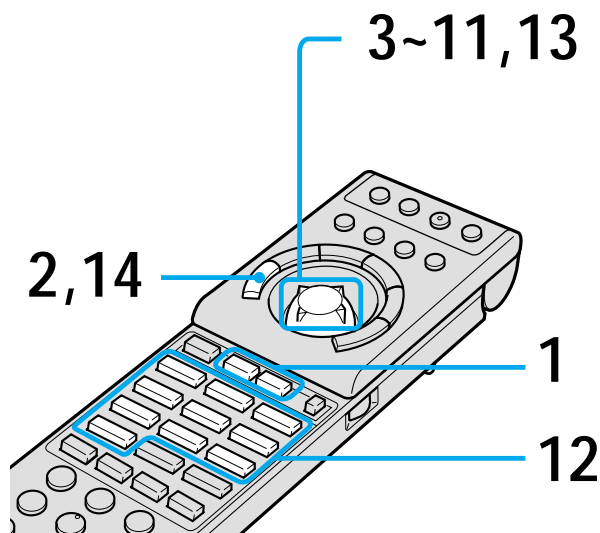
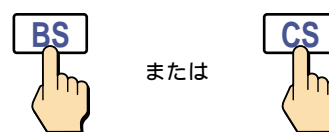
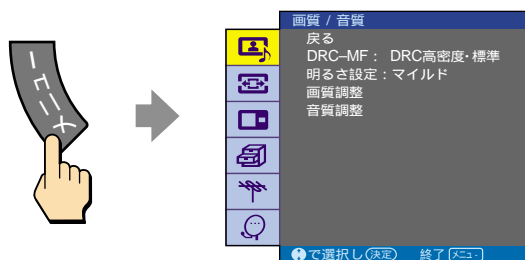
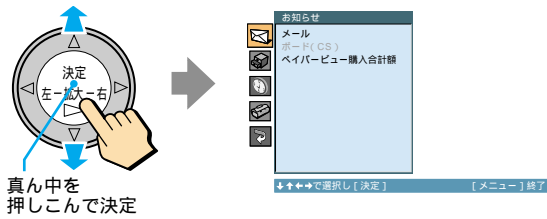
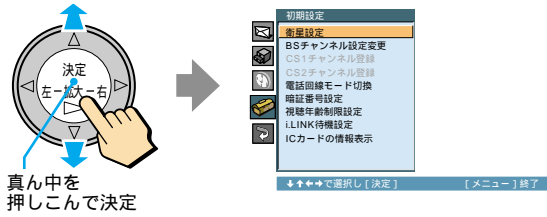
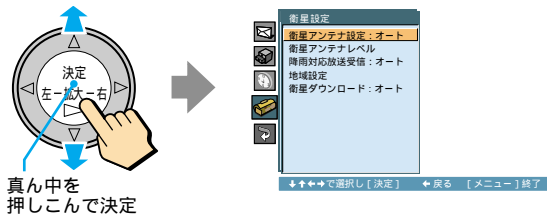
5 **CSボタンを押して、CS2に切り換える。**

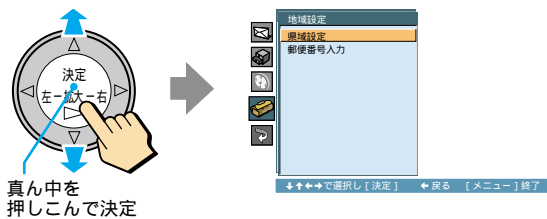
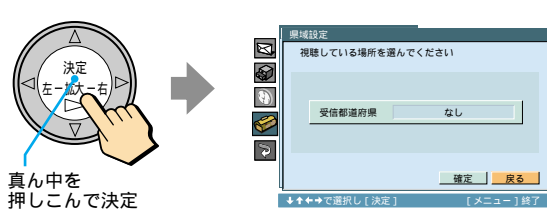
6 **100chに切り換える**

「現在受信中のネットワーク」に「SkyPerfec TV！2」と表示されます。

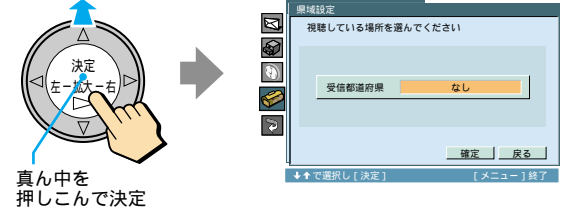
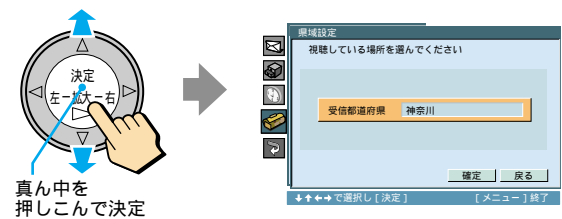
7 **スカイパーフェクTV！2の100ch（プロモチャンネル）が映るか確認する。**

ご注意
110度CSの映らないチャンネルがあるときや、画像が乱れるときは、アンテナや分配器、ブースターなどが110度CSに対応していないことがあります。詳しくは、お買い上げ店か、マンション管理会社にお問い合わせください。

お住まいの地域に設定する

BS･110度CSでは、地域ごとに特有の放送が行われる場合があります。お住まいの地域の放送を受信できるように、地域設定を行っておく必要があります。

1 **BSまたはCSボタンを押す。**

2 **メニューボタンを押す。**

3 「(メニュー切換)」を選んで、決定する。

4 「(初期設定)」を選んで、決定する。

5 「衛星設定」を選んで、決定する。

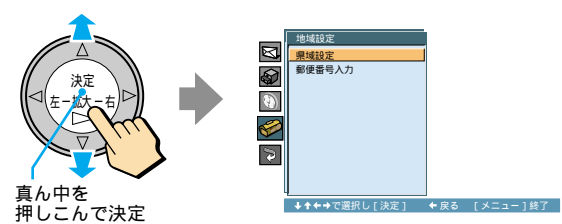
6 「地域設定」を選んで、決定する。

7 「県域設定」が選ばれていることを確認して、決定する。

8 「受信都道府県」を選んで、決定する。

都道府県名の表示欄がオレンジ色になります。

9 お住まいの都道府県名を選んで、決定する。

ちょっと一言

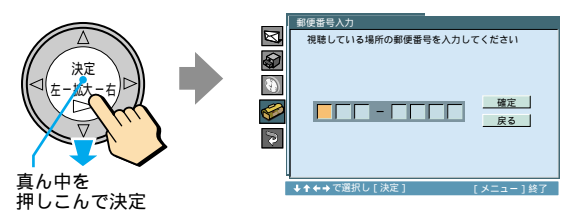
「東北海道」と「西北海道」は下記の地域です。

「東北海道」：宗谷、上川、留萌、網走、根室、釧路、十勝の各支庁

「西北海道」：石狩、空知、後志、胆振、日高、渡島、桧山の各支庁

10 「確定」を選んで、決定する。

11 「郵便番号入力」を選んで、決定する。

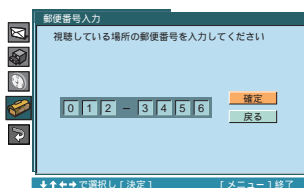
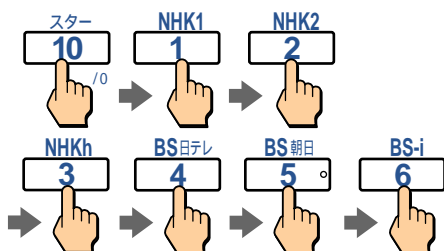
次のページにつづく

受信設定

準備10：衛星アンテナの設定をする（つづき）

12 **1 〜 10/0 までのBS用数字ボタンで、お住まいの地域の郵便番号7桁を入力する。**

「0」を入力するときは、10/0 ボタンを押す。

郵便番号を間違えたときは◁で戻り、入力し直してください。

例：郵便番号が 012-3456

ご注意

お住まいの地域の郵便番号7桁を正しく入力してください。間違った郵便番号を入れると、お住まいの地域に密着した情報が受信できなかったり、お住まいでない地域の情報を誤って受信したりするためです。

ちょっと一言

郵便番号を入力するときは、リモコンの△/▽/◁/▷決定ボタンでも行えます。◁/▷で入力する桁を選び、△/▽で0〜9の数字が選べます。▷ボタンを押すと、数字が決定して次の桁に移動します。7桁すべての数字を入力したら、「確定」が選ばれていることを確認して、真ん中を押しこんで決定します。

13 **「確定」が選ばれていることを確認して、決定する。**

14 **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

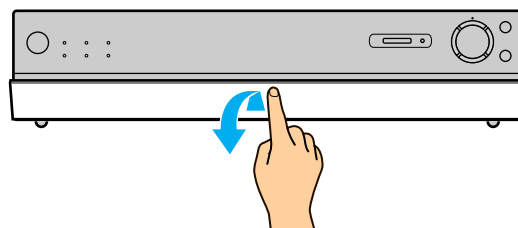
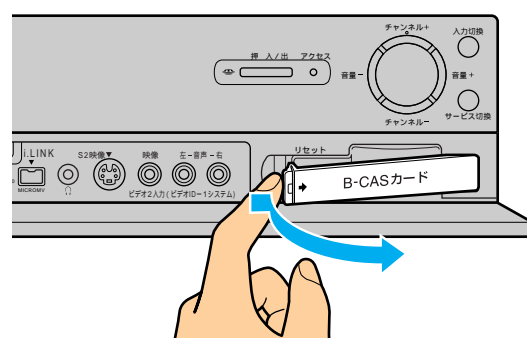
準備11：B-CAS（ビーキャス）カード（BS・110度CSデジタル放送用ICカード）を入れて登録する

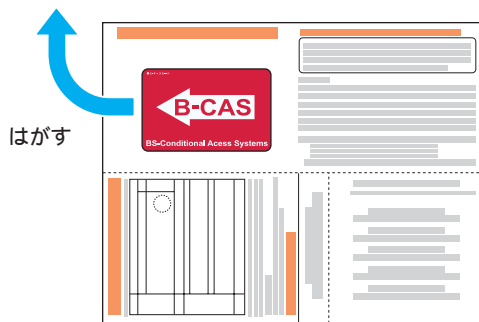
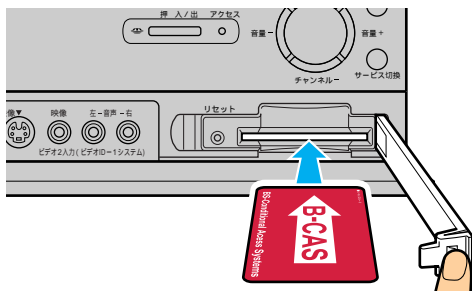
B-CAS*カード（BS・110度CSデジタル放送用ICカード）はお客様とBS・110度CS放送局をつなぐカードで、個々のお客様独自の番号などが記録されています。
BSデジタルでは、このカードを利用してCAS（限定受信システム）が採用されています。
ご登録いただくと各種サービスが利用できるようになります。
B-CASカードをメディアレシーバーに入れたあと、必ずユーザー登録はがきに必要事項を記入し、投函してください。
また、110度CSのPPV番組（☞47ページ）を見たり、データ放送の双方向サービスを受けたりするときも、B-CASカードを使用します。

* B-CASは（株）ビーエス・コンディショナルアクセスシステムズの略称です。

ご注意

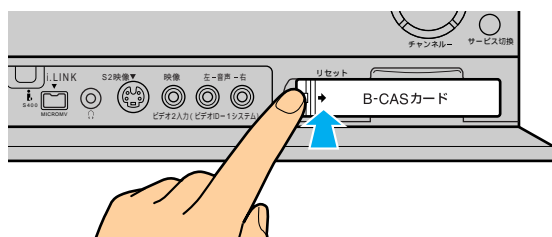
ユーザー登録をしないと、PPV番組（☞47ページ）が視聴できなかったり、BS・110度CSデータ放送の双方向サービスが受けられなかったりします。また、連絡先不明のため、カードの交換や更改などのサービスが受けられません。

1 **メディアレシーバー前面のパネルを開ける。**

2 **パネル内にあるB-CASカード挿入口のふたを開ける。**

3 同封の「ビーキャス（B-CAS）カード使用許諾契約約款」の内容をお読みになり了解された上で、台紙からB-CASカードをはがす。

B-CAS用ユーザー登録はがき台紙の内容にご不明な点があるときは、B-CASカスタマーセンター（電話番号0570-000-250）へお問い合わせください。

4 B-CASカードを奥までしっかり挿入する。

B-CASと書かれた面を上にして、印刷された矢印の方向に挿入する。

5 B-CASカード挿入口のふたを閉める。

ご注意

ふたは必ず閉めてください。B-CASカードが正しく挿入されているかを本機が判断できないためです。

6 同梱のB-CAS用ユーザー登録はがきに必要事項を記入し、投函する。

B-CAS用ユーザー登録はがきの登録作業が終了すると、各種サービスが利用できるようになります。

ご注意

- B-CASユーザー用登録はがき台紙は、大切に保管しておいてください。有料放送に視聴を申し込む（☞128ページ）ときに必要なバーコードシールが付いていたり、B-CASカスタマーセンターへのお問い合わせ先が案内されていたりするためです。
- 転居などの際には、B-CASカスタマーセンターに連絡してください。

ちょっと一言

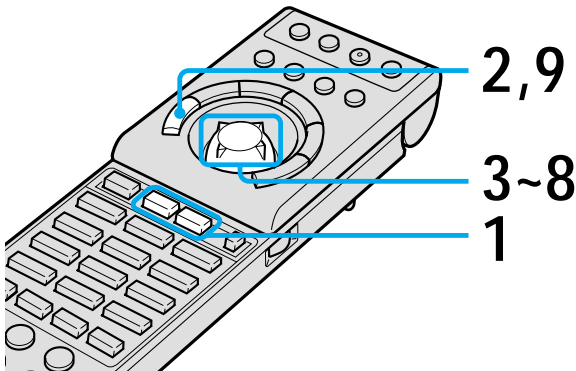
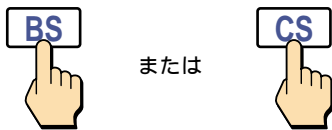
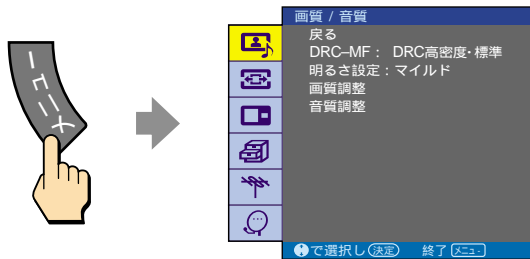
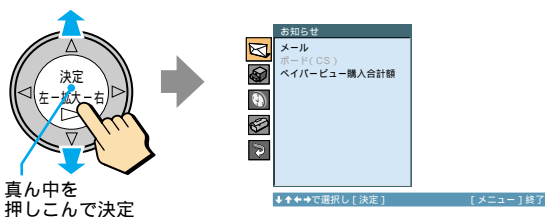
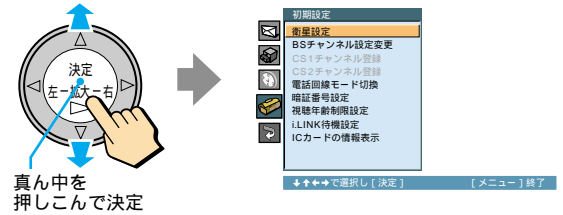
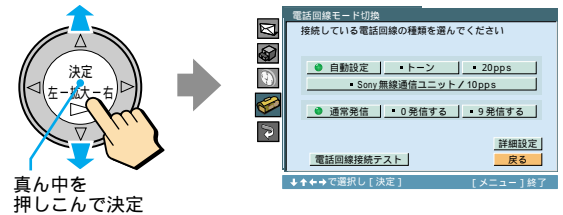
こんなメッセージが表示されたら...

（ICカードはB-CASカードのことです。）

- 「ICカードとのアクセスが成立しません
  ICカードを抜き差ししても直らない場合はカスタマーセンターへ連絡してください：XXXX」
  → B-CASカードが奥までしっかり入っていない。
  → B-CASカードが前後逆向きに入っている。
  → B-CASカードが表裏逆向きに入っている。
  → B-CASカードが破損している。
  → B-CASカードとは別の種類のカードが入っている。
  → 上記のことをすべて確認しても表示が消えず、メッセージの終りの部分に「：FFFF」と表示されているときは、お買い上げ店、またはソニーサービス窓口へお問い合わせください。
  → ご覧になっているBS放送局や110度CSの衛星サービス会社のカスタマーセンター（☞128ページ）またはB-CASカスタマーセンター（電話番号 0570-000-250）へお問い合わせください。
- 「ICカード挿入口のふたを閉めてください」
  → B-CASカード挿入口のふたが開いている。
- 「ICカードを入れてください」
  → B-CASカードが奥までしっかり入っていない。
- 「このICカードは使用できません」
  「ICカードを交換してください」
  → ご覧になりたいBS放送局や110度CSの衛星サービス会社のカスタマーセンター（☞128ページ）またはB-CASカスタマーセンター（電話番号 0570-000-250）へお問い合わせください。

受信設定

準備12：電話回線を設定する

電話回線の設定と、接続テストを行います。
お買い上げ時は、「自動設定」で「通常発信」の電話回線に設定されています。

1 BSまたはCSボタンを押す。

2 メニューボタンを押す。

3 「(メニュー切換)」を選んで、決定する。

4 「(初期設定)」を選んで、決定する。

5 「電話回線モード切換」を選んで、決定する。

6 電話回線を選んで、決定する。

お買い上げ時は、「自動設定」に設定されています。

「自動設定」でうまく通信できないときは
NTTの料金明細書で「プッシュホン回線使用料」が請求されているときは、**「トーン」**を選んでください。
請求されていないときは、**「20pps」**を選んでください。

ISDN回線などによるターミナルアダプターやダイヤルアップルーターを使っているときは（☞108ページ）
「トーン」を選んでください。

ADSL回線を使っているときは（☞108ページ）
「自動設定」（お買い上げ時の設定）のままお使いください。

別売りのコードレス通信ユニットCTU-50やSPP-TU1を使っているときは（☞109ページ）
「Sony無線通信ユニット／10pps」を選んでください。

7 発信方法を選んで、決定する。

お買い上げ時は、「通常発信」に設定されています。

外線に電話するときに、相手の電話番号にそのままかけるときは

手順8に進んでください。

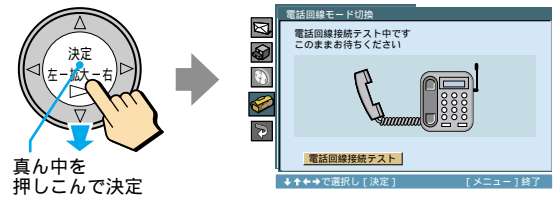
外線に電話するときに、電話番号の前に「0」または「9」を付けるときは

寮や会社、学校、団体、法人などでPBX（交換機）を使い、外線に電話するときに、電話番号の頭に「0」を付ける（0発信する）、または「9」を付ける（9発信する）場合のみ、次のように設定します。
0発信するとき →「0発信する」を選ぶ。
9発信するとき →「9発信する」を選ぶ。

ご注意

- 会社や法人などでビジネス回線を使っているときは、本機をつなげません。寮やビルの電話を管理している担当の方に「2線式一般アナログ回線」を依頼してください。通常、ファクシミリはこの回線に接続されています。
- 引っ越しなどで外線に電話する方法が変わったときは、必ず発信方法を設定し直してください。
- BS・110度CS放送局へ登録などができないときは、NTTに問い合わせて、「回線ごと非通知設定」を解除してください。

8 「電話回線接続テスト」を選んで、決定する。

正しい接続であれば、「電話回線は正しく接続されています」と表示されます。

「電話回線を他の機器で使用中か、正しく接続されていません　接続を確認してください」と表示されたときは

接続を確認し、また電話回線を他の機器で使っていないか確認してください（☞106～109ページ）。

ご注意

「電話回線接続テスト」は、メディアレシーバーと電話回線が物理的に接続されてやり取りできるかをテストするもので、実際に電話が放送局へつながるかどうかはテストされていません。
そのため、メディアレシーバーと電話回線が接続されていても電話がつながらないことがあります。
このときは、再び、手順6で電話回線の種類（「トーン」や「20pps」、「Sony無線通信ユニット／10pps」）を正しく設定し直してください。

9 メニューボタンを押して、メニューを消す。

次のページにつづく

準備12：電話回線を設定する（つづき）

電話番号の通知/非通知および電話会社の設定をするには［詳細設定］

データ放送などでは、メディアレシーバーに接続した電話回線で、放送局と双方向で通信を行う場合があります。電話番号を通知しないで、放送局と通信したいときは、以下の設定を行ってください（マイラインプラス契約をしていても設定できます）。
データ放送によって、通知しないと双方向通信できないときは、通知する設定に変更してください。
また、お客様が登録している電話会社以外の特定の電話会社を指定して双方向通信することもできます。

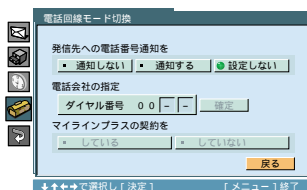
1 BS または CS ボタンを押す。

2 メニューボタンを押して、メニューを出す。

3 △/▽で「（メニュー切換）」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

4 △/▽で「（初期設定）」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 △/▽で「電話回線モード切換」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

6 △/▽/◁/▷で「詳細設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

7 △/▽/◁/▷で「通知しない」、「通知する」または「設定しない」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

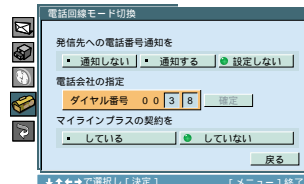
「通知しない」：電話番号の先頭に「184」を付けて、相手先にこちらの電話番号を知らせません。
「通知する」：電話番号の先頭に「186」を付けて、相手先にこちらの電話番号を知らせます。
「設定しない」：電話番号の先頭に何も付けません。

特定の電話会社を指定しないときは、手順11に進んでください。

ご注意
BS・110度CS放送局へ登録などができないときは、NTTに問い合わせて、「回線ごとの非通知設定」を解除してください。

8 △/▽/◁/▷で「ダイヤル番号」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

9 1 ～ 10/0 までのBS用数字ボタンで変更したい電話会社の識別番号の下2桁を入力し、「確定」が選ばれていることを確認して、真ん中を押しこんで決定する。

例：識別番号が「0038」のとき

ご注意
電話会社の識別番号を間違えると通信ができなくなりますので、電話会社からの請求書などで確認してください。

10 △/▽/◁/▷で（マイラインプラスの契約を）「している」または「していない」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

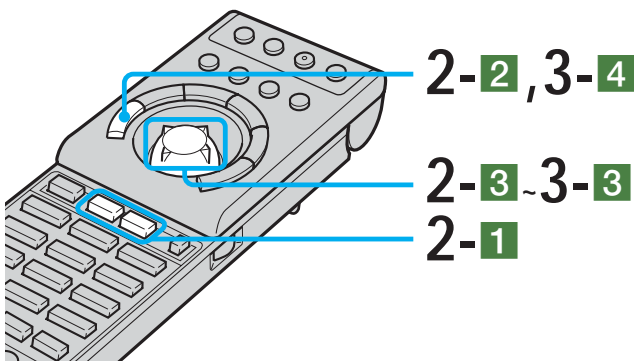
11 メニューボタンを押して、メニューを消す。

ご注意
データ放送によっては、設定した内容が取り消されます。

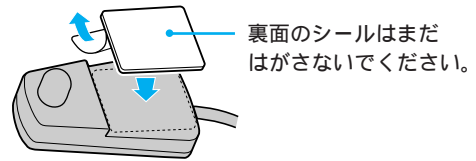
準備13：AVマウスを設定する

AVマウスは、本機と連動してビデオでアナログ予約録画できるように（☞33ページ）信号を出します。そのため、AVマウスから発信される信号を、お手持ちのビデオやソニー製ハードディスクビデオレコーダーClip-Onのリモコンコードに合わせて設定します。
本機と連動してビデオにアナログ予約録画するときは、必ずAVマウスを設定してください。

ご注意

- 次のときはAVマウスは使えないため、取り付ける必要はありません。お手持ちのビデオの予約機能を使って予約録画してください（☞35ページ）。
  - ビデオ一体型テレビ（テレビデオやビデオコンボなど）のとき
  - AVマウスのリモコンコードでビデオが操作できないとき（メーカーによっては、本機で操作できないリモコン信号が採用されているためです）
  - 電源スイッチが入/切の2つの状態切換でなく、入/スタンバイ/切など3つの状態切換になるビデオのとき
  - ソニー製ハードディスクビデオレコーダーClip-On以外のハードディスクビデオレコーダーのとき
- AVマウスが使えないときは、はずしておいてください。
- 動作テストに1度成功しても、リモコンの受光感度の低いビデオによっては、AVマウスでのアナログ予約録画（☞33〜36ページ）がうまくいかないことがあります。詳しくは、ビデオの取扱説明書をご覧ください。

1 AVマウスを準備する。

1 AVマウスに付属のシールを貼る。

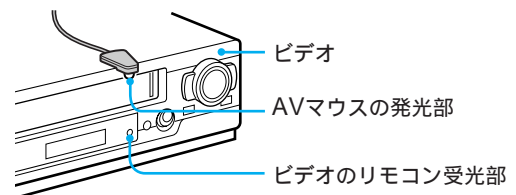
AVマウスに付属のシールのかわりに、市販の両面テープも使えます。

2 AVマウスをメディアレシーバー後面のAVマウス端子につなぐ。

接続のしかたについて詳しくは、「ビデオをつなぐ」（☞142〜145ページ）をご覧ください。

3 AVマウスの取付け予定位置を決める。

ビデオの取扱説明書でビデオのリモコン受光部位置を確認し、受光部の真上にAVマウスを置きます。

ご注意

- AVマウス裏面のシールは、まだはがさないでください。
- 取付け位置によっては、動作しにくいビデオがあります。できるだけ受光部に近い位置に取り付けてください。

ちょっと一言

- AVマウスがビデオに届かないときは、別売りの接続コード RK-G131（3m）で延長してください。
- ソニー製ビデオのリモコン受光部には マークが付いています。

4 ビデオの電源を切っておく。

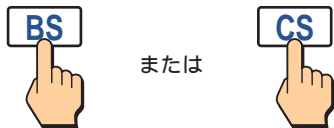
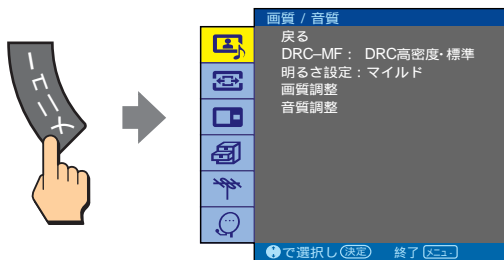
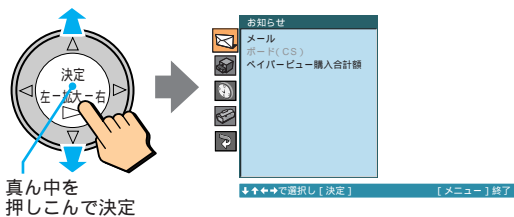
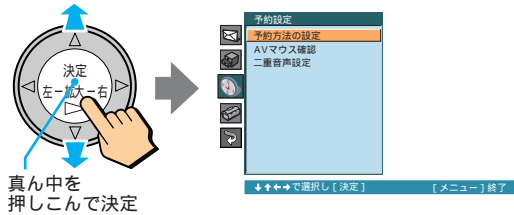
受信設定

次のページにつづく

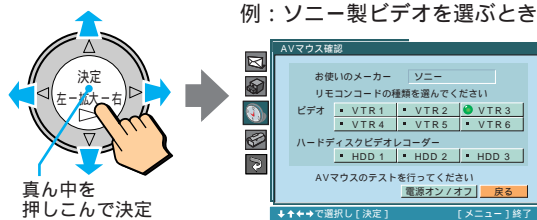
準備13：AVマウスを設定する（つづき）

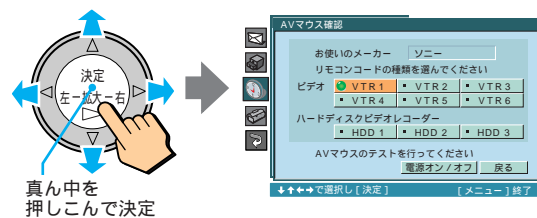
2 AVマウスを設定する。

1 BS または CS ボタンを押す。

または

2 メニューボタンを押す。

3 「(メニュー切換)」を選んで、決定する。

4 「(予約設定)」を選んで、決定する。

5 「AVマウス確認」を選んで、決定する。

6 お使いのビデオのメーカー名を選んで、決定する。

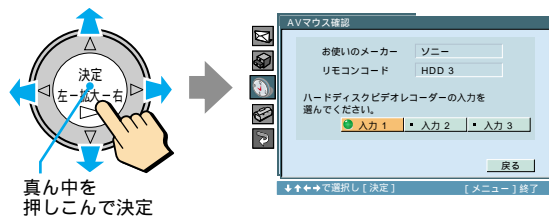
例：ソニー製ビデオを選ぶとき

7 リモコンコードを選んで、決定する。

お買い上げ時は、ソニーの「VTR3」を操作できるように設定されています。
ソニー製ハードディスクビデオレコーダーClip-Onを登録するときは、「HDD1」を選んでください。

ビデオを登録するときは、手順3に進んでください。

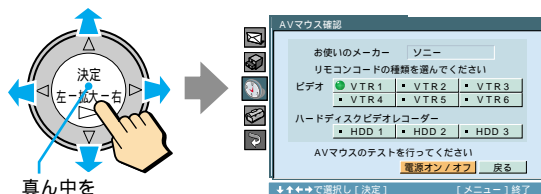
リモコンコード表

メーカー	リモコンコード番号
ソニー（ビデオ）	VTR1　VTR2　VTR3 VTR4　VTR5　VTR6
ソニー（HDD）	HDD1　HDD2　HDD3
松下	1 2 3 4 5
東芝	1 2 3 4
日立	1 2 3
三菱	1 2 3 4
日本ビクター	1 2 3 4 5 6
サンヨー	1 2 3 4
アイワ	1 2 3 4
シャープ	1 2 3
NEC	1 2 3 4
フナイ	1
フィリップス	1

8 「HDD1」～「HDD3」を選んだときは、ハードディスクビデオレコーダーの入力を選んで、決定する。

本機をつないだ入力を選んでください。予約録画開始時に自動的に入力も切り換わります。

3 動作テストをする。

1 「電源オン／オフ」を選んで、決定する。

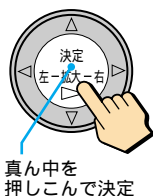
AVマウスの動作テストが始まります。

ビデオの電源が自動的に入ると、テストは完了です。手順3-3に進んでください。電源が入らないときは、手順1-3でAVマウスの位置を再確認してから、もう1度手順3-1を行ってください。

2 ビデオにリモコンコードが2個以上あるときは、手順2-7～3-1をくり返して、ビデオを操作できるまで、リモコンコードの設定を変えてテストする。

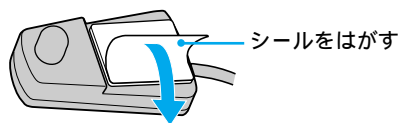
ちょっと一言

手順2-7で選んだ番号とビデオのリモコンコードの番号を合わせてください。その番号で操作できないときは、本機とビデオのリモコンコード番号を変えてください。本機とビデオのリモコンコード番号が異なっていても、操作できる場合があります。

3 「電源オン／オフ」が選ばれていることを確認して、決定する。

ビデオの電源が切れます。

4 メニューボタンを押して、メニューを消す。

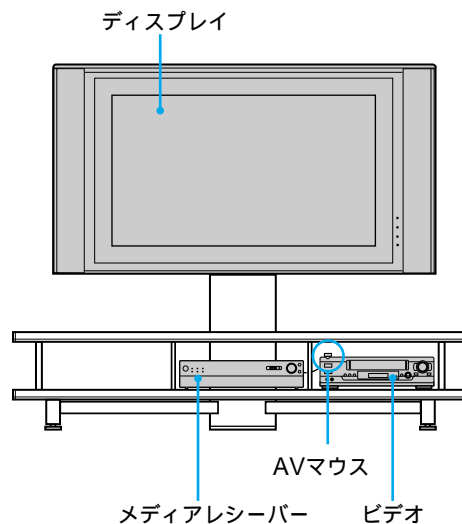
4 AVマウスを固定する。

1 動作テストが終わったら、AVマウスの裏面のシールをはがす。

2 手順1-3で決めた取り付け予定位置にAVマウスを固定する。

無料番組などで予約録画できる（☞33ページ）ことを、もう1度確かめてから、使うことをおすすめします。

ご注意

ビデオにほこりが付いていると、きちんと固定できません。ビデオのほこりを取り除いてからAVマウスを固定してください。

受信設定

準備14：BS･110度CSの各放送局に視聴を申し込む

加入申し込みが必要な有料BS放送局と110度CS衛星サービス会社のカスタマーセンター（お問い合わせ先）一覧

BSの有料放送（NHKのBS受信料も含む）や110度CSを視聴するには、各局へ加入申し込みをして契約する必要があります。

加入申し込み方法はBS放送局や110度CS衛星サービス会社により異なります。詳しくは、ご覧になりたい放送局のカスタマーセンターへお問い合わせください。

なお、無料放送でも登録が必要な場合があります。詳しくは、ご覧になりたい放送局へお問い合わせください。

また、B-CAS（ビーキャス）カード（BS･110度CSデジタル放送用ICカード）をメディアレシーバーのB-CASカード挿入口に入れて、B-CAS用ユーザー登録はがきを投函してください（☞120ページ）。

2002年9月現在の電話番号とホームページアドレスです。

有料BS放送局

BS放送局	お問い合わせ電話番号/ホームページアドレス
NHK BS1 NHK BS2 NHK デジタルハイビジョン	番組のお問い合わせは 0570-066066 受付　9:00～23:00 http://www.nhk.or.jp/
WOWOW	0570-008080 （携帯電話などをお使いの方は、045-683-8080） 受付 9:00～20:00 http://www.wowow.jp/
テレビ放送のみが、視聴申込が必要な有料放送です。ラジオ放送（WOWOW wave：491、492ch）と独立データ放送（WOWOW navi：791、792ch）は無料放送です。	
スター・チャンネルBS	0570-010-110 （携帯電話などをお使いの方は、045-339-1555） 受付 10:00～20:00 http://www.star-ch.co.jp/
テレビ放送のみが、視聴申込が必要な有料放送です。独立データ放送（800ch）は無料放送です。	
セント・ギガ	0120-336-765 受付 10:00～21:00 http://www.stgiga.co.jp/
ラジオ放送のみが、視聴申込が必要な有料放送です。独立データ放送（633、636ch）は無料放送です。	

ご注意

加入申し込みを行わずに、NHK（BS1、BS2、デジタルハイビジョン）を受信すると、テレビ画面に連絡をお願いする案内が、自動表示されることがあります。

110度CS衛星サービス会社

110度CS衛星サービス	お問い合わせ電話番号/ホームページアドレス
プラットワン（CS1）	0570-001-012 （携帯電話などをお使いの方は、045-227-9650） 受付　10:00～20:00 http://www.plat-one.com
スカイパーフェクTV! 2（CS2）	0570-088-222 （または、045-339-0002） 受付　10:00～20:00

ちょっと一言

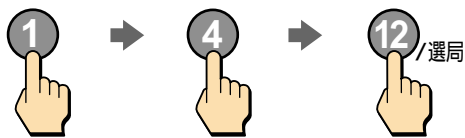
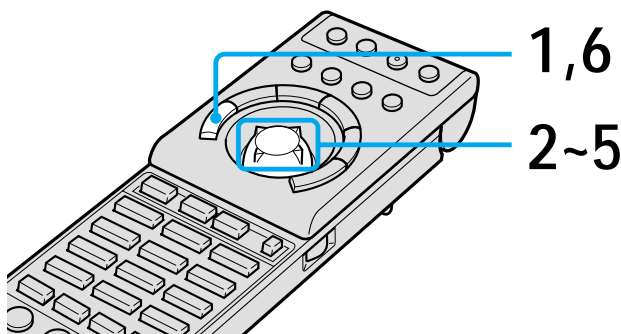
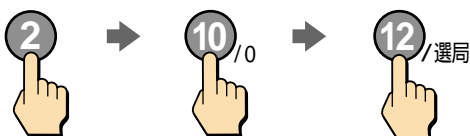
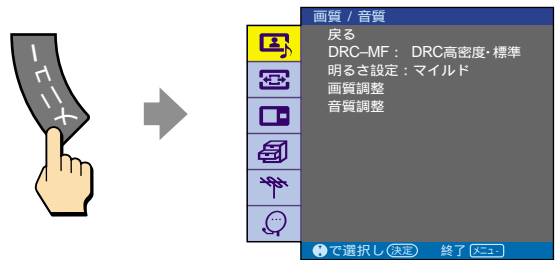
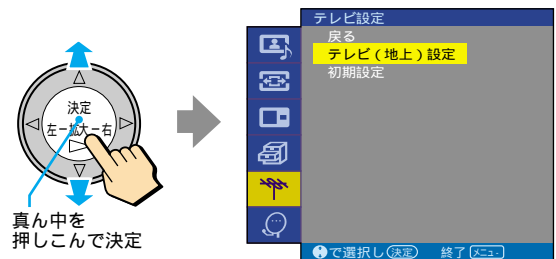
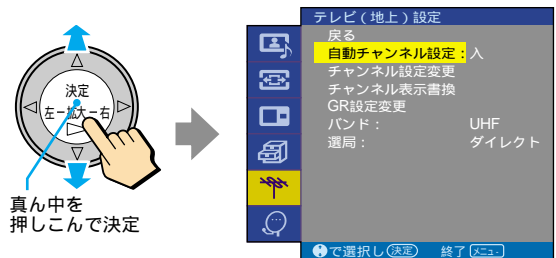
110度CSデジタルの無料放送は、各衛星サービス会社への加入申込みや契約をしなくてもご覧いただけます。受信料は請求されません。

①〜⑫/選局の地上波用数字ボタンの組み合わせでチャンネルを選ぶ

お買い上げ時は、「ダイレクト選局」になっています。
「ダイレクト選局」は、リモコンの①〜⑫/選局の地上波用数字ボタンを1つ押すだけで、そのボタンに自動設定（☞111ページ）されたチャンネルが映る選局方法で、受信できるチャンネル数は最大12局です。

そのため、ケーブルテレビなど見たいテレビ（地上波）チャンネルの数が12局を越えるときは、「10キー選局」に変えてください。
「10キー選局」では、①〜⑩/0の地上波用数字ボタンを十の位・一の位の順に押したあと、⑫/選局（=選局）ボタンを押して、チャンネルを選びます。0は⑩/0ボタンを使います。

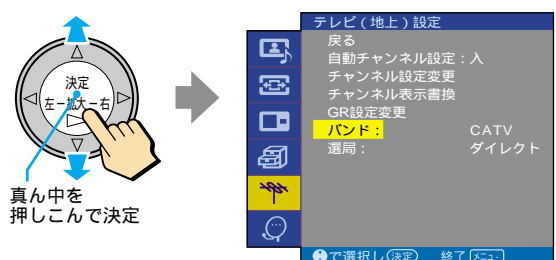
ちょっと一言
①〜⑩/0までの地上波用数字ボタンを押したあと、⑫/選局（=選局）ボタンを押さなくても、約3秒後に切り換わりますが、押すとすぐに切り換わります。

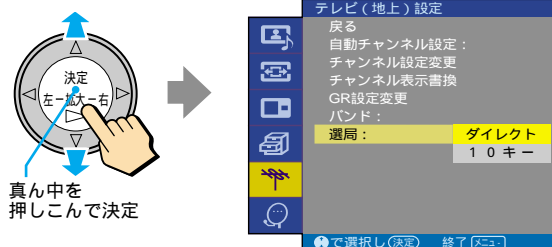
例）14チャンネル

20チャンネル

1 メニューボタンを押す。

2 「（テレビ設定）」を選んで、決定する。

3 「テレビ（地上）設定」を選んで、決定する。

ケーブルテレビのときは

以下の操作をしたあと、手順4を行ってください。

1 「バンド」を選んで、決定する。

2 「CATV」を選んで、決定する。

次のページにつづく

①～⑫/選局の地上波用数字ボタンの組み合わせでチャンネルを選ぶ（つづき）

4 「選局」を選んで、決定する。

5 「10キー」を選んで、決定する。

6 メニューボタンを押して、メニューを消す。

ダイレクト選局に戻すときは

手順5で「ダイレクト」を選ぶ。

ご注意

チャンネルを自動設定する（☞111ページ）ときは、ダイレクト選局に戻してから行ってください。

チャンネル＋/－ボタンで選べる地上波チャンネルを設定するには

お買い上げ時は、1～12チャンネルが順に選ばれるように設定されています。ケーブルテレビなどで、これ以外のチャンネルを選ぶときや、放送がないチャンネルをとばすときは、次のように設定します。

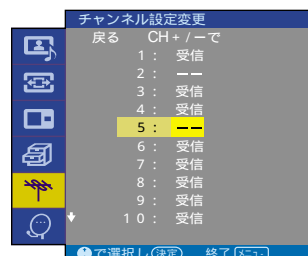
1 メニューボタンを押して、メニューを出す。

2 △/▽で「（テレビ設定）」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

3 △/▽で「テレビ（地上）設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

4 △/▽で「チャンネル設定変更」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 △/▽で見たいチャンネル、またはとばしたいチャンネルを選び、真ん中を押しこんで決定する。

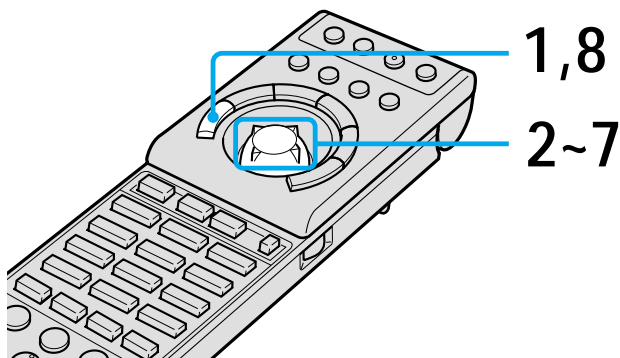
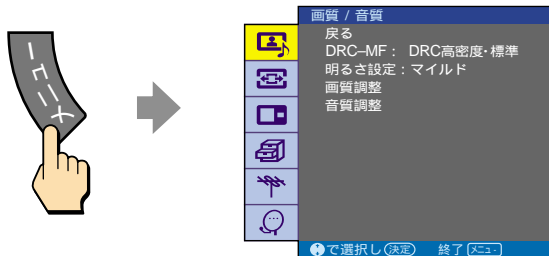
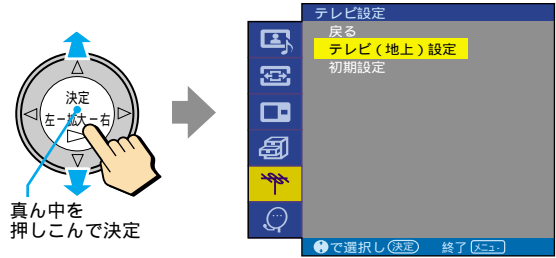
6 △/▽で見たいチャンネルのときは「受信」を、とばしたいチャンネルのときは「－ －」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

7 複数のチャンネルを設定するときは、手順5と6をくり返す。

8 メニューボタンを押して、メニューを消す。

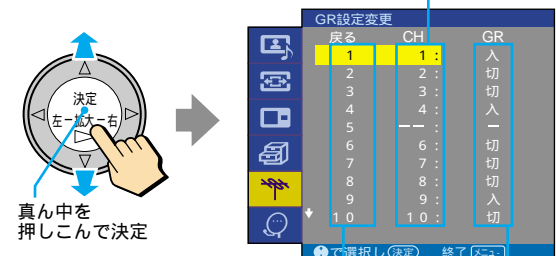
テレビ（地上波）をゴーストの少ない画像にする

本機では、建物や地形などによる妨害波で起こるゴーストを、放送局から送信されるゴースト除去基準信号を感知して、少なくする（リダクション）ように、チャンネルごとに設定できます。
「GR」はゴースト・リダクションの略です。

ご注意

- BS･110度CSにはゴーストがないので、設定の必要はありません。
- ビデオ機器の再生画像など、本機につないだ機器の映像に対しては設定できません。

1 メニューボタンを押す。

2 「(テレビ設定)」を選んで、決定する。

3 「テレビ（地上）設定」を選んで、決定する。

4 「GR設定変更」を選んで、決定する。

設定したチャンネル（新聞のテレビ欄などに載っているチャンネル）
10キー選局のときは、「受信」または「−−」と表示されます。

①〜⑫/選局 の地上波用数字ボタン　GR設定

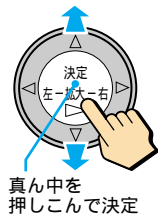
5 設定を変えたいチャンネルを選んで、決定する。

例：2チャンネルのGR設定を変えたいときは、ここを選ぶ

受信設定

次のページにつづく

テレビ（地上波）をゴーストの少ない画像にする（つづき）

6 「入」または「切」を選んで、決定する。

7 複数のチャンネルを設定するときは、手順5と6をくり返す。

8 メニューボタンを押して、メニューを消す。

ご注意

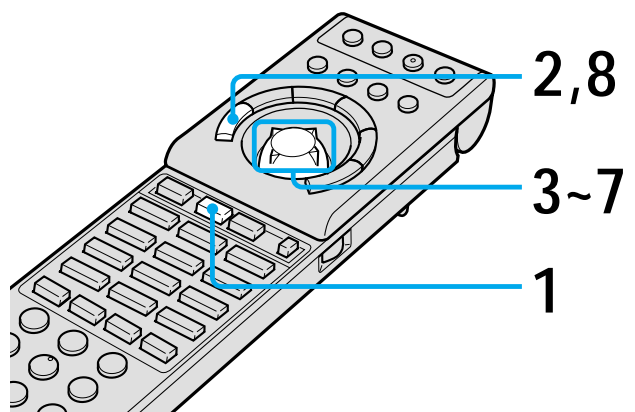
- ゴースト・リダクションは、チャンネルを切り換えたあと、数秒してから働き、大きなゴーストから順々に少なくしていきます。このとき、画像が一瞬またたくことがあります。
- 受信している電波が弱いときは、大きなゴーストに働くと別のゴーストが起きることがありますが、徐々に少なくしていきます。
- アンテナの設置や調整のときは「GR」を「切」にすると、ゴーストの少ない方向を確認できます。
- 次のときは効果が充分に出ないため、「GR」を「切」にしてください。
  - －ゴーストが大きすぎるとき
  - －ゴーストが同時に10波以上起きているとき
  - －飛行機に反射して起きるゴーストなど、一定でないゴーストのとき
  - －室内アンテナなどアンテナの設置や調整が適切に行われていないとき
- 2画面（☞62ページ）のときは左画面のみ、ゴースト・リダクションが働きます。

BS・110度CSチャンネルを手動で設定する

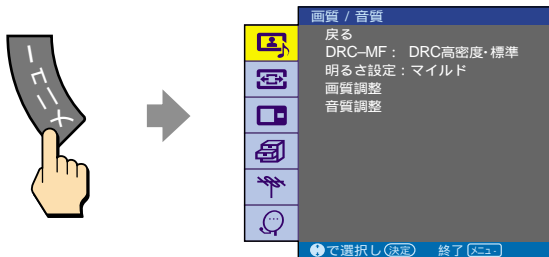
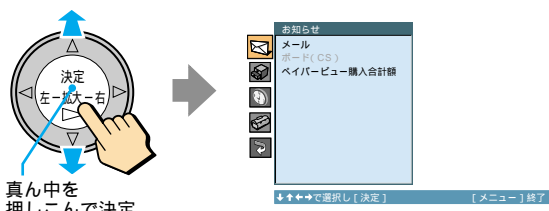
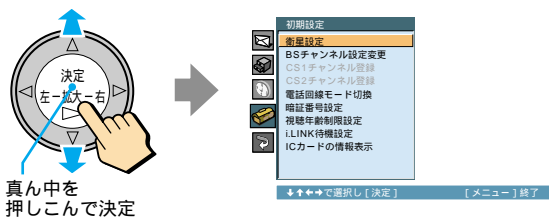
11ボタン、12/選局ボタンに好みのBSチャンネルを登録する

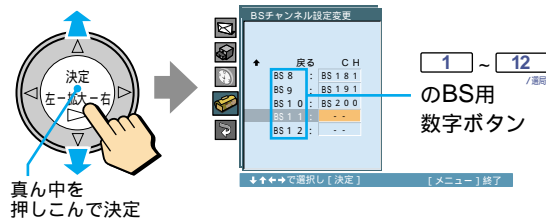
お買い上げ時は、1～10/0のBS用数字ボタンを押せば、あらかじめ登録されているBSテレビの代表チャンネルを選局できます。

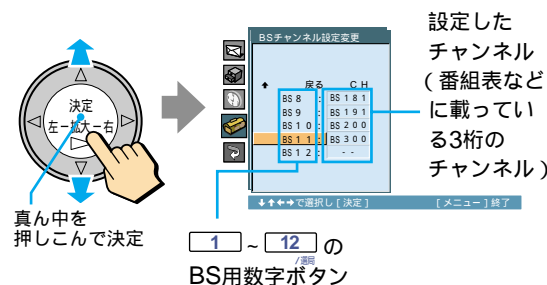
本機は、これに加えて、**11ボタンと12/選局ボタンにお好きなBSチャンネルを登録して、選局できます。**ただし、110度CSチャンネルは登録できません。
また、次のようなときに、1～10/0ボタンに登録されているチャンネルの変更もできます。
- BSラジオやBS独立データのチャンネルを、1～12/選局のBS用数字ボタンで選びたいとき
- 1～10/0ボタンに、好みの別のBSチャンネルを登録したいとき

ちょっと一言
10キー ボタンを使って、3桁のBSチャンネル番号で選局する方法もあります（☞17ページ）。

ここでは、例として[11]ボタンに新しくBSチャンネルを登録する手順を説明します。

1 [BS]ボタンを押す。

2 メニューボタンを押す。

3 「(メニュー切換)」を選んで、決定する。

4 「(初期設定)」を選んで、決定する。

5 「BSチャンネル設定変更」を選んで、決定する。

6 BS用数字ボタン（ここでは「BS11」）を選んで、決定する。

7 登録したいBSチャンネル番号を選んで、決定する。

放送のあるチャンネルから選べます。
[1]～[12]のBS用数字ボタンを押したとき、この操作で選んだチャンネルが選局されます。

8 メニューボタンを押して、メニューを消す。

登録されているBSチャンネルを変更したいときは

1 **手順6で、変更したい[1]～[12]のBS用数字ボタンを選んで、決定する。**

2 **手順7で、変更したいBSチャンネル番号を選んで、決定する。**

お買い上げ時の設定に戻すには

手順6で「BSチャンネル設定の初期化」を選ぶ。
[1]～[12]のBS用数字ボタンで選べるすべてのBSチャンネルが、お買い上げ時の設定（各BSテレビ局の代表チャンネル、[11]、[12]は登録なし）に戻ります。

次のページにつづく

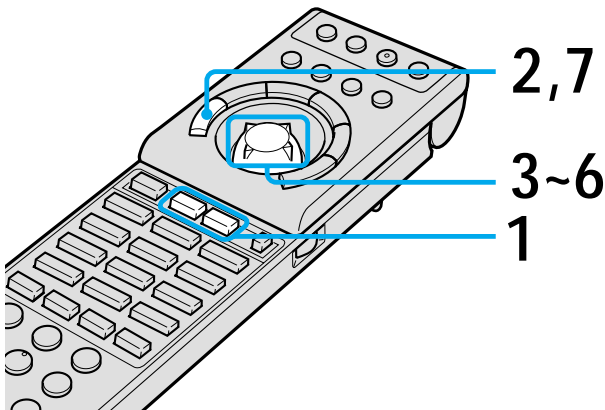
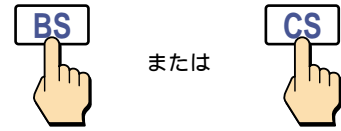
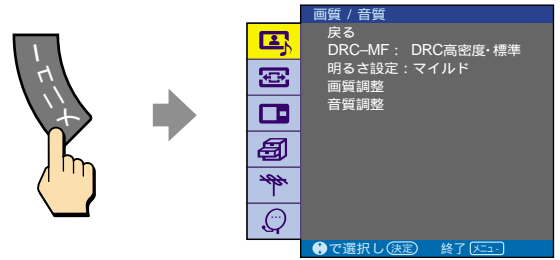
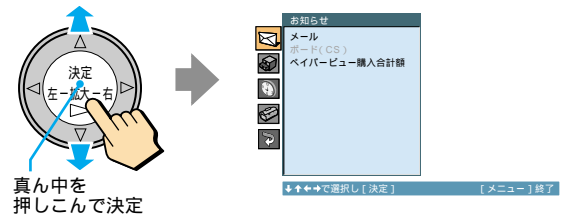
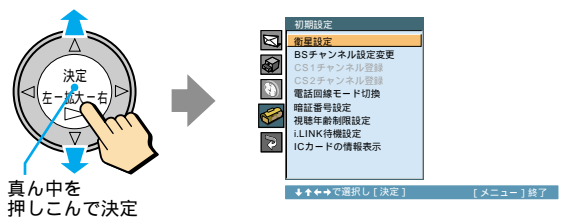
受信設定

BS･110度CSチャンネルを手動で設定する（つづき）

チャンネル＋/－ボタンや番組表で選べるBS･110度CSチャンネルを登録する

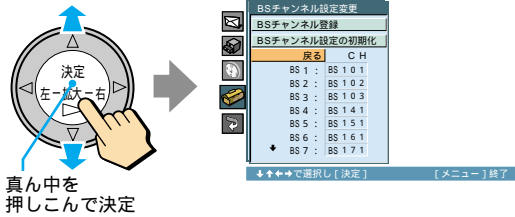
1 ～ 12/選局 のBS用数字ボタンで選べないBSチャンネルや110度CSチャンネルを、チャンネル＋/－ボタンで選んだり、番組表で表示したりするように追加できます。
また、「自動登録」に設定するだけで、現在視聴できるBS･110度CSチャンネルをすべて自動登録し、リモコンのチャンネル＋/－ボタンや番組表で選べるようにできます。

ご注意

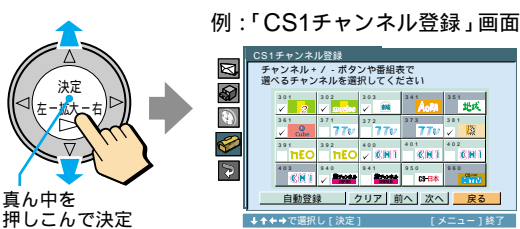
1 ～ 12/選局 のBS用数字ボタンで選べないチャンネルは、次の操作で追加しないと番組表に表示されません。

1 BS または CS ボタンを押して、チャンネルを登録したい衛星に切り換える。

2 メニューボタンを押す。

3 「（メニュー切換）」を選んで、決定する。

4 「（初期設定）」を選んで、決定する。

5 チャンネル登録画面を表示させる。

手順1で選んだ衛星のみ、チャンネル登録できます。チャンネル登録画面を表示できないときは、手順1に戻って衛星を切り換えてください。

BSチャンネルを設定するときは

1 「BSチャンネル設定変更」を選んで、決定する。

2 「BSチャンネル登録」を選んで、決定する。

110度CSのチャンネルを設定するときは

1 「CS1チャンネル登録」または「CS2チャンネル登録」を選んで、決定する。

例：「CS1チャンネル登録」画面

「CS1チャンネル登録」：
プラットワンのチャンネルを登録するとき。
「CS2チャンネル登録」：
スカイパーフェクTV! 2のチャンネルを登録するとき。

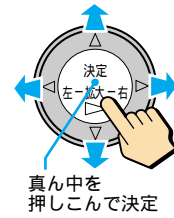
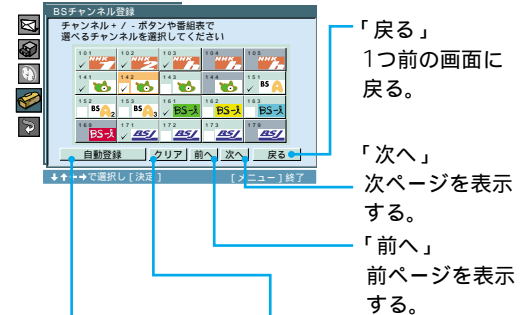
6 変更したいチャンネルにカーソルを合わせ、決定する。

選んだチャンネルの□に✓が付き、リモコンのチャンネル＋/－ボタンや番組表で選べるようになります。

例：「BSチャンネル登録」画面

「戻る」
1つ前の画面に戻る。

「次へ」
次ページを表示する。

「前へ」
前ページを表示する。

「自動登録」
すべての無料チャンネルおよび契約済みのチャンネルに、✓が付く。

「クリア」
リモコンの数字ボタンで選べるチャンネルを除くすべての✓をはずす。

ちょっと一言

- ▭のように明るく表示されるチャンネルは、契約済みまたは無料のチャンネルです。
- ▭のように暗く表示されるチャンネルは、未契約のチャンネルまたは臨時チャンネルです。
- □の付いているチャンネルにだけ、✓を付けられます。
- 新しく放送局が開設されると、チャンネルが自動で追加されます。

現在視聴できるBS・110度CSチャンネルをすべて自動登録するときは

「自動登録」を選び、決定する。
現在視聴できるすべてのチャンネルに✓が付き、リモコンのチャンネル＋/－ボタンや番組表で選べるようになります。

✓をはずすには

✓の付いているチャンネルを選んで、決定する。

ご注意

- 1～12/選局 のBS用数字ボタンに登録されたチャンネルには、あらかじめ□のない✓が付いていて、✓は、はずせません。
- 臨時チャンネルは選べません。□も表示されません。

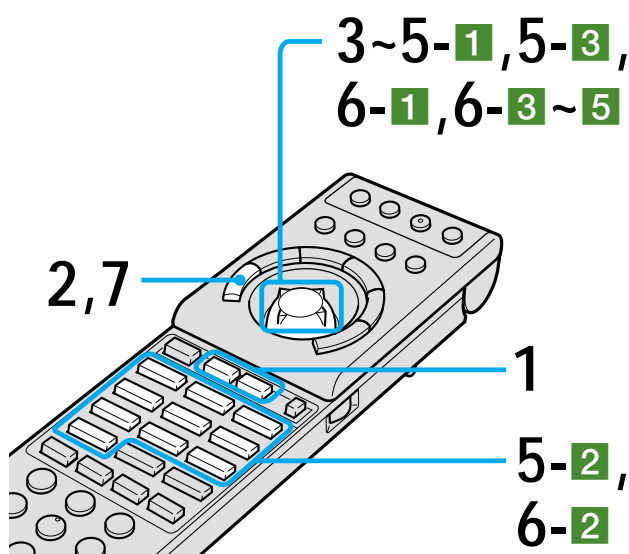
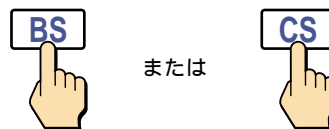
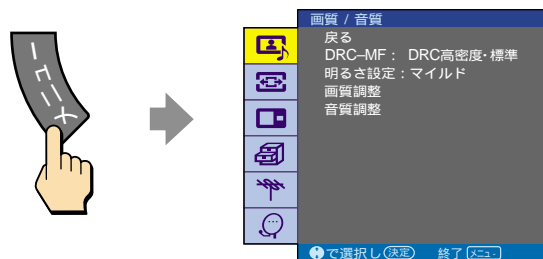
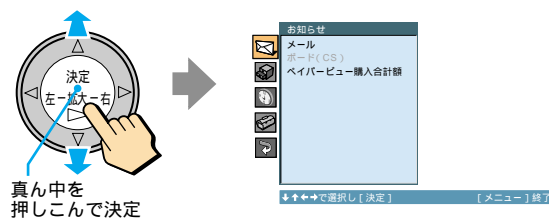
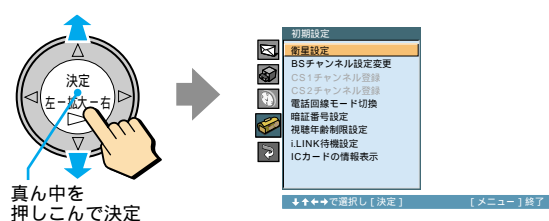
7 メニューボタンを押して、メニューを消す。

受信設定

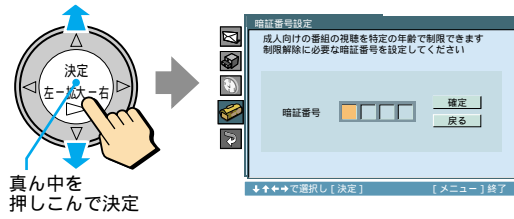
暗証番号や視聴年齢制限を設定する

BSデジタルや110度CSデジタルの視聴年齢制限付き番組（番組表☞22ページやMYプラス☞24ページ、「番組説明」画面☞21ページで🔒のついている番組）を、暗証番号設定すれば視聴できる年齢を制限できます。
お買い上げ時、暗証番号と視聴年齢制限は設定されていません。

ご注意

設定した暗証番号は、忘れないようにしてください。
視聴年齢制限付き番組を見るときに入力が必要です。
万一、忘れたときは、ご覧になりたい放送局のカスタマーセンターへお問い合わせください。

1 BSまたはCSボタンを押す。

2 メニューボタンを押す。

3 「（メニュー切換）」を選んで、決定する。

4 「（初期設定）」を選んで、決定する。

5 暗証番号を設定する。

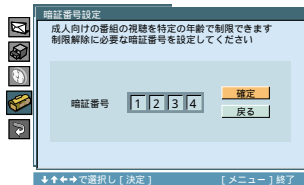
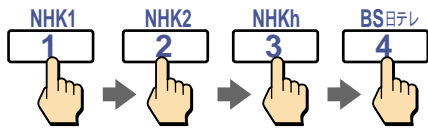
1 「暗証番号設定」を選んで、決定する。

2 1〜10/0までのBS用数字ボタンで4桁の暗証番号を入力する。

「0」を入力するときは、10/0ボタンを押す。

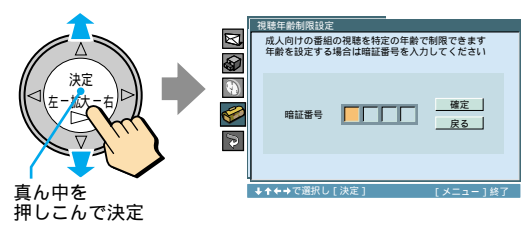
暗証番号を間違えたときは◁で戻り、入力し直してください。

ご注意

設定した暗証番号は、忘れないようにしてください。万一、忘れたときは、ご覧になりたい放送局のカスタマーセンターへお問い合わせください。

例：暗証番号が1234の場合

3 「確定」が選ばれていることを確認して、決定する。

6 視聴年齢制限を設定する。

1 「視聴年齢制限設定」を選んで、決定する。

2 1〜10/0までのBS用数字ボタンで、手順5で設定した4桁の暗証番号を入力する。

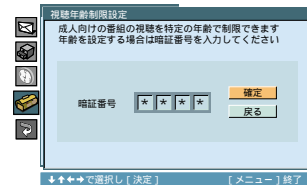
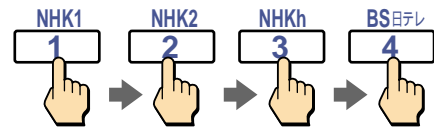
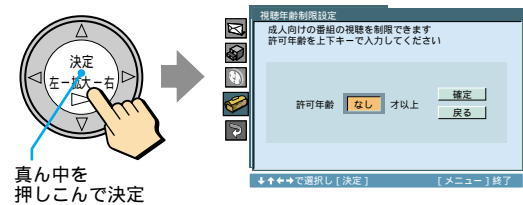
「0」を入力するときは、10/0ボタンを押す。

暗証番号を間違えたときは◁で戻り、入力し直してください。

入力された数字は、＊マークで表示されます。

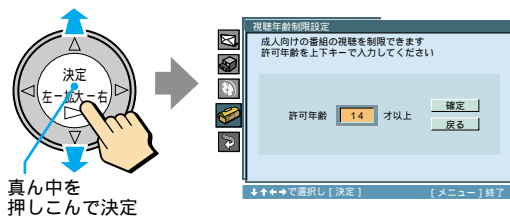
3 「確定」が選ばれていることを確認して、決定する。

受信設定

次のページにつづく

暗証番号や視聴年齢制限を設定する（つづき）

4 年齢制限を設定して、決定する。

4歳〜19歳で設定できます。

例えば「14歳以上」に設定すると、15歳から視聴可能な番組を視聴するときに暗証番号の入力が必要です。15歳から視聴可能な番組は、番組表（☞22ページ）やMYプラス（☞24ページ）、「番組説明」画面（☞21ページ）では「15才〜（15歳以上視聴可能）」と表示されます。

すべての成人向け番組の視聴を制限するときは

「4歳以上」などの低い年齢に設定する。

視聴年齢制限付き番組を選ぶと、暗証番号を入力しないと見ることができなくなります。

視聴制限をしないときは

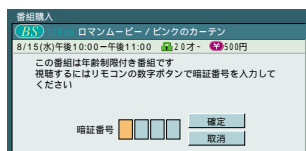
許可年齢を「なし」に設定する。

視聴年齢制限付き番組でも暗証番号を入力しないで、見ることができます。

5 「確定」を選んで、決定する。

7 メニューボタンを押して、メニューを消す。

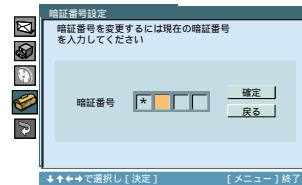
視聴年齢制限付き番組を選ぶと

暗証入力画面が表示されます。設定した暗証番号を 1 〜 10 の数字ボタンで入力すると、番組を見ることができます。

暗証番号を変更するには

1 ☞136ページの手順1〜4を行う。

2 △/▽で「暗証番号設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

3 1 〜 10 までのBS用数字ボタンで変更前の4桁の暗証番号を入力する。

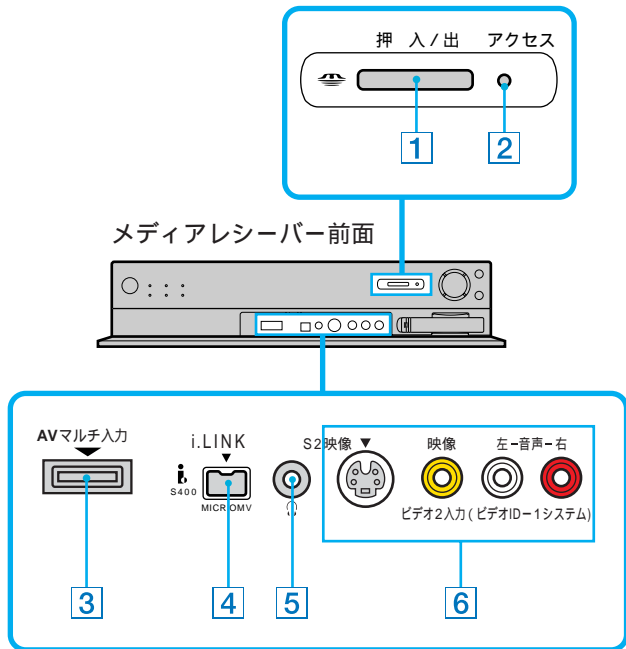
変更前の暗証番号は、＊マークで表示されます。

変更前の暗証番号を忘れたときは、ご覧になりたい放送局のカスタマーセンターへお問い合わせください。

4 「確定」が選ばれていることを確認して、真ん中を押しこんで決定する。

5 1 〜 10 までのBS用数字ボタンで好みの数字を入力し、△/▽で「確定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

暗証番号が変更されます。

6 メニューボタンを押して、メニューを消す。

接続端子の名前とはたらき

☞のページに詳しい説明があります。

1 “ メモリースティック ”挿入口（☞95ページ）

2 “ メモリースティック ”アクセスランプ（☞95ページ）

3 AVマルチ入力端子（☞71、148ページ）

別売りのAVマルチケーブル（VMC-AVM250）を使って、“ プレイステーション 2 ”などのAVマルチ出力端子につなぎます。RGB接続またはY/CB/CR接続になり、高画質な画像でゲームを楽しめます。

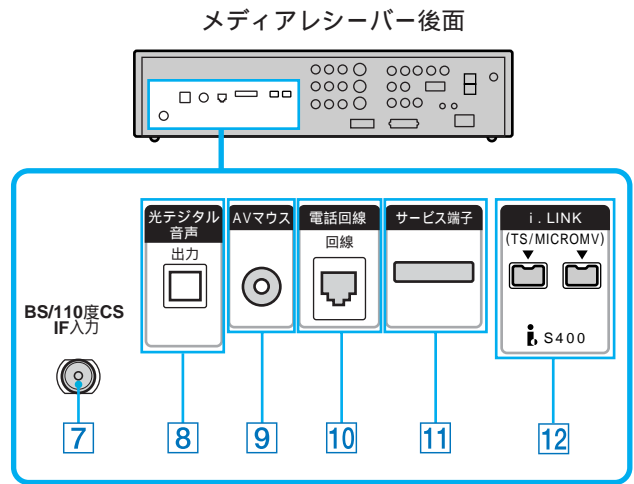
4 i.LINK S400（MICROMV）端子（☞158ページ）

MICROMV方式デジタルビデオカメラのi.LINK対応機器につなぎます。デジタル信号が入出力されます。詳しくは、「i.LINKでの接続」（☞154〜165ページ）をご覧ください。

5 ヘッドホン端子

ヘッドホンをつなぎます。

6 ビデオ2入力端子（S2映像/映像/音声）（ビデオID-1システム）（☞149ページ）

テレビゲームやビデオカメラレコーダーなどのビデオ出力端子につなぎます。

7 BS/110度CS IF入力端子（☞102〜105、143、144ページ）

衛星アンテナからの同軸ケーブルをつなぎます。衛星アンテナ用の電源を供給するため、DC15Vの直流電圧が出ています。

ご注意

VHF/UHF用のアンテナ接続ケーブルは絶対につながないでください。

8 光デジタル音声出力端子（☞71、151ページ）

AVアンプやサンプリングレートコンバーター内蔵のMDデッキなどの、光デジタル音声入力端子につなぎます。

BS・110度CS放送のデジタル音声が出力されます。
また、テレビ（地上波）やビデオ機器などからのアナログ音声などはPCM音声（2ch）のデジタル信号に変換して出力されます。

AVアンプなどにつなぐとき

☞71、151、152ページをご覧ください。

サンプリングレートコンバーター内蔵のMDデッキなどにつなぐときは

☞151、152ページをご覧ください。

9 AVマウス端子（☞33、125、143、144ページ）

付属のAVマウスをつなぎます。

10 電話回線端子（☞107、108ページ）

付属のモジュラーテレホンコードカプラーを使って電話コンセントにつなぎます。また、ISDN回線をお使いのときは、ターミナルアダプターのアナログポートにつなぎます。ADSL回線をお使いのときは、スプリッターと市販のモジュラーテレホンコードカプラーを使ってつなぎます。

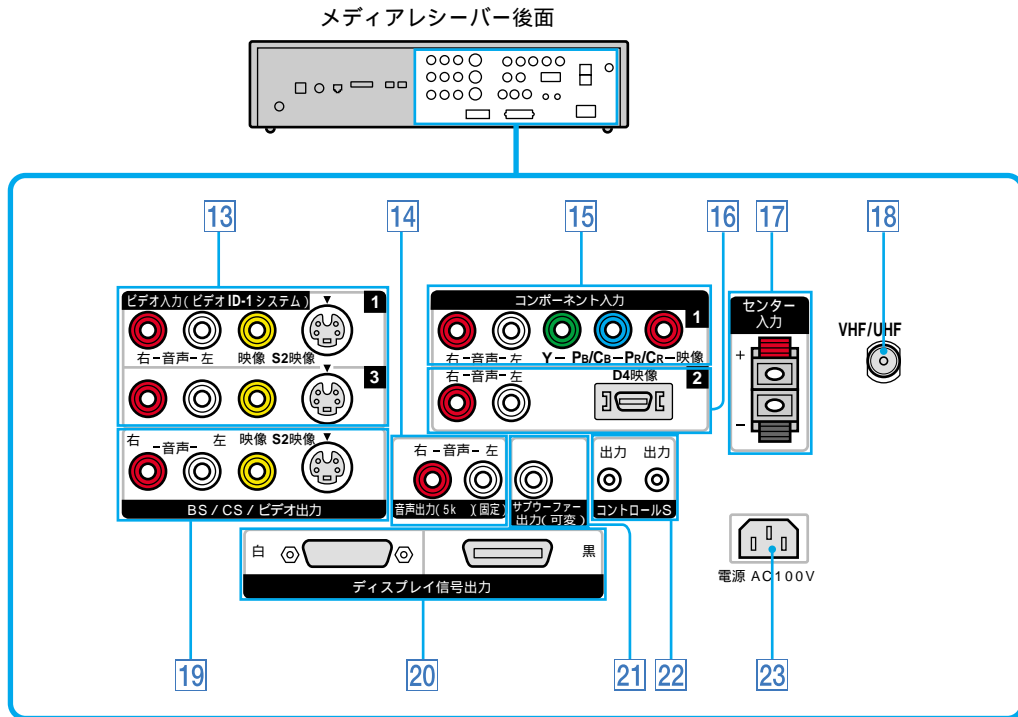
11 サービス端子

修理のときなどサービス業務に使います。ふたを開けないでください。

12 i.LINK S400（TS/MICROMV）端子（☞156、157、159ページ）

ハードディスクレコーダーやD-VHSビデオなどのi.LINK対応機器とつなぎます。
デジタル信号を入出力します。詳しくは、「i.LINKでの接続」（☞154〜165ページ）をご覧ください。

次のページにつづく

接続端子の名前とはたらき（つづき）

☞のページに詳しい説明があります。

13 ビデオ1、3入力端子（S2映像/映像/音声）（ビデオID-1システム）（☞143、144、146、147、150ページ）

ビデオデッキやレーザーディスクプレーヤー、DVDプレーヤーなどのビデオ機器、およびデジタルCSチューナーなどのビデオ出力端子につなぎます。

14 音声出力端子（5kΩ）（固定）（左/右）（☞153ページ）

オーディオ機器の音声入力端子につなぎます。
予約録画（☞36ページ）の設定に関係なく、選んでいるチャンネルや入力の音声が出力されます。

ご注意

メディアレシーバー前面のヘッドホン端子にヘッドホンをつなぐと、音声出力端子からの音声信号が出力されなくなります。音声出力端子にカセットデッキなど録音機器をつないでいるときは、ご注意ください。

15 コンポーネント1入力端子（Y PB/CB PR/CR 映像/音声）（☞142、149ページ）

Y PB/CB PR/CR 映像入力端子
DVDプレーヤーのコンポーネントビデオ出力端子（Y/CB/CRまたは、Y/B-Y/R-Y、Y/PB/PR）、またはハイビジョン機器の映像出力端子につなぎます。

音声入力端子
DVDプレーヤーまたはハイビジョン機器の音声出力端子につなぎます。

Y PB/CB PR/CR 映像入力端子での入力信号切換について
お買い上げ時は、「HDモード：1080」に設定されています。ご覧になる映像の信号の種類によって設定し直してください。
「(各種切換)」メニューで「HDモード」を選び、「HDモード：1080」か「HDモード：1035」に設定してください。
従来のハイビジョン放送（有効走査線数1035本）を見るときは、「HDモード：1035」に設定してください。
なお、「HDモード：オート」には設定できません。

☞のページに詳しい説明があります。

16 コンポーネント2入力端子（D4映像/音声）（☞71、142、146、150ページ）

D4映像入力端子
デジタルCSチューナーやビデオ機器などのD映像出力端子につなぎます。

音声入力端子
デジタルCSチューナーやビデオ機器などの音声出力端子につなぎます。

D4映像入力端子での入力信号切換について（HDモード）
通常は、お買い上げ時の設定「HDモード：オート」のままでお使いください。
D4映像入力端子に入力される以下の2種類の信号を自動的に判別して、本機の画面に映すためです。

- **デジタルハイビジョン放送**（有効走査線数1080本）：D4映像入力端子に他のBSデジタルチューナーなど、デジタルハイビジョン放送機器がつながっているとき。
- **従来のハイビジョン放送**（有効走査線数1035本）：D4映像入力端子に従来のハイビジョン（ベースバンド）機器がつながっているとき。デジタルハイビジョンの識別制御信号がない映像信号は、有効走査線数1035本の画像で表示します。

なお、「(各種切換)」メニューで「HDモード」を選び、「HDモード：1080」や「HDモード：1035」に設定できます。このときは、設定していない方の信号は正しく映りません。

D端子について
BS･110度CSには次のような信号フォーマットがあります。

信号フォーマット	走査線数	有効走査線数
525i（480i）	525本	480本
525p（480p）	525本	480本
1125i（1080i）	1125本	1080本
750p（720p）	750本	720本

iはインターレース：飛び越し走査、pはプログレッシブ：順次走査の略です（☞65ページ）。
（ ）内は有効走査線数で数えたときの別称です。

BS･110度CSの信号フォーマットに対応するD端子の種類は次のようになっています。

D端子の種類とその対応信号フォーマット

D端子の種類	525i	525p	1125i	750p
D1端子	○	×	×	×
D2端子	○	○	×	×
D3端子	○	○	○	×
D4端子	○	○	○	○

17 センター入力端子（☞71ページ）

AVアンプのセンタースピーカー出力端子につなぎます。

18 VHF/UHFアンテナ端子（☞102ページ）

VHF/UHF用のアンテナ接続ケーブルやケーブルテレビのケーブルをつなぎます。

19 BS/CS/ビデオ出力端子（S2映像/映像/音声）（ビデオID-1システム）（☞143、144、146、147ページ）

ビデオデッキなどのビデオ入力端子につなぎます。
テレビ（地上波）、BS、110度CS、ビデオ1〜3入力*、AVマルチ入力の信号が出力されます。

* ただし、ビデオ1入力の信号については、「（テレビ設定）」メニューで「初期設定」を選び、「ビデオ出力設定」を「ビデオ1あり」にする必要があります（☞145ページ）。

ご注意

- コンポーネント入力端子につないだ機器の映像信号は出力されません。
- “メモリースティック”に記録された静止画像は出力されません。
- 字幕放送やiLINKで録画した番組の字幕の映像信号は出力されません。
- BS･110度CSのラジオやデータの音声は記録できますが、画像は正しく記録されません。
- i.LINKで録画したBS･110度CSのラジオやデータの音声は、記録できますが、画像は正しく記録されません。

予約録画実行中（☞33〜35ページ）のご注意
通常は、画面に映っている映像と音声を出力します。
ただし、予約録画実行中は画面に映っている映像と音声には関係なく、予約したチャンネルの映像と音声が出力されます。

20 ディスプレイ信号出力端子（白/黒）（☞101ページ）

付属のディスプレイケーブルでディスプレイのDISPLAY SIGNAL IN 端子とつなぎます。

21 サブウーファー出力（可変）端子（☞153ページ）

サブウーファーの入力端子とつなぎます。

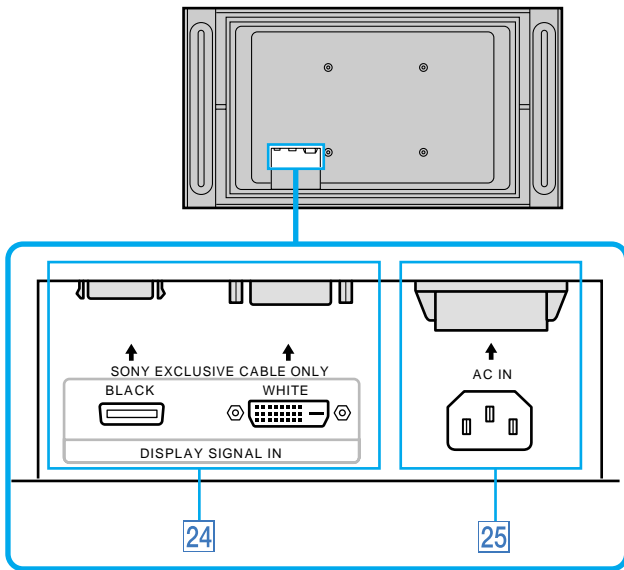
22 コントロールS出力端子（☞13ページ）

ソニー製機器のコントロールS入力端子とつなぎます。

23 電源AC100V入力端子（☞110ページ）

付属の電源コードをつなぎます。

接続端子の名前とはたらき（つづき）

ディスプレイ後面

☞のページに詳しい説明があります。

24 DISPLAY SIGNAL IN（ディスプレイ信号入力）端子（BLACK/WHITE）（黒/白）（☞100ページ）

付属のディスプレイケーブルでメディアレシーバーのディスプレイ信号出力端子とつなぎます。

25 AC IN（電源入力）端子（☞110ページ）

付属の電源コードをつなぎます。

コンポーネント1、2入力端子につないだ機器の画像の色あいについて（カラーマトリクス）

コンポーネント入力につないだデジタルCSチューナーやDVDプレーヤーなどの出力が、525p（480p）、1125i（1080i）、750p（720p）の各信号フォーマットのとき、映像が自然な色あいになるように設定できます。

通常はお買い上げ時の設定のままでお使いください。色あいが不自然になったときには、設定し直してください。

「(各種切換)」メニューで「カラーマトリクス」を選び、コンポーネント1、2の各入力ごとに、480p、1080i、720pの信号フォーマットを選んで、「Y/C_B/C_R」または「Y/P_B/P_R」で、自然な色あいになる方に設定してください。

お買い上げ時は、「480p」は「Y/C_B/C_R」、「720p」は「Y/P_B/P_R」、「1080i」では「Y/P_B/P_R」に設定されています。

ビデオをつなぐ

ビデオデッキ、ソニー製ハードディスクビデオレコーダーClip-On、またはレーザーディスクプレーヤーなどをつなぎます。それぞれの機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

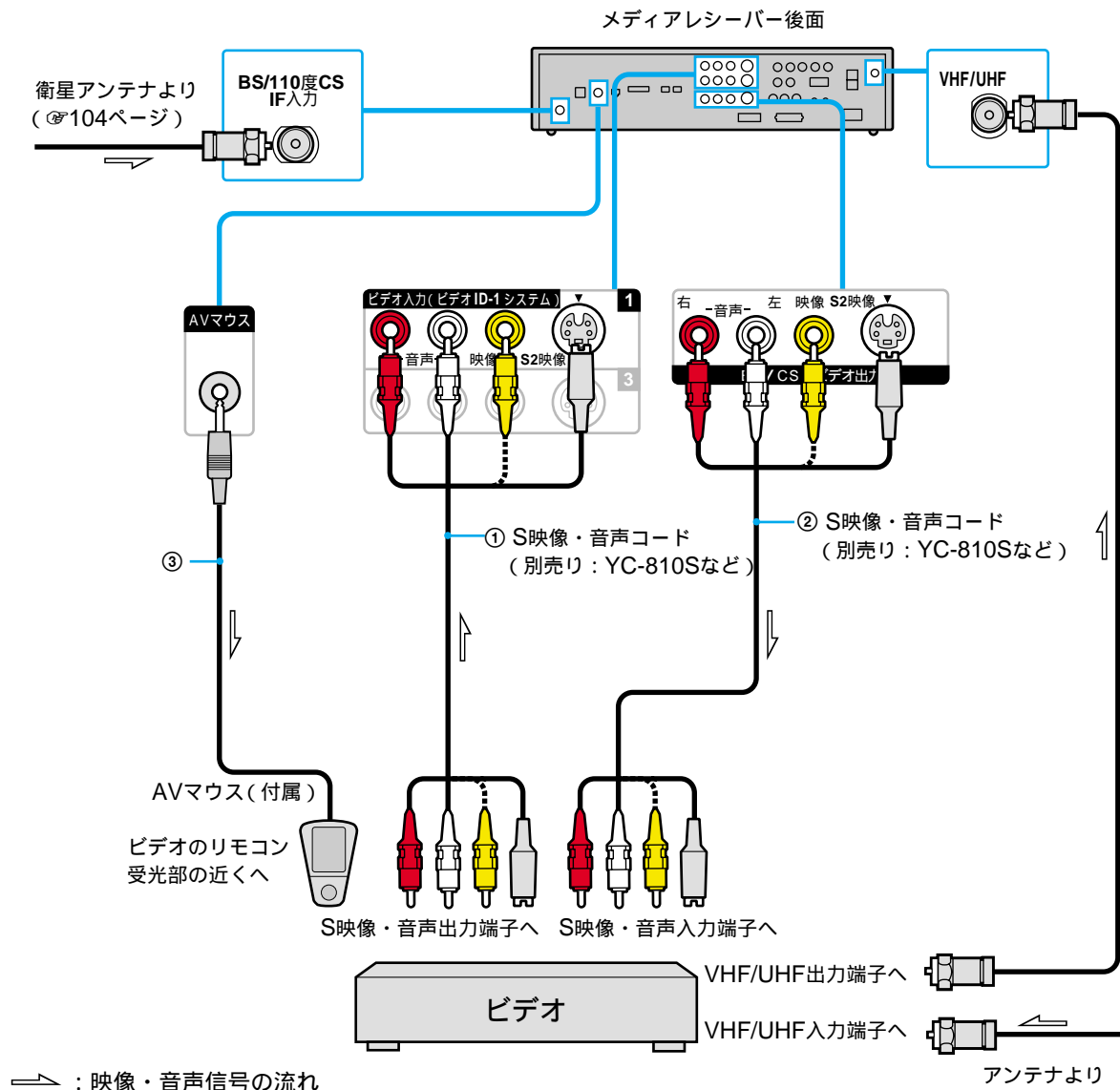
S2映像端子と映像端子のどちらにつなぐか迷ったときは

よりよい画質でご覧いただくために、S2映像端子につないでください*。

つなぐ機器にS映像端子がない場合は、映像端子につなぎます。

* レーザーディスクプレーヤーのときは映像端子につないでください。三次元Y/C分離回路搭載のレーザーディスクプレーヤーのときは、接続による画質の差はほとんど生じません。再生モードにはノーマルを選び、デジタルで再生しないでください。詳しくは、レーザーディスクプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

BSアナログチューナーのないビデオのとき

BS･110度CSのテレビ放送をアナログ予約録画したり（☞33ページ）、ビデオを見たりするための接続です。
ビデオの取扱説明書もあわせてご覧ください。

① ビデオの再生画像を見るための接続（☞8ページ）。ビデオにS映像出力端子がないときは、S映像のかわりに映像コードでつないでください。
② BS･110度CSのテレビの放送をビデオにアナログ録画するための接続（☞33～36ページ）。ビデオにS映像入力端子がないときは、S映像のかわりに映像コードでつないでください。
③ BS･110度CSのテレビ放送を本機と連動して予約録画するための接続（☞33ページ）。「準備13：AVマウスを設定する」（☞125ページ）も行ってください。

ビデオを見るには

ビデオの画像が出るまで、くり返しビデオボタンを押す（☞8ページ）。

ご注意

- 本機から録画した16:9の映像を、画面の横縦比4:3のワイド機能のないテレビで再生すると映像が縦長に引き延ばされて出力されます。
- 本機をモニターとして使い、ビデオなどで編集するときは、再生機をビデオ1入力を除いたビデオ2、3入力端子につないでください。お買い上げ時は、ビデオ1入力端子につないだ機器の信号はBS/CS/ビデオ出力端子から出力されない設定になっているためです（☞145ページ）。
- i.LINK端子の付いているD-VHSビデオをつなぐときは、i.LINK接続（☞157ページ）もすると、本機のi.LINK操作画面で、録画や再生の操作ができます（☞82ページ）。

他機との接続

次のページにつづく

BSアナログチューナー内蔵ビデオのとき

BS･110度CSのテレビ放送をアナログ予約録画したり（☞33ページ）、ビデオを見たりするための接続です。
ビデオの取扱説明書もあわせてご覧ください。

① ビデオの再生画像を見るための接続（☞8ページ）。ビデオにS映像出力端子がないときは、S映像のかわりに映像コードでつないでください。

② BS･110度CSのテレビの放送をビデオにアナログ録画するための接続（☞33～36ページ）。BSアナログ放送の録画は、ビデオ自身に内蔵のBSアナログチューナーで受信し録画してください。ビデオにS映像入力端子がないときは、S映像のかわりに映像コードでつないでください。

③ BS･110度CSのテレビ放送を本機と連動して予約録画するための接続（☞33ページ）。「準備13：AVマウスを設定する」（☞125ページ）も行ってください。

ビデオを見るには

ビデオの画像が出るまで、くり返しビデオボタンを押す（☞8ページ）。

ご注意

- 110度CSに対応していない分配器を使ったり、衛星アンテナからビデオを経由してメディアレシーバーのBS/110度CS IF入力端子につないだりしないでください。110度CSを受信できないことがあります。
- 本機をモニターとして使い、ビデオなどで編集するときは、再生機をビデオ2、3入力端子のいずれかにつないでください。お買い上げ時の設定では、ビデオ1入力端子につないだ機器の信号はBS/CS/ビデオ出力端子から出力されないためです（☞145ページ）。
- i.LINK端子の付いているD-VHSビデオをつなぐときは、i.LINK接続（☞157ページ）もすると、本機のi.LINK操作画面で、録画や再生の操作ができます（☞82ページ）。

ビデオ1～3入力のS2映像入力端子と映像入力端子の両方につないだときは

ビデオの映像信号をどちらの端子から入力するかを、ビデオ入力ごとにメニュー画面で設定できます。お買い上げ時は、S2映像入力端子から入力された画像が映ります。

1 ビデオボタンをくり返し押して、切り換えたいビデオ入力を選ぶ。

2 メニューボタンを押して、メニューを出す。

3 △/▽で「(各種切換)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

4 △/▽で「S映像」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 △/▽で「入」または「切」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

「入」：S2映像入力端子から入力された画像を見ることができる。

「切」：映像入力端子から入力された画像を見ることができる。

6 メニューボタンを押して、メニューを消す。

ビデオ1入力の信号をBS/CS/ビデオ出力端子から出力するときは

お買い上げ時は、ビデオ1入力端子につないだ機器の信号は、BS/CS/ビデオ出力端子から出力されないようになっています。本機をモニターとして使い、ビデオなどで編集するときは再生機をビデオ2、3入力端子のいずれかにつないでください。
ビデオ1入力の映像や音声をBS/CS/ビデオ出力端子につないだビデオ機器などで楽しむときは、以下の設定をしてください。ビデオ1入力端子につないだ機器の映像および音声がBS/CS/ビデオ出力端子から出力されます。

1 メニューボタンを押して、メニューを出す。

2 △/▽で「(テレビ設定)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

3 △/▽で「初期設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

4 △/▽で「ビデオ出力設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 △/▽で「ビデオ1あり」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

6 メニューボタンを押して、メニューを消す。

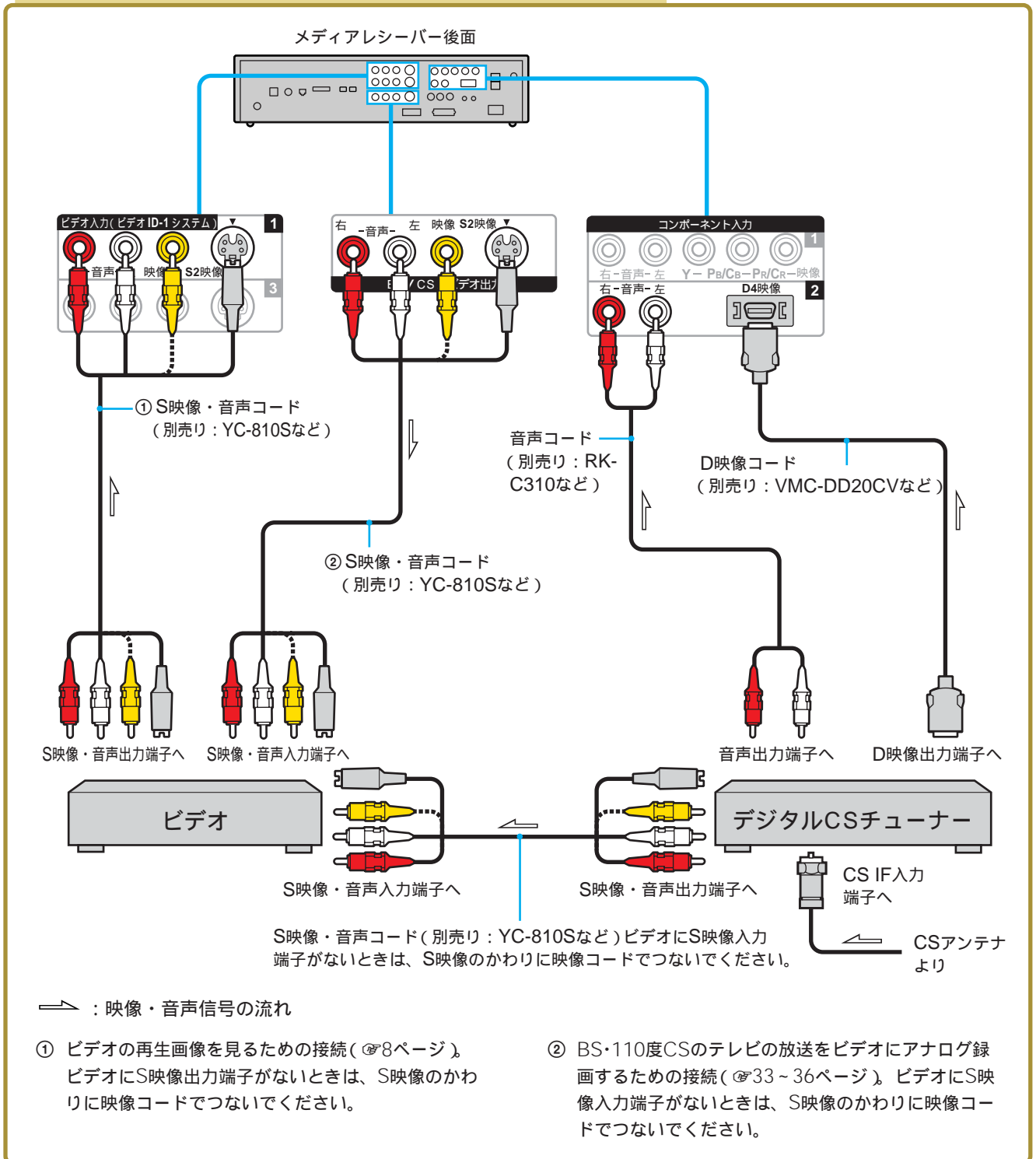
デジタルCSチューナーをつなぐ

デジタルCS放送*を見るには、デジタルCS放送局との受信契約が必要です。詳しくは、デジタルCS放送局へお問い合わせください。
デジタルCSチューナーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

* スカイパーフェクTV! のことです。110度CSデジタル放送ではありません。

D端子のあるデジタルCSチューナーのとき

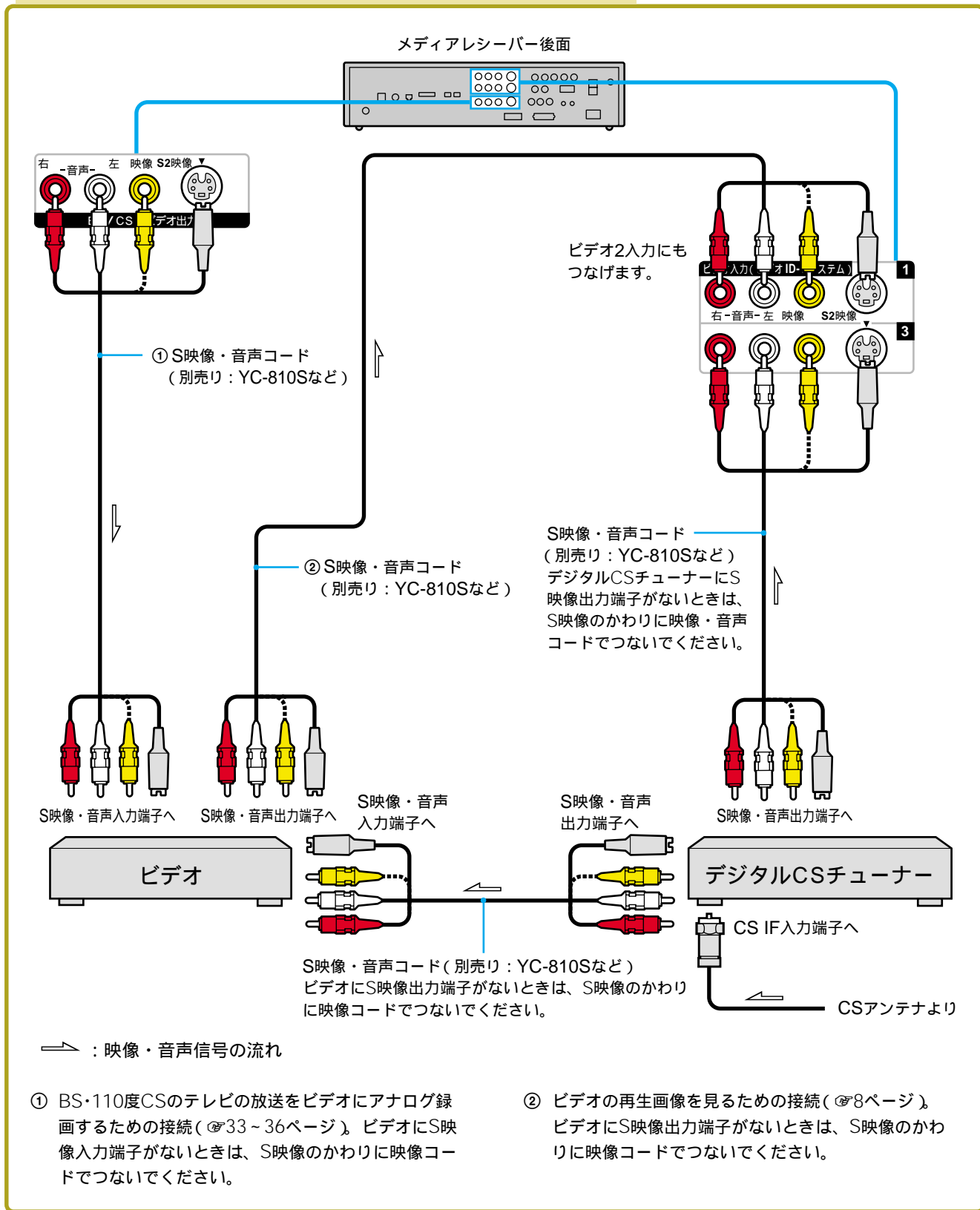
① ビデオの再生画像を見るための接続（☞8ページ）。ビデオにS映像出力端子がないときは、S映像のかわりに映像コードでつないでください。

② BS･110度CSのテレビの放送をビデオにアナログ録画するための接続（☞33～36ページ）。ビデオにS映像入力端子がないときは、S映像のかわりに映像コードでつないでください。

デジタルCS放送を見るには

デジタルCS放送の画像が出るまで、くり返しコンポーネント AVマルチボタンを押す（☞8ページ）。

D端子のないデジタルCSチューナーのとき

① BS･110度CSのテレビの放送をビデオにアナログ録画するための接続（☞33～36ページ）。ビデオにS映像入力端子がないときは、S映像のかわりに映像コードでつないでください。

② ビデオの再生画像を見るための接続（☞8ページ）。ビデオにS映像出力端子がないときは、S映像のかわりに映像コードでつないでください。

デジタルCS放送を見るには

デジタルCS放送の画像が出るまで、くり返しビデオボタンを押す（☞8ページ）。

“プレイステーション 2” などをつなぐ

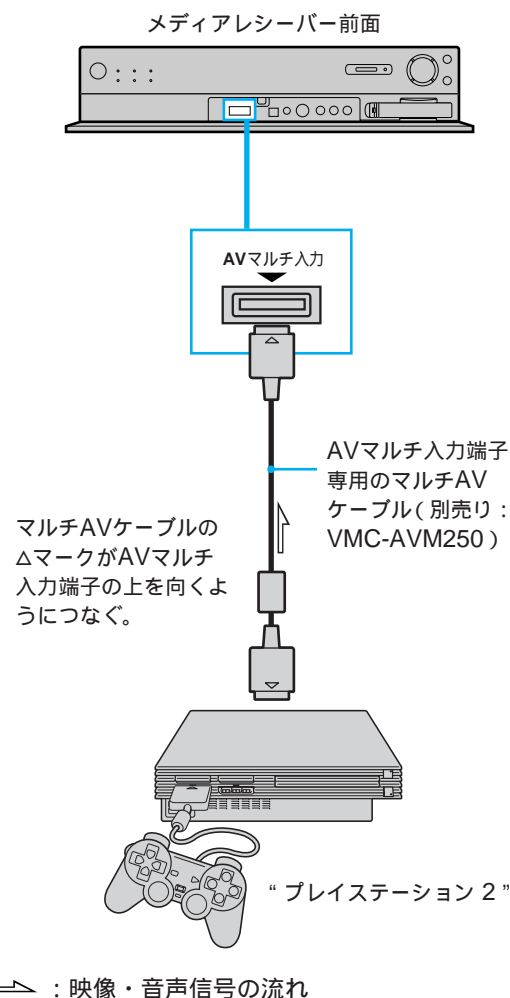
“プレイステーション 2”、
“プレイステーション ”（PS one）および
“プレイステーション ”を本機とつないで楽しめます。
つないだ“プレイステーション 2”などの取扱説明書もご覧ください。

ご注意

“プレイステーション 2”の一部の機種では、マルチAVケーブル（VMC-AVM250）で接続し、DVDビデオを再生した場合、出力信号（RGB）がコンポーネント映像信号（Y CB/PB CR/PR）に固定されるため、画面が乱れる場合があります。本機のAVマルチ入力端子は、このコンポーネント映像信号に対応していますが、「AVマルチ入力」が「AVマルチRGB」に選択されているとDVDが正しく再生されません。コンポーネント AVマルチボタンをくり返し押して、「AVマルチY/CB/CR」を表示させ、入力を切り換えてください。
詳しくは、“プレイステーション 2”本体の取扱説明書をご覧いただくか、下記にお問い合わせください。

株式会社　ソニー・コンピュータエンタテインメント
インフォメーションセンター
ナビダイヤル 0570-000-929
携帯電話・PHSでのご利用は 03-3475-7444
受付時間：10:00～18:00（土日祝日を除く）

別売りのマルチAVケーブルでつなぐとき

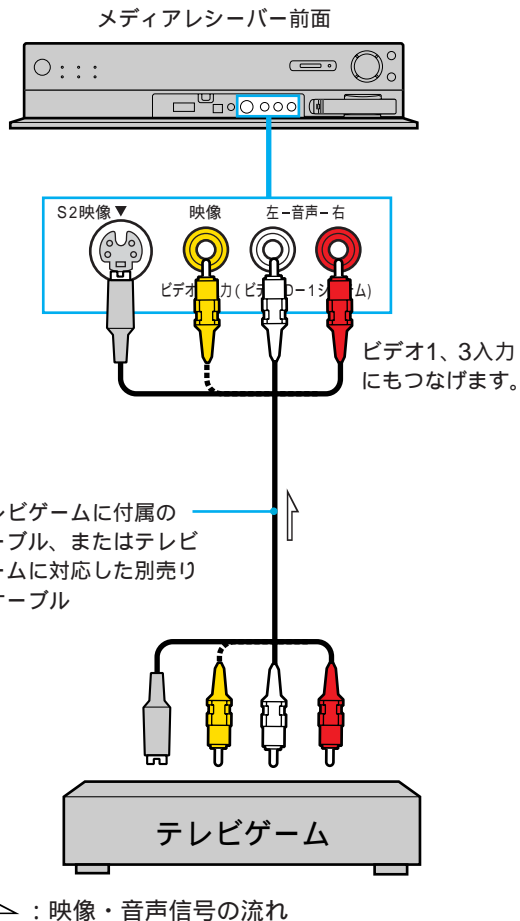
RGB接続またはY/CB/CR接続になり、高画質な画像でゲームを楽しめます。

“プレイステーション 2”などを楽しむには

映像が出るまで、コンポーネント AVマルチボタンをくり返し押す（☞8ページ）。

ご注意

- AVマルチ入力端子は、ビデオ入力端子に比べて色の帯域が広くなっています。色あいが異なって見える場合がありますが、本機に影響はありません。
- ソフトウェアの信号によっては、AVマルチ入力端子のRGBやY/CB/CR信号に適していないものもあります。

その他のテレビゲームなどをつなぐ

メディアレシーバー前面のビデオ2入力端子にテレビゲームをつなぎます。テレビゲームの取扱説明書もご覧ください。

テレビゲームを楽しむには

映像が出るまで、ビデオボタンをくり返し押す（☞8ページ）。

ご注意

電子的なライフルやガン（銃）などで標的にして楽しむシューティングゲームなどは、本機の画面を使用できないことがあります。詳しくは、ゲームソフトの取扱説明書をご覧ください。

DVDプレーヤーをつなぐ

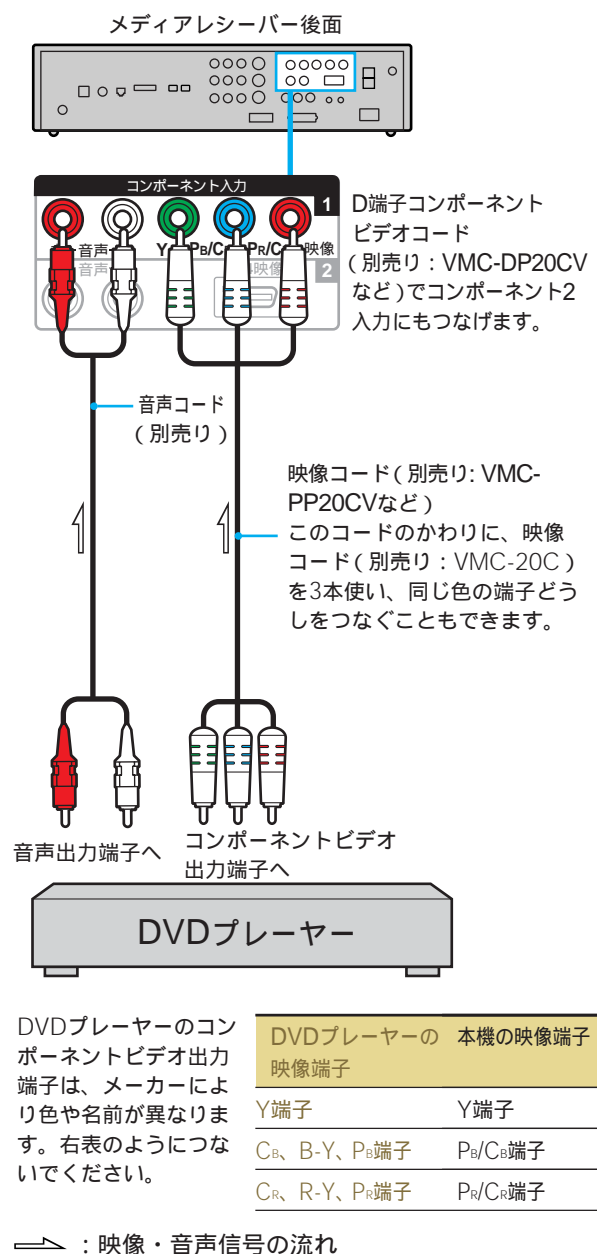
コンポーネントビデオ出力端子のあるDVDプレーヤーはメディアレシーバーのコンポーネント入力端子につなぐと、より高画質の画像をお楽しみいただけます。
DVDプレーヤーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

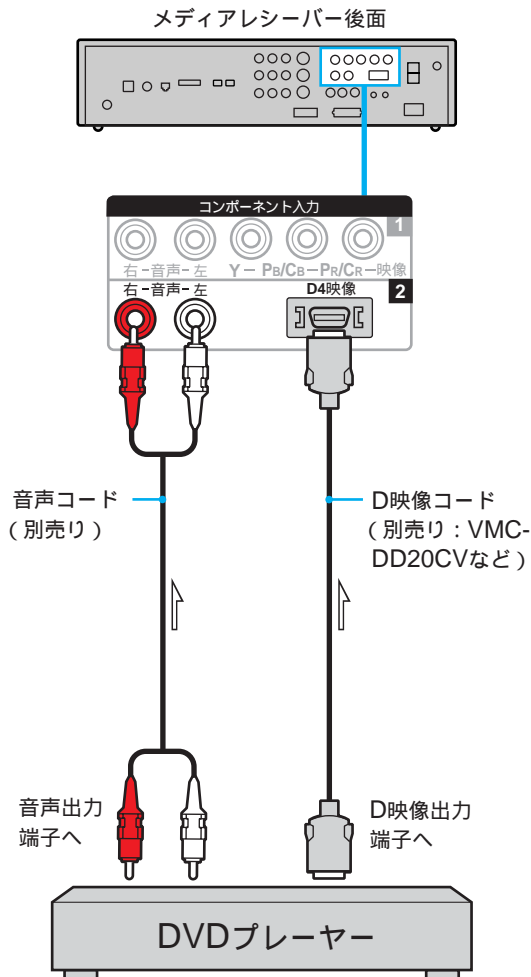
コンポーネントビデオ出力端子にD端子のないDVDプレーヤーのときは

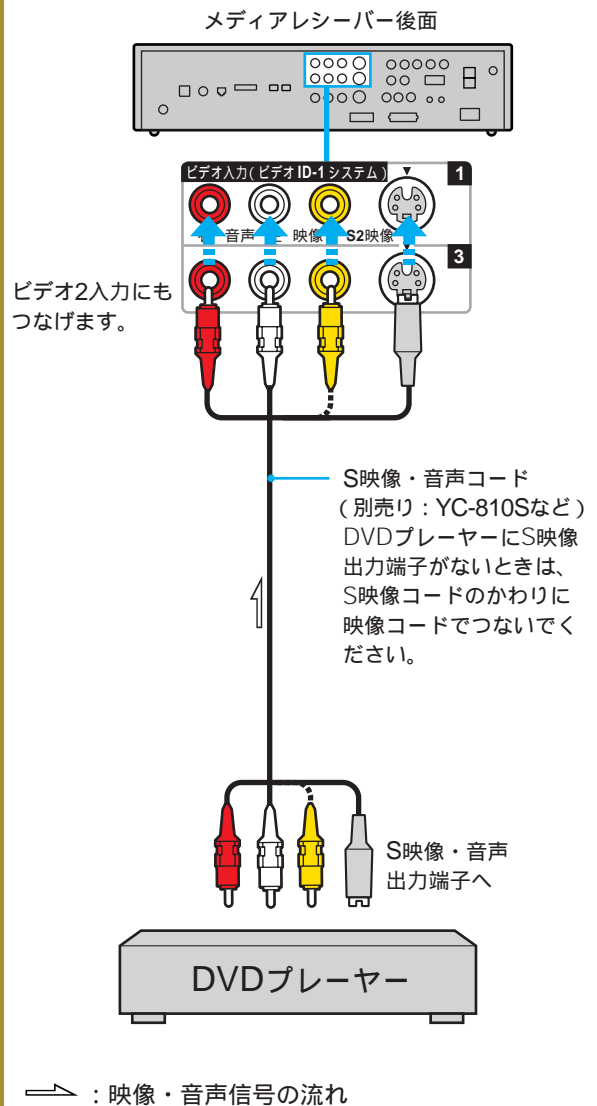
DVDプレーヤーのコンポーネントビデオ出力端子は、メーカーにより色や名前が異なります。右表のようにつないでください。

DVDプレーヤーの映像端子	本機の映像端子
Y端子	Y端子
CB、B-Y、PB端子	PB/CB端子
CR、R-Y、PR端子	PR/CR端子

⟶：映像・音声信号の流れ

次のページにつづく

DVDプレーヤーをつなぐ（つづき）

コンポーネントビデオ出力端子にD端子のあるDVDプレーヤーのときは

デジタルチューナーをつながないときは、コンポーネント1入力にもつなげます。
D映像コードのかわりに、D端子コンポーネントビデオコード（別売り: VMC-DP20CVなど）を使ってY端子、CB端子、CR端子とD端子をつなぐこともできます。

コンポーネントビデオ出力端子のないDVDプレーヤーのときは

DVDを見るには

コンポーネントビデオ出力端子のあるDVDプレーヤーのときは
DVDプレーヤーの画像が出るまで、くり返しコンポーネント AVマルチボタンを押す（☞8ページ）。

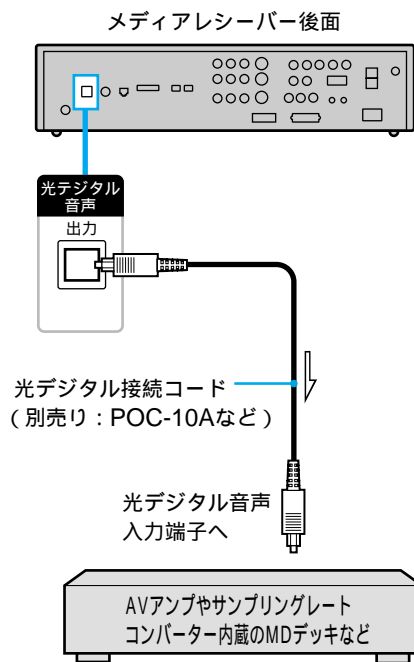
DVDを見るには

コンポーネントビデオ出力端子のないDVDプレーヤーのときは
DVDプレーヤーの画像が出るまで、くり返しビデオボタンを押す（☞8ページ）。

オーディオ機器をつなぐ

光デジタル入力対応のオーディオ機器をつなぐ

光デジタル音声入力端子を持つAV**アンプ**や、**サンプリングレートコンバーター内蔵の**MD**デッキ**などをつなぎます。
センタースピーカーのかわりに本機のスピーカーでセンター音声を聞くときは「TVセンタースピーカーにAVアンプをつなぐ」(☞71ページ) を行ってください。

つなぐオーディオ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

⟹：音声信号の流れ

AAC対応AVアンプをつなぐときは

「(メニュー切換)」メニューで「(各種切換)」を選び、「光デジタル出力」を「オート」にしてください。

放送の種類	メディアレシーバー後面の光デジタル音声出力端子から出力する信号
BS・110度CSデジタルのデジタル音声	AAC音声 (BS・110度CSデジタル放送用音声方式) がそのまま出力されます。
地上波やビデオ機器などからのアナログ音声	PCM音声 (2ch) のデジタル信号に変換して出力されます。

1 **BS または CS ボタンを押す。**

2 **メニューボタンを押して、メニューを出す。**

3 **△/▽で「(メニュー切換)」選び、真ん中を押しこんで決定する。**

4 **△/▽で「(各種切換)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

5 **△/▽で「光デジタル出力」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

6 **△/▽で「オート」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

7 **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

ちょっと一言
BS・110度CSデジタル放送の番組によっては、5.1chサラウンドなどの音声を楽しめます。つなぐオーディオ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

次のページにつづく

オーディオ機器をつなぐ（つづき）

AACに対応していないAVアンプやサンプリングレートコンバーター内蔵のMDデッキなどの機器をつなぐときは

「（メニュー切換）」メニューで「（各種切換）」を選び、「光デジタル出力」を「PCM」（お買い上げ時の設定）にしてください。

BS・110度CSのデジタル音声も、地上波やビデオ機器などからのアナログ音声もすべて、PCM音声（2ch）のデジタル信号に変換して出力されます。

1 **BS または CS ボタンを押す。**

2 **メニューボタンを押して、メニューを出す。**

3 **△/▽で「（メニュー切換）」選び、真ん中を押しこんで決定する。**

4 **△/▽で「（各種切換）」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

5 **△/▽で「光デジタル出力」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

6 **△/▽で「PCM」（お買い上げ時の設定）を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

7 **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

予約録画実行中（☞30～35ページ）のご注意

- **音声信号が1つのときは**
  本機のスピーカーから聞こえる音声には関係なく、予約されたBS・110度CSチャンネルの音声を出力します。
  ただし、「PCM」に設定されているときは、二重音声番組では、「（予約設定）」メニューの「二重音声設定」（☞36ページ）で設定した音声が出力されます。
- **第2音声など音声信号が複数あるときは**
  i.LINKでデジタル予約録画したとき（☞30ページ）は、第1音声が出力されます。
  AVマウスでアナログ予約録画したとき（☞33ページ）は、予約時に設定した音声が出力されます。

光デジタル音声入力対応のオーディオ機器につないだスピーカーでのみ音声を聞くときは

「（各種切換）」メニューの「スピーカー」を「切」にしてください。本機での音量調節に関係なく、本機のスピーカーから音声が出なくなります。オーディオ機器側で音量を調節してください。

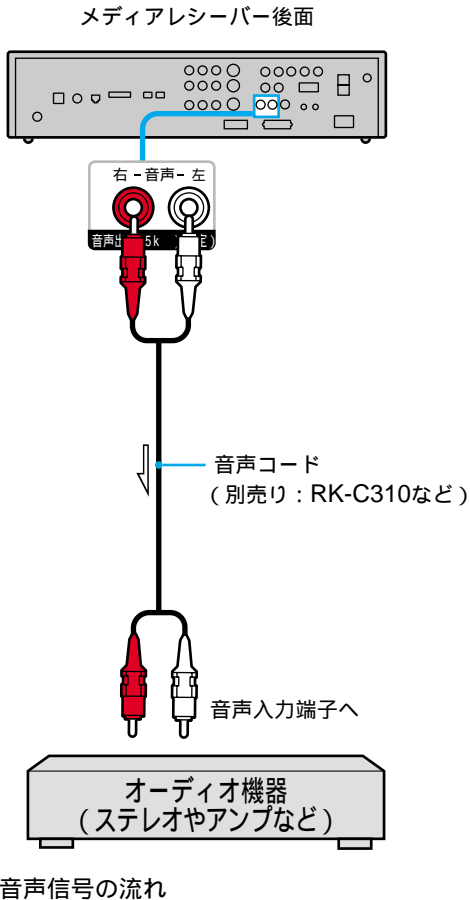
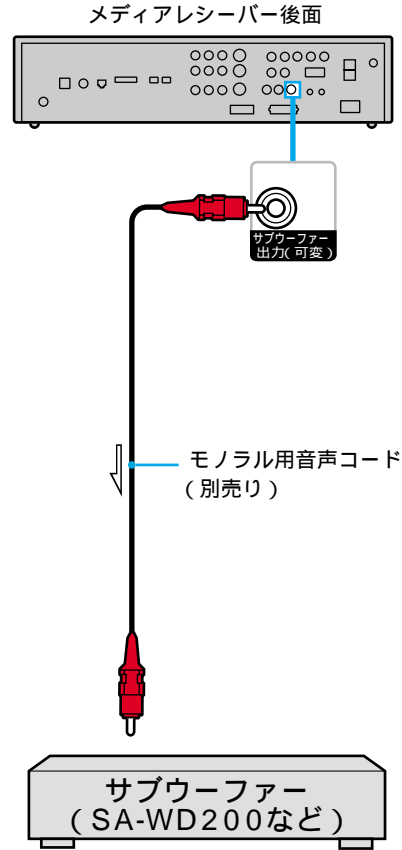
ヘッドホンで音声を聞くときは

メディアレシーバー前面のヘッドホン端子にヘッドホンをつなぐと、BS・110度CSデジタル放送とi.LINK端子からの入力以外は、光デジタル音声出力端子から出力されなくなります。

ご注意

- BS・110度CSデジタル放送では、「光デジタル出力」を「オート」にすると、光デジタル音声出力からAAC音声が出力されます。AACに対応していないAVアンプやサンプリングレートコンバーター内蔵のMDデッキなどにつなぐときは、必ず「PCM」に設定してください。「オート」のままだと、正しく出力されません。
- 本機には、録画防止機能（コピープロテクション）が付いています（☞32、154ページ）。そのため、音声に関しても、メディアレシーバー後面の光デジタル音声出力端子からの信号を、録音できない番組があります。
- 光デジタル音声出力端子からは、BS・110度CSデータでの効果音（ピンポンとかブーなど）は出力されません。

その他のオーディオ機器（2ch入力対応）をつなぐ

オーディオ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

サブウーファーをつなぐ

ちょっと一言
AAC対応AVアンプをつなぐ（☞151ページ）ときは、サブウーファーはAVアンプのサブウーファー出力端子につないでください。

オーディオ機器につないだスピーカーで音声を聞くときは
「(各種切換)」メニューの「スピーカー」を「切」にしてください。本機での音量調節に関係なく、本機のスピーカーから音声が出なくなります。オーディオ機器側で音量を調節してください。

ご注意
メディアレシーバー前面のヘッドホン端子にヘッドホンをつなぐと、音声出力端子からの音声信号が出力されなくなります。音声出力端子にカセットデッキなど録音機器をつないでいるときは、ご注意ください。

i.LINK（アイリンク）について

i.LINKで何ができるの？

i.LINKは、i.LINK端子を持つ機器間で、デジタル映像やデジタル音声などの信号を双方向でやりとりしたり、他機を操作したりできます。次のような特徴があります。

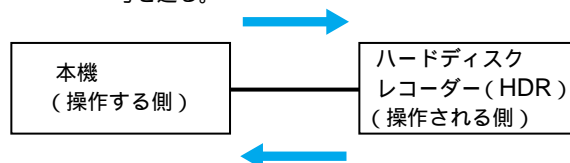
- i.LINKケーブル1本だけでi.LINK対応機器間をつなげます。
- 複数のi.LINK対応機器をつないだときは、他の機器を介してつないでも、操作やデータのやりとりができます。このため、接続順序は気にする必要ありません。
- つなぐ機器の特性や仕様によっては、操作のしかたが異なったり、つないでも操作やデータのやりとりができない場合があります。
- LINC（☞右記）した、i.LINK対応機器を1度に1台だけ操作できます。

LINC（リンク）する：操作したいi.LINK対応機器を選ぶ

i.LINKケーブルでつないだだけでは、i.LINK対応機器を本機は操作できません。
まず操作したい相手を選ぶ必要があります。これを「LINCする」といいます。
「LINCする」と、本機と操作したい相手の機器間で、次の図のように信号のやりとりが行われます。

例：本機がハードディスクレコーダー（HDR）をLINCするとき

呼びかけ①と返答②でLINCが成立して初めて、i.LINK対応機器を操作できるようになります。

① 本機が「これから操作してもいいですか？」と、ハードディスクレコーダー（HDR）に信号を送る。

② ハードディスクレコーダー（HDR）が「了解です」と、本機に信号を送る。

ちょっと一言

LINCは、Logical Interface Connection（ロジカル・インターフェース・コネクション：「論理的な接続を行う」の意）の略です。

i.LINK（アイリンク）および i はIEEE1394の親しみやすい呼称としてソニーが提案し、国内外多数の企業からご賛同いただいている商標です。

IEEE1394は電子技術者協会によって標準化された国際標準規格です。

コピープロテクションについて（☞32ページもご覧ください）

本機はDTLAのコピープロテクション技術に対応しています。

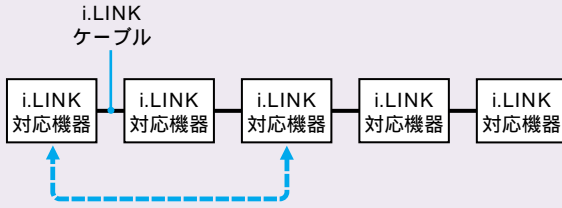
著作権保護に対応したi.LINK対応機器には、デジタルデータのコピープロテクション技術が採用されています。

この技術のひとつは、DTLA（The Digital Transmission Licensing Administrator）というデジタル伝送における著作権保護技術の管理運用団体から許可を受けているものです。

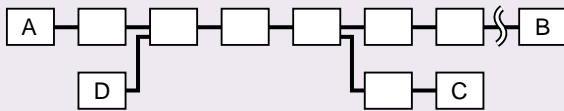
このDTLAのコピープロテクション技術を搭載している機器間では、コピーが制限されている映像/音声/データにおいて、i.LINKでのデジタルコピーができない場合があります。

また、DTLAのコピープロテクション技術を搭載している機器と搭載していない機器との間では、i.LINKでデジタルの映像/音声/データのやりとりができない場合があります。

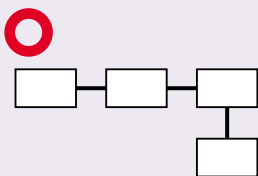
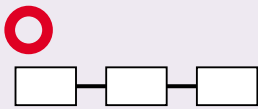
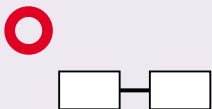
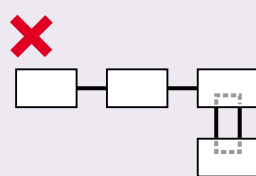
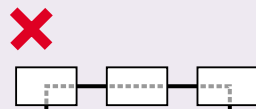
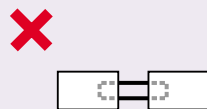
i.LINKでの接続について

i.LINK対応機器は、i.LINKケーブルで数珠つなぎにします（「デイジー・チェーン」と呼びます）。

2つの機器の間に他の機器がつながれていても、操作やデータのやりとりを行えます。

途中から分岐してつなげます

- i.LINK端子を3つ以上持つi.LINK対応機器の場合、途中から分岐してもつなげます。
- i.LINKの規格上、一番長い経路は17台までつなげます（i.LINKケーブルは、一番長い経路に対して連続して16本まで使用できます）。
  ひとつの経路に対して使用したi.LINKケーブルの数を「ホップ」と呼びます。例えば、下図のA→Cの経路は6ホップ、A→Dの経路は3ホップとなります。

A→B、A→C、A→D、B→C、B→D、C→D、
いずれの経路も最大17台の機器をつなげます（最大16ホップ）。

接続が輪（ループ）にならないようにつないでください

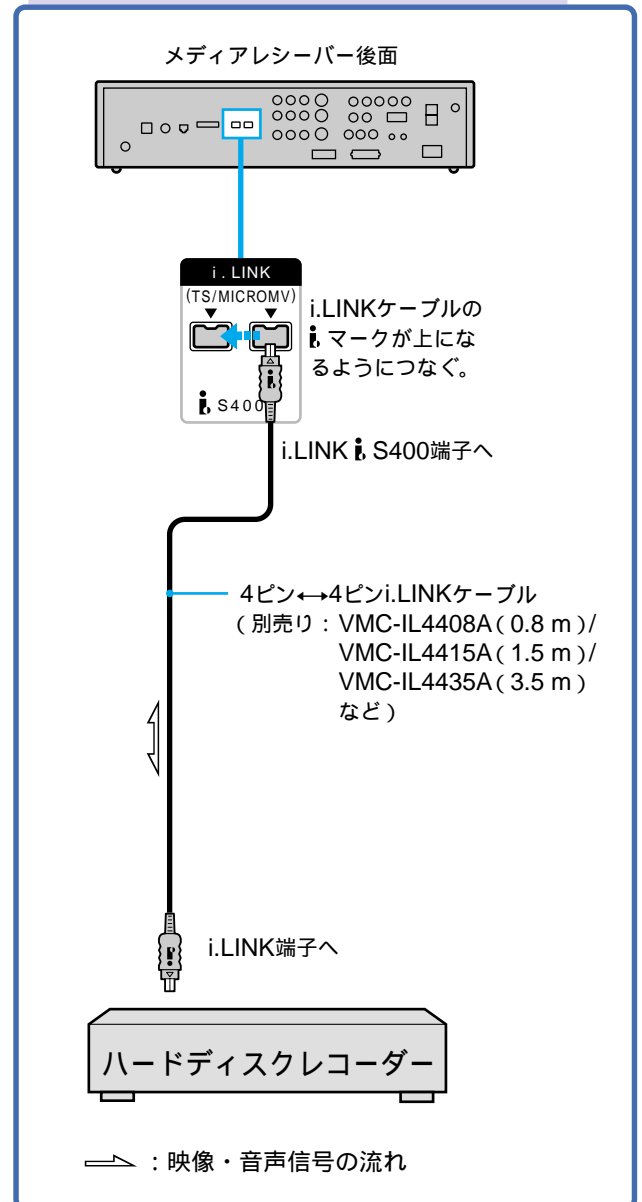
デジタル信号は、接続したすべてのi.LINKケーブルに流れます。信号を出力した機器に同じ信号が戻らないよう、輪にならないようにつないでください。接続が輪（環状）になることを「ループ」と呼びます。

接続についてのご注意

- i.LINKのデジタル信号は、その機器で取り扱えるかどうかに関わらず、つないだ他のi.LINK対応機器に中継されます。ただし、コンピューターなど一部のi.LINK対応機器の中には、電源が切られていたり、省電力モードに入っていると、データを中継しない機器があります。i.LINKでの接続の際は、つなぐ機器の取扱説明書もご覧ください。
- i.LINKは、すべてのi.LINK対応機器間での接続動作を保証するものではありません。i.LINK対応機器間でデータやコントロール信号がやりとりできるかどうかは、それぞれの機器の機能によって異なります。
- i.LINK対応機器には、その機器が対応している最大データ転送速度がi.LINK端子の周辺に表記されています。i.LINKの最大データ転送速度は、約100/200/400Mbps*が定義されており、200MbpsのものはS200、400MbpsのものはS400と表記されます。最大データ転送速度が異なる機器をつないだ場合や、機器の仕様により、実際の転送速度が表記と異なることがあります。

* Mbps（メガビーピーエス）とは、「Mega bits per second」の略で、1秒間に通信できるデータの容量を示しています。400Mbpsでは、1秒間に400メガビットのデータを転送します。

ハードディスクレコーダーをつなぐ

ソニー製のデジタル レコーディング ハードディスクドライブ（Digital Recording HDD）VRP-T1などとつなぎます。
i.LINK操作画面（☞86ページ）などでは「HDR」と表示されます。
i.LINK接続をすると、本機のi.LINK操作画面を使って、受信中のBS・110度CSデジタル放送をハードディスクレコーダーにデジタル録画したり（☞30、82ページ）、ハードディスクレコーダーに録画した番組をデジタル再生したりできます（☞84ページ）。
また、D-VHSビデオもi.LINK接続しているときは（☞157ページ）、ハードディスクレコーダーからD-VHSビデオにダビング（☞89ページ）できます。
なお、ソニー製ハードディスクビデオレコーダーClip-On（2002年9月現在）は、i.LINK対応機器ではありませんが、AVマウスで予約録画（☞33ページ）できます。
ハードディスクレコーダーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

ハードディスクレコーダーをつなぐ

本機でハードディスクレコーダーを操作するには

☞82～86、88ページをご覧ください。

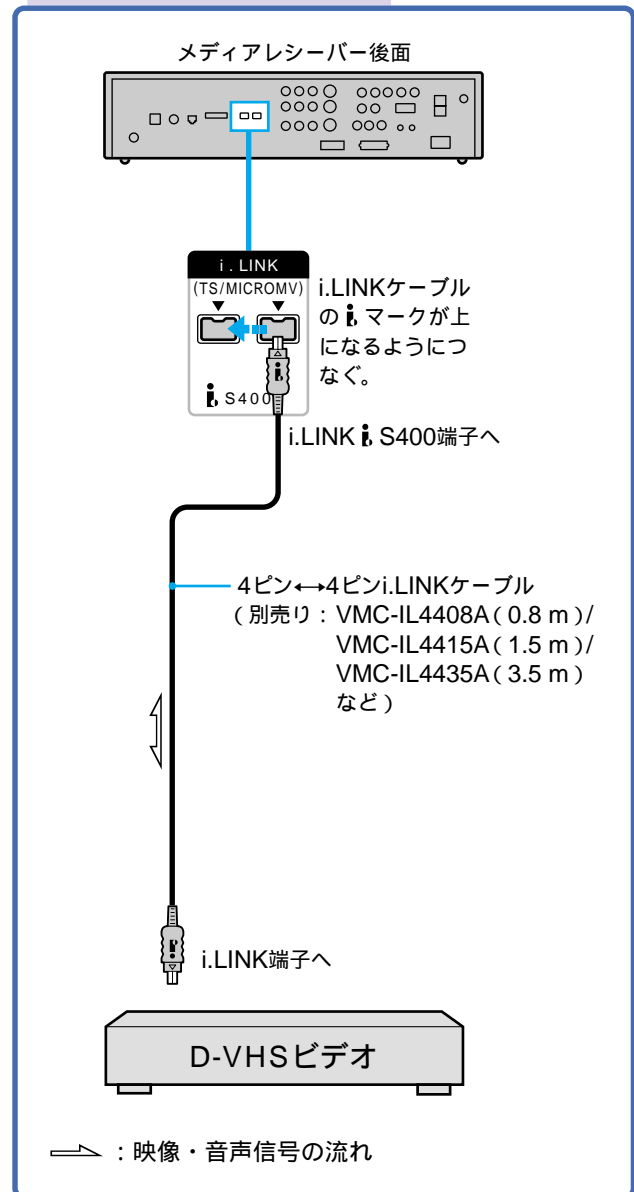
D-VHSをつなぐ

D-VHS（デジタルハイビジョンビデオ）をつなぎます。
D-VHSビデオにつなぐとi.LINK操作画面（☞87ページ）などでは「D-VHS」と表示されます。
i.LINK接続をすると、本機のi.LINK操作画面を使って、受信中のBS・110度CSデジタル放送をD-VHSビデオにデジタル録画したり（☞30、82ページ）、D-VHSビデオに録画した番組をデジタル再生したりできます（☞84ページ）。
また、ハードディスクレコーダーもi.LINK接続しているときは（☞156ページ）、ハードディスクレコーダーからD-VHSビデオにダビング（☞89ページ）できます。
D-VHSビデオの取扱説明書もあわせてご覧ください。

2002年9月現在推奨機種
日本ビクター製デジタルハイビジョンビデオ
HM-DH35000

ご注意

- 上記推奨機種以外のD-VHSビデオを本機につないでも、正しく動作しない場合があります。
- ソニー製D-VHSビデオデッキSLD-DC1は、本機の操作画面で操作できますが、デジタルハイビジョン信号HDと110度CSデジタル放送は録画できません。

D-VHSをつなぐ

本機でD-VHSビデオを操作するには

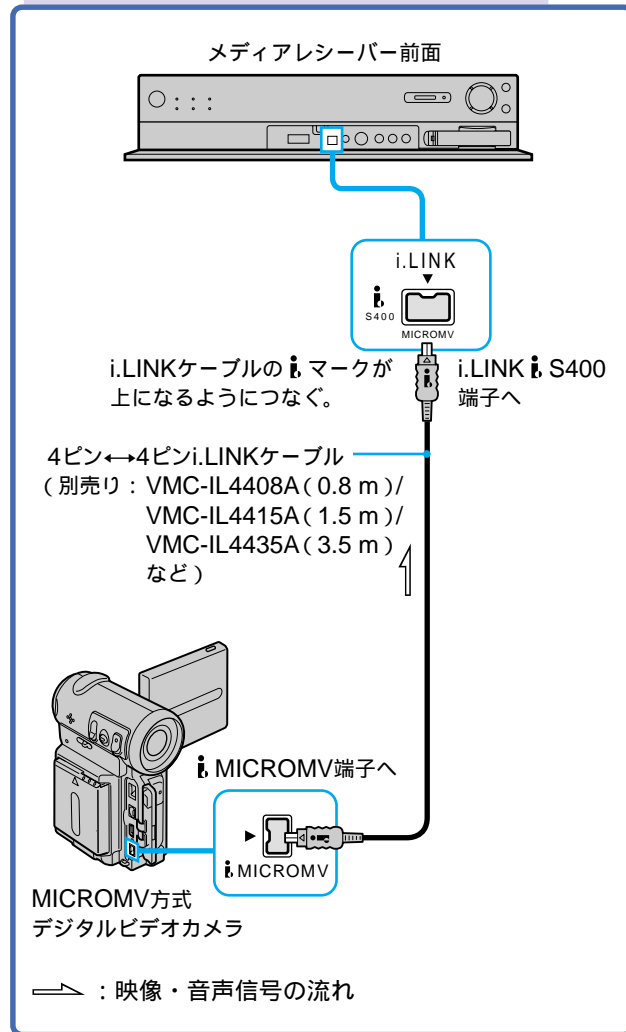
☞82～87ページをご覧ください。

ご注意

D-VHSビデオをアナログ録画やアナログ再生にも使うときは、「ビデオをつなぐ」（☞142ページ）も行ってください。

MICROMV方式デジタルビデオカメラをつなぐ

ソニー製のMICROMV方式デジタルビデオカメラDCR-IP55などとつなぎます。
i.LINK**操作画面（☞93ページ）などでは「**M-MV**」と表示されます。**
i.LINK接続をすると、本機の「i.LINK再生」（M-MV）操作画面を使って、MICROMV方式デジタルビデオカメラの映像をデジタル再生できます（☞92ページ）。
MICROMV方式デジタルビデオカメラの取扱説明書もあわせてご覧ください。

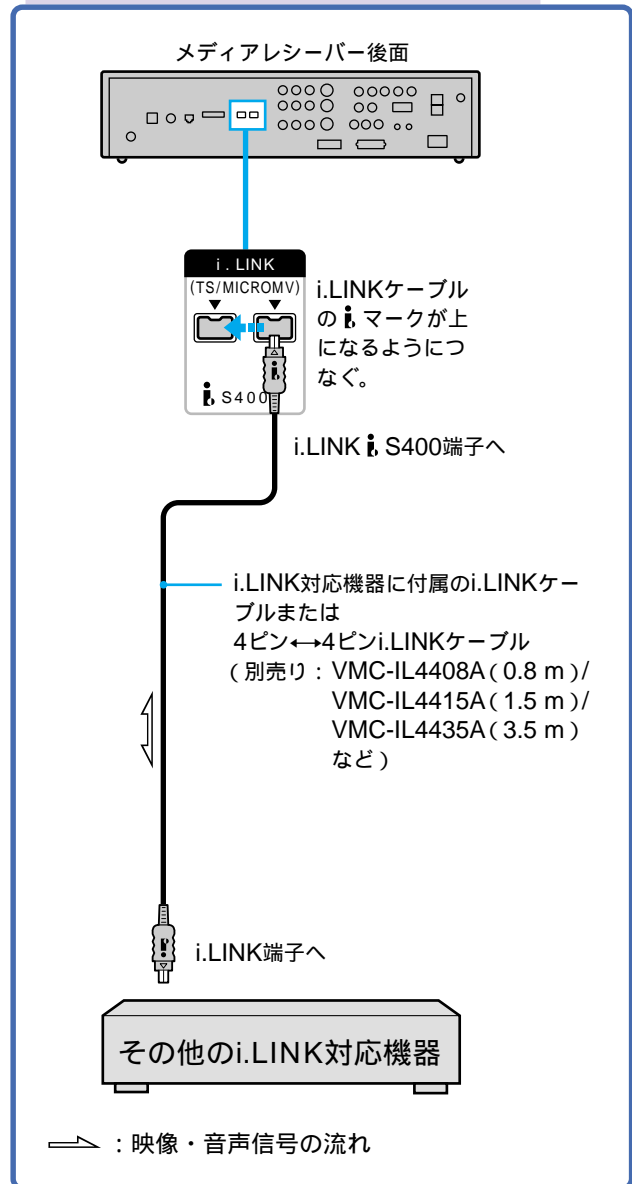
MICROMV方式デジタルビデオカメラをつなぐ

本機でMICROMV方式デジタルビデオカメラを操作するには

☞92～93ページをご覧ください。

その他のi.LINK対応機器をつなぐ

ハードディスクレコーダーや、D-VHSビデオ、MICROMV方式デジタルビデオカメラ以外のi.LINK対応機器をつないで、LINCする操作を説明します。本機でLINCしても、つないだ機器を本機では操作できません。**つないだ機器側で操作してください。**
i.LINK操作画面などでは「OTHER」と表示されます。
つないだi.LINK対応機器の取扱説明書も必ずご覧ください。

ご注意

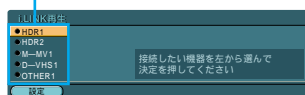
- 上記の機種以外のi.LINK対応機器は、本機の操作画面では操作できません。
- 次のi.LINK対応機器は、本機が対応していないため、つながないでください。
  - DV方式デジタルビデオカメラ
  - パソコン
  - MDデッキ
- 機器によっては、正しくLINCできないことがあります。また、LINCできても、デジタル信号が正しくやりとりされないことがあります。詳しくは、つないだi.LINK対応機器の取扱説明書をご覧ください。
- i.LINK端子からは、受信中のBS･110度CSデジタル放送のデジタル信号が出力されます。
（地上波放送や本機につないだビデオやDVDの映像などは出力されません。）

その他のi.LINK対応機器をつなぐ（つづき）

つないだi.LINK対応機器をLINCするには

1 **リモコン右横の 開 ボタンを押して、ふたを開ける。**

2 **再生するときはi.LINK再生ボタンを押して「i.LINK再生」操作画面を、録画するときはi.LINK録画ボタンを押して「i.LINK録画」操作画面を表示する。**

接続中の機器とつないだことのある機器が「接続機器リスト」に表示されます。

接続機器リスト

3 **△/▽でLINCしたい（操作したい）「OTHER」*を1台選び、真ん中を押しこんで決定する。**

「LINC中です」と表示されて、選んだ「OTHER」に●が付きます。

* ハードディスクレコーダーと、MICROMV方式デジタルビデオカメラ、D-VHSビデオ以外で本機とLINCできるi.LINK対応機器は、すべて「OTHER」と表示されます。

「OTHER」が表示されないときや、6台以上のi.LINK対応機器をつないでいるときは
登録機器を変更してください（☞161ページ）。

4 **i.LINK操作画面を消す。**

「i.LINK再生」操作画面を表示しているときは

i.LINK再生ボタンを押す。

「i.LINK録画」操作画面を表示しているときは

i.LINK録画ボタンを押す。

5 **つないだi.LINK対応機器側で操作する。**

本機とLINCすると

LINCしたi.LINK対応機器との間で、デジタル信号の入出力ができるようになります。

ご注意

一部のi.LINK対応機器は、「OTHER」と表示されて本機とLINCできても、デジタル信号が正しくやりとりできない場合があります。つないだi.LINK対応機器の取扱説明書をご確認ください。

本機とLINCできないときは

△/▽で「設定」ボタンを選び、接続機器の情報を確認してください。
本機が対応していないi.LINK対応機器のときは、設定画面に「操作できない機器です」というメッセージが表示されます。つないだi.LINK対応機器の取扱説明書をご確認ください。

i.LINK対応「機器設定」画面

本機が対応していないi.LINK対応機器の場合

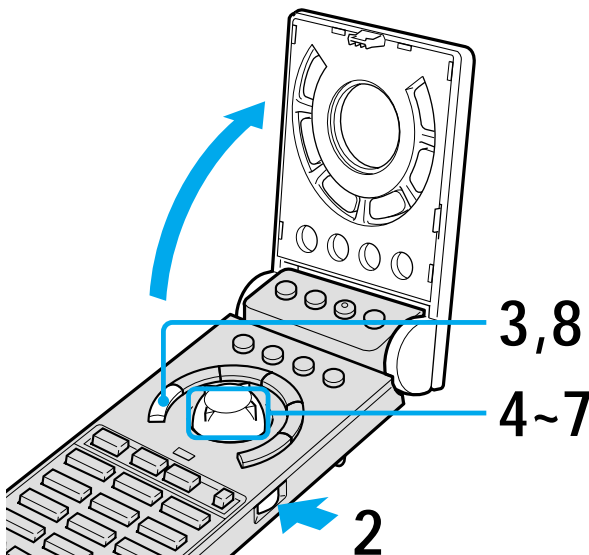
i.LINK対応機器の設定をする

本機はつないだ順に最大5台までi.LINK対応機器を自動登録し、i.LINK操作画面にそれらの機器を表示できます。
この5台の中から、1度に操作できる（LINCできる）のは1台です。

6つ以上のi.LINK対応機器をi.LINKでつなぐときは［登録変更］

6台目のi.LINK対応機器をつなぐときは、すでにつないだ順に自動登録されている5台のいずれかと入れ換えて登録し直さないと、本機のi.LINK操作画面に表示されず、操作もできません。

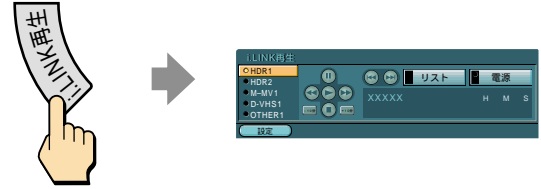
ご注意

5台以内のときは、この操作はできません。

ここでは例として、「HDR2」のかわりに、別のハードディスクレコーダーを登録する場合

1 LINCしているi.LINK対応機器の動作を停止させるか、電源を切る。

2 開 ボタンを押して、ふたを開ける。

3 i.LINK再生ボタンを押す。

「i.LINK再生」操作画面が表示されます。

4 「設定」ボタンを選んで、決定する。

「機器設定」画面が表示されます。

「機器設定」画面について詳しくは、☞164ページをご覧ください。

「機器設定」画面

5 入れ換えたいi.LINK対応機器（ここでは「HDR2」）を選んで、決定する。

「接続機器」リストから「HDR2」が消えます。

□から✓がはずれます。

真ん中を
押しこんで決定

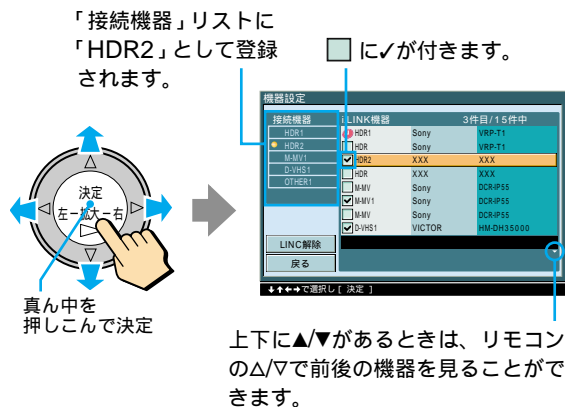
ご注意

- 「接続機器」リストには、i.LINKで接続中の機器とつないだことのある機器が表示されています。そのため、リストに表示されていても、LINCするには、実際にi.LINKケーブルでつなぐ必要があります。
- 現在LINC中の機器および録画予約されている機器（マーク）は、入れ換えられません。

次のページにつづく

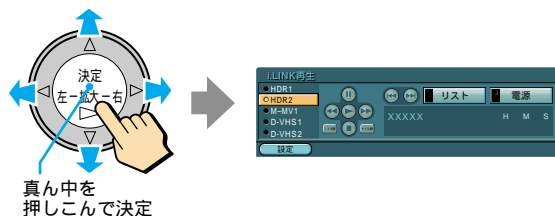
i.LINK対応機器の設定をする（つづき）

6 新たに登録したいi.LINK対応機器（ここでは未登録の「HDR」）を選んで、決定する。

上下に▲/▼があるときは、リモコンの△/▽で前後の機器を見ることができます。

ご注意

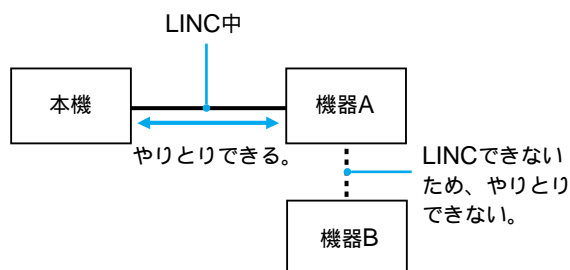
「操作できない機器です」と表示されるi.LINK対応機器は登録できません。

7 「戻る」ボタンを選んで、決定する。

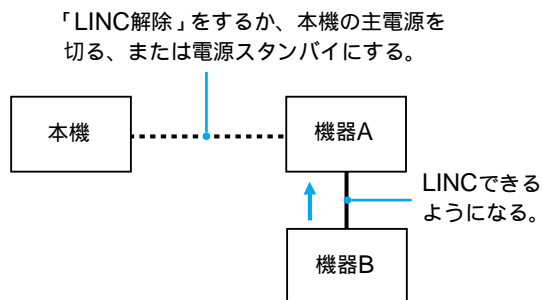
「i.LINK再生」操作画面に戻ります。

8 i.LINK再生ボタンを押して、「i.LINK再生」操作画面を消す。

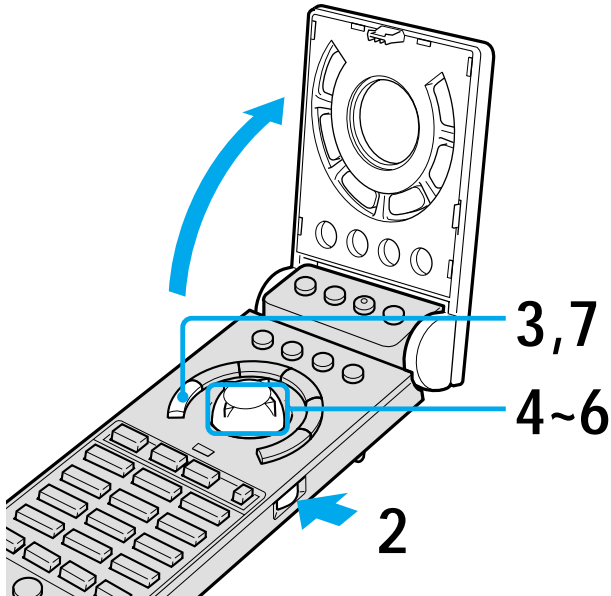
LINC中のi.LINK対応機器をいったん解除するときは［LINC解除］

下の図①で、本機とLINC中の「機器A」は、本機とだけ、デジタル信号のやりとりができます。

図①

「機器B」が「機器A」とやりとりする（図②）ためには、本機と「機器A」間のLINCをいったん解除する必要があります。
メディアレシーバーの電源スイッチで主電源を切るか、電源スタンバイ（電源/スタンバイランプが赤く点灯）にする、または以下の手順を行ってください。

図②

「LINC解除」をするか、本機の主電源を切る、または電源スタンバイにする。

ご注意

- i.LINK対応機器の予約録画終了後は、予約したi.LINK対応機器がLINCされたままになる場合があります。
- 上の図で本機と機器Aがデジタル信号のやりとりをしているときは、リモコンの電源ボタンを押して本機を電源スタンバイにしても、LINCを解除できません。ただし、メディアレシーバーの電源スイッチを押して主電源を切れば、LINCは解除されます。

1 LINCしているi.LINK対応機器の動作を停止させる。

2 開ボタンを押して、ふたを開ける。

3 i.LINK再生ボタンを押す。

「i.LINK再生」操作画面が表示されます。

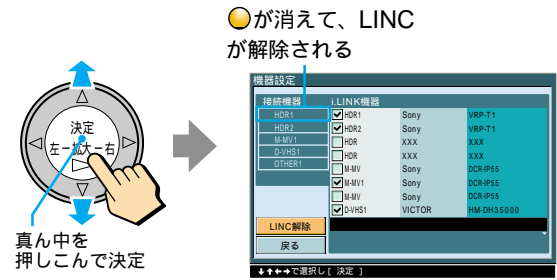
4 「設定」ボタンを選んで、決定する。

「機器設定」画面が表示されます。

「機器設定」画面について詳しくは、☞164ページをご覧ください。

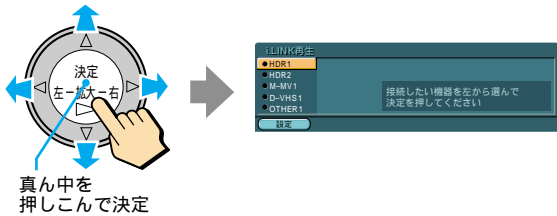
「機器設定」画面

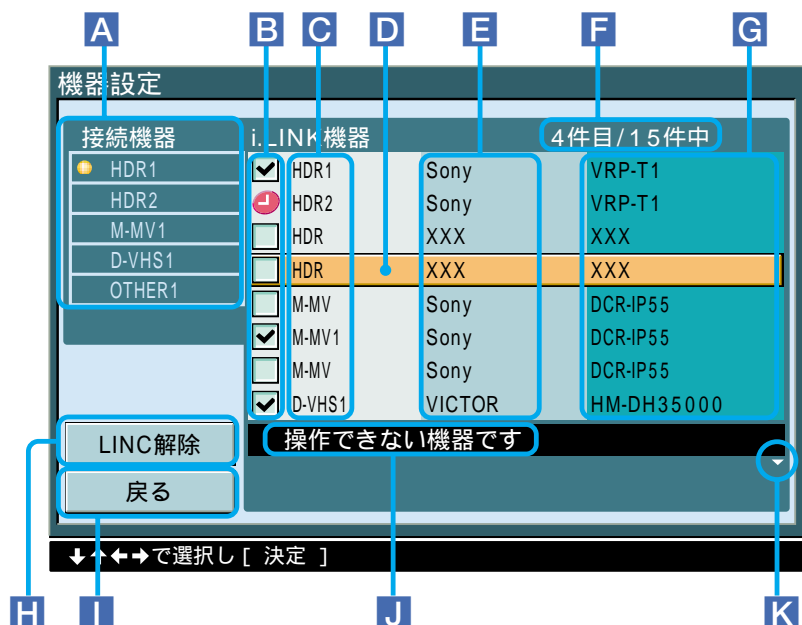
5 「LINC解除」ボタンを選んで、決定する。

LINCしていたi.LINK対応機器の●が消えて、LINCが解除されます。

6 「戻る」ボタンを選んで、決定する。

「i.LINK再生」操作画面に戻ります。

7 i.LINK再生ボタンを押して、「i.LINK再生」操作画面を消す。

次のページにつづく

i.LINK対応機器の設定をする（つづき）

「機器設定」画面について

A 「接続機器」リスト
i.LINK操作画面から操作できるi.LINK対応機器を表示します。つないだ順に5台まで自動的に登録されます。
接続機器の右の数字は、同じHDRやM-MV、D-VHSの中で何番目につないだ機器かを示します。HDR、M-MV、D-VHS、OTHERの順に表示します。

- ○ ：現在LINC中のi.LINK対応機器
- HDR ：ハードディスクレコーダー（☞82ページ）
- M-MV ：MICROMV方式デジタルビデオカメラ（☞92ページ）
- D-VHS ：D-VHSビデオ（☞82ページ）
- OTHER：上記以外のi.LINK対応機器（☞159ページ）

B i.LINK対応機器の登録状況

- □ ：未登録のi.LINK対応機器
- ☑ ：登録中のi.LINK対応機器（5台まで登録できます）
- ● ：録画予約されているi.LINK対応機器（「接続機器」リストから登録を削除できません。）

C i.LINK対応機器の登録名
つないだ機器の登録名として、本機が決めた名前です。

D カーソル（選ばれているところ）
黄色で表示され、リモコンの△/▽/◁/▷で移動させて、i.LINK対応機器を選びます。

E メーカー名

F 「i.LINK機器」リスト の件数

G 製品型名

H 「LINC解除」ボタン
LINC中のi.LINK対応機器をいったん解除します（☞162ページ）。

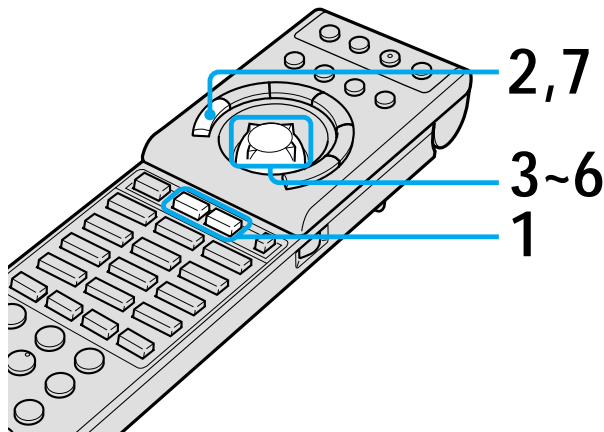
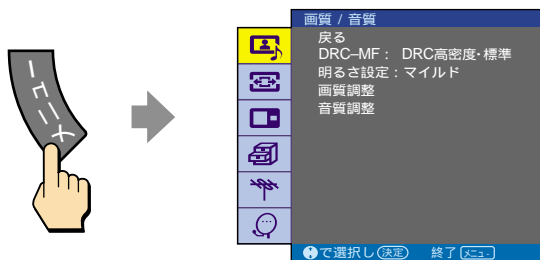
I 「戻る」ボタン
i.LINK操作画面に戻ります。

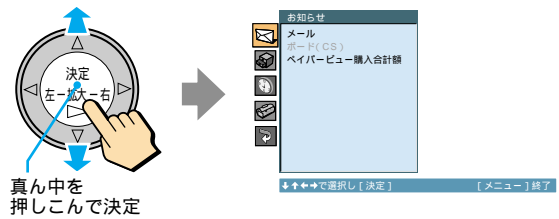
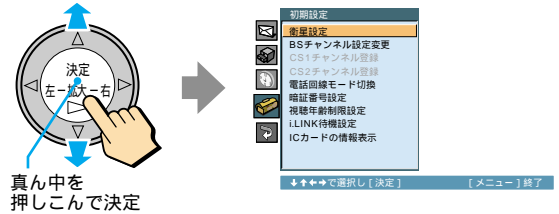
J メッセージ欄
本機が対応していないi.LINK対応機器は、「操作できない機器です」と表示され、「接続機器」リストに登録できません。

K 上下に▲/▼があるときは、リモコンの△/▽で前後の機器を見ることができます。

電源スタンバイ時に本機を中継してデジタル信号のやりとりをするには［i.LINK待機設定］

本機の電源スタンバイ時（電源/スタンバイランプが赤く点灯）でも、「機器A」と「機器B」が本機を中継してデジタル信号のやりとりを行えるように設定できます。

「機器A」と「機器B」を直接つながなくてもデジタル信号のやりとりを行えます。

1 BSまたはCSボタンを押す。

2 メニューボタンを押す。

3 「（メニュー切換）」を選んで、決定する。

4 「（初期設定）」を選んで、決定する。

5 「i.LINK待機設定」を選んで、決定する。

6 「する」を選んで、決定する。

「する」：本機が電源スタンバイ時でも、本機を中継してデジタル信号のやりとりを行えます。
「しない」設定よりも、電源スタンバイ時の消費電力が上がります。

「しない」（お買い上げ時の設定）：本機が電源スタンバイ時は、本機を中継してデジタル信号のやりとりを行えません。

7 メニューボタンを押して、メニューを消す。

故障かな？と思ったら

修理に出す前に、もう1度、点検をしてください。それでも、正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。
ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

セットの型名：
ケーディーイーピー　エイチエックス
KDE-P42HX1

ディスプレイの型名：
ピーディエム
PDM-4200

メディアレシーバーの型名：
エムビーディ エイチエックス ピー
MBD-HX1P

セットの型名：
ケーディーイーピー　エイチエックス
KDE-P50HX1

ディスプレイの型名：
ピーディエム
PDM-5000

メディアレシーバーの型名：
エムビーディ エイチエックス ピー
MBD-HX1P

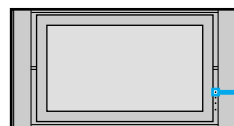
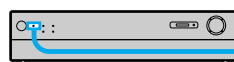
画面サイズ（番号）がどれかわからないときは、保証書に記載されている型名をお知らせください。

リモコンの型名：
アールエム ジェイ
RM-J404

故障の状況：できるだけくわしく

購入年月日：

自己診断表示ー画面が消え、電源/スタンバイランプが点滅したら

ディスプレイおよびメディアレシーバーには自己診断表示機能がついています。これは本機に異常が起きたときに、電源/スタンバイランプの点滅およびその速さでテレビの状態をお知らせし、よりスムーズにサービス対応させていただくための機能です。

電源/スタンバイランプの状態と本機の症状

下記の状態のときは、メディアレシーバーの電源スイッチで電源を切り、ディスプレイとメディアレシーバー両方の電源コードをコンセントから抜いてください。電源コードを抜いてから10秒以上たってから再び電源を入れて症状を確認してください。それでも同じ症状が出た場合は、お買い上げ店に、点滅の状態を知らせてください。

電源/スタンバイランプの色/状態		症状
メディアレシーバー	ディスプレイ	
赤点滅9回をくり返す	赤/緑交互点滅（赤点滅→緑点滅→赤点滅…）	ディスプレイが異常。
消灯	オレンジ点滅	メディアレシーバーの電源コードがはずれている。
オレンジ点滅	消灯	ディスプレイの電源コードがはずれている。
オレンジ点滅	オレンジ点滅	ディスプレイケーブルがはずれている。
赤点滅9回をくり返す	赤点滅4回をくり返す	ディスプレイの温度が高い。または、ディスプレイの冷却ファンが異常。
赤点滅4回をくり返す	赤点灯	メディアレシーバーの温度が高い。または、メディアレシーバーの冷却ファンが異常。

映像について

BS･110度CSデジタルを視聴しているときは、「BS･110度CSについて」（☞170ページ）をご覧ください。

症状	対処のしかた
画像が出ない	
すべてのチャンネルが映らない。	• 電源コードをしっかりつないでください。 • ディスプレイケーブルがディスプレイとメディアレシーバーにしっかりつながれているか確認してください。 • メディアレシーバーの電源スイッチを押して、主電源を入れてください。 • アンテナ線をしっかりつないでください。 • 消画にしていませんか？（☞52ページ）。 消画のときはディスプレイのPICTURE OFF⊠ランプが青く点灯します。 • 「残像軽減モード」にしていませんか？（☞56ページ）。 「残像軽減モード」のときは画面が白くなり、約30分後に自動的に通常の画面に戻ります。
特定のチャンネルだけが映らない。	• チャンネルを合わせ直してください（☞111ページ）。
テレビの電源が突然切れた/いつのまにか消えていた（電源スタンバイ状態になった）。	• テレビの消し忘れを防ぐため、テレビ（地上波）放送終了後（2画面では操作画面、メモでは左画面放送終了後）、または放送のないチャンネルを受信している状態で約10分過ぎると、「オートシャットオフ」と表示されて、自動的に電源スタンバイ状態になります。（ただし、BS･110度CSデジタルのチャンネルを表示しているときは、そのまま画面が表示され、電源スタンバイ状態にはなりません。） • オフタイマーを設定していませんでしたか?（☞7ページ）
つないだ機器の画像が出ない。	• 接続コードをしっかりつないでください。 • リモコンの入力切換用のボタンを押してください（☞8ページ）。 • S映像入力のときは、「（各種切換）」メニューで、「S映像」を「入」にしてください（☞145ページ）。 • “ プレイステーション 2 ”をAVマルチ入力端子につないでいるときは、“ プレイステーション 2 ”のコンポーネント出力の設定と本機のAVマルチ（RGBまたはY/CB/CR）入力を合わせてください（☞9ページ）。 • 消画にしていませんか？（☞52ページ）。 消画のときはディスプレイのPICTURE OFF⊠ランプが青く点灯します。
きれいに映らない	
画像が二重、三重になる。	• アンテナ線をしっかりつないでください。 • アンテナの位置、方向、角度を調整してください。 • 「テレビ設定」メニューで「GR設定変更」を選び、「GR」を「入」にしてください（☞131ページ）。
雪が降るような画面、うすい画面、風がふくとちらつく。	• アンテナが風でこわれたり曲がったりしていないか確認してください。 • アンテナの寿命を確認してください（通常3～5年、海辺では1～2年）。
斑点や点模様が走る。	• ヘアードライヤー、自動車、バイクなどからの雑音電波の干渉を受けています。アンテナはなるべく道路から離して設置してください。
色がつかない、色がおかしい、画面が暗い。	• 明るさ設定ボタンを押して、画質設定を選んでください（☞52ページ）。 • 「（画質/音質）」メニューで、画質を調整してください。

その他

故障かな？と思ったら（つづき）

症状	対処のしかた
きれいに映らない	
画面に光る点、または光らない点がある。 輝点・滅点	• フラットパネルテレビの映像は微細な画素の集合です。画面の一部に画素欠けや輝点が存在する場合がありますが、故障ではありません。
電源を入れたとき、画面のちらつきやむらが見える。	• 電源を入れたときに画面に「むら」や「ちらつき」が見える場合がありますが、プラズマディスプレイの性質によるものであり、故障ではありません。
画面がまぶしい。	• 明るさ設定ボタンを押して、画質設定を選んでください（☞52ページ）。
縞状のノイズが多い。	• 付属のアンテナ接続ケーブルを使って、テレビアンテナをつないでいるか確認してください。 • アンテナ線は、他の電源コードや接続ケーブルから、できるだけ離してください。 • フィーダー線や室内アンテナは特に電波妨害を受けやすいため、使わないでください。
画像が乱れる、雑音が混じる。	• ディスプレイの前面や真横に本機に接続した機器を設置していませんか？ ディスプレイと他機の間隔をあけてください。
ビデオの再生/録画時に縞状のノイズが出る。	• ビデオとメディアレシーバーが近いため、干渉しあっています。ビデオをメディアレシーバーからできるだけ離して置いてください。 • ビデオなどの機器をディスプレイに近付けて設置すると相互干渉でノイズが生じることがあります。30cm以上離して設置してください。 • ディスプレイの前面や側面に設置するのを避けてください。
AVマルチ入力端子につないだ“プレイステーション２”などの画像がずれる。	• 「(各種切換)」メニューで「AVマルチ画面位置」を調整してください（☞9ページ）。
AVマルチ入力端子につないだ“プレイステーション２”の画像がきれいに映らない。	•“プレイステーション２”をAVマルチ入力につないでいるときは、“プレイステーション２”のコンポーネント出力の設定と本機のAVマルチ（RGBまたはY/CB/CR）入力を合わせてください（☞9ページ）。
画面に焼き付きや残像が出る。	• 「(各種切換)」メニューで「スクリーンセーバー」を選び、「残像軽減モード」を「入」にしてください（☞56ページ）。しばらくそのままの状態にしておくと、焼き付きや残像が軽減されます。30分後に自動的に通常の画面に戻ります。残像が気になるときは、くり返し「残像軽減モード」を行ってください。
画面表示がずれる/動く。	• 「(各種切換)」メニューの「スクリーンセーバー」で、「自動表示位置移動」が「入」になっていませんか？（☞56ページ）画面表示のずれや移動が気になるときは「切」にしてください。お買い上げ時は「自動表示位置移動：入」に設定されています。
ワイド画面が切り換わる	
オートワイドのときに画面モードが勝手に切り換わる。	• CMが入ったり、番組が変わったりするときなどに、画面サイズが変わって不自然に見えたり、変わるまでに数秒間かかったりすることがあります。番組に最適なワイド画面を本機が判断しているためです（☞58ページ）。 • 識別制御信号のある画像を受信して、自動的に信号に対応した画面モードになるためです（☞58ページ）。 • オートワイドが働いているときに、ワイド切換ボタンでワイド画面を切り換えていませんか。チャンネルや入力を変えたりするとオートワイドが働き、自動的にワイド画面に切り換わります。ワイド切換ボタンで切り換えた画面モードで固定したいときは、「(画面モード)」メニューで「オートワイド設定」を選び、「オートワイド」を「切」にしてください（☞61ページ）。

音声について

症状	対処のしかた
音が出ない/雑音が多い	
画像は出るが、音が出ない。	• 音量が下がりきっていないか確認してください。 • 画面に「消音」の表示が出ているときは、リモコンの消音ボタンか音量＋ボタンを押して表示を消してください。 • ヘッドホンを抜いてください。 • 「(各種切換)」メニューの「スピーカー」を「入」にしてください。「切」のときは、本機での音量調節に関係なく、本機のスピーカーから音声が出なくなります。
TVセンタースピーカーにしたときに音が出ない。	• メディアレシーバー後面のセンター入力端子にAVアンプなどのセンタースピーカー出力をつないでいますか?(☞71ページ) • AVアンプで消音などにしていませんか？ • センター音声のある番組やDVDソフトですか？(☞76ページ)
雑音が多い。	• 付属のアンテナ接続ケーブルを使って、テレビアンテナをつないでいるかを確認してください。 • アンテナ線は他の電源コードや接続ケーブルからできるだけ離してください。 • フィーダー線や室内アンテナは特に電波妨害を受けやすいため、使わないでください。 • 「(テレビ設定)」メニューで「初期設定」を選び、「オートステレオ」を「切」にしてください(☞68ページ)。 • 赤外線コードレスヘッドホンなどの赤外線通信機器を本機の近くで使用すると通信障害が発生する場合があります。 赤外線コードレスヘッドホン以外のヘッドホンをご使用ください。また、赤外線ヘッドホン以外の赤外線通信機器をご使用の場合は、ノイズが消える場所まで、赤外線の送受信機器を本機の画面から離すか、赤外線通信機器の送信部と受信部を近づけてご使用ください。
聞きたい音声になっていない。	• 二か国語放送などで、副音声や第2音声*になっていませんか？(☞66ページ) *BS・110度CSデジタル時のみ
本機から異音がする	
「ピシッ」といううきしみ音が出る。	• 周囲との温度差でキャビネットが伸縮し、「ピシッ」という音が出ることがありますが、本機に影響はありません。
電源スタンバイ時「カチッ」と音がする。	• 故障ではありません。これは衛星からのデータを取得するために本機の電源が自動的に入るためで、本機に影響はありません。(このときBS/CS電源ランプが点灯します。)(☞177ページ)
「ブーン」という音がする。	• メディアレシーバー内部のファンが回っている音です。故障ではありません。
「サー」という音がする。	• テレビ内部で発生する静電気が原因で、本機に影響はありません。
電源を入れたときに「カチッ」という音がする。	• 電源を入れたときに、内部の回路が働くため音がしますが、故障ではありません。
ディスプレイから「ジーッ」という音がする。	• 電源を入れると、ディスプレイの駆動音が聞こえることがありますが、故障ではありません。
メディアレシーバーからモーター音や風を切る音がする。	• 本機は内部の温度上昇を抑えるため、冷却ファンを使用しています。本機から冷却ファンの音が聞こえることがありますが、故障ではありません。 • 「i.LINK待機設定」で「する」(☞165ページ)に設定しているときは、冷却ファンを使用しています。本機から冷却ファンの音が聞こえることがありますが、故障ではありません。

その他

BS･110度CSについて

症状	対処のしかた
BS･110度CSが映らない/乱れる	
アンテナの受信設定ができない/衛星が受信できない。	• 衛星アンテナを前方に障害物がないところに設置してください。 • 衛星アンテナ側は防水型コネクターをつないでください。 • 衛星アンテナとメディアレシーバーは、指定された別売りのサテライト用同軸ケーブルでつないでください（☞104ページ）。 • 衛星アンテナの方向・角度を調整してください（☞116ページ）。 • 雨の強い日は衛星から電波が届きにくく、受信設定ができないことがあります。
BS･110度CSが映らない/画像が乱れている。	**衛星アンテナを直接つないでいる場合** • 衛星アンテナの前方に障害物があれば取り除いてください。 • 衛星アンテナ側は防水型コネクターをつないでください。 • ケーブルの芯線をコネクターに正しく差し込んでください。 • 「（メニュー切換）」メニューで「（初期設定）」を選び、「衛星設定」で「衛星アンテナ設定」を「オート」または「入」にしてください（☞115ページ）。 • 衛星アンテナの方向・角度を調整してください（☞116ページ）。 **マンションなどの共同受信システムの場合** • ケーブルの芯線をコネクターに正しく差し込んでください。 • サテライト/UV分波器でVHF/UHFとBS･110度CSを分波してください（☞102ページ）。 • 「（メニュー切換）」メニューで「（初期設定）」を選び、「衛星設定」で「衛星アンテナ設定」を「切」にしてください（☞115ページ）。 **複数のBS機器をサテライト分配器でつないでいる場合** • 衛星アンテナ用電源を供給する機器のスイッチを「入」にしてください。 **その他** • 雨や雪が降ると映りが悪くなることがあります。また、晴れていても、BS･110度CSを送信する放送衛星会社（☞14ページ）の地域で雨や雪が降っていると映りが悪くなることがあります。 • 本機の近くで携帯電話や電子レンジなどを使用すると、映像や音声が乱れることがあります。 • サテライト専用のケーブルを使ってください（☞104ページ）。 • 加入申し込みが必要なチャンネルもあります（☞128ページ）。
BS･110度CSのチャンネルが映らない。	• B-CASカードは正しい向きで入っていますか？（☞120ページ） • B-CASカード挿入口のふたは閉まっていますか？（☞120ページ） • 放送日や時間を確認してください。 • 受信契約（加入申し込み）をしていますか？（☞128ページ） • 長期間、コンセントやアンテナ、電話線を抜いたままにしないでください。視聴データなどの伝送ができなくなり、放送をご覧いただけなくなることがあります。

BS•110度CSが映らない/乱れる

症状	対処のしかた
BS•110度CSがときどき映らない/一部のチャンネルが映らない/画像が乱れる。	• よく映らないチャンネルを映したまま、「衛星アンテナレベル」を表示させ（☞117ページの手順2～6を行う）、画面の下部に表示される「アンテナサービス」の数値を確認し、ソニーサービス窓口にご相談ください。
チャンネル＋/－ボタンで選局できない。	• 本機では、BS•110度CSのテレビとラジオ、独立データの、それぞれのチャンネル内で順送り選局します。ご覧になっているBS•110度CSをご確認ください（☞16、18ページ）。 • 1 ～ 12 のBS用数字ボタンで選べないチャンネルは、設定しないとチャンネル＋/－ボタンで選局できません（☞134ページ）。 • マルチ放送の臨時放送や緊急放送（☞42～43ページ）は選局できません。
BS•110度CSのチャンネルが切り換わらない。	• 予約一覧で予約した録画の実行中かを確認してください（☞38ページ）。
画面が黒くなり何も映らない。	• 音声だけのラジオのチャンネルが選ばれたためです。故障ではありません。 • 2画面のとき、操作画面でBS•110度CSのラジオや独立データを選ぶと、操作画面は黒くなり何も映らなくなります。
映像が、通常に比べ画質/音質が低下した映像に勝手に切り換わる。	• 激しい雨など受信状態が悪いときなどに、降雨対応放送に切り換わる場合があります。ひんぱんに切り換わるときは、「(メニュー切換)」メニューで「(初期設定)」を選び、「衛星設定」で「降雨対応放送受信」を「切」にしてください（☞20ページ）。
BS•110度CSチャンネルを切り換えたり、番組が切り換わったりするときにノイズが出る。	• デジタルハイビジョン信号HDと標準テレビ信号SDなど映像の解像度が変化するときに、同期信号などの白い線が見えることがありますが、故障ではありません。
BSは映るのに110度CSが映らない。	• アンテナ分配器、ブースター（増幅器）および共同受信システムは110度CSに対応していますか？（☞118ページ） • 衛星アンテナレベルを確認してください（☞118ページ）。 • 110度CSをご覧になるには受信契約が必要です（☞128ページ）。

BS•110度CSの音声が乱れる/おかしい

症状	対処のしかた
音声が出ない/音声がおかしい。	• 二か国語放送などで、副音声や第2音声になっていませんか？（☞66ページ） • 「(画質/音質)」メニューで「音質調整」を選び、「サラウンド」を「切」にしてください（☞68ページ）。 「TruSurround」にしていると、番組によっては、音が聞こえにくかったり、消えてしまったりすることがあります。
二か国語が混じってビデオに録音されていた。	• BS/CS/ビデオ出力端子からビデオに録画するときは、あらかじめ「(メニュー切換)」メニューで「(予約設定)」を選び、「二重音声設定」で「主」、「副」または「主/副」を選んでください（☞36ページ）。「主/副」を選んだときは再生時にビデオのリモコンで聞きたい音声を選んでください。

BS•110度CS番組表に表示されないチャンネルや番組がある

症状	対処のしかた
番組表に表示されないチャンネルがある。	• 本機では、番組表ボタンで番組表を表示したときは、BS•110度CSのテレビとラジオ、独立データで、それぞれの番組表が表示されます。ご覧になっている番組表をご確認ください（☞22ページ）。 • リモコンの△/▽で、番組表を上下に送って表示したいチャンネルを選んでください。 • 1 ～ 12 のBS用数字ボタンで選べないチャンネルは、設定しないと番組表に表示されません（☞134ページ）。

症状	対処のしかた
BS•110度CS番組表に表示されないチャンネルや番組がある	
MYチャンネル番組表に表示されないチャンネルがある。	• MYチャンネル番組表のチャンネルは、あらかじめ登録しないと表示されません。「MYチャンネルでよく視聴するチャンネルをあらかじめ登録する」（☞28ページ）を行ってください。
MYチャンネル番組表やMYジャンル番組表に表示される番組数が少ない。	• お買い上げ時、または長時間メディアレシーバーの電源スイッチで主電源を切った状態のときは、次に電源スイッチを押して主電源を入れたあとは、番組表に表示される番組が少ないことがあります。本機では、主電源を切っているときは放送局が送信する番組情報をデータ取得できないためです。
ジャンル検索した番組のジャンルが「番組説明」画面で表示されるジャンルと違っている。	• 「番組説明」画面（☞21ページ）では、代表的なジャンルが1つしか表示されませんが、1つの番組が最大3つのジャンル情報を持っており、それぞれのジャンルで検索できるためです。
BS•110度CS番組の購入などができない	
ペイ・パー・ビュー（PPV）が購入できない。	• メディアレシーバーと電話回線が正しくつながれているか確認してください（☞106〜109ページ）。 • 電話回線の種類などが正しく設定されているか確認してください（☞122ページ）。 • 番組によっては購入可能時間が決まっているものがあります。 • 番組の購入可能件数を越えると購入できなくなります。
BS/CS電源ランプが点滅する/表示が消えない	
BS/CS電源ランプが点滅する。 **または、「取扱説明書をご覧いただき、BSアンテナ電源（コンバーター電源）を確認してください」と表示される。**	**衛星アンテナをつないでいるときは** ①☞105ページの内容を確認してください。それでも表示が消えないときは、本機の電源を切り、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。 ②表示が消えたときは、もう1度、受信設定してください（☞115ページ）。そのときに、「（メニュー切換）」メニューで「（初期設定）」を選び、「衛星設定」で、「衛星アンテナ設定」を「オート」または「入」にしてから行ってください。 **マンションなど共同受信システムのときは** ①☞105ページ下の手順1〜2に従って操作し、手順3で「衛星アンテナ設定」を「切」にしてください。 ②それでも表示が消えないときは、メディアレシーバーの電源スイッチで電源を切り、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。
予約した番組が録画・視聴できない	
録画予約した番組が録画されない。	• 本機と連動させずにビデオ側の予約機能を使って予約したとき、ビデオ側で予約を設定しましたか？（☞35ページ） • 予約した番組の開始時刻が変わったとき、「（メニュー切換）」メニューの「（予約設定）」で、「予約方法の設定」が「開始時刻が変わったら予約を取り消す」に設定されていると、予約は取り消されます（☞36ページ）。 • 予約が重複しているときは、PPV番組（☞47ページ）は、番組の途中からは録画されず、予約自体が自動的に取り消されます（☞41ページ）。 • 著作権が保護されている番組では、録画できない場合があります（☞32、49、154ページ）。 • メール（☞50ページ）が送られていることがあります。メールを読んで録画されなかった理由を確認してください。

症状	対処のしかた
予約した番組が録画・視聴できない	
i.LINKでハードディスクレコーダーまたはD-VHSビデオにデジタル録画予約した番組が録画されない。	• i.LINK対応機器が正しく接続されているかご確認ください。ループになっていたりホップ数をオーバーしていたりすると、i.LINK対応機器が使えなくなります（☞155ページ）。 • 接続に異常はありませんか？i.LINKケーブルがはずれていないかご確認ください（☞156～159ページ）。 • 他のi.LINK対応機器をLINCしていませんか？録画実行中に、予約したハードディスクレコーダーまたはD-VHSビデオ以外のi.LINK対応機器をLINCすると、予約が取り消されることがあります（☞160ページ）。
AVマウスを使ってアナログ録画予約した番組が録画されない。	• お使いのビデオのメーカー名とリモコンコードが正しく入っていて、AVマウスで操作できるか確認してください（☞125～127ページ）。 • お使いのビデオは、電源スイッチを押すたびに電源が入/切するタイプですか？入→スタンバイ→切のように切り換わるタイプのビデオでは、正しく録画できないことがあります（☞125ページ）。 • 予約後、開始時刻までにメディアレシーバーの電源スイッチで主電源を切っていると、電源が入らないため、録画が実行されません。 • 予約の際、ビデオの電源を「切」にしましたか？（☞33ページ） • ビデオの入力切換は正しいですか？（☞33ページ） • ソニー製ハードディスクビデオレコーダー Clip-Onで録画するときは、自動的に本機をつないだ入力に切り換わるように設定してください（☞125～127ページ）。 • AVマウスの取り付け位置は正しいですか？（☞125ページ） • 動作テストに1度成功しても、リモコンの受光感度の低いビデオによっては、AVマウスでのアナログ予約録画（☞33～35ページ）がうまくいかないことがあります。詳しくは、ビデオの取扱説明書をご覧ください。
視聴予約した番組に切り換わらない。	• 予約開始時刻までに本機の電源を入れた状態にしておきましたか？ 視聴予約した番組は、電源スタンバイや主電源を切った状態のままだと、自動的に電源が入らないため、番組を見逃してしまいます（☞38ページ）。
予約録画した番組の再生した映像が映らない、乱れる。	• メール（☞50ページ）が送られていることがあります。メールを読んで録画時の状況を確認してください。

次のページにつづく

メニューやリモコンについて

症状	対処のしかた
メニューが選べない/表示が消えない	
メニューで選べない項目がある。	• 黒く表示されている項目は選べません（見ている画像の種類やメニューの設定によって、選べないように制約されています）。
設定した「（メニュー切換）」メニューの項目が正しく反映されていない。	• BS･110度CSデジタル信号には、多くの情報が含まれています。そのため、「（メニュー切換）」メニューの項目を設定した直後（約2分以内）に、メディアレシーバーの電源スイッチで主電源を切ると、設定した内容が反映されないことがあります。このときは、もう1度設定し直してください。
「ICカードとのアクセスが成立しません　ICカードを抜き差ししても直らない場合はカスタマーセンターへ連絡してください」と表示される。	• B-CASカードが奥までしっかり入っているか、入れる向きが前後、表裏逆向きになっていないか確かめてから、もう1度正しい向きで入れ直してください（☞120ページ）。 入れ直してもメッセージが表示されるときは、ご覧になっているBS放送局や110度CSの衛星サービス会社のカスタマーセンターへお問い合わせください（☞128ページ）。 • B-CASカードが破損している場合は、ご覧になっているBS放送局や110度CSの衛星サービス会社のカスタマーセンター（☞128ページ）またはB-CASカスタマーセンター（電話番号0570-000-250）へお問い合わせください。 • 付属のB-CASカード以外は使えません（☞120ページ）。
リモコンが働かない	
リモコンで本機を操作できない。	• 電池を交換してください。 • 電池の⊕⊖を正しい向きに入れてください。 • 電源/スタンバイランプが赤く点灯していないときは、メディアレシーバーの電源スイッチを押してください。 • リモコンをディスプレイのリモコン受光部に正しく向けて、近くから操作してください。 • リモコン受光部（☞187ページ）に蛍光灯などの強い照明があたっているときは、照明があたらないように、照明器具またはディスプレイの位置を調整してください。
本機のリモコンで、つないだ機器を操作できない	• リモコンコードは正しく登録されていますか？（☞10、76ページ）。 • コントロールS接続コードをつないだ機器を操作するときは、リモコンをディスプレイに向けてください（☞13ページ）。つないだ機器に付属しているリモコンを使うときも同じです。 • コントロールS接続コードをつないでいない機器を操作するときは、リモコンを直接機器に向けてください（☞12、78ページ）。
リモコンの①～⑫/選局の地上波用数字ボタンを押しても、チャンネルが選べない。	**ダイレクト選局の場合（☞129ページ）** • 「（テレビ設定）」メニューで「テレビ（地上）設定」を選び、「選局」が「ダイレクト」になっているかを確認してください。 **10キー選局の場合（☞129ページ）** • 「（テレビ設定）」メニューで「テレビ（地上）設定」を選び、「選局」が「10キー」になっているかを確認してください。 • 11チャンネルは①を2回、12チャンネルは①と②を続けて押してから、⑫/選局を押してください。 • ①～⑩/0の地上波用数字ボタンに続けて⑫/選局を押してください。

i.LINKについて

症状	対処のしかた
i.LINK対応機器を操作できない	
i.LINK**対応機器を**LINC**できない。**	• 次のi.LINK機器は本機が対応していないため、つながないでください。 － DV方式デジタルビデオカメラ － パソコン － MDデッキ • 接続に異常はありませんか？i.LINKケーブルがはずれていないかご確認ください（☞156〜159ページ）。また、i.LINK対応機器の電源ケーブルがはずれていないかご確認ください。 • i.LINK操作画面の「接続機器」リストにLINCしたいi.LINK対応機器が登録されていない場合は、「機器設定」画面で登録変更を行ってください（☞161ページ）。 •「機器設定」画面で、LINCしたい機器が「i.LINK機器」リストに表示されていますか？（☞161ページ） • i.LINK対応機器が正しく接続されているかご確認ください。ループになっていたりホップ数をオーバーしていると、i.LINK対応機器を使用できなくなります（☞155ページ）。 • 機器によっては、正しくLINCできないことがあります。また、LINCできても、デジタル信号が正しくやりとりされないことがあります。詳しくは、つないだi.LINK対応機器の取扱説明書をご覧ください。
i.LINK**操作画面が操作できない。**	• 本機のi.LINK操作画面を使って操作できるのは、ハードディスクレコーダーと、D-VHSビデオ、MICROMV方式デジタルビデオカメラのみです（☞80ページ）。 • D-VHSビデオによっては、本機のi.LINK操作画面で操作できないことがあります。 • D-VHSビデオによっては、⏮を押したときに前の番組の先頭まで巻き戻してしまうことがあります。 • ソニー製D-VHSビデオデッキSLD-DC1も、本機の操作画面で操作できますが、デジタルハイビジョン信号HDと110度CS放送は録画できません。
デジタル録画・再生・ダビングができない	
ハードディスクレコーダーまたはD-VHS**ビデオにデジタル録画できない。**	•「i.LINK録画」操作画面で、ハードディスクレコーダーまたはD-VHSビデオをLINCしてください（☞82ページ）。 • 著作権が保護されている番組では、記録できない場合があります（☞32、49、154ページ）。
ハードディスクレコーダーからD-VHS**ビデオにダビングできない。**	• D-VHSビデオによってはダビングできません。 • D-VHSビデオにオートリンク機能があるときは「切」にしておいてください（☞89ページ）。
ハードディスクレコーダーまたはD-VHS**ビデオ、**MICROMV**方式デジタルビデオカメラに録画された番組や映像を再生できない。**	•「i.LINK再生」操作画面で、ハードディスクレコーダー、またはD-VHSビデオ、MICROMV方式デジタルビデオカメラをLINCしてください（☞84〜85、92ページ）。

その他

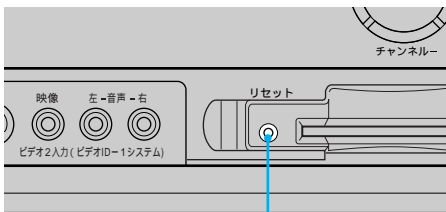
“ メモリースティック ”について

症状	対処のしかた
“ メモリースティック ”が使えない	
“ メモリースティック ”の画像が出ない。	• “ メモリースティック ”は正しく挿入されていますか？（☞95ページ） • メモリースティックボタンを押してください（☞95ページ）。 • “ メモリースティック ”に静止画像が記録されていますか？
「メモリースティックがありません」と表示される。	• “ メモリースティック ”は正しく挿入されていますか？（☞95ページ）
「メモリースティックエラー」と表示される。	• “ メモリースティック ”の異常です。“ メモリースティック ”を1度抜いて、入れ直してみてください（☞95、96ページ）。 • “ メモリースティック ”が壊れていることがあります。他の“ メモリースティック ”を入れてみてください。
ファイル名が「－－－－－－－－－」と表示される。	• DCF規格に準拠している静止画像のファイル名をパソコンなどで変更していませんか（☞98ページ）。
「ファイルエラー」と表示される。	• 静止画像が壊れている可能性があります。 • 静止画像が、DCF規格に準拠しているJPEG形式でない可能性があります。デジタルカメラなど他の“ メモリースティック ”対応機器で再生できるか確認してください。
「フォーマットが必要です」と表示される。	• “ メモリースティック ”が正しくフォーマット（初期化）されていません。デジタルカメラなど他の“ メモリースティック ”対応機器で“ メモリースティック ”をフォーマットし直すか、別の“ メモリースティック ”を入れてください。
「再生できるファイルがありません」と表示される。	• “ メモリースティック ”に再生できる静止画像が入っていません。“ メモリースティック ”に静止画像が記録されていますか？ • “ メモリースティック ”の他のディレクトリに移動してください（☞98ページ）。
「メモリースティックタイプエラー」と表示される。	• 本機では使用できない“ メモリースティック ”です。
「ファイルがありません」と表示される。	• “ メモリースティック ”に静止画像がありません。
「ファイルがプロテクトされています」と表示される。	• 静止画像がプロテクトされています。デジタルカメラなど他の“ メモリースティック ”対応機器で静止画像データプロテクトを解除してください。
「メモリースティックがロックされています」と表示される。	• “ メモリースティック ”の誤消去防止スイッチを左側にしてください（☞97ページ）。

リセットボタンについて

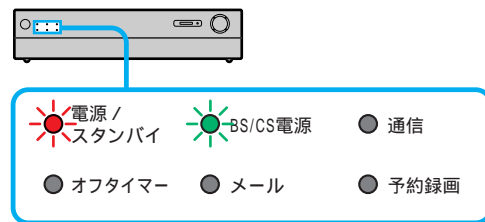
過大な静電気や落雷による電源電圧の異常により、まれに、本機が操作を受け付けなくなったり、映像や音声が正常に出なくなった場合は、B-CASカード挿入口近くにあるリセットボタンをペンの先などで1回押してください。
本機がリセットされて、正常に動作するようになります。
リセットボタンを押すと、メディアレシーバー前面のメールランプと予約録画ランプが数秒間交互に点滅し、リセットされるのに約15秒間かかります。

また、リセット後に異常が改善されず、かつ、以下の表示が出た場合はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にお知らせください。
- メディアレシーバー前面のメールランプと予約録画ランプが、同時に点滅した場合は、点滅回数。
- 「デジタル自己診断メニュー」画面が表示された場合は、緑色の数字。

メディアレシーバー前面
(B-CASカード挿入口のふたを開けたところ)

電源スタンバイ中の動作について

電源スタンバイ中（電源/スタンバイランプが赤く点灯）、以下のデータを受信したときに、「カチッ」と音がして、メディアレシーバー前面のBS/CS電源ランプが長時間にわたり点灯し続けることがあります。
－放送局が送信する番組表などの番組情報データ取得中
－BS・110度CSデジタル放送を正しく受信するために衛星から送られてくるデータの受信中および最新のソフトウェアのダウンロード中
－放送局が送信する有料放送の契約・購入状況、双方向サービス情報の取得中

衛星ダウンロード中/データ取得中の表示

メディアレシーバー前面

BS/CS電源ランプ点灯中は、本機内部の回路が自動的に動作し、データ受信とソフトウエアの書き換えを行なっていますが、**受信するデータによっては数時間かかる**ことがあります。また、動作中は回路保護のため、冷却ファンも同時に動作し続けますが、故障ではありません。
データ受信やソフトウエアの書き換えが終了すると、自動的に電源スタンバイ状態に戻り、メディアレシーバー前面のBS/CS電源ランプも消灯します。

自動で衛星ダウンロードする機能について

衛星ダウンロードとは、BS•110度CSから送信されてくるソフトウェア書き換え用のデータ信号を本機が受信し、**電源スタンバイ中（電源/スタンバイランプが赤く点灯）に、本機内部のソフトウェアを最新の内容に自動で書き換える機能です。**ソフトウェア書き換え用のデータ信号は、BS•110度CSデジタル放送電波の中に含まれて送信されます。

お買い上げ時は、本機が衛星ダウンロードを自動で行う設定（「衛星ダウンロード：オート」）になっているため、お客様が操作や設定することなく、常に最新版に書き換えられたソフトウェアで、BS•110度CSデジタル放送を正しく受信し、お楽しみいただけます。

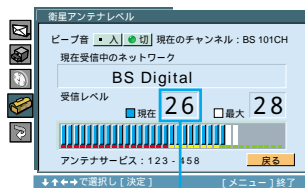
ご注意

- 手動では衛星ダウンロードできません。
- 衛星ダウンロードを行わないように設定すると、BS•110度CSデジタル放送が正しく受信できなくなることがあります。そのため、自動で衛星ダウンロードできる設定のままお使いいただくよう、強くお勧めします。
- 予約した録画の実行中（☞30～35ページ）は、電源スタンバイ中でも、衛星ダウンロードは行われません。
- メディアレシーバーの電源スイッチを押して、主電源を切ると、衛星ダウンロードは行われません。

次の2つの条件を満たしていれば、電源スタンバイ中に、自動で衛星ダウンロードが行われます。

● 衛星アンテナの「現在の受信レベル」が『20以上』になっている。

20未満のときは、衛星ダウンロードが正しく行われません。アンテナの向きを調整して、受信レベルを20以上にしてください。

衛星アンテナの「現在の受信レベル」は、「(メニュー切換)」メニューで「(初期設定)」を選び、「衛星設定」で「衛星アンテナレベル」を選ぶと、画面に表示されます。

20以上であれば、衛星ダウンロードが正しく行われます。

● 「衛星ダウンロード：オート」の設定*になっている。

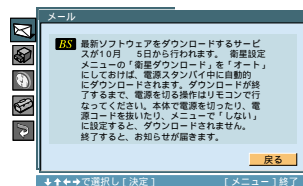
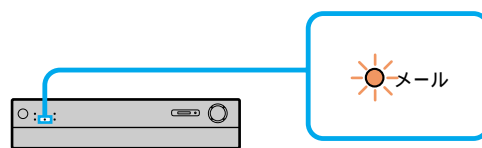
「衛星ダウンロード：しない」に設定されていると、衛星ダウンロードが行われません。

なお、「衛星ダウンロード」設定は、「(メニュー切換)」メニューで「(初期設定)」を選び、「衛星設定」で「衛星ダウンロード」を選ぶと、画面に表示されます。

* お買い上げ時の設定です。

衛星ダウンロードの流れについて

衛星ダウンロードが行われるときは

放送衛星（BS）または通信衛星（CS）からソフトウェア書き換え用のデータ信号が送信されてきたときは、メディアレシーバー前面のメールランプが点灯し、次のような**「衛星ダウンロードのお知らせ」のメールが届きます。**

文面は異なる場合があります。

「衛星ダウンロードのお知らせ」のメールを確認したいときは

1 **メディアレシーバー前面のメールランプが点灯しているのを確認する。**

2 **BS または CS ボタンを押す。**

3 **メニューボタンを押して、メニューを出す。**

4 **△/▽で「(メニュー切換)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

5 **「(お知らせ)」が選ばれていることを確認し、真ん中を押しこんで決定する。**

6 **△/▽で「メール」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

7 **△/▽/◁/▷で新しいメールを選び、真ん中を押しこんで決定する。**
「衛星ダウンロードのお知らせ」のときは、☞178ページのような内容のメールが表示されます。

8 **メールを読んだあと、メニューボタンを押して、メニューを消す。**

衛星ダウンロードの実行中は

衛星ダウンロードは電源スタンバイ時（電源/スタンバイランプが赤く点灯）にのみ、自動的に行われます。
電源スタンバイ中、数時間ごとに、衛星から数分程度のソフトウェア書き換え用のデータ信号が送信され、本機がその信号を受信し、本機内部のソフトウェアを最新の内容に自動で書き換えます。書き換えは、30分前後かかります（内容により時間は異なります）。
また、衛星ダウンロード中は、メディアレシーバー前面のBS/CS電源ランプが点灯します。

ご注意

衛星ダウンロード中は、本機の電源を入れたり、メディアレシーバーの電源スイッチで主電源を切ったり、電源コードを抜いたりしないでください。衛星ダウンロードの中断により、ソフトウェアの書き込みが途中で終了し、誤動作を起こす場合があります。

衛星ダウンロードについてのQ&A

「1回目の信号でうまく衛星ダウンロードできなかったら？」
ご安心ください。ソフトウェア書き換え用のデータ信号は、一定の期間内に何回も送信されます。

「電源コードを抜いておくと衛星ダウンロードされないの？」
電源コードが抜かれていたり、メディアレシーバーの電源スイッチで主電源を切ったりしたときは、衛星ダウンロードは行われません。

「衛星ダウンロードによって、設定内容がお買い上げ時の状態に戻ったりしないの？」
ご安心ください。お客様が設定した内容は書き換えられることなく、保持されます。

衛星ダウンロードが正常に終了すると

「衛星ダウンロードのお知らせ」のメールが自動的に削除され、そのかわりに、**「衛星ダウンロード終了のお知らせ」のメールが届きます。**

ちょっと一言
新しく「衛星ダウンロードのお知らせ」のメールが送られてくると、「衛星ダウンロード終了のお知らせ」のメールは、自動的に削除されます。

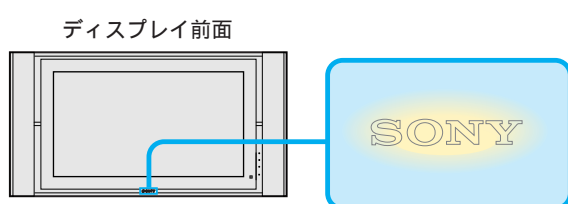
「衛星ダウンロード終了のお知らせ」のメールが届かないときは
まず、次のことをご確認ください。
- 衛星アンテナの「現在の受信レベル」が『20以上』になっていますか。
- 電源スタンバイ状態になっていましたか。

それでも、メールが届かないときは、お買い上げ店か、ソニーサービス窓口へご相談ください。

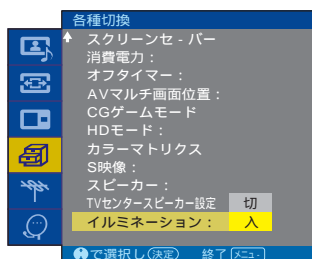
「i.LINK待機設定」を「する」に設定しているときは（☞165ページ）
「衛星ダウンロードにより最新ソフトウェアが
取り込まれています。
本体の電源スイッチを入れ直せば新しいプロ
グラムが有効になります。
終了すると、お知らせが届きます。」
のようなメールが届きます。メールの指示に従って、メディアレシーバーの電源スイッチで主電源を入/切してください。

ディスプレイ前面のソニーマークに光をあてる

ディスプレイの画面は、透明なガラスに浮かんでいるようにデザインされています。
このガラスに刻印されているソニーマークは、電光飾（イルミネーション）により浮かび上がったように見せることができます。

ディスプレイ前面

1 **メニューボタンを押して、メニューを出す。**

2 **△/▽で「（各種切換）」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

3 **△/▽で「イルミネーション」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

4 **△/▽で「切」か「入」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

「切」：電源を入/切するときのみ、ソニーマークに白い光があたります。

「入」：電源が入っているときに、ソニーマークに白い光があたります。

5 **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

使用上のご注意

輝点・滅点について

画面上に赤や青、緑の点（輝点）が消えなかったり、黒い点（滅点）がある場合がありますが、故障ではありません。
パネルは非常に精密な技術で作られており、ごくわずかの画素欠けや常時点灯する画素がある場合がありますのでご了承ください。

ディスプレイのガラス表面の取扱いについてのご注意

ディスプレイのガラス表面は反射による映りこみを抑えるため、特殊な表面処理を施しています。
誤ったお手入れをした場合、性能を損なうことがありますので、次のことを必ずお守りください。また、ガラス表面は傷つきやすいので固い物などでこすったり、たたいたり、物をぶつけたりしないでください。

ディスプレイのガラス表面のお手入れについてのご注意

- お手入れをする前に、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 長時間視聴した直後は、ガラス表面が熱くなっていますので、触れないでください。
- ガラス表面は特殊な表面処理をしているので、シールなどの粘着物は絶対に貼らないでください。
- ガラス表面は特殊な表面処理をしているので、なるべくガラス表面に触れないようにしてください。
- ガラス表面の汚れは、付属のクリーニングクロスを使って拭いてください。
- ガラス表面の汚れがひどいときは、付属のクリーニングクロスやメガネ拭きなどの柔らかい布に水で薄めた中性洗剤を少し含ませて拭いてください。
- アルコールやベンジン、シンナー、酸性洗浄液、アルカリ性洗浄液、研磨剤入り洗浄剤、化学ぞうきんなどは、ガラス表面を傷めますので絶対に使用しないでください。

外装のお手入れについてのご注意

- 乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。汚れがひどいときは、水で薄めた中性洗剤を少し含ませた布で拭きとり、乾いた布でから拭きしてください。
- アルコールやベンジン、シンナー、殺虫剤のような揮発性のものをかけたり、ゴムやビニール製品に長時間接触させると、変質したり、塗装がはげるなど、表面の仕上げを傷めたり、表示が消えてしまうことがあるので、絶対に使用しないでください。

保証書とアフターサービス

本機は日本国内専用です。電源電圧や放送規格の異なる海外ではお使いになれません。

保証書について

- この製品は保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げの店からお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

「故障かな？と思ったら」の項を参考にして、故障かどうかをお調べください。

それでも具合が悪いときはサービス窓口へ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にある、お近くのソニーサービス窓口にご相談ください。
BS･110度CSの放送局との受信契約や番組に関しては、ご覧になりたい放送局のカスタマーセンターや衛星サービス会社、B-CASカスタマーセンター（電話番号0570-000-250）に問い合わせてください。

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料で修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社では、カラーテレビの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過したあとでも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、ソニーサービス窓口にご相談ください。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

型名：KDE-P42HX1、KDE-P50HX1
故障の状態：できるだけくわしく
購入年月日：

お買い上げ店 TEL.
お近くのサービスステーション TEL.

This television is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.

主な仕様

システム

受信方式　NTSC方式
BSデジタル放送方式
110度CSデジタル放送方式

受信チャンネル　VHF 1～12チャンネル
UHF 13～62チャンネル
CATV C13～C35（ケーブルテレビ放送会社との受信契約が必要）
BS・110度CSデジタル（テレビ、ラジオ、独立データ）の各チャンネル

BS・110度CS対応周波数
1022～2072 MHz

BS・110度CS対応ローカル周波数
10.678 GHz

使用スピーカー　ウーファー 6×13cm楕円（2）
パッシブラジエーター
6×13cm楕円（2）
ツイーター 5cm 丸（2）

音声出力　実用最大（JEITA）：
15W×2、4Ω

入出力端子（ディスプレイ）

DISPLAY SIGNAL IN（WHITE）
専用コネクター

DISPLAY SIGNAL IN（BLACK）
専用コネクター

入出力端子（メディアレシーバー）

アンテナ端子　VHF/UHF、BS/110度CS IF 75Ω
F型コネクター
（コンバーター用電源出力、DC15V最大4W、芯線側＋、オート/入/切、メニュー切り換え）

ビデオ1、2、3入力端子
S2映像：
4ピンミニDIN
Y：1Vp-p、75Ω、不平衡、同期負
C：0.286Vp-p（バースト信号）、75Ω
映像：ピンジャック、1Vp-p、75Ω、不平衡、同期負
音声：ピンジャック、2チャンネル、500mVrms、インピーダンス 47kΩ以上

コンポーネント1入力端子
映像：ピンジャック
Y：1Vp-p（0.3V負同期付き）
P_B/P_R、C_B/C_R：±350mVp-p
入力インピーダンス 75Ω
音声：ピンジャック、2チャンネル、500mVrms、インピーダンス 47kΩ以上

コンポーネント2入力端子
D4映像：
D端子
Y：1Vp-p（0.3V負同期付き）
C_B/C_R：±350mVp-p
入力インピーダンス 75Ω
音声：ピンジャック、2チャンネル、500mVrms、インピーダンス 47kΩ以上

AVマルチ入力端子　12ピン

BS/CS/ビデオ出力端子
S2映像：
4ピンミニDIN
Y：1Vp-p、75Ω、不平衡、同期負
C：0.286Vp-p（バースト信号）、75Ω
映像：ピンジャック、1Vp-p、75Ω、不平衡、同期負
音声：ピンジャック、2チャンネル、500mVrms
インピーダンス 4.7kΩ以下
テレビ放送の音声の100%変調時、またはBS放送の最大出力 –12dB時の数値です。

音声出力端子　2ch出力、ピンジャック
最大出力レベル 2.0 Vrms
出力インピーダンス 5 kΩ

ヘッドホン端子　ステレオミニジャック
負荷インピーダンス16Ω以上

光デジタル音声出力端子
AAC/PCM対応

電話回線端子　モジュラージャック、直流抵抗値 221Ω

i.LINK端子　4ピン　S400（3）

AVマウス端子　ミニジャック

コントロールS出力端子
ミニジャック（2）

センター入力端子　6Ω、最大 180W、1kHz、無歪み最大 30Vp-p

サブウーファー出力（可変）端子
ピンジャック

ディスプレイ信号出力（白）端子
専用コネクター

ディスプレイ信号出力（黒）端子
専用コネクター

電源部・その他

モデム通信速度　2400 bps

消費電力　KDE-P42HX1
ディスプレイ：460W
メディアレシーバー：61W
KDE-P50HX1
ディスプレイ：540W
メディアレシーバー：61W

消費電力（リモコン待機時）：KDE-P42HX1、KDE-P50HX1共通です。
予約した録画の実行中/
i.LINKダビング中：43W
i.LINK待機中：43W
上記の2つ以外の電源スタンバイ中：
0.94W

最大外形寸法　KDE-P42HX1
ディスプレイ：
135.2×72.0×10.2cm
メディアレシーバー：
43.0×10.5×34.8cm
KDE-P50HX1
ディスプレイ：
157.3×85.6×10.8cm
メディアレシーバー：
43.0×10.5×34.8cm
（幅×高さ×奥行き）

質量　KDE-P42HX1
ディスプレイ：39.0kg
メディアレシーバー：7.5kg
KDE-P50HX1
ディスプレイ：53.0kg
メディアレシーバー：7.5kg

電源　AC100V、50/60Hz

付属品
- リモートコマンダー　RM-J404（1）
- 乾電池　単4型（2）
- アンテナ接続ケーブル（1）
- ディスプレイケーブル（1）
- AVマウス（1）
- テレホンコード（10m）（1）
- モジュラーテレホンコードカプラー（1）
- 電源コード（2）
- 変換プラグアダプター（2）
- ディスプレイ用ACプラグホルダー（1）
- クリーニングクロス（1）
- B-CASカード（BS・110度CSデジタル放送用ICカード）とB-CAS用ユーザー登録はがき台紙（各1）
- 取扱説明書（1）
- 簡単操作ガイド（1）
- 保証書（1）
- ソニーご相談窓口のご案内（1）
- 安全のために（1）

別売りアクセサリー

2002年9月現在の別売りアクセサリーです。万一、品切れや生産完了のときはご容赦ください。

テレビスタンド　SU-PF1（フローティングスタンド）
SU-PC1/SU-PC1M（壁寄せスタンド）
SU-PG1（壁寄せスタンド）
SU-P42T1（KDE-P42HX1用：テーブルトップスタンド）
SU-P50T1（KDE-P50HX1用：テーブルトップスタンド）
SU-PW1（壁掛けユニット）

AVシステムラック
SU-AVHS1

ステレオヘッドホン
MDR-AV305

衛星アンテナなど
接続ケーブルなど　VMC-P10
（ディスプレイケーブル10m）

- 本機は「高調波ガイドライン」適合品です。「高調波ガイドライン」適合品とは、通商産業省・資源エネルギー庁の定めた「家電・汎用高調波抑制対策ガイドライン」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルを考慮して設計・製造した製品です。
- 本機は米国BBE社の所有する特許USP4638258と4482866を使用しています。
BBEとBBEのシンボルは、BBE Sound, Inc. の登録商標です。
- 本製品の一部には、Independent JPEG Groupの研究成果を使用しています。
- i.LINKは、IEEE1394-1995とIEEE1394a-2000を示す呼称です。i.LINKとi.LINKロゴ " " は商標です。
- "Memory Stick"（"メモリースティック"）、"Memory Stick Duo"（"メモリースティック デュオ"）および は、ソニー株式会社の商標です。
- 本機は電気通信事業法第50号第1項の規定に基づく技術基準適合認定モデルです。

機器名	MBD-HX1P（メディアレシーバー）
認証番号	A02-0690JP

- このテレビは日本国内用ですから、電源電圧、放送規格の異なる外国ではお使いになれません。
- 仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

その他

用語集

五十音順

ア行

アンテナレベル（☞116ページ）
衛星アンテナから入ってくる電波の強さです。天候や気温、時間帯、アンテナ接続ケーブルの長さなどによって影響を受けます。

インターレース（飛び越し走査）（☞65ページ）
走査線525本のうち、まず奇数番目の走査線（262.5本）を1/60秒かけて描き（この1画面を1フィールドという）、次にその間を埋めるように偶数番目の走査線（262.5本）を描き、合わせて走査線525本の1枚の完全な画面（フレーム）を作っていく飛び越し走査のことです。

カ行

緊急放送（☞42ページ）
BSデジタルの標準テレビ信号SDのマルチ放送を利用した放送です。
緊急放送には、地震などの災害時に放送される緊急ニュース番組などがあります。

ケーブルテレビ（CATV）（☞112ページ）
契約者と放送局をケーブルで直接結んで番組を提供する有線放送です。通常のテレビ番組やBSアナログに加え、スポーツや映画の専門チャンネル、地域情報番組や文字放送などを見ることができます。

降雨対応放送（☞20ページ）
激しい雨による映像・音声の遮断を防ぐために、通常の放送に並行して、降雨に強い方式で同じ番組を送るものです。
本機では、お買い上げ時、番組によって降雨対応放送に自動的に切り換わるように設定されています。
降雨対応放送は、画質や音質が通常の放送に比べ低下します。

ゴースト（☞131ページ）
放送局からの電波が、テレビアンテナに届く前に、建物や地形の影響で妨害波となり、時間がズレて二重、三重に受信されることです。そのため、正しく送られてきた画像に妨害波の画像が重なって表われた、見にくい画面となります。

サ行

三次元Y/C分離回路
本機で使っている回路の1つで、映像信号を構成するY信号とC信号を別々に処理し、より鮮明な画像を再現します。

識別制御信号（☞61ページ）
識別制御信号とは、オリジナル映像の横縦比をテレビで忠実に再現するためのコントロール信号です。この信号を含んだ映像には、次のものがあります。
- ワイドクリアビジョン放送
- 横縦比情報の入ったビデオカメラなどの記録映像（ID-1方式やS2方式）
- 横縦比を4:3にする信号が入ったテレビ放送
- D4入力端子からの横縦比情報の入った映像

字幕放送（☞46ページ）
画面上に、セリフなどの字幕を表示できる放送です。
本機では、字幕を入/切したり、字幕の言語を切り換えたりできます。

走査線（☞65ページ）
テレビは、左から右へ流れる電子ビームを上から下へ送ることで画面を作っています。この電子ビームが作る線を走査線と呼び、走査線によって、どのように画面を作っていくかで、インターレースやプログレッシブなどの方式があります。

タ行

デジタル・リアリティー・クリエーション：マルチファンクション（DRC-MF）（☞53ページ）
テレビ放送やビデオなどのNTSC映像を、ソニー独自のデジタル信号処理アルゴリズムによって、高精細なリアル映像につくり換えます。従来の線形補間方式の処理とは全く異なり、動画部分の輪郭のボケが少ないスッキリとした画像になります。また、映像によって、きめ細かく自然な映像にする「DRC高密度（標準）モード」と、チラツキを抑えた映像にする「DRCプログレッシブモード」を切り換えられます。
さらに、本機では、DRC-MFパレットで映像に合った好みの画質に調整できます。

デジタルCS放送（☞146ページ）
110度CSデジタル放送ではなく、スカイパーフェクTV!のことです。
通信衛星を使ったCS放送の一種です。従来のアナログCS放送とは違い、映像や音声をデジタル化することで、大量の情報を扱えます。これにより、多チャンネルの放送を高画質・高音質で楽しめます。

デジタルハイビジョン信号HD（☞65ページ）
BS･110度CSデジタルの放送で1125iと750pの画像方式があり、大画面になっても走査線（テレビ画面を水平に走る線）が目立たなく、35mm映画なみの臨場感あふれる高精細画質を楽しめます。

ハ行

ハイビジョン放送（☞141ページ）
BSアナログでのBS9チャンネル（NHKハイビジョン）の放送です。BSデジタル放送で行われるデジタルハイビジョン信号HDではありません。

ビスタビジョン（☞60ページ）
画面の横縦比が1.85:1になっている映像ソフトのことです。一般的には画像の中に字幕が入る映画などに使われています。

標準テレビ信号SD（☞65ページ）
BS･110度CSデジタルの放送で525pと525iの画像方式があり、525iはテレビ（地上波）放送と同等の画質です。

プログレッシブ（順次走査）（☞65ページ）
飛び越し走査（「インターレース」の項目を参照）をしないで、1フレーム目で525本全部の走査線を順番どおりに描き、次のフレームも同じ場所を525本全部の走査線で描いていく順次走査のことです。

マ行

マルチチャンネル放送（☞42ページ）
BSデジタルの標準テレビ信号SDのマルチ放送を利用した放送です。
同じ放送局の複数のチャンネルで、それぞれ違う番組を放送する「タイプ1」と、同じBS放送局の別のチャンネルで臨時放送を行う「タイプ2」があります。

マルチビュー放送（☞42、44ページ）
BSデジタルの標準テレビ信号SDのマルチ放送を利用した放送です。
生中継の番組などで、最大3つの映像を同じチャンネルで楽しめます。
それぞれのカメラからの映像を、本機のリモコンの映像切換ボタンで切り換えて見ることができます。

ヤ行

焼き付き（☞56ページ）
同じ画像や画面表示などを一定時間以上、ディスプレイに映したままにしておくと、その部分が変色したり、かすれたりして正常に表示されなくなる現象のことです。

有効走査線数（☞65ページ）
走査線のうち、映像信号が載っている走査線の数のことを言います。通常のテレビ（地上波）放送では、525本ある走査線のうち有効走査線数は480本です。BSアナログのハイビジョン放送では同じく1125本中1035本、デジタルハイビジョン信号HDでは、1125本中1080本となっています。
なお、有効走査線に含まれていない残りの走査線（映像信号の載っていない走査線）には、画面の横縦比を規定した識別制御信号などが載っています。

ラ行

臨時放送（☞42ページ）
BSデジタルの標準テレビ信号SDのマルチ放送を利用した放送です。
同じBS放送局の別のチャンネルで、臨時放送を行います。

数字・アルファベット順

110度CSデジタル放送（☞14、18ページ）
2002年3月から始まった、110度デジタル衛星N-SAT-110によってデジタル信号で映像や音声を流す放送のことです。大量の情報を扱えるので、多チャンネルの放送を高画質・高音質で楽しめます。文字や画像などのデータ放送、音楽CD並みの高音質な放送などがあります。

5.1ch（チャンネル）サラウンド（☞69、70、151ページ）
左フロント、右フロント、センター、左リア、右リアの5本のスピーカーとサブウーファーから、それぞれ独立した音声を出力できるサラウンド方式です。
メディアレシーバーの光デジタル音声出力端子に5.1ch対応のオーディオ機器をつなぐと、本機が受信した5.1chサラウンドの音声を楽しめます。

AAC（☞69、151ページ）
BS･110度CSデジタル放送で標準に定められたデジタル音声方式です。「アドバンスド・オーディオ・コーディング（Advanced Audio Coding）」の略で、高い圧縮率で音楽CD並みの音質を実現します。

B-CASカード（BS･110度CS放送用ICカード）（☞120ページ）
プラスチック・カードに集積回路を埋め込んだものです。チャンネルの契約、購入内容などの情報がB-CASカードに記憶されます。記憶された情報は、電話回線を通じて放送局に送信されます。

BSアナログ放送
従来からのBSアナログチューナー内蔵テレビやビデオで受信できるBSアナログ放送の4チャンネル（NHK BS1/BS2、ハイビジョン、WOWOW ）と、独立音声ラジオ放送1チャンネル（St. GIGA）です。

BSデジタル放送（☞14、16ページ）
2000年12月から始まった、放送衛星（BS）によってデジタル信号で映像や音声を流す放送のことです。大量の情報を扱えるので、多チャンネルの放送を高画質・高音質で楽しめます。くっきりはっきりした高画質のHDTV（高精細度テレビ）や、また文字や画像などのデータ放送、音楽CD並みの高音質な放送などがあります。

D端子（☞141ページ）
デジタルCS放送やDVDプレーヤーなどに対応したコンポーネント映像端子です。デジタルCSチューナーやDVDプレーヤーなどと、1本のケーブルで簡単に映像信号を接続できます。コンポーネント映像で接続するため、より高画質な画像を楽しめます。
D端子には対応する信号フォーマットによって、次の種類があります。
本機にはD4入力端子が付いてます。
- D1端子: 525i（480i）の信号に対応
- D2端子: 525i（480i）と525p（480p）の信号に対応
- D3端子: 525i（480i）と 525p（480p）、1125i（1080i）の信号に対応
- D4端子: 525i（480i）と525p（480p）、1125i（1080i）、750p（720p）の信号に対応

iはインターレース、pはプログレッシブの略です。
（ ）内は有効走査線数で数えたときの別称です。

EPG（☞22ページ）
「エレクトロニック・プログラム・ガイド（Electronic Program Guide）」の略で、BS･110度CS放送局から送信される番組表（タイトルや番組説明、放映時間など）のことです。

ID-1方式（ビデオID-1システム）（☞60ページ）
ビデオ信号の一部にデジタルのID信号を加算することにより、画面の横縦比（16:9、4:3またはレターボックス）の情報を記録するシステムの名前です。
本機はID-1方式に対応しています。ID-1方式対応のビデオカメラやビデオデッキなどを、本機のビデオ1〜3入力端子につなぐと、ID-1方式の画像となります。ただし、あらかじめビデオカメラなどで「ワイドTV」モードを「入」にして録画した画像に限ります。

PCM（☞69、152ページ）
アナログ音声をデジタル音声に変換する方式です。「パルス・コード・モジュレーション（Pulse Code Modulation）」の略で、手軽にデジタル音声を楽しめます。

PPV（ペイ･パー･ビュー）（☞47ページ）
「見るたびに支払う」という意味で、1回視聴するごとに購入する番組のことです。

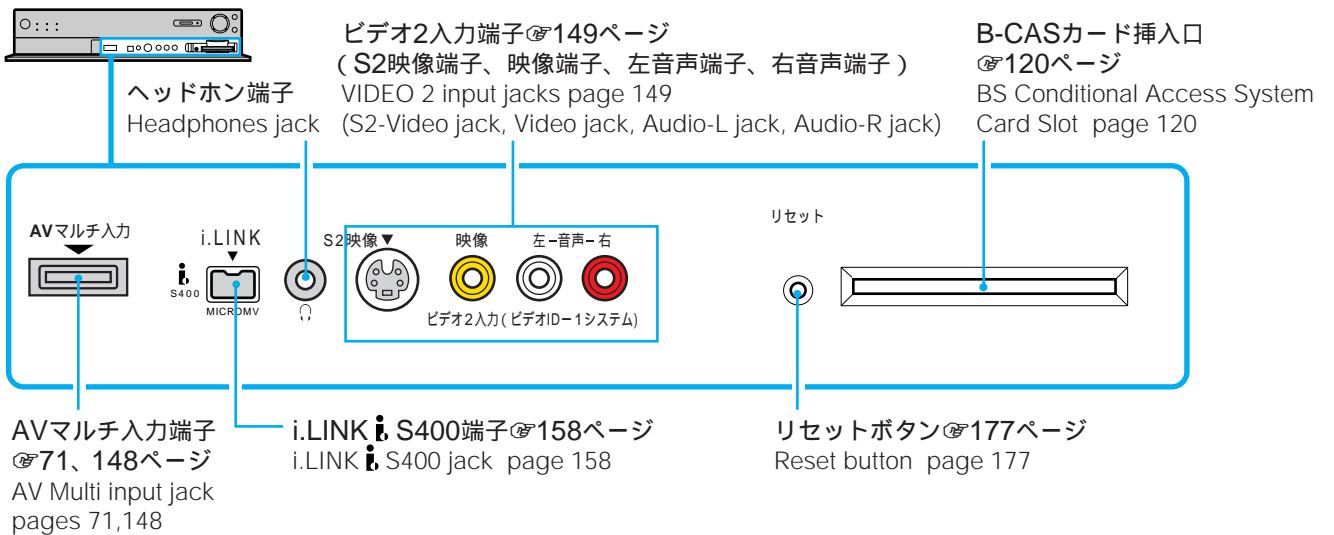
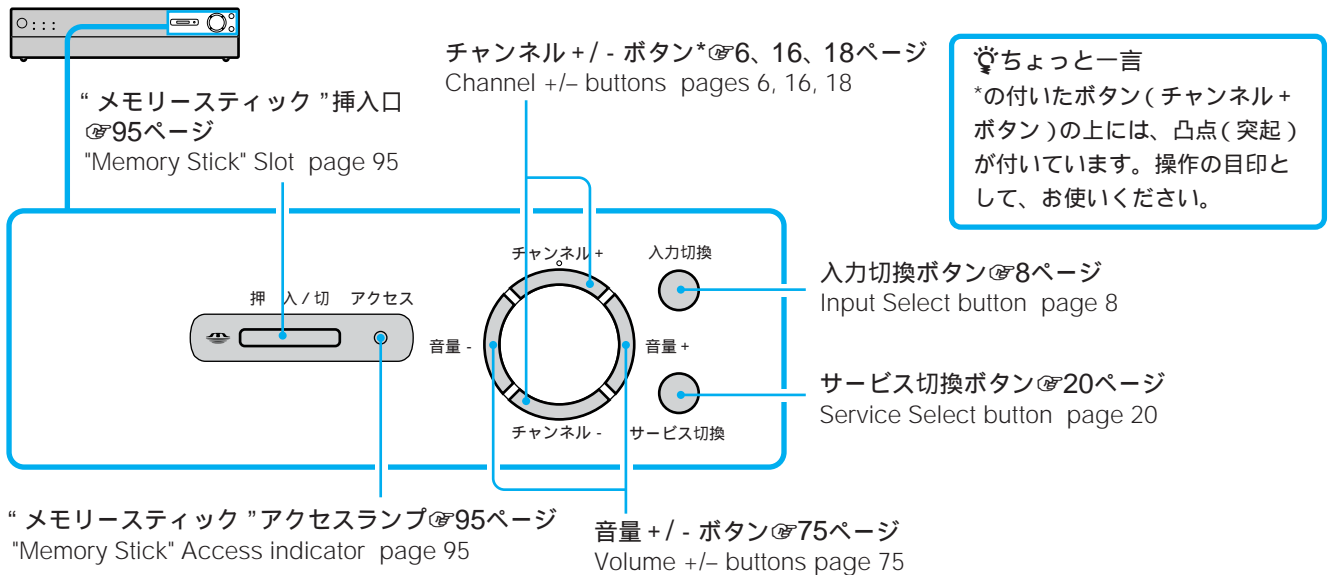
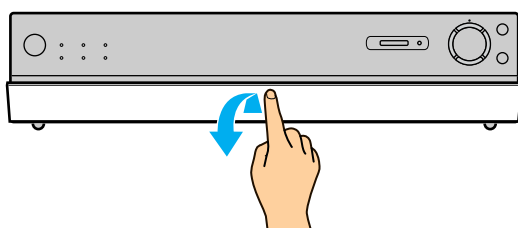
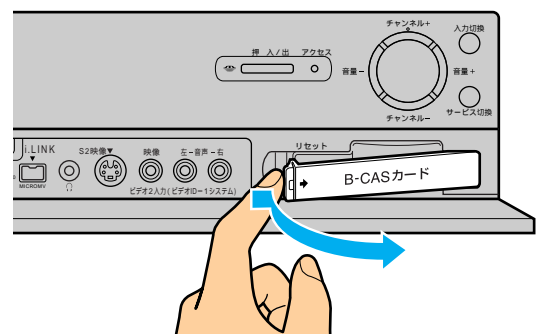
S2方式（S2映像）（☞60ページ）
S映像のC端子へ直流電圧を重畳することにより、画面の横縦比（16:9または4:3）の情報を記録するシステムの名前です。
縦長に圧縮された画像は「フル」モードに、レターボックスの映像は「ズーム」モードに自動的に戻す識別制御信号が入っています。
本機はS2方式に対応しています。
S2映像出力端子が付いたビデオカメラなどを、本機のS2映像入力端子につなぐと、S2方式の画像となります。
ただし、あらかじめビデオカメラなどで「ワイドTV」モードを「入」にして録画した画像に限ります。

各部の名前

Identifying parts and controls

メディアレシーバー前面/Media Receiver Front Panel

リモコンにある同名のボタンと、同じ働きをします。

ちょっと一言
*の付いたボタン（チャンネル＋ボタン）の上には、凸点（突起）が付いています。操作の目印として、お使いください。

テレビ　BS/CS　ビデオ1　ビデオ2　ビデオ3　コンポーネント1　コンポーネント2　AVマルチ　メモリースティック　i.LINK

入力表示（青）
Input indicators

電源/スタンバイランプ（緑/赤/オレンジ）
☞7、166ページ
Power/Standby indicator
pages 7, 166

BS/CS電源ランプ（緑）☞32、35、91、177、179ページ
BS (Broadcasting Satellite) /CS (Communications Satellite) Power indicator
pages 32, 35, 91, 177, 179

通信ランプ（オレンジ）☞106ページ
Transmission Status indicator page 106

電　源

電源／スタンバイ　BS/CS電源　通信

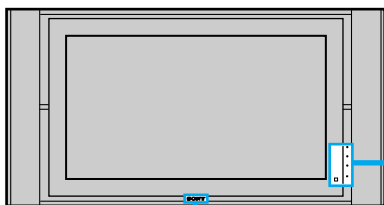
オフタイマー　メール　予約録画

予約録画ランプ（オレンジ）☞31、32、34、35、91、177ページ
Timer Recording indicator pages 31, 32, 34, 35, 91, 177

メールランプ（オレンジ）☞50、177、178ページ
Mail indicator pages 50, 177, 178

オフタイマーランプ（赤）☞7ページ
Off Timer indicator page 7

電源スイッチ☞7ページ
Power switch page 7

ディスプレイ前面/Display Front Panel

「(各種切換)」メニューの「イルミネーション」を「入」にすると白い光があたります（☞180ページ）。

次のページにつづく

ランプの点灯について

主電源「切」のとき

電源／スタンバイ　BS/CS電源　通信
オフタイマー　メール　予約録画

電源スタンバイのとき

電源／スタンバイ　BS/CS電源　通信
オフタイマー　メール　予約録画

電源が入っているとき

電源／スタンバイ　BS/CS電源　通信
オフタイマー　メール　予約録画

オフタイマー「入」のときは、
赤く点灯（☞7ページ）

衛星ダウンロード中（☞179ページ）
データ取得中（☞177ページ）

電源／スタンバイ　BS/CS電源　通信
オフタイマー　メール　予約録画

衛星アンテナ電源のショートなど（☞105ページ）

電源／スタンバイ　BS/CS電源　通信
オフタイマー　メール　予約録画

点滅

自己診断表示（☞166ページ）

電源／スタンバイ　BS/CS電源　通信
オフタイマー　メール　予約録画

点滅

主電源「切」以外のときは、左記に加えて、次のランプも点灯します。

予約録画待機中（☞31、34ページ）

電源／スタンバイ　BS/CS電源　通信
オフタイマー　メール　予約録画

予約した録画の実行中（☞32、35ページ）
i.LINKダビング中（☞91ページ）

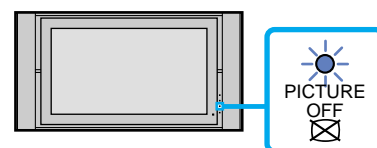
電源／スタンバイ　BS/CS電源　通信
オフタイマー　メール　予約録画

通信中（☞106ページ）
（電源スタンバイ時は点灯しません）

電源／スタンバイ　BS/CS電源　通信
オフタイマー　メール　予約録画

未読メールがあるとき（☞50ページ）

電源／スタンバイ　BS/CS電源　通信
オフタイマー　メール　予約録画

消画中（☞52ページ）

リモコン/Remote Control

メディアレシーバーにある同名のボタンと、同じ働きをします。

画面表示ボタン☞7ページ
Display button page 7

消音ボタン☞7ページ
Muting button page 7

カラーボタン☞17、19ページ
Color buttons pages 17, 19

d（連動データ）ボタン☞17、19ページ
Linkage Data button pages 17, 19

メモリースティックボタン☞95ページ
Memory Stick button page 95

メニューボタン☞46ページ
Menu button page 46

BS ボタン☞16ページ
BS Select button page 16

音声切換ボタン*☞66ページ
Audio Select button page 66

電源スイッチ
Power switch

戻るボタン☞17、19ページ
Return button pages 17, 19

MYプラスボタン☞24ページ
MY Plus button page 24

2画面ボタン☞62ページ
Picture-and-Picture button page 62

CS ボタン☞18ページ
CS Select button page 18

地上波用数字ボタン*☞6ページ
Terrestrial Broadcasting Channel Number buttons page 6

ちょっと一言
- 青いボタンや青い文字のボタンは、BS・110度CSの操作専用ボタンです。
- 黄色い文字のボタンは、2画面の操作専用ボタンです。
- * の付いたボタン（数字ボタン の「5」、音声切換ボタン、チャンネル＋ボタン）には、凸点（突起）が付いています。操作の目印として、お使いください。

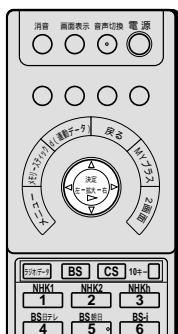
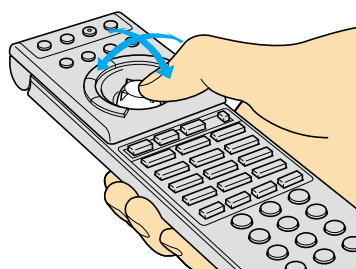
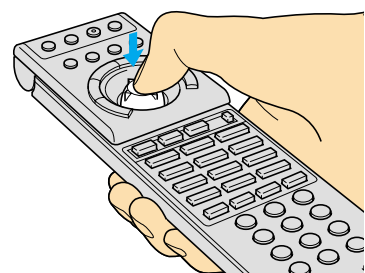
入力切換用ボタン☞8ページ
ビデオボタン
コンポーネント AVマルチボタン
Input Select buttons page 8
Video button
Component AV Multi button

メモボタン☞62ページ
Memo button page 62

ワイド切換ボタン☞58ページ
Wide Mode Select button page 58

消音 画面表示 音声切換 電源
d(連動データ) 戻る MYプラス 2画面 メニュー メモリースティック 決定 左−拡大−右
ラジオ/データ BS CS 10キー
NHK1 1 NHK2 2 NHKh 3
BS日テレ 4 BS朝日 5 BS-i 6
BSJ 7 BSフジ 8 WOW 9
スター 10 /0 11 12 /選局
映像切換 予約一覧 番組表 番組説明
音量 チャンネル
ビデオ コンポーネント AVマルチ ワイド切換 メモ
SONY
デジタルテレビ

△/▽/◁/▷の使いかた

次のページにつづく

各部の名前
Identifying parts and controls
（つづき）

明るさ設定ボタン
☞52、54ページ
Brightness Mode button
pages 52, 54

消費電力ボタン☞52ページ
Power Saving button page 52

TVセンタースピーカーボタン
☞74ページ
TV Center Speaker button page 74

i.LINK録画ボタン☞82ページ
i.LINK Recording button page 82

i.LINK再生ボタン
☞84、89、92ページ
i.LINK Play button pages 84, 89, 92

△/▽/◁/▷/決定/左拡大/右拡大/
▶/■/▶▶/◀◀/❚❚
☞12、63、78、189ページ
△/▽/◁/▷/Select/Left Enlarge/
Right Enlarge/▶/■/▶▶/◀◀/❚❚
pages 12, 63, 78, 189

ラジオ/データボタン☞16、18ページ
BS/110 Degrees CS Radio/Data
Select button pages 16, 18

映像切換ボタン☞44ページ
Video Select button page 44

予約一覧ボタン☞38ページ
Reservation List button page 38

音量+/−ボタン
☞75ページ
Volume +/– buttons
page 75

DRC-MFパレットボタン
☞53ページ
DRC-MF Palett button page 53

DRC-MFモード切換ボタン
☞53ページ
DRC-MF Mode Select button
page 53

DVDボタン☞10ページ
DVD button page 10

VTRボタン☞10ページ
VTR button page 10

AV電源☞11、12、77、78ページ
AV Power button pages 11, 12, 77, 78

開ボタン☞54、190ページ
Open button pages 54, 190

10キー-ボタン☞17、19ページ
10 Key button pages 17, 19

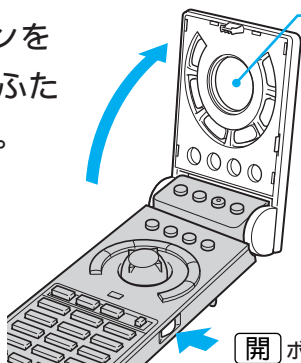
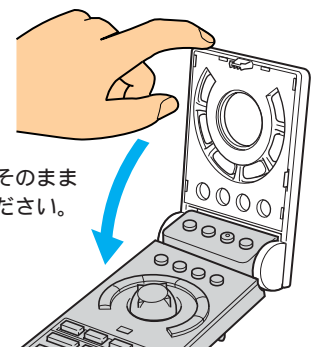
BS用数字ボタン*☞16ページ
BS (Broadcasting Satellite) Channel
buttons page 16

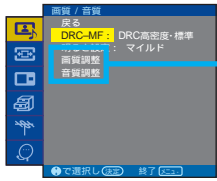
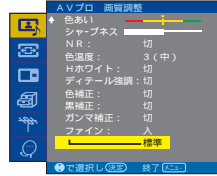
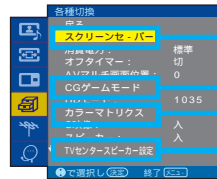
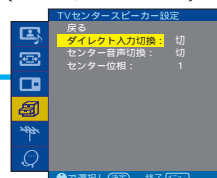
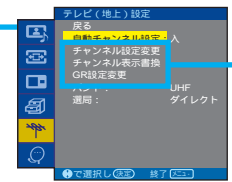
番組説明ボタン☞21、45ページ
Program Explanation button
pages 21, 45

番組表ボタン☞22ページ
TV Program button page 22

チャンネル+/−ボタン*☞6、16、18
ページ
Channel +/– buttons pages 6, 16, 18

リモコンのふたの開けかた

開ボタンを押して、ふたを開ける。

メニュー一覧

- **黄色** で表示される部分が選ばれています。
- **灰色** で表示される部分は選べません。

チャンネル設定変更（☞112、113、114、130ページ）

チャンネル表示書換（☞113ページ）

GR設定変更（☞131ページ）

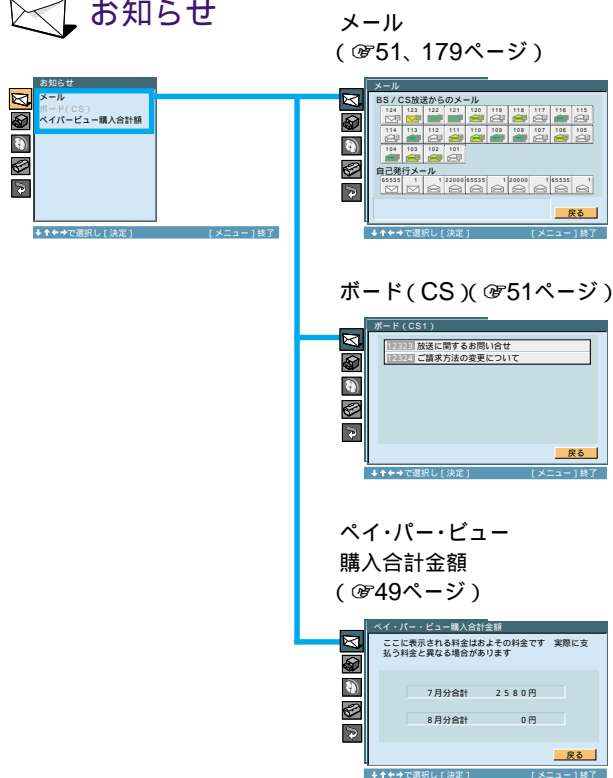
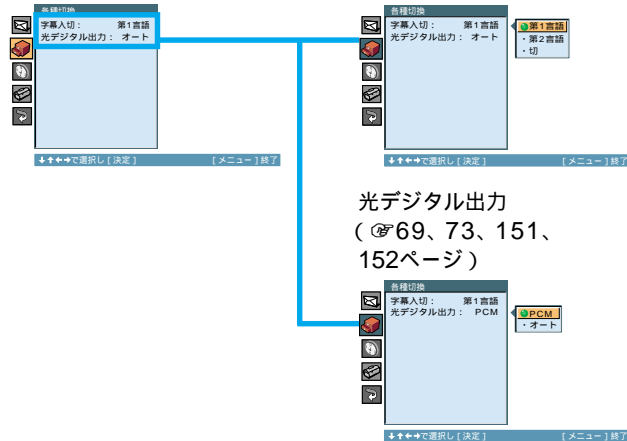
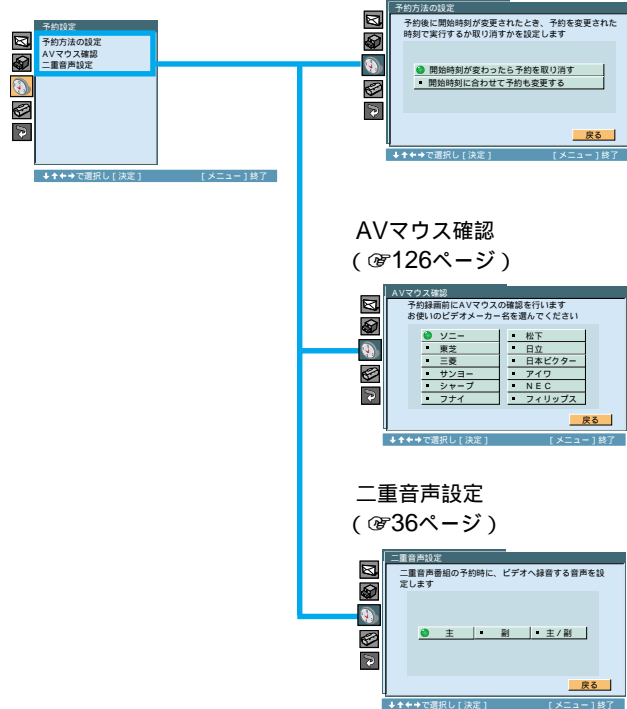
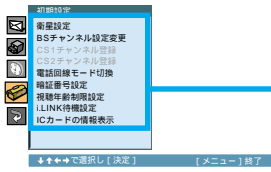
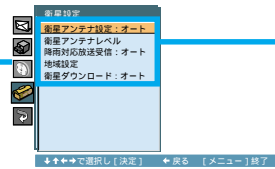
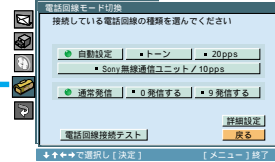
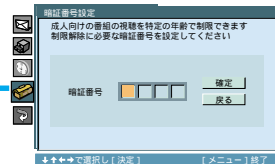
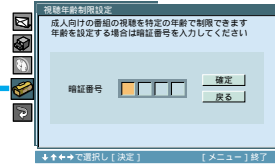
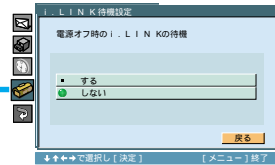
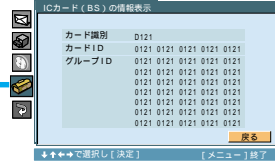
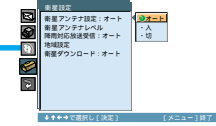
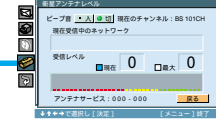
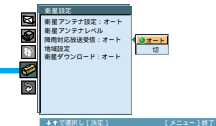
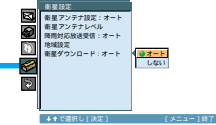
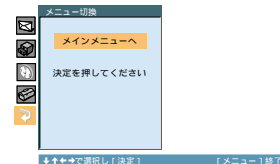
BS・110度CSデジタルメニューについて詳しくは、☞192ページ以降をご覧ください。

次のページにつづく

BS•110度CSデジタル メニューの一覧

ご注意

デジタル信号には、多くの情報が含まれています。そのため、「（メニュー切換）」メニューの項目を設定した直後（約2分以内）に、メディアレシーバーの電源スイッチで主電源を切ると、設定した内容が反映されないことがあります。このときは、もう1度設定し直してください。

お知らせ

各種切換

予約設定

初期設定
衛星設定
BSチャンネル設定変更
CS1チャンネル登録
CS2チャンネル登録
電話回線モード切換
暗証番号設定
視聴年齢制限設定
i.LINK待機設定
ICカードの情報表示
衛星設定
BSチャンネル設定変更
(☞133ページ)
BSチャンネル登録
(☞135ページ)
CS1チャンネル登録
CS2チャンネル登録（☞135ページ）
電話回線モード切換
(☞122、124ページ)
暗証番号設定（☞137ページ）
視聴年齢制限設定（☞137ページ）
i.LINK待機設定（☞165ページ）
ICカード（BS）の情報表示
衛星アンテナ設定（☞105、115ページ）
衛星アンテナレベル
(☞117、118ページ)
降雨対応放送受信（☞20ページ）
地域設定（☞119ページ）
衛星ダウンロード（☞178ページ）
メニュー切換
メインメニューへ
決定を押してください
BS•110度CSデジタルメニューから抜けて、元のメインメニュー（☞191ページ）を表示するときは、上の画面を表示したあと、決定する。
決定
真ん中を
押しこんで決定

その他

索引

💡ちょっと一言
青色の文字は、メニュー中の項目です。

五十音順

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

や行

ら行

わ行

数字・アルファベット順

数字

アルファベット

その他

商品の修理、お取扱い方法、お買物相談などの問い合わせ

ホームページ　● http://www.sony.co.jp/SonyDrive/

「ソニードライブ」は、ソニーの商品情報とライフスタイルをご提案するホームページです。
「良くあるご質問」「修理情報」「ショッピング情報」は、ホームページをご活用ください。

お客様ご相談センター

● ナビダイヤル*……………………… 0570-00-3311
（全国どこからでも市内通話料でご利用いただけます）

● 携帯電話・PHSでのご利用は*……… 03-5448-3311
（ナビダイヤルがご利用できない場合はこちらをご利用ください）

● FAX………………………………… 0466-31-2595

受付時間：月～金曜日 9:00～20:00　土・日・祝日 9:00～17:00

*お電話は自動音声応答にてお受けし，内容に応じて専門の相談員が対応します。
はじめにご用件を下記より、次に音声案内にそって商品カテゴリーの番号を押してください。
選択番号は変更になることがありますので、ご容赦願います。
1：修理受付
2：使用方法や故障と思われるご相談
3：お買物相談
4：業務用・プロ用商品に関するご相談全般
5：その他のご相談

ソニー株式会社　〒141-0001　東京都品川区北品川 6-7-35

この説明書は100%古紙再生紙を使用しています。

Printed in Japan